海外果樹農業情報 No.147
２０２０－３

海外の果樹産業ニュース
2020年度下期版

2021年３月

公益財団法人 中央果実協会
[JAPAN FRUIT ASSOCIATION]

本書の内容について、ご質問やお気づきの点がありましたら、
下記あてにご連絡下さるようお願いいたします。

公益財団法人　中央果実協会　情報部

〒107-0052　東京都港区赤坂１－９－13　三会堂ビル
【電 話】03－3586－1381（代）
【F A X】03－5570－1852

はしがき

果樹農業を取り巻く国際化の進展に伴い、我が国の果樹産業は外国産果実及びその加工品等との競争が激化しており、一方で果実の輸出促進の努力が行われています。このような我が国の果樹産業を取り巻く環境の変化に対応して、当協会では関係機関・団体等からの海外果樹関係の情報ニーズを踏まえ、農林水産省補助事業「果樹農業生産力増強総合対策」における調査研究等事業の一環として、海外における果実及びその加工品等の生産・流通事情等に関する情報の収集・提供を行うことにより、我が国果樹産業の活性化・振興及び果実の需給・価格の安定、輸出の振興に資することとしております。

具体的には、特定のテーマを対象とした調査報告書および果樹全般についてのFAO（国連食糧農業機関）の生産統計データをもととした報告書を取りまとめて刊行するほか、海外の果樹産業を扱う雑誌、新聞、ウェブサイトから我が国果樹産業に密接に関係する記事や公表資料を翻訳し関係者に提供しています。

本書は2020年9月～2021年2月に翻訳・提供したニュースを「2020年度下期版」として取りまとめたものです。世界の果実の生産・流通・消費の動向とコロナ禍の影響、エジプトの柑橘事情（昨年11月にエジプト産柑橘の日本への輸入が解禁されました。）、各国の輸出拡大の取り組み、違法栽培への対応を含む海外の情報を収録しました。また、本書は当協会ウェブサイトにカラー版を掲載しています。

本書が最近の世界の果樹産業事情の理解、さらには我が国果樹産業の振興のお役に立てれば幸いです。

本書の翻訳責任は当協会にあることを申し添えます。

2021年3月

公益財団法人 中央果実協会

理事長　　村 上　秀 徳

目　次

87. 南アフリカ　今季の柑橘類輸出は記録的 1
88. EUの核果類事情（生産動向と政策） 2
89. マースク社 アジア・ヨーロッパ間の海上・鉄道ルートを恒久化 10
90. メキシコのアボカド事情 11
91. 米国ワシントン州　山火事と強風でリンゴの収穫量が減少 14
92. 世界の核果類事情と市場動向 15
93. 世界のリンゴ市場 19
94. 米国北西部　サクランボの出荷が終了 23
95. 市場の変化が米国の柑橘類を救う可能性 23
96. ニュージーランド　困難な年に輸出と雇用を支える園芸部門 24
97. フロリダ産グレープフルーツ　日本の関税によってメキシコより不利に 25
98. 南半球産ソフト柑橘類の輸出が10年で急増 26
99. エクアドルのバナナ　外貨獲得がパンデミック期間中に石油に迫る 26
100. 米通商代表　ブルーベリーの輸入に関する調査を要請 27
101. 世界のアボカド市場 28
102. 南アフリカ産の柑橘輸出量は記録を樹立して終了 31
103. フィリピンのバナナ産業は多様化が必要 31
104. オーストラリア　不妊ミバエを1億匹放つ 32
105. フィリピン　パイナップルとスイカが高収益 33
106. チリのアジア向け農産物輸出　中国が1位、日本が2位 33
107. タイ　イタリア産リンゴの輸入を開始 33
108. オーストラリアの落葉果実事情（生食用ブドウ） 34
109. 世界のマンゴー市場 40
110. 米国の果実生産見通し（柑橘類） 43
111. ベトナム　日本向けライチ等の輸出は大成功 45
112. 南アフリカ　専用冷蔵船がその価値を証明 45
113. 世界のブルーベリー市場 46
114. 香港税関　密輸団22人逮捕　日本産高級果物等を押収 49
115. 米国2019年有機農業調査の結果　2016年から31％増加 49
116. カリフォルニア州　柑橘類の強い需要の中でマンダリンの豊作を予想 50
117. アジアのバナナ市場 急速な動き 51
118. 台湾の落葉果実事情（リンゴ、ナシ） 53
119. ニュージーランドの落葉果樹事情（概要とリンゴの輸出入） 57
120. エジプト　柑橘類の日本市場への参入に期待 60
121. ニュージーランド　新造のキウイフルーツ用冷蔵船を歓迎 62
122. EUの落葉果実事情（リンゴ、ナシ、生食用ブドウ） 63
123. 中国の落葉果実事情（生食用ブドウ） 72
124. 中国のマンダリン市場　今年は不調 75
125. 北半球の柑橘類生産はわずかに減少の予測 75
126. チリのサクランボ輸出 3割以上急増の見込み 76
127. 中国 柑橘類販売仮想イベントで約86億円相当の輸出契約を締結 76
128. コロンビア ハスアボカドの輸出はパンデミック下の今年も続伸 77
129. メキシコ 日本向けアボカド輸出の衛生措置を強化 77
130. 世界のミカン類市場 78
131. ニュージーランド　ゼスプリが今シーズン最後のキウイフルーツを出荷 81
132. フィリピン バナナ輸出先のトップは中国から日本へ 82
133. 日本　農林水産物・食品輸出の産地を育成（英字紙報道ぶり） 83

134. 世界のカキ市場 84
135. 米国の健康関連食品の日本への輸出機会 87
136. 果実収穫ロボットは季節労働者不足をカバーできるか 90
137. エジプト　柑橘類の収穫が開始、今年は日本へ輸出 91
138. イタリア　Yello™などクラブ品種のリンゴをアジアへ 92
139. ベトナム　ライチの日本への輸出 93
140. ベトナム　包括的経済連携（RCEP）が開く新たなチャンス 93
141. 南アフリカのグレープフルーツ事情 94
142. 世界のオレンジ市場 99
143. 世界の落葉果実事情と市場動向（リンゴ、生食用ブドウ、ナシ） 103
144. エジプトの柑橘類事情 109
145. 国連「国際果実野菜年」を立ち上げ 113
146. ブラジルの柑橘類事情（オレンジ果汁） 115
147. オーストラリアの柑橘類事情（オレンジ・タンジェリン/マンダリン） 120
148. EUの柑橘類事情 124
149. 世界の生食用ブドウ市場 133
150. オーストラリア　果実輸出の話題（柑橘類、サクランボ） 137
151. 世界のアボカド市場 138
152. メキシコ産アボカドは市場ごとの販売促進活動に注力 141
153. 米国　ブルーベリー業界二団体が貿易公聴会で証言 142
154. 世界のマンゴー市場 146
155. イタリア　Yello など Vog のリンゴは幸先のよいスタート 149
156. 米国　輸出は多くの柑橘販売関係者にとって重要 150
157. 世界のキウイフルーツ市場 151
158. エジプト産柑橘類の輸出量は20%増加の見込み 154
159. 台湾　初めてイタリア産リンゴを輸入 155
160. 中国　栗の収穫量が多く冷凍栗の注文も増加 155
161. ニュージーランド　ゼスプリの偽キウイ対策を規制当局が却下 156
162. 世界の柑橘類事情と市場動向 157
163. 世界のブルーベリー市場 165
164. 台湾産ナツメの日本への輸出量は記録を更新 168
165. 台湾向けに青森県産リンゴをオンラインで販売 168
166. 香港税関　ブランド偽装のサクランボを押収 169
167. メキシコのアボカド輸出量　2020-2021年度は記録更新の勢い 170
168. 米国の果実生産見通し（柑橘類） 171
169. ニュージーランド　リンゴの収穫が早まり、輸出市場に大きな需要 174
170. 米国ブルーベリーに関する国際貿易委員会の判定に対する内外の反応 175
171. 世界のパパイヤ市場 176
172. フィリピン　バナナの生産量が少なく輸出量は18.3%減少 179
173. 世界のナシ市場 180
174. ベトナム　RCEPは近隣市場へ農産物輸出を増やす好機 183
175. 南半球のリンゴ・ナシ　2021年の生産量予測 184
176. 世界のバナナ市場 185

87. 南アフリカ　今季の柑橘類輸出は記録的

ASIAFRUIT電子版（2020年9月1日）

ネーブルとバレンシアへの需要が高く、今季は輸出実績において近年で最高の年の一つとなりそうだ。

コロナ禍により生産者と物流会社が困難な状況にある中で、出荷量はシーズン前の予想に近づいており、南アフリカの柑橘類業界は、記録的な輸出実績に向けて軌道に乗っている。

南アフリカの北部地域の産地では、第34週の終わり（8月23日）の時点で、輸出用果実のほぼ90％が梱包を終えていた。この地域の残りの果実は、その後2週間で梱包される。

最も晩生の産地であるケープ地域では、果実の梱包は今後さらに4週間続く予定である。

この段階では、輸出量は1億4,280万箱と推定され、シーズン前に予測された1億4,330万箱にわずかに及んでいない。ソフト柑橘類とレモンの出荷量はシーズン前の予想を上回ったが、ネーブルオレンジとバレンシアオレンジは予想をわずかに下回っており、グレープフルーツは予想よりも100万箱以上少ない。

ベテランの柑橘類生産者であるコマティフルーツ社のタルヴィッツァー会長は「これは滅多にない出荷シーズンだ。コロナ禍とその影響にもかかわらず、我々は強い市場、強い需要、そして好都合な為替レートに恵まれており、これが今シーズンを近年で最高の年にしている。」と語った。

強い需要はコロナ禍によるもので、柑橘類は健康増進に理想的な果物と見なされている。柑橘類はまた、消費者から、長持ちし家での保存が利き、小売店に行く必要性を減らすものと見られている。

西ケープ州柑橘類生産者協議会のスミット前会長は、ソフト柑橘類とレモンの需要は今年増加したが、ネーブルとバレンシアの需要はさらに大幅に増加したとして、「ソフト柑橘類とレモンの需要の急増に我々は慣れており、これらの品目はまだかなりの成長が見られるが、どういうわけか今年のショーの主役はネーブルとバレンシアだ。」と述べた。

前出のタルヴィッツァー会長は、「ツァニーンの街*1の足下のレタバ渓谷では水不足により作物が減少したため、今年の好調な市場を逃した。残念ながら、これらの地域の生産者はおそらく本来の生産量の半分しか収穫できなかった。強い市場は彼らがもう一年生き残る助けになるだろうが、この段階では来シーズンも気にかかる。生産量は春*2に決まるが、川とダムの水位は現在非常に低い。」と語った。

訳注1：北部の柑橘類産地であるリンポポ州の街　訳注2：南アフリカ共和国ではこれから春を迎える。

88. EUの核果類事情（生産動向と政策）

米国農務省海外農業局GAINレポート（2020年9月2日）

これは米国農務省海外農業局マドリード事務所（スペイン）がEU域内関係事務所の協力を得て作成した「核果類半期報告書」であり、米国政府の公式見解・データとは異なる場合があります。長文のため、個別品目の解説及びその他一部を省略しました。

ハイライト

2020/21販売年度（以下「年度」）のEUのモモとネクタリンの生産量は、収益性の低下に伴う栽培面積の減少と天候不良により、対前年比15％減の340万トンに減少する可能性がある。同様に、EUのサクランボ生産量は同5％近く減少し、70万2,700トンと予測される。この予想される生産量の減少により、この販売年度中に市場がバランスを取り戻し、EUの核果類価格が改善する可能性がある。EUの核果類の輸出は、2014年にEU産の食品に課せられたロシアの禁輸措置のために減少し続けている。2020/21年度には、EUの国内供給の減少に応じて、核果類の輸入が増加する可能性がある。サクランボについて、米国は非EU加盟国としては5番目の輸入先であるが、輸入量は減少傾向にある。EUの核果類セクターは、コロナ禍の悪影響を受けておらず、収穫シーズンは平常通り進んだ。

EUの核果類は生産の減少が輸入を促進する可能性

要約

2020/21年度（2020年1月～12月）のEUのモモとネクタリンの生産量は、前年度に比べて15％減の340万トンに減少する可能性がある。生産量の減少は、EUの主要生産国の大部分で予想されており、これは春の天候が好ましくなかったことと、栽培面積が継続的に減少しているためである。報告者の予測によると、栽培面積は2020/21年度には21万6,550ヘクタールに減少すると予想される。また、2020/21年度（4月～3月）のEUのサクランボ生産量は、昨シーズンと比較して5％近く減の70万2,700トンに減少すると予測される。主要生産国で予想される大きな減少は、開花期と成熟期の悪天候によるものと見られる。EUの2020/ 21年度のサクランボ栽培面積は、約16万2,000ヘクタールで前年とほぼ変わらないものと予想される。この販売年度の間に、EUの核果類市場はバランスを取り戻し、価格が改善することが期待される。

コロナ禍にもかかわらず、EUの核果類セクターは悪影響を受けていない。それどころか、政府によるロックダウン中に、また夏の天候が良かった期間に、EUの果物や野菜、特に核果類の消費量は増加した。収穫作業は、コロナ禍関連の衛生基準に従いつつ、また手配ができた季節労働者によって、滞りなく行われた。EUはさらに、果樹・野菜関係事業の継続を確実にするための特別措置を実施した（政策の項参照）。

EUは、モモとネクタリンの輸出が輸入を大きく上回っており、純輸出国である。2019/20年度には、EUのモモとネクタリンの輸入額は7,800万ドル、輸入量は33,664トンであった。2019年のEUの輸入量は、生産量の増加により対前年比3.5％減少した。2020/21年度はEUでの生産量の減少が予想されるため、モモ・ネクタリンの輸入は若干増加すると予想される。EUの域外からのモモとネクタリンの輸入先は主にチリ、南アフリカ、モロッコである。また、域内の需要に対応するため、主にスペインからのEU内の輸入が増加する可能性がある。2019/20年度には、国内供給量の増加により、EUのモモとネクタリンの輸出額は16％増の1億6,400万ドル、輸出量は15％増の17万8,939トンとなった。EUのモモとネクタリンの主要な輸出先は、域内の他の加盟国のほか、ウクライナ、ベラルーシ、スイスである。2020/21年度には、EUのモモとネクタリンの生産量が減少すると予想されるため、輸出量が減少する可能性がある 。

逆に、EUは主にトルコから調達されるサクランボの純輸入国である。米国は、非EU加盟国としては5番目に大きいサクランボの輸入先で、主に英国を通じて輸入されており、2019/20年度の輸入額は300万ドルであった。しかし、過去2年間、米国産サクランボのEUへの輸入は、セルビア、チリ、アルゼンチンとの競争の激化により、減少傾向にある。2019/20年度のEUの生鮮サクランボ輸入量は域内供給の減少により対前年比12％増の52,525トン、輸入額は1億6,800万ドルであった。2020/21年度には、EUのサクランボ生

産量が減少すると予想されるため、輸入量が増加する可能性がある。2019/20年度のEUのサクランボ輸出量は対前年比45%減の8,712トンであったが、輸出額は11%増加した。EUの主なサクランボ生産国の主要輸出先は域内の他の加盟国であり、非EUの最も重要な輸出先はベラルーシ、スイス、セルビアである。2020/21年度には、EUのサクランボ生産量の減少が予想されるため、輸出量が減少する可能性がある。

政策

核果類の果実はEU共通農業政策（CAP）の一部である果実・野菜対策の対象である。以下の項では、コロナ禍対策に注意を払いつつ、核果類に関係するEUの果実・野菜対策の主要事項について解説する。

Ⅰ． EUの核果類関係政策

1．共通農業政策（CAP）

2014年1月1日に発効した欧州連合規則1308/2013は、共通農業政策の下での単一の共通市場制度（CMO）による市場関連措置の枠組みについてその概要を規定している。共通農業政策は、各国に委任された行為によって補完される4つの基本的な規則（訳注： 直接支払い、単一市場制度、農村開発支援、財政及び政策監理）で構成される。 2020年の農業政策改革は、生鮮及び加工された果実・野菜部門に関する実施規則（欧州委員会実施規則543/2011）に修正を加えるものである。

果実と野菜の市場からの隔離（訳注：出荷抑制等）に対する生産者組織への支援を強化する欧州委員会委任規定2017/891が2017年6月1日に発効した。この枠組みはまた、生産者組織を未加入者とってより魅力的なものにし、EUの補助対象となる活動をより明確化し、また生産者が消費者に直接販売する短いサプライチェーンを作り出すため組織外で販売できる農産物の最大割合を25%に設定することを目的としている。さらに、多国籍の生産者組織とその連合体への支払いに関する規則を簡素化・明確化している。
共通農業政策に基づくこれらの市場対策は、以下を目指している。

a） より競争力のある市場志向のセクターの創出

生産者組織は、引き続き果実や野菜の共通市場制度における重要な要素である。EUの補助金は個々の生産者に支払われるのではなく、生産者組織を通じて支払われる。EUの補助金の対象となるためには、生産者組織は運営基金によって手当てされる実施計画を提出する必要がある。EUの補助金は、生産者組織の運営基金に直接払い込まれる。運営基金の額は、実施計画と市場への農産物販売額に基づいて算出される。実施計画は、欧州連合規則1308/2013に基づき承認される。

コロナ禍: 運用プログラムの柔軟性

2020年4月30日、欧州委員会は、COVID-19の蔓延とそれに関連する措置によって引き起こされた果実・野菜及びワイン部門の市場の障害に対処するための加盟国政府への委任規定（EU）2020/592を公布した。生産者組織は、市場の障害に対する回復力を高めるため、実施計画の一環として危機対策と予防措置を実施することができる。通常の状況下では、これらの危機回避・管理対策は、実施計画の下での支出の3分の1を超えることができないが、この規定によって2020年にはこの制限が適用されない。

一般的に、また通常の市場の状況下にあっては、EU域内へ輸入される生鮮果実・野菜は、すべての流通段階で、品質、サイズ、表示、包装、展示方法などを含むEUの流通規格に合致しているかどうかをチェックされる。すべての生鮮果実・野菜の一般的な流通規格は欧州委員会実施細則（EU）No543/2011に示されている。モモやネクタリンを含む10品目については、さらに品目別の流通規格がこの細則の付属書Ⅰのパートに定められている。

b） コロナ禍に関連した生産者所得の変動の抑制

この目的を達成するため、EUは実施計画の下での以下に掲げる取組に対して資金を提供する。

- 農産物の市場からの隔離
- 青刈り/収穫放棄
- 販売促進/コミュニケーション手段

- 研修・訓練
- 収穫物保険
- 銀行融資の確保支援、及び投資信託の設定に伴う管理費の支援

各国当局は国別戦略において、これらの方策のうち、それぞれの国で対象となるものを決定する必要がある。生産者組織は、危機の回避・管理のための措置に必要な資金を商業的な融資条件で調達し、その融資の元利の返済は、生産者組織の実施計画の下で財政支援の対象とすることができる。

c） EUにおける果物・野菜の消費の増進を奨励

欧州の「学校における果物計画」は、子どもの肥満と闘うための措置として2009年に始まった。学校での果物や野菜の無料配布、健康的な食習慣に関する情報提供、モニタリングと評価の3つの要素が含まれている。2019/20学校年度には、前年までと同様にすべての加盟国に合計2億6,400万ドル（2億5,000万ユーロ）のEU資金が割り当てられている。

COVID-19のため「学校果物計画」を延長

しかし、COVID-19対策の一環として実施された教育機関の一時的な閉鎖により、2019/20年度の学校果物計画の実施に支障が生じているため、欧州委員会は2020年4月30日に、「学校年度」の定義を2020年9月30日まで（訳注：1か月間）延長する実施細則（EU）2020/600を発令した。また、付属的な教育措置に対する補助金申請の提出期限も延長された。さらに、2021/22学校年度の学校果物計画に参加する加盟国の間で、未交付の補助金を再分配する可能性もある。

果樹部門は、学校果物計画のほかにも果物や野菜の消費を増進するための方策として、農産物販売及び品質向上のための欧州販売促進予算の恩恵を受けることができる。欧州委員会は、対象品目の範囲の拡大と輸出市場への重点化を図るため、販売促進政策の改革を実施した。2020年の販売促進予算は2億5,500万ドル（2億ユーロ）に達している。これまでのような各国政府による一部負担の必要はなく、EU内の団体は、この計画に直接申請することができる。

d） 環境にやさしい栽培・生産技術の利用促進

運営基金の少なくとも10%は、必須の環境基準を上回る環境的な行動に費やされる必要がある。承認された生産者組織を有する加盟国は、「持続可能な実施計画のための国別戦略」の一環として、環境行動のための国別枠組み（NEF）を策定する必要がある。国別枠組みには、当該加盟国内での環境に関する行動と、それらに適用される条件を例示列挙したリストが含まれなければならない。

2020年以降の共通農業政策

欧州委員会は2018年6月1日、2020年以降の共通農業政策に関する法案を提出した。新しい提案の目的は、気候変動などの現在および将来の課題に対してより良く対応することである。共通農業政策は引き続き欧州の農家を支援するが、予算総額はこれまでに比べて少ない。

2. EU向け輸出のための証明書

EUへの果実、野菜、ナッツ類の輸出には、植物検疫証明書が求められる。米国農務省動植物検疫局の検査官は、国際植物防疫協定により定められた国際規則に則り、証明書を発行する。

欧州理事会指令2000/29/ECには、EUの輸入要件への合致を確認するための、書類審査、同定、及び植物の物理的な検査を含む強制的な植物検疫に関する規定が定められている。指令2019/523は、指令2000/29/ECの附属書 I から IV を改正し、2019年9月1日から摘要される一部の果実および野菜の輸入に伴う有害生物の侵入に対する新たな措置を定めている。しかし、これらの措置は品目と有害生物の組み合わせによってすべて異なっているので、それぞれの場合について指令2019/523を確認することが有用である。ほとんどの要件(柑橘類やマンゴーなど)は、すべてのEU非加盟国に適用されるが、米国、カナダ、メキシコにのみ適用される特定の品目(リンゴ、梨、ブルーベリー)の要件もある。新しい規則は、一定の輸入条件の下で特定の商品を輸入する際のEU非加盟国の情報提供義務を規定している。

さらに、指令2000/29/ECは2019年12月14日に廃止され、植物害虫に対する保護措置に関する欧州議会・EU理事会規則2016/2031に置き換えられた。

欧州委員会規則1756/2004は、正当化される場合は植物検疫の頻度を減らす可能性を規定している。欧州委員会は2020年1月1日に、品目の改定リストを公表した。欧州委員会は、貨物の検査頻度を調整する方法を決定するため、毎年、果物や野菜の輸入を監視している。

3. 果実における農薬の最大残留レベル

インポートトレランスを含む農薬の最大残留レベル（MRL）は、2008年9月以降、EU全域で調和されている。EUの一部の小売チェーンは、販売促進のためのツールとして、EU基準を超える民間基準を採用しており、最大残留物をEU基準の30%、50%、または70%に制限するより厳しい企業基準を遵守することを納入業者に義務付けている。

4. 関税

生鮮果実・野菜のEUへの輸入には、ウルグアイラウンド以来現在の形で実施されているエントリー価格システム（EPS）が適用される。これは、EUの生産者を高いレベルで保護する複雑な関税制度である。このシステムでは、設定されたエントリー価格以上で輸入される果実・野菜には、従価税のみが課される。エントリー価格を下回る価格の物品には、従価税に加えて関税相当額が課される。関税相当額は、輸入価格がエントリー価格の92～100%の間の物品に対しては段階的に適用される。輸入価格がエントリー価格の92%未満の物品には、関税相当額の全額と従価税が課される。2020年の関税水準は、欧州委員会実施細則2019/1776に掲載されている。核果類の関税率は2018年の水準と変わっていない。

米国は通常、追加関税が課されない高い価格で高品質の果実を販売する傾向にある。

Ⅱ. ロシアの農産物輸入禁止措置

2014年8月7日、ロシア政府は、ウクライナでのロシアの行動に対する米国とEUの制裁に対抗して、米国、EU、カナダ、オーストラリア、ノルウェーからの核果類を含む多様な農産物および食品の1年間の輸入禁止を実施した。共通市場制度規則（上記Ⅰ. の規則1308/2013を参照）は、市場を安定させるための様々な市場管理の手法を規定しており、また欧州委員会は改正された共通農業政策の下で、市場の混乱が生じた場合に「例外的な措置」を取る権限を与えられている。欧州委員会はこれを踏まえ、欧州産の果実と野菜を対象とする特定市場支援措置を、2014年の輸入禁止の実施から2017年まで導入した。果実と野菜の最後の緊急対策は、2018年6月30日までに段階的に廃止された。EUは、全体で170万トンの果実と野菜を市場から隔離するのに相当する5億8,800万ドル（5億ユーロ）の援助を生産者に与えた。

Ⅲ. フランスによるサクランボのジメトエート禁止

2020年4月8日、フランス政府は、サクランボ生産でジメトエートの使用が許可されている国からの生鮮サクランボの輸入を禁止する5回目の緊急政令を発表した。フランスは、EUがジメトエートの使用を禁止しているにもかかわらず最大残留基準（MRL）を設定していないため、この決定を下した。生産者は、サクランボの果樹園でかなりの損害を引き起こすアジア由来のミバエ（オウトウショウジョウバエ）を駆除するためにジメトエートを使用している。（訳注：米国ではジメトエートを使用しており、輸入禁止の対象となっている。）

欧州委員会は2020年5月26日にジメトエートのMRLを公表し（欧州委員会規則（EU）2020/703）、2020年12月16日から適用される。サクランボのジメトエートのMRLは、検出限界（0.01ppm）まで引き下げられる。

品目別図表

＜モモ・ネクタリン＞

表1　EUのモモ・ネクタリン生産需給統計

モモ・ネクタリン（生鮮）	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
販売年度	2018年1月～12月		2019年1月～12月		2020年1月～12月	
EU	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	222,715	222,711	222,894	220,026		216,550
収穫面積	203,328	203,296	202,097	200,226		196,894
結果樹本数	0	0	0	0		0
非結果樹本数	0	0	0	0		0
果樹本数合計	0	0	0	0		0
商業的生産量	3,841,818	3,842,456	4,096,798	4,076,740		3,439,966
非商業的生産量	38,806	38,813	41,382	41,179		34,747
生産量合計	3,880,624	3,881,269	4,138,180	4,117,919		3,474,713
輸入量	34,900	34,892	30,000	33,664		35,000
総供給量	3,915,524	3,916,161	4,168,180	4,151,583		3,509,713
国内消費量	3,730,124	3,730,608	3,938,180	3,942,644		3,324,713
輸出量	155,400	155,553	200,000	178,939		155,000
市場からの隔離	30,000	30,000	30,000	30,000		30,000
総出荷量	3,915,524	3,916,161	4,168,180	4,151,583		3,509,713

単位：ヘクタール、1000本、トン　　注：国内消費量に加工仕向量を含む。

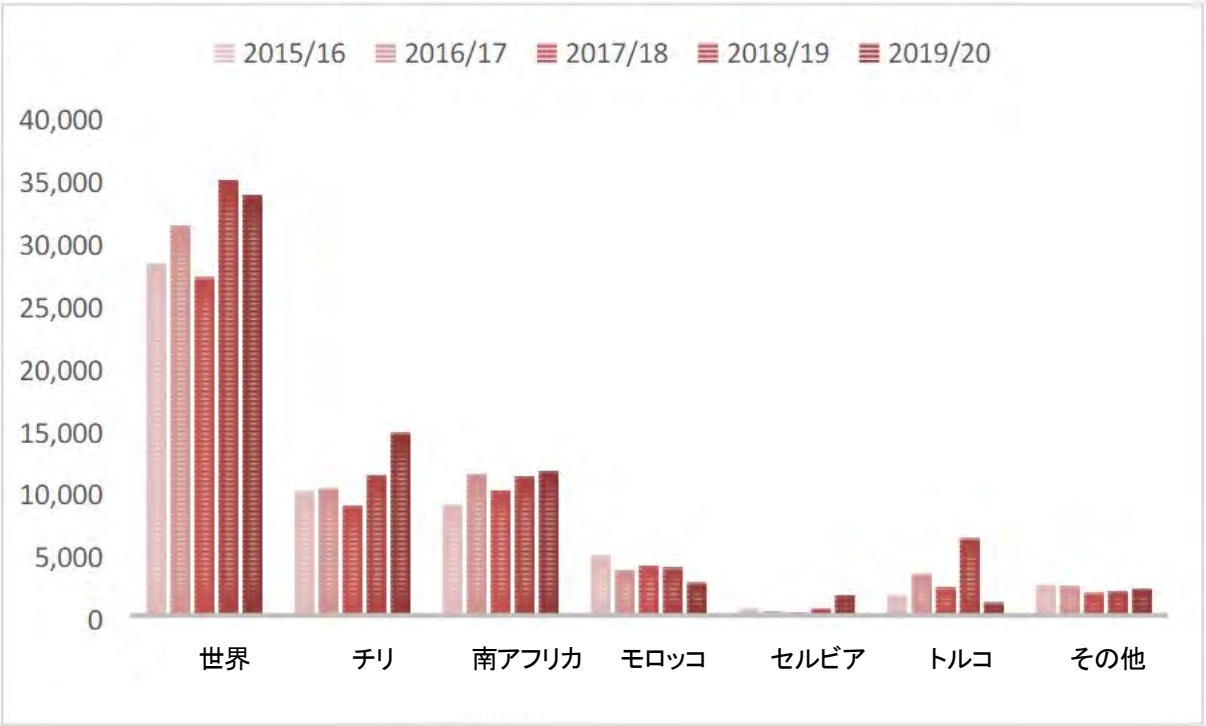
出典：海外農業局マドリード事務所

表2　EUの生鮮モモ・ネクタリン国別生産量（トン）

国　名	2018/19	2019/20	2020/21
スペイン	1,472,859	1,606,195	1,414,913
イタリア	1,147,793	1,235,254	875,000
ギリシャ	964,673	956,959	900,000
フランス	184,065	203,323	187,300

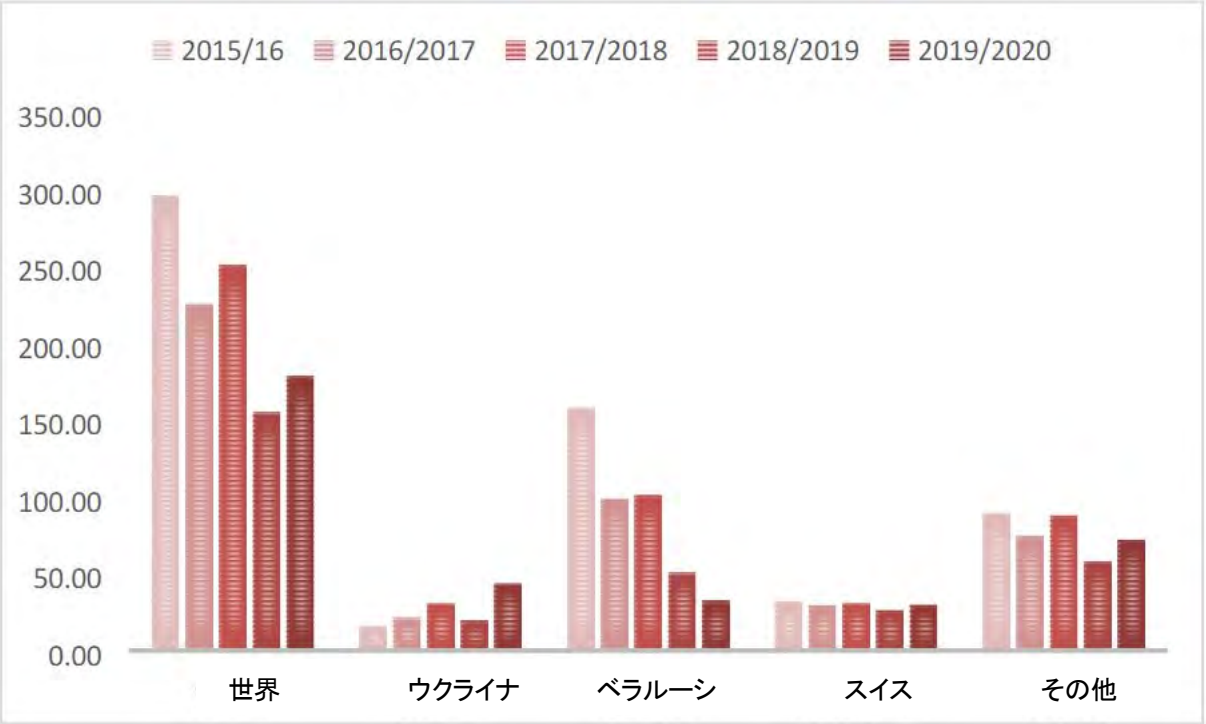
出典：海外農業局EU各国事務所

図1　EUの生鮮モモ・ネクタリン輸入量　輸入先別（トン）



出典: Trade Data Monitor

図2　EUの生鮮モモ・ネクタリン輸出量　輸出先別（千トン）



出典: Trade Data Monitor

＜サクランボ＞

表3　EUのサクランボ生産需給統計

サクランボ(甘果・酸果)	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
販売年度	2018年4月～2019年3月		2019年4月～2020年3月		2020年4月～2021年3月	
EU	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	159,830	160,387	159,856	162,793		162,634
収穫面積	153,992	153,967	152	155,744		155,668
結果樹本数	0	0	0	0		0
非結果樹本数	0	0	0	0		0
果樹本数合計	0	0	0	0		0
商業的生産量	793,191	792,993	615,140	701,255		667,565
非商業的生産量	41,747	41,736	32,376	36,908		35,135
生産量合計	834,938	834,729	647,516	738,163		702,700
輸入量	46,734	46,734	55,000	52,525		55,000
総供給量	881,672	881,463	702,516	790,688		757,700
国内消費量	865,172	864,925	687,016	781,476		747,200
輸出量	16,000	16,038	15,000	8,712		8,000
市場からの隔離	500	500	500	500		2,500
総出荷量	881,672	881,463	702,516	790,688		757,700

単位：ヘクタール、1000本、トン　　注：国内消費量に加工仕向量を含む。

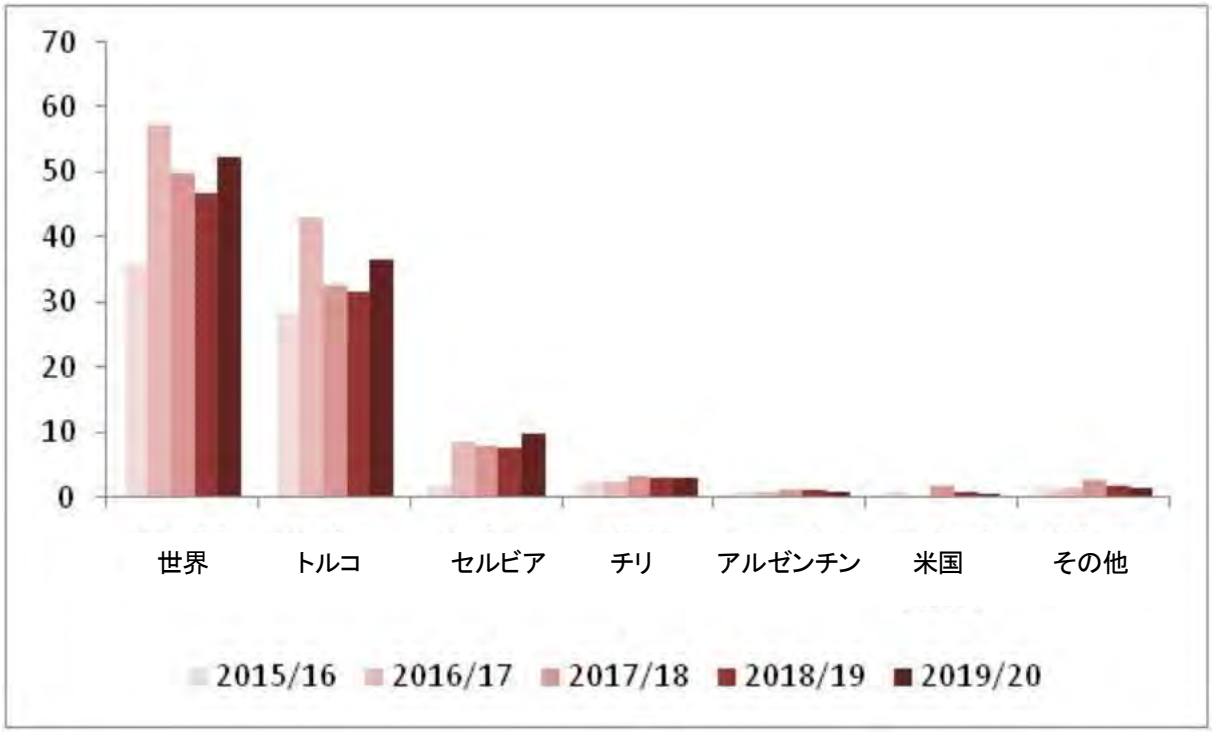
出典：海外農業局マドリード事務所

表4　EUの生鮮サクランボ（甘果・酸果）国別生産量（トン）

国　名	2018/19	2019/20	2020/21
ポーランド	260,600	196,300	195,000
イタリア	114,797	98,602	100,000
スペイン	107,000	115,400	95,900
ギリシャ	90,326	90,304	85,000
ブルガリア	60,100	60,106	61,200
ハンガリー	83,566	63,000	55,000
ドイツ	60,125	60,271	53,500

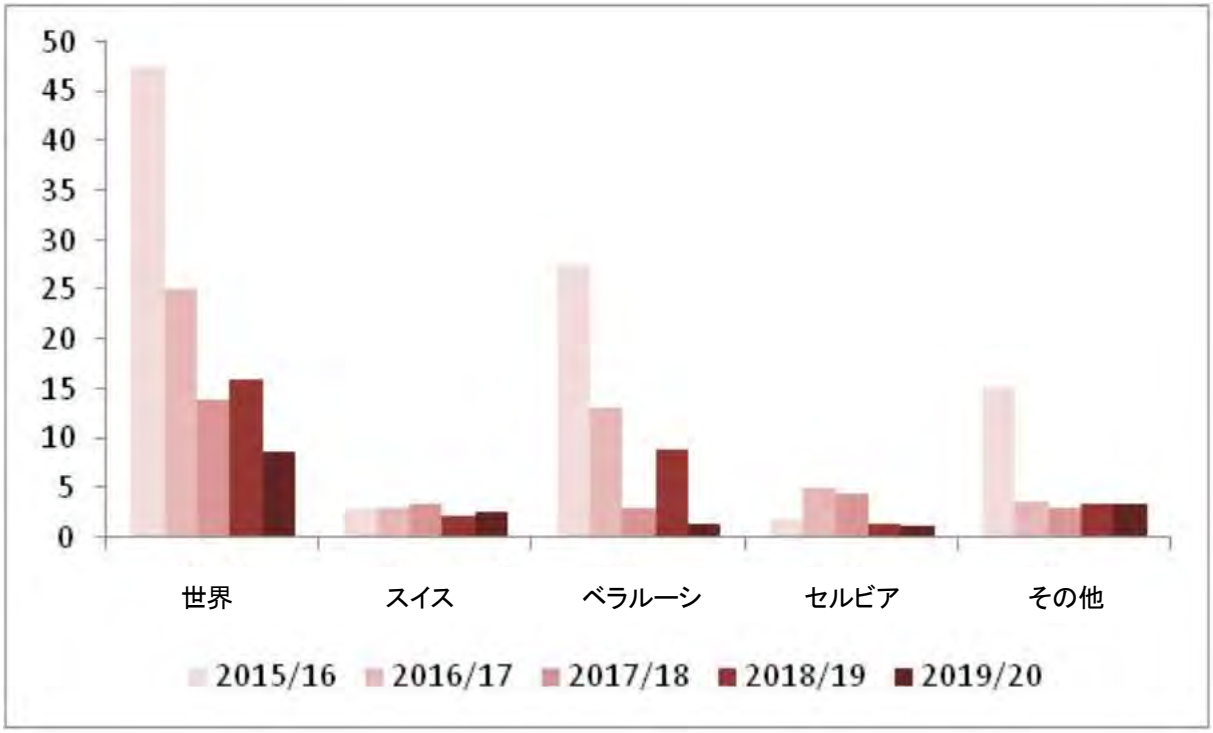
出典：海外農業局EU各国事務所

図3　EUの生鮮サクランボ（甘果・酸果）輸入量　輸入先別（千トン）



出典: Trade Data Monitor

図4　EUの生鮮サクランボ（甘果・酸果）輸出量　輸出先別（千トン）



出典: Trade Data Monitor

89. マースク社 アジア・ヨーロッパ間の海上・鉄道ルートを恒久化

EUROFRUIT電子版（2020年9月9日）

1年間の試行の後、海運大手のマースク社（デンマーク）はアジアからヨーロッパへの海上・鉄道混合輸送を恒久的なものとした。

マースク社は、需要の増加に伴い、アジアからヨーロッパへのAE19海上・鉄道混合輸送が毎週1回の恒久的な運行になると発表した。

この輸送は2019年7月に開始され、短距離海上輸送と大陸間鉄道輸送の組み合わせにより、アジアのいくつかの起点と北ヨーロッパの港を結ぶ。従来からある海上輸送によるマースク社の通常のアジア・ヨーロッパ輸送を補完し、アジアからヨーロッパの主要港への輸送を競争力のある所要時間で提供する。

韓国、日本、中国のアジア側起点港とロシア極東のナホトカ港との間の短距離海上輸送(マースク社傘下のシーランドアジア社が運航)に続いて、ナホトカからサンクトペテルブルクまでロシアを横断する大陸間鉄道輸送が11日間かかる。

輸送の最後の部分は、フィンランド(ヘルシンキ港とラウマ港)、ポーランド（グダニスク港)、ドイツ（ブレーマーハーフェン港)などスカンジナビア半島やヨーロッパ大陸とサンクトペテルブルクとの間の短距離海上輸送で、シーランドヨーロッパ社が運航する。ヨーロッパからアジアへ向けた東行きの輸送も利用できる。

マースク社の東ヨーロッパ担当取締役であるゾルト・カトナ氏は、「この輸送は海上のみの輸送と比較して輸送時間が短く、航空貨物と比較して大幅なコスト優位性を提供する。アジアとヨーロッパの双方のお客様のために設計されたこのユニークな輸送方法が、正式に毎週の運行となり、当社が提供する輸送サービスのリストに恒久的に掲載されることを嬉しく思う。これは、魅力的な輸送時間とコスト面での競争力を高く評価するお客様の関心の高まりのおかげで可能となったものである。」述べた。

90. メキシコのアボカド事情

米国農務省ＧＡＩＮレポート（2020年9月10日）

これは米国農務省海外農業局メキシコシティ事務所（メキシコ）が作成した「アボカド年次報告書」であり、米国政府の公式見解とは異なる場合があります。

ハイライト

メキシコは、世界の主要なアボカド生産・輸出国であり、2019/20販売年度(7月～6月。以下「年度」)の米国向け輸出は数量、金額ともに史上最高の約96万4千トン、24億米ドル超を記録した。米国市場へのアクセス権を有する唯一の州であるミチョアカン州の生産量は、前年度に比べて7%増加し、2020/21年度には生産量、輸出量ともにさらに増加すると予想されている。農産物の収穫と流通におけるコロナ禍の影響にもかかわらず、米国のアボカド需要は引き続き堅調に推移しており、さらに増加すると予測される。アボカドはメキシコにとって重要な農産物であり、北米自由貿易協定(現米国メキシコカナダ協定)の発効以来、メキシコのアボカド貿易額は455%以上増加しており、同協定の下で米国メキシコ間の農業貿易の恩恵を受ける主要品目の一つである。

生産

報告者は2020/21年度(7月～6月)のアボカド生産量を、栽培面積の継続的な拡大と生育期間中の雹害・霜害のない最適な気象条件に基づき、前年度から微増の241万トンと推計する。栽培面積と収穫面積は、それぞれ24万3,640ヘクタール及び23万2,495ヘクタールに増加する見込みであり、全国の平均単収は1ヘクタール当たり10.36トンと見込まれる。生産者は、有機物含有量が高く排水が適切な土地で栽培するなど、品質と食品安全を確保するために、多数の生産工程管理を整合的に適用している。高品質な種子を植えた後は、園地の広範な監視を行うほか、労働者に対して農薬の安全な取り扱い、設備の調整、適切な収穫作業、収穫後の管理などについて訓練を実施し、適切な衛生管理及び肥培管理を実践している。メキシコは3種類のアボカド品種を生産しているが、ハス種は圧倒的多数で、生産の97%を占めており、クリオロ種とフエルテ種が残りの3%を占めている。

2019/20年度は、アボカド栽培面積の増加に伴って生産量も増加し、公式データによれば対前年度比6%増の232万トンに達した。収穫は10月から2月にかけてピークに達し、3月から5月までが平均的な出荷量で、6月から9月まではローシーズンとなる。

ミチョアカン州はメキシコの主要なアボカド産地であり、約2万6,740人の生産者が登録されている。2020/21年度の栽培面積は対前年比2%増の17万2,479ヘクタールと見込まれ、生産量は同3%増の174万トンと予測される。ミチョアカン州は一年を通して出荷を行い、2019/20年度の全国生産量の74%を占めており、ハリスコ州及びメキシコ州はそれぞれ12%及び4%を占めている。ミチョアカン州の平均収量は、栽培方法や灌漑の有無に応じて、1ヘクタール当たり10トン～16トンの範囲である。ミチョアカン州の果樹園の約61%は天水に頼っており、残りは点滴灌漑またはスプリンクラー灌漑システムを使用している。ミチョアカン州のアボカド生産の大半は、5～10ヘクタールの小規模園地で行われている。ミチョアカン州とハリスコ州では、乾季に使用する水を収集・貯蔵する貯水施設が整備されている。

ハリスコ州アボカド生産者輸出業者協会(APEAJAL)によると、州内の栽培面積は3万ヘクタールに達し、そのうち1万2千ヘクタールが5年生以下であり、今後数年間の収量と生産性の向上が期待される。ハリスコ州には約3,100人の生産者がおり、アボカドは一年を通じて収穫されるが、3月から5月の間は収穫量が少ない。果樹園の85%が灌漑され(点滴灌漑及びマイクロスプリンクラー)、生産の大半は10ヘクタール以上の園地で行われ、15～20人の生産者が全栽培面積の半分を所有している。ハリスコ州では1ヘクタールあたり400～500本の果樹を植栽し、ドローンを使用して果樹の健康に関する情報を得るなどの精密農業を行っている。

表1　メキシコの州別アボカド生産量（2019/20販売年度）

州	栽培面積(ha)	収穫面積(ha)	生産量(トン)
ミチョアカン	169,939	165,847	1,707,308
ハリスコ	26,671	27,089	285,208
メヒコ	11,296	9,090	95,964
ナヤリット	7,724	6,782	67,077
モレロス	5,731	5,758	57,991
その他	19,779	15,119	108,762
合計	**241,140**	**229,684**	**2,322,310**

*出典: Agrifood and Fisheries Information Service (SIAP)

メキシコのアボカド生産州

消費

国内消費向けのアボカドは、主にミチョアカン州以外の産地から供給され、それは国際的な需要によって左右される価格に依存する。米国市場への輸出アクセス権を有する唯一の州であるミチョアカン州の生産者は、より高い収入を得るため米国に輸出することを好む。

2020/21年度の国内消費量は100万トンと予測される。SIAPの統計によると、一人当たりの消費量は7キログラムである。アボカドはメキシコ料理の定番素材であるが、国際的な需要の増加によって価格が高いため、メキシコ国内でのアボカド消費量は近年伸びていない。

貿易

メキシコは世界最大のアボカド輸出国で、米国向けが輸出量の76%近くを占めている。ミチョアカン州は現在、米国に輸出する植物衛生上の許可を有する唯一の州である。メキシコのアボカド生産者輸出パッカー協会(APEAM)は、メキシコのアボカドが植えられた時から輸出されるまで生産者がすべての衛生規則を遵守することを、メキシコの植物衛生当局と共同で保証する米国にとっての協力パートナー機関である。APEAMによると、2019/20年度にミチョアカン州で生産され輸出認定を受けたアボカドは114万5,362トンであり、これは前年度比5%の増加であった。

米国農務省動植物検疫局(APHIS)の事前承認プログラム

米国へのアボカド輸出の事前承認と監督に関し、APHISはメキシコ政府及びAPEAMとの協同実施合意を管理している。APHISは、アボカド事前承認プログラムの下、すべての輸入要件が満たされ、米国農務省とメキシコ政府の協力的な努力により輸出されるアボカドに害虫がいないことを確保する。APHISは、毎年メキシコ政府と協力して、標的害虫に関する園地の現地調査を行い、当該検疫害虫がいないことが判明した園地にのみ輸出証明を行っている。APHISはまた、果物を輸出する前に梱包施設において行うアボカド果実の切断検査に参加している。

2020/21年度のメキシコのアボカド輸出量は、米国の需要の継続的な増加に伴い対前年度比6%増の135万トンと予測される。コロナ禍による収穫作業と流通段階への影響にもかかわらず、米国のアボカド需要は依然として強く、さらに増加すると予測される。その結果、メキシコの対米輸出は、数量、金額ともに記録を更新した前年度の96万3,539トン、24億米ドルを数量で6%上回る102万トンと予測される。米国のアボカド需要は、特にスーパーボウルがある2月と(メキシコ関連の)シンコ・デ・マヨの祝日がある5月に最も高い。

APEAMによると、ミチョアカン州はアラブ首長国連邦等に13万9,954トンを輸出したが、コロナ禍と輸送・物流費の上昇により、前年度から6%減少した。ハリスコ州のAPEAJALは、生産者の要請により輸出の見通しを支援するため2013年に設立された。ハリスコ州は、日本、カナダ、フランス、スペインへの輸出に力を注いできた。メキシコは通常、カリフォルニア州から少量のアボカドを輸入しており、2019/20年度には591トンが輸入された。

表2 メキシコのアボカド輸出(2019/20販売年度)

輸出先	輸出量(トン)			輸出市場シェア(%)		
	2017年7月～2018年6月	2018年7月～2019年6月	2019年7月～2020年6月	2018年	2019年	2020年
米国	766,431	888,833	963,539	74.02	77.56	75.75
カナダ	82,848	88,854	89,010	8	7.75	7
日本	59,677	69,916	66,150	5.76	6.10	5.20
スペイン	16,107	16,099	25,214	1.56	1.41	1.98
オランダ	22,804	13,172	21,921	2.20	1.15	1.72
その他	87,614	69,085	106,178	8.46	6.03	8.35
合計	1,035,481	1,145,959	1,272,012	100	100	100

関税

ミチョアカン州産の生鮮ハスアボカドの米国への輸入関税は無税である。生産者は、米国農務省の検査手数料をカバーするため、輸出するアボカド1ポンド当たり5米セントをAPEAMに支払う。米国からメキシコへの生鮮アボカド(HS 0804.40.01)の輸入は、いかなる課税の対象にもなっていないが、輸入品は農業農村開発局(SADER)による植物検疫及び食品検疫の対象である。

91. 米国ワシントン州　山火事と強風でリンゴの収穫量が減少

FreshPlazaウェブサイト（2020年9月17日）

8月上旬に行われたワシントン州産リンゴの最初の生産見通しは、前年度の1億3,300万箱とほぼ同じ1億3,400万箱(40ポンド/箱)であった。この見通しの後、強風と西海岸の山火事により、また収穫が進むにつれて着果量がより正確に報告されてきたことから、2020/21年度のリンゴ生産量は見通しを下回ることが示唆されている。

労働者の日の週末（9月5～6日）の強風によりリンゴが落果し、一部の園地ではトレリスにも損傷を受けた。ワシントン州や他の西海岸の州で起きている山火事は風にあおられて濃い煙を発生し、一部の地域では操業の停止を余儀なくされたため、収穫が数日遅れた。これらの悪天候の結果として収穫量は最大1割減少すると見られる。

ワシントン州のリンゴ園では、8月下旬にガラの収穫を始め、その後ハニークリスプに移行した。ワシントン州での収穫は通常8月中旬に始まり、11月まで続く。レッドデリシャス、ふじ、コスミッククリスプ®は10月に収穫され、収穫シーズンは11月のグラニースミスとクリップスピンクで終わる。

ワシントン州産リンゴの需要は、消費者の健康志向と大量購入の増加により高まっている。この時期に出荷されたリンゴの量は昨シーズンより少し少ないが、全体的な荷動きは良い。出荷業者は、需要を満たし、シーズン目標に沿ったペースで出荷を行うために奮闘している。

ワシントン州は、米国の生鮮リンゴ生産量の65%を占める主要産地である。同州はまた、生産量の3分の1を60以上の海外市場に輸出し、米国のリンゴ輸出全体の95%を占めている。

（参考記事）

カリフォルニア州　サリナス地域に再び降灰、収穫の遅れも

FreshFruitPortalウェブサイト（2020年9月11日）

現在、カリフォルニア州の200万エーカー（約81万ヘクタール）以上で起きている山火事で、主要な農業地域での生産活動が再び影響を受けており、作業の遅延が発生する可能性がある。

オレゴン州及びワシントン州の火災とも相まって、膨大な量の煙がカリフォルニア州を覆っている。北北東の風は煙を含む海洋上の逆転層とともに、サリナス渓谷全体に不気味で、煙っぽく、暗いオレンジ色の空を形成している。（訳注：サリナス渓谷は野菜を主とする園芸地帯である。）

状況に関する最新情報として、マーコン協同組合の関係者は「軽い灰が再びサリナス渓谷に降っており、再び野菜や果実に灰が積もっている。一部の収穫作業員は、作物をよく見るためだけでなく、安全上の理由により照明を使う必要がある。」と述べ、状況により健康上の懸念のために作業員の業務を停止させることになれば、収穫の遅れが発生する可能性があると指摘した。

今年の夏、サリナス渓谷の作物に降灰するのは8月下旬に続き今回が2回目である。

マークン協同組合のマーク・ショー業務担当副会長の話

「現在のところ、収穫物の損失が発生する可能性は高いが、その程度は大体において非常に限られるだろう。すべての収穫物は安全に消費できるレベルまで洗浄することができる。しかし、生産者は、灰の洗浄に時間を費やすことになり、コストを増大させる可能性が高い。加工業者もまた、カット野菜やサラダを100%きれいにするためより多くの時間を費やすことになる。

さらに、生産者が直面しているより大きな問題は、8月中旬に数日間の灼熱をもたらした熱波である。異常な高温によって作物のどれくらいが損傷したのかまだ判断できないが、10月中旬から11月中旬の間に供給不足が生じる可能性がある。ちょうどそのタイミングで、サリナスの出荷シーズンは終わるだろう。」

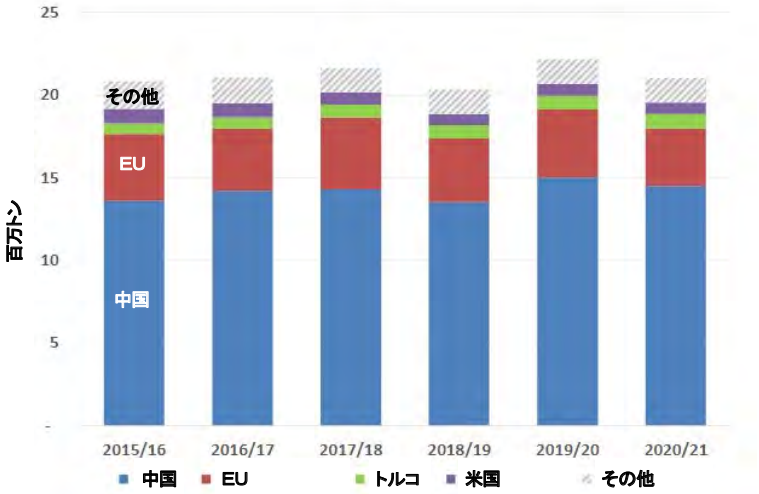
92. 世界の核果類事情と市場動向

米国農務省海外農業局（2020年9月18日）

＜生鮮モモ・ネクタリン＞

世界のモモとネクタリンの生産量は、最大の生産国である中国と欧州連合(EU)が悪天候の影響を受けたため、110万トン減の2,100万トンと予測される。世界的な供給の減少に伴い世界の貿易も縮小する見込みである。

世界のモモ/ネクタリン生産量は記録更新の後に減少



中国の生産量は、4月の大雪がほとんどのモモ産地で着果に影響を与えたため、50万トン減の1,450万トンと予想される。輸出については、ロシアが核果類を含む中国からの果実の輸入禁止を続けているため、3分の1以上減の8万トンと予想される。輸入禁止以前は中国の第3位の輸出市場であったロシアは、植物検疫上の懸念から2019年8月にこの措置に踏み切った。中国の輸入は、コロナ禍が出荷に影響を与える前の販売年度の初めに、チリからの供給が大幅に増加したことを反映して、40%以上増の3万8千トンと予測される。

EUの生産量は、主要生産国であるスペイン、イタリア、ギリシャ、フランスの生産量が様々な気象被害を受けたことから、過去最高に近い記録的な生産量であった昨年に比べて60万トン以上減の350万トンと予測される。過去数年間のモモの過剰生産もまた、スペイン、イタリア、フランスの栽培面積の減少を促し、スペインの一部ではナッツ類への転換が見られる。生産量の減少により輸出量は2万4千トン減の15万5,000トンと予測されるが、域内需要は主に域内供給によって満たされるため、輸入量の増加はわずかにとどまる。

米国の生産量は、コロラド州及び東海岸のいくつかの州で凍害を受けたことから、2万6千トン減の69万1千トンと予測される。米国農務省農業統計局（NASS）は、業界を調査し、2020年8月の作物生産報告書に米国のモモの生産予測を発表した。輸出は、主要市場であるメキシコ、台湾、オーストラリアへの輸出量の減少により4千トン減の6万7千トンと見込まれる。また輸入量は、販売年度の初めにチリからの輸入が減少したため、3万3千トンに減少すると見込まれる。米国は、2020年1月に締結された米中経済貿易協定に従って、ネクタリンを中国に輸出することができる。中国の税関総局（GACC）は4月26日に米国内の承認済み梱包施設のリストを公表し、カリフォルニア州の5つの郡からの米国産ネクタリンに正式に市場を開放した。米国の承認済み梱包施設の公表以降、貿易データは出荷が始まったことを示している。

トルコの生産量は、開花期から収穫期までの好天に恵まれ、4万トン増の87万トンと予想されており、6年連続の増加となる。生産量の増加に伴い、輸出量も持続的な成長を見せている。供給量の増加と中国不在によるロシアでの競争緩和見込みにより、輸出量は4万トン増の14万トンに増加し、4年間でほぼ3倍に増加すると予想される。輸出の成功は生産へのさらなる投資に拍車をかけており、輸出需要と成長する果汁産業の需要を満たすため、栽培面積の継続的な拡大を促している。

チリの生産量は、良好な生育条件と安定した栽培面積によりやや増加の17万トンと見込まれる。生産量の増加に伴い、輸出量は中国向けをはじめとして10万5千トンとわずかに増加するものと見込まれる。

日本の生産量は引き続き減少傾向にあり、梅雨の長期化により1万トン減の9万8千トンと予測される。日本の生産量が10万トンを下回れば、米国農務省の生産需給データベースの稼働以来初めてとなる。

オーストラリアの生産量は、十分な冬の寒さと適切な水供給により5千トン増の12万トンと予測される。オーストラリアの生産量は2017年以来緩やかな上昇傾向にあり、古木が新しい高収量品種に植え替えられていることから、この増加は今後数年間続くと予想される。供給量の増加にもかかわらず、コロナ禍による航空貨物の停滞により輸出量は1万3千トンに減少する一方、国内消費量は10万9千トンに増加すると予想される。

ロシアの輸入量は、中国からの輸入禁止を相殺する以上にトルコからの輸入が増加するため、2年連続の減少に終止符を打ち、やや回復して20万トンと予想される。

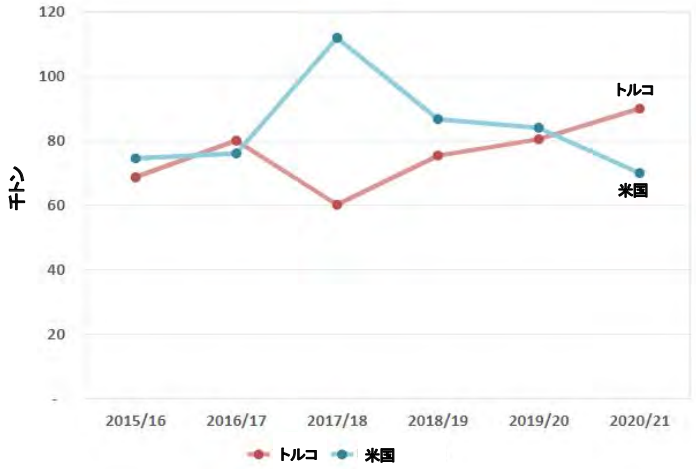
データの変更
「加工仕向量」のデータは、その正確性に関して懸念があるため収集・報告されなくなった。過去のデータは1979/80年度に遡って「国内消費量」（訳注：従来は「国内生鮮消費量」と「加工仕向量」）に算入された。

<生鮮サクランボ>

世界のサクランボ生産量は、トルコ、チリ、中国の増収がEUと米国の悪天候による減収を上回ったことから、6万トン増の390万トンと予測される。生産量の増加及びチリとトルコからのしっかりした輸出により、世界の輸出量は1万7千トン増の50万3千トンと予測される。

トルコの生産量は、生育条件に恵まれ7万トン以上増加して91万8千トンと予測される。6年連続の増加となるが、生産者は果樹園を高収量品種の高密度植栽に移行させている。生産量の増加は、EU及びロシア向けの輸出を9万トンまで押し上げると見込まれ、米国を上回って4年ぶりに世界第2の輸出国となる。トルコは2019年に中国と韓国への市場アクセスを獲得し、これまでのところこれらの国々への出荷は最小限でだが、トルコからの出荷時期は主に5月から8月で米国と同じであるため、米国産のサクランボと直接競合する。

トルコのサクランボ輸出量が再び米国を上回る



EUでは、春の霜と大雨が多くの主要生産国の生産量に影響を与えたため、生産量は3万5千トン減とわずかに縮小し、70万3千トンと見込まれる。生産量は少ないが、果実の品質は良好であると予想され、輸出量は8千トンでほぼ変わらないものと予測される。生産量の減少がトルコからの出荷の増加を促すため、輸入量は7千トン増の6万トンと予想される。

中国の生産量は、新植園地の成園化による増収が4月の大雪による損失を上回るため、3万トン増の45万トンと予測され、長期の増加傾向が続いている。栽培面積も増加しているが、ペースは遅い。民間企業は、国内の高級品市場への供給を目的として、中国全土に温室と露地のサクランボ園を建設し始めた。国内の果実生産の改善に向けた更なる取り組みの中で、中国商工会議所は生鮮果実の生産と貿易に関する協力協定をチリと締結した。この協定にはチリの生鮮果実の生産方法など、技術と技術的専門知識の交換が含まれている。協定には品目は指定されていないが、サクランボが含まれる可能性が高い。コロナ禍を取り巻く不確実性が消費者需要に影響する中、輸入量は1万トン減の22万トンと見込まれる。輸入の減少が見込まれるのは、2010/11年度以降わずか3回目である。

米国の生産量は4万トン以上減少し、38万3千トンと予測される。ワシントン州では厳しい霜害が甘果オウトウの生産に影響を与え、カリフォルニア州とオレゴン州での増収を上回った。ミシガン州では、5月の霜害が酸果オウトウの生産に大きな損害を与えた。米国農務省農業統計局（NASS）は業界を調査し、2020年6月の作物生産報告書で米国のサクランボ生産の予測を発表した。生産量の減少に伴い、輸出は1万4千トン減の7万トンと見込まれ、一方輸入量はチリからの出荷増によりやや増加して1万2千トンと予測される。

チリの生産量は、新植園地の生産園化が続くほか、冬の降雨が多く気象条件が良好であるため、3万トン以上増加して28万7千トンと予測される。生産量の増加により、輸出量は24万トンに増化するものと予想される。

ロシアの輸入は、トルコと中央アジア諸国からの出荷が増加することから、1万5千トン増の10万トンと見込まれる。

データの変更

「加工仕向量」のデータは、その正確性に関して懸念があるため収集・報告されなくなった。過去のデータは1979/80年度に遡って「国内消費量」（訳注：従来は「国内生鮮消費量」と「加工仕向量」）に算入された。

注意事項

欧州連合（EU）の定義

英国等関税同盟の国を含む（オーストリア、ベルギー、ルクセンブルク、ブルガリア、クロアチア、キプロス、チェコ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイルランド、イタリア、ラトビア、リトアニア、マルタ、オランダ、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、英国）。

英国は、2020年12月31日までの移行期間の間、EU関税同盟のメンバーである。おって、英国をEUの他の地域から分離する方法を関係するウェブページに掲載して通知するが、それまでの間、海外農業局の世界需給予測、報告書及びデータベースではEU27か国に英国を加えたEU28か国として取り扱う。

販売年度

モモ/ネクタリン － 北半球諸国では第1年の 1 月に、南半球諸国では第1年の11月に始まる。

さくらんぼ － 北半球諸国では第1年の4月に、南半球諸国では第1年の11月に始まる。

モモ・ネクタリン（生鮮） 主要国の生産需給統計

（1,000トン）

国名	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21年9月推計値
生産量						
中国	13,600	14,200	14,300	13,500	15,000	14,500
EU	4,043	3,778	4,346	3,881	4,118	3,475
トルコ	643	674	772	789	830	870
米国	889	840	758	687	717	691
アルゼンチン	266	251	90	226	226	226
ブラジル	216	194	250	220	220	220
チリ	146	149	159	158	165	170
ウズベキスタン	220	200	193	162	162	162
メキシコ	176	177	164	161	161	161
南アフリカ	194	182	183	152	152	152
その他	432	412	421	422	405	403
合計	20,825	21,057	21,635	20,357	22,156	21,029
国内消費量						
中国	13,514	14,127	14,213	13,458	14,906	14,458
EU	3,729	3,558	4,091	3,731	3,943	3,325
トルコ	592	624	683	662	725	730
米国	854	807	742	656	683	657
ブラジル	239	212	269	241	238	240
ロシア	231	230	278	264	230	236
アルゼンチン	265	251	86	222	223	223
メキシコ	202	205	184	192	192	190
南アフリカ	175	165	166	137	133	134
ウズベキスタン	208	158	155	108	116	112
その他	706	704	743	679	787	689
合計	20,716	21,042	21,611	20,349	22,175	20,993
輸入量						
ロシア	200	197	250	228	194	200
ベトナム	22	18	22	13	65	50
ベラルーシ	170	110	108	58	44	40
カザフスタン	38	36	45	48	58	40
サウジアラビア	34	35	33	34	38	40
カナダ	41	44	34	37	39	38
中国	0	0	9	22	27	38
EU	28	31	27	35	34	35
米国	38	47	40	38	36	33
スイス	34	31	34	29	31	32
その他	133	157	165	157	194	140
合計	737	707	766	697	760	686
輸出量						
EU	297	226	251	156	179	155
トルコ	51	51	89	127	105	140
チリ	86	88	97	97	103	105
中国	86	74	96	63	121	80
米国	73	81	55	69	71	67
ウズベキスタン	12	42	38	54	46	50
ベラルーシ	150	87	84	44	20	30
セルビア	12	15	11	24	22	25
南アフリカ	20	19	19	18	21	20
オーストラリア	10	9	12	16	15	13
その他	4	6	9	8	7	7
合計	802	697	761	675	711	692

注: 販売年度は、北半球諸国では第1年の1月に、南半球諸国では第1年の11月に始まる。

サクランボ（生鮮） 主要国の生産需給統計

（1,000トン）

国名	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21年9月推計値
生産量						
トルコ	719	795	809	824	846	918
EU	751	734	620	835	738	703
中国	250	330	380	340	420	450
米国	417	456	508	441	424	383
ウクライナ	270	220	243	303	303	303
チリ	103	116	207	206	256	287
ロシア	234	264	224	279	279	279
ウズベキスタン	140	164	194	229	229	229
セルビア	128	118	119	147	147	147
シリア	54	54	54	54	54	54
その他	151	154	136	176	172	176
合計	3,216	3,404	3,494	3,834	3,868	3,928
国内消費量						
トルコ	650	715	749	749	766	828
EU	739	766	656	865	781	752
中国	337	425	571	520	650	670
ロシア	308	335	292	372	364	379
米国	356	393	410	366	349	325
ウクライナ	269	219	239	300	300	303
ウズベキスタン	135	135	166	201	218	204
セルビア	122	104	102	133	131	132
カナダ	34	39	54	48	53	53
シリア	51	48	50	52	50	49
その他	171	196	172	203	174	214
合計	3,172	3,374	3,460	3,808	3,837	3,909
輸入量						
中国	87	95	192	180	230	220
ロシア	74	71	68	93	85	100
EU	36	57	50	47	53	60
カナダ	24	23	33	28	28	26
韓国	13	14	19	19	15	20
カザフスタン	10	24	22	25	8	20
台湾	9	11	15	12	11	12
米国	13	13	14	12	10	12
ベラルーシ	44	18	8	14	7	5
日本	5	5	5	3	4	5
その他	4	9	7	4	4	6
合計	320	340	432	437	455	486
輸出量						
チリ	84	95	185	180	229	240
トルコ	69	80	60	75	81	90
米国	75	76	112	87	84	70
アゼルバイジャン	12	15	15	24	27	25
ウズベキスタン	5	29	28	28	11	25
セルビア	8	19	21	16	17	17
EU	48	25	14	16	9	8
カナダ	14	10	11	13	9	7
ベラルーシ	38	6	3	8	1	6
オーストラリア	6	3	4	5	5	5
その他	7	12	12	11	13	10
合計	364	370	465	463	486	503

注: 販売年度は、北半球諸国では第1年の4月に、南半球諸国では第1年の11月に始まる。
サクランボ（生鮮）には甘果オウトウと酸果オウトウを含む。

93. 世界のリンゴ市場

FreshPlazaウェブサイト（2020年9月18日）

リンゴの出荷は現在、南半球から北半球に移ってきており、貿易の移行は大きな問題なく円滑に進むものと見られる。リンゴの収穫が始まった国々では、生産量が減少したところが多い。これは主に日焼け、春の霜、降雹及び嵐によるものである。生産量の増加のほとんどは、栽培面積の拡大による。価格は上昇し、多くの市場で今季の新しい作物が入荷しても高止まりしている。

オランダ：昨シーズンの初めよりも価格が高い

オランダのリンゴの収穫は現在進行中である。エルスター品種では、ほとんどの園地が二回目の収穫を行っており、すでに収穫を終える園地もある。この後、ジョナゴールド、レッドプリンス、カンジ及びさらに晩生の品種が続く。オランダのある取引業者は、収量に関して予想するのはまだ早いとしつつ、「需要は高いのだが、実は何ヶ月も前から高かった。輸入リンゴは売り切れており市場には在庫がないので、ヨーロッパの業者は皆、域内産品に切り替えている。収穫が進めばより明確になるが、見通しは良い。個人的にはオランダでの販売は、どうにか順調に推移していくと見ている。生産量が少なく、価格が昨年より高くなるのは確かだ。」と言う。

ベルギー：日焼けと霜のため収穫量が少ない

今年のベルギーのリンゴの収穫量は最近の年に比べて著しく少ない。霜の害をひどく受け、さらに暑い時期には日焼けの害を受けた。このため、ロット間で品質に顕著な違いが生じている。

需要と供給のバランスは良い。これは、収穫シーズンが始まった時、市場にほとんど在庫がなかったためでもある。ベルギー産夏リンゴの販売は順調と思われる。果実の品質は良く、確かに十分な需要がある。

ドイツ：国内産が優勢

ドイツの青果物市場では国内産のリンゴが大勢を占めている。エルスター、デルバレ及びジョナゴールドは最も一般的な品種であり、その他テンロイ（ロイヤルガラ）、ボスコップ、コックスオレンジが主要品種である。ホルシュタイナーコックスとピノヴァの量も増えている。

イタリア北部のドイツ語圏である南チロル地方は、従来からドイツへの主要な果実供給地域である。この地域から現在出荷される主な品種は、ロイヤルガラ、ゴールデンデリシャス、グラニースミスである。また、市場にはフランスからもエルスターとガラが入荷する。さらに、スペインは比較的安価なロイヤルガラとグラニースミ

スで市場に足場を得ようとしている。取引業者らによると、一般的に市場ではやや供給過剰が見られる。

フランス：収穫量は少ないながらも高品質

フランス産リンゴの出荷シーズンはすでに始まっている。収穫量は少ない（推定140万トン）が、品質はあらゆる点で良い。したがって、取引業者は価格に関して楽観的であり、あまり問題のないシーズンを期待している。ゴールデンやグラニーなどの古い品種の生産量は特に少なく、昨年に比べて19％減少した。クラブ品種については、2019年に比べて収穫量が5％少ないと推定される。

英国：国内産へ円滑に移行する見込み

英国のリンゴの収穫は10日程前に始まり、今週の好天候によりブレーバーンとロイヤルガラの収穫が進むと見られる。

今季は、不安定な気象条件とコロナ禍のため英国のリンゴ生産者にとって困難なことが多いが、リンゴの味は特に良いと予想されている。英国では今年、13億個のリンゴと14万8,700トンのナシが収穫されると予想される。生育期間を通して深刻な気象被害を受けたため、生産量は当初の予想より約20％少なく、2019年と同程度である。

ガラは、英国で最も一般的な品種であり、生産量は過去10年間で224％増加し、今年は7万2千トンと推計される。ブレーバーンとジャズはかなりの量が生産されており、コックスも同様にまだ人気がある。キャメオ、ジュナミ、ルーベンス、エヴェリーナ、オパールなどのクラブ品種は、国内の生産量の中で次第に重要なシェアを占めるようになってきている。

ある生産者は、生産量は見通しどおりで、既に実施した投資と新植によって増産が実現すると見ている。国内産シーズンへの移行も円滑に進むと見ており、「南半球からの供給は今週が最後であり、我々の国内産への切り替えは順調と見られる。好天に恵まれ、すべてが予定通りに進んでいる。初物の英国産リンゴを買うことを楽しみにしている人が多い南部を中心に、現時点の需要は良好である。」と言う。

イタリア：有機リンゴシーズンの始まりによくない市況

イタリアのリンゴの生産量は、昨年と同程度の2,079,972トンと推定され、過去5年間の平均（2017年の確定値を除く）よりも約8％少ない。有機リンゴの生産量は、そのうちの8.5％に相当する約17万8千トンで、新記録を樹立した。これにより、イタリアはヨーロッパで最大の有機リンゴ生産国となる。

すべての地域が同じ傾向にあるわけではない。昨シーズンに比べて南チロルの生産量は7％減少したが、トレンティーノでは5％増加した。ピエモンテ州の構造的な成長は続いており、この産地は現在、トレンティーノ・南チロル*に次いでイタリアで2番目に重要である。この地域には若い果樹園が多く、大規模な品種更新プロジェクトも実施している。ヴェネト州、フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州、ロンバルディア州の収量はわずかに回復している。エミリア・ロマーニャ州では、春の霜のためにリンゴの収穫量がほぼ8％減少した。

（訳注）トレンティーノ（正式名称トレント自治県）と南チロル（同ボルツァーノ自治県）は、イタリア北部の隣接した地域であり、2県でトレンティーノ＝アルト・アディジェ自治州（南チロル自治州）を構成しています。

今年、イタリアのリンゴはタイ市場へのアクセスを獲得した。7～10日程前、新たに収穫された60トンのうち45万個のMarleneブランドのロイヤルガラがカタール、タイ及びアラブ首長国連邦に出荷された。9月の最初の15日間、イタリアの有機リンゴの市況は良くなかった。価格は低く、その理由は完全には明らかではない。ある取引業者は、一部の業者が売り急ぐ理由がわからないとしている。リンゴの品質は良く、数週間後には状況は改善すると見られる。北ヨーロッパには南半球産の果実が多く出回っているが、供給過剰の報告はない。前出の取引業者はまた、ポーランドや他の東欧諸国では春の降霜により生産力が大幅に低下したため、今年は最大限の生産は見込めないと言う。

スペイン：前シーズンからの在庫はなく、市場価格が上昇

スペインの今年のリンゴの季節は、より良い価格と高い輸出需要で始まった。コロナ禍の勃発以来、リンゴの売り上げが大幅に増加したため、今年の夏の新シーズンは前期からの在庫なしに始まる。また、核果類の収穫シーズンは、生産量の不足のために約2週間早く終わり、販売結果もよかったので、リンゴ販売に多くの

余地を残した。

また、今年は収穫量が15％程度減少すると見込まれる。果実の表皮のしみの問題があるので、市場性のある販売可能量はさらに少なくなる。生産量が最も低下した品種は、レッドデリシャス、ゴールデン及びグラニースミスである。一般的に価格は良く、業界関係者は、コロナ禍のために増嵩した生産コストを回収できることを期待している。

ポーランド：雹と霜のために昨年よりも低級品が多い

ポーランドでは、ガラの収穫が間もなく始まる。春の降霜の影響により、生産量は平年に比べて10～15％減少するが、それでも昨年よりも多いと予想されている。果実の損傷のため、輸出に適したリンゴは少ないと見られる。価格はここ数ヶ月で上昇しており、この傾向は今季の収穫開始まで続くと予想される。今季全体を通じて前季よりも価格が良いと予想される。

トルコ：市場での立場は引き続き安定

トルコ産のガラには高い需要がある。トルコのリンゴ生産は昨年に比べて増加したが、生産コストも増加した。しかし、トルコリラと米ドルの為替レートのおかげで、価格は買い手にとってあまり変わっていない。トルコ産のリンゴは主にインドと湾岸諸国で需要がある。しかし、ロシアや他のアジア諸国も今シーズンはトルコにとって良い市場になりそうだ。

南アフリカ：好ましい冬のおかげで良いシーズンとなる見通し

既にナシに関して報告されているように、ケープ地方は現時点ではまだ気温が低く降雨があり、ここ数年で最高の冬を過ごしている。西ケープ地域のリンゴ園は今、ゆっくりと目覚めている。新シーズンの最初のリンゴは、リンポポ州の在来品種である。これらはクリスマスの1週間前に市場に出回り、主に国内販売向けである。生産者はすでに、非常に良い収穫を期待させる果樹の摘花に取り組んでいる。1月の上中旬には、フリーステート州東部とムプマランガ州のリンゴがこれに続く（耐寒性の高い在来品種であり、総生産量の2%を占める）。リンゴ園は開花期にあり、寒波が到来しない限り、収穫量は平均的なものになると予想される。

昨シーズンは品質に関しては良かったものの、物流上の問題（コロナ禍によるロックダウンとケープタウン港の問題が重なった。）があった。しかし、ある取引業者によると、健康的な食に対する消費者意識の高まりにより、リンゴの輸出は（深刻な混乱がなかった市場では）悪くない結果をもたらした。

インド：国内の収穫開始で輸入減少

インド国内での収穫の開始に伴い、人気の高いチリ産とニュージーランド産も含め、輸入は妥当性を失う。国産リンゴは安いので、8月から1月まで消費者はそちらを好む。今年のインドのリンゴ生産量は、厳しい気象条件のため大幅に減少し、インド北部では30％の減収となると見られる。もう一つの問題は、大玉のリンゴがないことである。インドは輸入市場への供給者を求めており、今後数週間のうちにセルビアが新しい供給国になる可能性がある。

中国：リンゴ市場での販売に消極的

山東省産貯蔵リンゴの価格が最近0.2元（0.025ユーロまたは0.03米ドル）上昇した。一部の生産者や取引業者はまだ売り渋っている。これは、入荷量が増える収穫シーズンを控えて、貯蔵リンゴの価格が早生の新リンゴと同様に9月末から10月初めのレッドふじの価格に影響を与えるためである。9月4日、甘粛省から19トンのふじがオーストラリアに輸出された。この省のリンゴがオーストラリア市場に出荷されたのは初めてである。

米国 – ペンシルベニア州：高い価格でシーズン開始

ペンシルベニア州のリンゴ生産量は、春の霜の影響を受け約25％減少した。果実のサイズは現在、通常よりも小さいようだ。レッドデリシャスは天候の影響を大きく受けた。消費者はバラ売りのリンゴの汚染を非常に恐れているので、特にトレイ包装のリンゴの需要が強い。米国農務省は、国内の家庭への食料配布事業のために何百万個もの小玉リンゴを市場から回収した。秋直前の現在の価格は、ハニークリスプを除いて、昨年よりも約1～2ドル高い。10月初めには、価格は昨年並みになると予想される。

米国 – ニューヨーク州：クラブ品種や古典的な品種の人気が高まる

ニューヨーク州の2020/21年度の作柄は、昨年度と同様の豊作が期待されている。生産者はハニークリスプ、ガラ、ふじの生産量が増加すると予想し、スウィーターンゴ、コル、スナップドラゴン、ルビーフロスト、エバークリスプなどのクラブ品種も増加している。スミッテンは今年初めてこの市場に登場し、レーヴ（Rave）は実質的に最初の収穫となる。ニューヨーク州産のリンゴは、特にテキサス州からウィスコンシン州までの地域を中心に、国内の需要が強い。西海岸ではニューヨーク州産の古い品種も需要があり、ベトナム等の輸出先国では、バイヤーはスナップドラゴンやコルのようなクラブ品種を求めている。市場価格はまだ安定していない。

米国 – ワシントン州：袋詰めリンゴの需要が高い

ワシントン州では、新規植栽による10%の生産量増加が見込まれているが、天候が不透明感を与えている。同州の生産者は、最近の西海岸の山火事の煙に対処しなければならず、また9月上旬の嵐は果実に深刻な被害を引き起こした。一部の生産者は、ワシントン州の出荷量が幾分減少すると考えている。ワシントン州リンゴ委員会によると、8月初旬に行った生産見通しでは、2019年産の1億3,300万箱に匹敵する1億3,400万箱と予測されたが、その数字は5～10%減少すると見られる。

他方、需要面でも課題がある。生産者としては、小売業者が夏の果物からリンゴ等の販売に切り替えるのを待つ必要がある。袋詰めのリンゴの需要は高いが、この形態にはサイズの小さいリンゴが使われる傾向があり、今年の果実はサイズが大きいらしいことが課題だ。今年の収穫量が当初考えられていたよりも少ないことを考えると、価格は上昇し、おそらく平均レベルを上回ると見られる。労働者不足のため、北米全域で収穫が遅れる可能性がまだある。

チリ：出荷シーズンは終わりを迎える

米国市場で国内産が出回り始めたので、チリの出荷シーズンは終わりに近づいている。チリは世界のリンゴ生産量の2%を占めており、主に輸出向けである。今季の輸出量は、160万～170万トンと見込まれる。リンゴの栽培面積は過去5年間で13%減少した。ロイヤルガラが、生産量の45%を占める最大の品種である。また、輸出先については、最近は南米諸国が以前よりも大きなシェアを占めるなど多様化が進んでいる。

アルゼンチン：依然として従来の品種が主体

アルゼンチンの輸出は何年間も減少しており、約40%減少した。この現象の主な理由は、リンゴ生産がレッドデリシャスやグラニースミスなどの伝統的な品種に依存していることである。2019年の生産量は約55万トンで、そのうち10万トンが輸出された。2020年産の数字はまだ明らかでない。

ニュージーランド：リンゴの輸出額は2012年から倍増

ニュージーランドのリンゴ輸出額は2012年から倍増し、2019年は8億2千万ニュージーランドドル（4億6,620万ユーロ）を超えた。ジャズ、エンヴィ、パシフィックなどニュージーランドの品種が輸出の4分の1以上を占めたが、ロイヤルガラが31%と最も高い輸出シェアを記録した。ニュージーランド産リンゴの主要な輸出先はヨーロッパ（22%）で、英国/アイルランド（12%）が続き、北米と中国はともに11%を占めた。2019年度の生産量は合計39万5千トンであった。

オーストラリア：リンゴの生産額が増加

オーストラリアのリンゴ生産額は、2019年6月までの販売年度に10%増加し、5億1,280万豪ドル（3億1,720万ユーロ）に達した。しかし、生産量は1%減の31万875トンであった。輸出量も13%減少して4,416トンとなり、輸出額は6%減少し1,060万豪ドル（656万ユーロ）となった。オーストラリアの総生産量の70%は生鮮果実として市場に出荷され、残りの30%は加工用に仕向けられた。最も広く生産された品種はピンクレディ（41%）で、ロイヤルガラ（23%）とグラニースミス（18%）がこれに続いた。

オーストラリアの新しいリンゴブランドの一つであるカンジは、降水量不足、森林火災、洪水及び降雹の影響を受け生産量が少なくなったため、予想より少し早く出荷を終了した。

94. 米国北西部　サクランボの出荷が終了

AMERICAFRUIT電子版（2020年9月20日）

業界団体である北西部サクランボ生産者協会（NWCG）によると、最近終了した2020年度出荷シーズンの同地域のサクランボ出荷量は、2千万箱（9.1キログラム/箱）にわずかに及ばない1,980万箱で、昨年の2,330万箱から減少した。2020年の出荷期間は97日間で、北西部としては記録的な最長の出荷シーズンであった。また、困難が多い年でもあった。

同協会は「冬の寒さ、リトルチェリー病、さらには幾度かの激しい雨嵐によって、今年は近年のほとんどの年よりも減収した。ありがたいことに、生産者の継続的な献身と多くの努力は、消費者からの作物に対するこれまでで最も高い賛辞に繋がった。大きく果肉が引き締まっていて特に甘く、全世界での売り上げは最初から最後までこれまでにないほどであった。」と発表した。

収穫に至るまでの悪天候により、収穫量は当初の見通しに達しなかった。同協会は「収穫開始の遅れと収穫中の暴風雨にもかかわらず、最終的な収穫量は当初の予想にわずかに届かないだけだった。収量のバラツキと天候の影響のバラツキが大きく、推計が難しい年だった。」としている。

95. 市場の変化が米国の柑橘類を救う可能性

AMERICAFRUIT電子版（2020年9月22日）

ベトナムや中国などのアジア市場の輸入の増加と英国が、米国の柑橘類を有利に導く可能性がある。

輸出を刺激することは、米国の生産者とアジアの市場に様々な利益をもたらし、英国は可能性を秘めている。フロリダ大学が運営するウェブセミナーで、リバーフロントパッキング社のダン・リッチー社長（米国農業貿易諮問委員会のフロリダ州柑橘業界代表を務める）が、米国の柑橘類の貿易に関する新たな情報を提供した。

リッチー氏は、アジアでは中国とベトナムが、さらに多くの柑橘類を主にカリフォルニア州から輸入する可能性があると述べた。しかし、このことはまた、国内市場での流通量を減らすことによってフロリダ州など他の州の生産者に利益をもたらすだろう。

リッチー氏は「我々は、ベトナムへのアクセスを得るために米国農務省と協力してきた。ベトナムはフロリダ州にとって非常に大きな市場になるか？ それは不明だが、カリフォルニア州の、またおそらくテキサス州の市場にはなる可能性がある。」と述べ、以下のように続けた。

「我々には、中国が大量の農産物の購入に合意した米中合意フェーズⅠがある。それは対中貿易が限られているフロリダ州には大して影響しないが、うまくいけばカリフォルニア州の取組に良い影響を与え、国内市場から多くのオレンジが取り除かれるかもしれないということが重要だ。

コロナ禍の影響があるにも関わらず、アジアの確立された市場である日本では、米国産柑橘類の地位は確固としており、順当なスタートを切ろうとしている。韓国でも好ましい状況にあるようだ。」

米国の柑橘類業界はまた、EU離脱を契機として英国市場に目を向けている。リッチー氏は、EUへのアクセス改善の道が開けるかもしれないと次のように語った。

「我々は英国に密着しており、英国市場を開放させ、EU全域で適用されているカンキツ潰瘍病関連のあらゆる要求を廃止させるため、果実はカンキツ潰瘍病の蔓延経路ではないということを英国に受け入れさせようと努めている。英国は我々にとって良い市場だ。最大の市場ではないが、本件に関するEUの姿勢に亀裂を入れる切っ掛けになるかもしれない。」

96. ニュージーランド　困難な年に輸出と雇用を支える園芸部門

FreshPlazaウェブサイト（2020年9月24日）

ニュージーランド政府によると、同国の第一次産業の輸出と雇用は再び上昇しており、コロナ禍と米中貿易戦争の中で景気回復を支えている。ニュージーランド統計局は、8月の物品輸出は、前年同期に比べて全体で8.6％増加したが、48％増加したゴールドキウイなど果実の増加（28.2％）に支えられたと報告した。

ロバートソン財務大臣は「我が国の農業生産者は、持続可能な食料生産との定評に乗って外貨を獲得することにより、景気回復を支えている。成すべきことは、引き続きこの成功を支えることだ。過去3年間にわたり雇用に焦点を当てた成果も現れ、今日の発表では、第一次産業全体の8月の雇用者数が99,920人に達し、1年前より8,720人、すなわち9.6％増加したと報告された。国は、職業見習い制度等を通じて、人々が企業や業界が必要とするスキルを身に着けることを支援している。また、英国やEU等との自由貿易協定の確保に取り組むなど、我が国を世界の中に位置づけることで、農家や生産者を支援している」と述べた。8月までの1年間で輸出額全体は2.8％増加し、果物の輸出は8.4％、野菜の輸出は6.3％増加した。

オコナー農業大臣は、政府はまた、環境面の取り組みでニュージーランドが世界をリードし続けられるよう、業界が行うそうした取り組みを支援するために、第一次産業と協力していると述べた。また、「夏が近づき、農場や果樹園の仕事が増えるので、農業部門が必要とする労働力を確保できるよう、政府は今週、入国管理政策の様々な変更を行った。園芸とブドウ栽培の分野で短期的にその役割を果たしてもらうため、既に国内に滞在中で、今年の10月1日から来年の3月31日の間に期限が切れるワーキングホリデービザを持つ約1万1千人には、追加的な季節雇用ビザが自動的に与えられることとなった」と説明した。

さらに、入国時の隔離観察の対象にはなるものの、農産・園芸部門の移動式施設の作業員として最大210人を受け入れる入国規制の例外を設けるとして、「政府は、産業界が必要とする労働者を確保するためにこれらの政策を引き続き積極的に進める。一方、コロナ禍によって職を失ったニュージーランド人が新たな雇用を見つける機会を保証する。」と述べた。

園芸業界は、入国管理政策の変更による政府の支援を歓迎

ニュージーランド園芸協会（HortNZ）は、困難な状況にある園芸産業と立ち往生したバックパッカーや季節労働者に支援を提供するものだとして、政府の最近の入国管理政策の変更を歓迎した。

同協会のチャップマン最高経営責任者は、「この変更は、立ち往生したバックパッカーや認定季節雇用者（RSE）が雇う労働者に確実性と選択肢を提供するとともに、園芸業界と太平洋地域の国々にとってのRSE制度の重要性を認めるものだ。自国民の労働者を十分に確保できない園芸業界やワイン産業で、ビザが切れる人々が働くことを可能にする追加的季節雇用ビザの拡大を歓迎する。」と述べた。

同氏は、労働力不足は長年にわたり園芸業界を悩ませてきたと付け加え、次のように語った。

「コロナ禍は事態を増幅し、多くの生産者のストレスを高めている。収穫に必要な労働者の確保が不透明なため、栽培を控えたケースもある。本日の発表は良いニュースだ。それは全国の生産者に何がしかの確実性を与え、将来について前向きにさせる。この発表は、コロナ禍で職を失った人を含め自国民を雇用するという園芸業界の取組を補うものだ。ニュージーランド人の園芸業界への就労を可能にし、支援するためのいくつもの事業が何年もの間実施されてきた。

ニュージーランドの園芸部門は現在、年間60億ニュージーランドドル以上を産出しており、今日の発表は、園芸部門がニュージーランドの経済社会的回復において果たす役割を認めている。園芸部門は、北の果てから最南端まで、我が国の多くの地域の生命線である。バックパッカーや太平洋諸国からの労働者は収穫や剪定などの季節的なピークへの対処を可能にするが、園芸部門は同時に、何千人ものニュージーランド人に恒久的な雇用を提供することができる。」

97. フロリダ産グレープフルーツ　日本の関税によってメキシコより不利に

FreshPlaza電子版（2020年9月28日）

フロリダ州ではグレープフルーツの季節が近づいており、果実は引き締まって大きさは昨年と同じ程度と見込まれている。「夏と春はとても暑く、そして雨が多かったので開花期が伸びた。」と、フロリダ州ベロビーチのリバーフロントパッキング社のダン・リッチー氏は話す。「品質はよくなりそうだ。雨のために果物に黒い斑点が少し多いかもしれない。果物のサイズに関しては、全体として大きさがよく揃ったものになりそうだ。事前のテストは高い糖度を示しており、これは良いことだ。」

リッチー氏は、赤肉のグレープフルーツの出荷シーズンは昨年よりやや早く－約1週間程度－始まるのではないかと予想している。「おそらく国際市場向けの梱包を始めるのは、10月第2週以降になるのではないか。」と語る。

グレープフルーツとビタミンC

需要は強いと予想される。リバーフロント社の果物の20～25%は国内向けだが、主要な出荷先は欧州連合(EU)、英国、韓国、日本等で、そこではフロリダ州産グレープフルーツへの需要は強い、とリッチー氏は指摘する。「需要の多くは、COVIDに関連して、ビタミンCが免疫システムに与えるプラスの効果について消費者が知識を有することと関係がある。そして、多く家庭でグレープフルーツの消費が増えることはグレープフルーツの販売に役立つ。」と言う。

関税

しかし、国際的な問題が残っている。「日本との貿易交渉の第1ラウンドでは、グレープフルーツへの10%の関税が残った。この関税の撤廃は、第2ラウンドの議論でトップの項目になると言われている。」とリッチー氏は言う。「これはメキシコより不利な立場にあるということだ。メキシコは明らかに低コストの輸出国で優位性を持っており、また、市場に浸透し、より多くの果物を出荷しようと真剣に取り組んでいる。」

今年の価格はまだ評価が定まっていないが、リッチー氏は、需要の増加とCOVID-19に関連するコストの上昇に伴って価格も少し増加するかもしれないと指摘する。「COVID-19に関連するコストが増えたので、生産コストは上がっている。増加したコストをすべて転嫁することはできない。しかし、その一部は顧客にお願いしなければならないかもしれない。」と話す。

98. 南半球産ソフト柑橘類の輸出が10年で急増

FreshFruitPortalウェブサイト（2020年9月28日）

世界柑橘類機関（WCO）のデータによると、南半球からの柑橘類の輸出量は過去10年間で25％以上増加し、輸出先では欧州市場が、品目では皮を剥くのが容易なソフト柑橘類が成長の大部分を牽引している。

南アフリカ、ペルー、チリ、アルゼンチン等を含むこの地域からの柑橘類の出荷量は、2010年の260万トンから2019年の330万トンへと27％増加し、成長の大半は2014年以降のものだとペルーのウェブサイトが伝えた。輸出先の地域別では、EU34％、アジア24％、北米18％、中東13％、東欧7％となっている。

ソフト柑橘類の輸出が急増

ソフト柑橘類が増加の大部分を担っている。2008年に世界中で取引された南半球産のマンダリンとタンジェロは34万2千トンで、2014年には46万5千トンに増加した。2019年には73万9千トン以上に増加し、南半球産柑橘類の輸出量の16％（原文のまま）を占めており、過去5年間で年平均10％の成長となった。

北米は南半球から最も多くのソフト柑橘類を輸入しており、2019年には輸出先として39％を占めている。輸出国としてはチリが約15万トンで、この市場への輸出をリードしている。2位はペルー約7万トン、次いで南アフリカ、ウルグアイ、アルゼンチンとなっている。

輸出先地域の第2位は欧州連合（EU）で、20万トンを超え27％を占めている。南アフリカが最大の輸出国であり、その輸出量は約15万トンである。ペルーが約5万トンでこれに続く。

輸出先地域第3位は約15万トンのアジアで18％を占め、オーストラリアが約7万トンで最大の輸出国である。南アフリカが5万トンでこれに続き、ペルーとアルゼンチンがそれぞれ1万トンとなっている。

99. エクアドルのバナナ　外貨獲得がパンデミック期間中に石油に迫る

FreshPlazaウェブサイト（2020年9月30日）

世界中でのバナナの需要減退と20週以上続く価格の下落(3月中旬のパンデミック発生以降)という危機の中で、この間、エクアドルのバナナは輸出量、輸出額とも増加した。バナナはエクアドルの主要な輸出農産物であり、石油にあと一歩まで迫り、主要な外貨獲得品としての地位を占めている。

2020年1月から7月の間、同国は2億8千万箱のバナナを23億14百万ドルで出荷した、とエクアドルバナナ輸出協会(AEBE)のホセ・アントニオ・イダルゴ事務局長は述べた。これは、2019年の同時期と比較して、輸出量で8.74％、輸出額で19.3％増加となる。

「この部門は、この危機の中1人も解雇しておらず、一度も販売を止めていない。我々は、約25万人の直接雇用を有しており、国内の主要な雇用創出者の一つだ」と、イダルゴ事務局長は付け加えた。

戦略　この好調な業績は、エクアドルのバナナ業界の2つの主要な取り組みによるものである。第一に、この業界はこの1年半の間、バナナの「産業クラスター」の形成に取り組んできた。足並みをそろえて共に行動し、この業界の競争力強化のための工程表に取り組むことを可能にし、政策に関してより強い発言力を持つことを目的に、現在までに、輸出のほぼ100％、国内生産の50％以上を集約し、そしてバリューチェーンの様々な企業を集結させることが可能となった。また、この取り組みによってコロナ禍の影響を受けないバナナの流通ルートを作り上げることができた。

第二に、この業界は数年来、差し迫ったパナマ病の脅威に対抗するためにバイオセキュリティ対策に取り組んできた。ある生産者は「手順をただ COVID-19に適応させるだけでよかった」と述べた。

競争力強化　エクアドルのバナナ部門は、地域の他の生産国と比べたとき、競争力を弱めている国内の大きな課題に向き合う必要がある。イダルゴ事務局長によれば、事業活動と価格管理のための特定の法律などの過剰な規制に直面している。さらに、バナナは、所得税の代わりに、毎月の売上に対する最低3％の税金を数年間支払っている唯一の輸出品目である。同局長はさらに「海外に関連会社を持つ企業の流通価格に追加の税金が課されることになると数週間前に知った」と述べた。さらに、中国、日本、ロシアなどの主要な新興市場で、競合国よりも10％から30％高い関税の支払いを避けるために、多くの貿易協定に合意する必要がある。

100. 米通商代表 ブルーベリーの輸入に関する調査を要請

The Packer電子版（2020年10月1日）

ライトハイザー米国通商代表は約束どおり、ブルーベリーの輸入の増加が国内のブルーベリー生産者に損害を与えたか、または与える恐れがあるかどうかの調査を国際貿易委員会（ITC）に要請した。

この要請の1ヵ月前、トランプ政権はブルーベリー、イチゴ、ピーマン、その他の季節作物の生産者を輸入から保護するとした計画を発表した。その最初のステップとして、ブルーベリーの輸入に関し、通商法201条に基づく国際貿易委員会によるセーフガード調査を9月29日に要請した。

自ら「全米のブルーベリー生産者による臨時の団体」であると説明する米国ブルーベリー生産者同盟は、この要請に拍手を送った。クロスビー会長はニュースリリースで「輸入ブルーベリーの洪水は、全米の生産者に大きな損害を与えている。国内の食料安全保障が特に重要な時期に、この要請は米国内の農場、農家の生活、地域社会を守るために不可欠であり、国際貿易委員会の調査に喜んで協力する」と述べた。同盟のリリースによると、生鮮または冷凍されたブルーベリーの輸入は、2015年の4億2,300万ポンド（約19万2千トン）から2019年には6億8,400万ポンド（約31万トン）以上に増加し、同盟の会員は市場シェアと売り上げを失い、「外国産ブルーベリーとの競争による不当な低価格」を受け入れることを余儀なくされている。

一方、ドリスコールズ社（ベリー類の大手生産販売会社）のビョルン社長は、米国の小売段階ではブルーベリーの供給不足を埋めるために国内生産の増加と合わせて輸入が役立ってきたとし「貿易障壁を設ける可能性に関する一つの見方は、実は業界全体の革新と進歩を牽引して来た人々を罰することになるということだ」と語った。そして、米国の生産者は、国内産ブルーベリーの収量と技術を高めるための支援を米国農務省に求めるべきだとして「割り当てや関税が問題の解決にどう役立つのか分からない。輸入品に課税してもその金は財務省に入るだけだ。農務省に行って『少し支援してくれないか』と言ったほうがよい」と述べた。

国内のブルーベリー生産者は、調査を支援するために行動を起こしている。オレゴン州公共放送の伝えるところによると、ジョージア州、フロリダ州、ミシガン州、カリフォルニア州、ワシントン州及びオレゴン州のブルーベリー委員会は、輸入に対する米国の貿易措置を支援するために100万ドル以上の拠出を約束した。カリフォルニア州の委員会のニュースリリースは「国内のブルーベリー産業の存続のためには、通商法201条による調査を支持することが不可欠だ」としている。

今後の進め方

ブルーベリーの調査は、通商代表部、農務省及び商務省が共同で9月1日に公表した「米国の商取引における生鮮青果物に関する報告書」の中で挙げられた多くの措置の一つであった。ライトハイザー通商代表はニュースリリースで「トランプ大統領は全国の農民が直面する課題を認識しており、本日の要請は、米国の生鮮青果物生産者を支援するために政権がとる多くの措置の一つに過ぎない」と、述べた。調査の要請には、野生種、栽培品種、有機栽培等すべての生鮮輸入ブルーベリーが含まれている。リリースによると、国際貿易委員会は今後、調査開始の通知を発出し、公聴会の開催を発表する。

米国ブルーベリー生産者同盟によると、国際貿易委員会は通商代表部の要請を受けてから120日以内－非常に複雑なケースでは150日以内－に損害の特定をしなければならず、180日以内に調査結果を記載した報告書を大統領に提出することとなっている。輸入が米国の生産者に損害を与えていることが判明した場合、国際貿易委員会は、関税（の引き上げ）、（輸入または関税の）割り当て、これらまたはその他の措置の組み合わせ等による救済策を一つ以上勧告し、大統領はどのような行動を取るかを決定することができる。

生産者同盟は、調査が「急増するブルーベリー輸入の有害な影響から国内産業が回復することを可能にする」救済策をもたらすものと期待している。ジョージア州青果物協会のホール役員はリリースで「これは南東部の青果物業界を救う偉大な第一歩であり、我々は通商法201条のセーフガード調査に関し通商代表部を完全に支持する。国内市場に輸入品が溢れるのを防ぐために行動を起こすことが重要だ」と述べた。

注：文中の（ ）内は訳注です。

101. 世界のアボカド市場

FreshPlazaウェブサイト（2020年10月2日）

9月末から10月初めの週にはペルー産アボカドの輸出が減少してきており、南アフリカ、ケニア、米国（カリフォルニア州）等の国々でも出荷シーズンの終わりが近い。市場への入荷は現在、コロンビア、スペイン、イタリア、そして紛れもないアボカド生産大国であるメキシコなど、他の生産国に移ってきている。欧州市場は現在品薄で、価格は中小のサイズを中心に上昇しているが、価格水準は前年を下回っている。

メキシコ：市場の支配的プレーヤー

メキシコ産アボカドのヨーロッパ、日本、香港、カナダ向けの輸出シーズンは、コロナ禍による需要減少によって引き起こされた市場の過飽和のため、今年は約2ヶ月遅くなった。通常5月に出荷を始めるハリスコ州の生産者は7月に出荷を開始したが、現在はほとんど正常に戻っている。メキシコと競合する国のほとんどは出荷シーズンを終え、市場は需要と供給のバランスが良く安定している。ハリスコ州からの出荷は現在、メンデス（ハス種の変異種）から主力のハス種に切り替ってきており、今後数週間でより多くの出荷量が見込まれる。

ペルー：パンデミックにより不調なスタート

ペルー産のアボカドは、パンデミック発生時には需要が少なかったが、出荷シーズンの後半には回復し、今年は良いシーズンとなった。ペルーは米国市場でのプレゼンスの拡大に取り組んできており、今シーズンの供給の多さを考えると、今後も継続すると見られる。現在、収穫量の約60％はヨーロッパ、30％は米国、残りの10％は他の地域に輸出されている。出荷シーズンすでに終了しており、2021年の春に再開する。

コロンビア：将来の担い手か

コロンビアは、アボカド業界の主要な担い手国の一つとなるため懸命に取り組んでおり、まだ実現していないものの一年を通してアボカドを出荷できる可能性がある。コロンビア産アボカドの現在の主な出荷先はヨーロッパであるが、アボカド関係者は世界中の市場を視野に入れている。コロンビア産アボカドの出荷量は5月から夏までは少なく、現在再び増加し始めている。

ドミニカ共和国：グリーンスキンの熱帯アボカド

ドミニカ共和国で最も一般的なアボカドは果皮が緑色のもの（グリーンスキン）で、同国は現在、米国市場でのプレゼンス拡大を目的に「熱帯アボカド」として販売促進を行っている。9月は、その棚持ちの良さにより最も人気のあるSemil-34品種の収穫開始時期である。米国における現在の主要出荷先は東海岸であるため、熱帯アボカドのマーケティング担当者は、南部のテキサス州と西海岸でのプレゼンスを高めるための取組に力を入れている。

オランダ：供給が限られ良い価格

供給が限られているため、欧州市場でのアボカドの価格は上昇し続けている。ペルーからの供給は減少しており、南アフリカとケニアからの供給は間もなく終了する。メキシコとチリからの供給量はまだ限られている。一方、北米市場が困難な状況にあるため、ヨーロッパへの出荷量が増える可能性がある。中小サイズの供給量は特に限られており、グリーンスキンも同様である。イスラエル産のエッティンガー種も多少入荷している。

ドイツ：航空貨物は困難な状況

ドイツの卸売市場におけるアボカドの供給は、現時点では安定しているようだ。コロナ禍によるケータリング業界の需要低下もあり、夏の間は供給過剰と低価格が見られた。需要と価格は再びやや安定しているが、コロナウイルスの第2波とそれによるより厳しい措置が懸念されている。これはまた、航空貨物に影響を与える可能性があり、ドイツの卸売市場に入荷するアボカドは空輸されたものが主力であることに留意すべきである。

夏の間は南アフリカ産が主流であったが、9月の第3週からペルー産ハスアボカドの供給が再び増加している。今後数週間のうちに、小売市場と卸売市場の両方で、輸入果実の需要の増加が見込まれる。

フランス：市場は変動

今年、アボカド市場では変動が大きい。夏の間は供給過剰と低価格に見舞われたが、9月になると市場は持ち直した。需要と供給は高い水準にある。ペルーからの供給が減少してきており、市場はチリ産のアボカドに切り替わりつつある。

英国：コロンビア、メキシコ産へ切り替え

ペルーからの大量の入荷が見込まれたため、ヨーロッパの業者は価格を抑えようとしたが、市場の変動もあり、特に一部のサイズが不足した時期にはそうはいかない。英国の取引業者らによると、品質だけは終始一定であった。ペルー産が終了するため、メキシコ産とコロンビア産に切り替わりつつある。

スペイン：ベーコン種の出荷シーズンの開始

スペイン南部で記録された高温のため、今年のベーコンアボカドの収穫は開始が早まった。通常は10月中旬頃に始まるが、一部の果樹園では来週（10月上旬）にもアボカドの収穫が始まる。一部の早生アボカドの産地では、まもなく収穫できることを脂肪含有量が示している。

ある生産者によると、スペイン産のベーコン種アボカドに対する販売先の購入意欲が高く、需要が高いため、生産者はできるだけ早く出荷を開始したいと考えている。現在価格が高くなっており、すべてのことが良い季節になることを示している。ベーコン種とフエルテ種の後、スペインで最も一般的なアボカドであるハス種の出荷時期となる。

全体として、今年のアボカド生産量は少ないと見込まれる。1ヘクタール当たりの収量は産地によって大きく異なるが、一般的に今年の収量は20%から30%減少する見込みである。しかし、マラガ地域には、多くの新しいアボカドプランテーションがあり、収量の低さをいくらか補えるかもしれない。

イタリア：シチリアで収穫開始

アボカド、特にハス種は、イタリアの消費者の人気が高まっている。ニールセン社の最近の調査結果は、アボカドが輸入青果物部門で46%のシェアを占めることを示してしている。

シチリアでは、ベーコン種、フエルテ種、及び有機栽培のハス種、その他の品種が栽培されており、数週間後に収穫が始まる。主に小売プラットフォームや電子商取引を通じて、または国外の卸売業者向けに販売される。北イタリアの卸売市場では、イスラエル産とペルー産のハスアボカドが入荷しており、価格は4キログラム当たり3.80～4.25ユーロである。

南アフリカ：輸出予測は下方修正

ロックダウンにより困難な年であったが、南アフリカの輸出シーズンはすでに95%完了した。特に早生のグリーンスキンアボカドの販売は、フードサービスへの販売チャンネルの喪失によって大きな打撃を受けた。

ペルー産が苦労の末に市場に投入された時点で、入荷量は予想よりも30%多かった。その結果、アボカド

の供給過剰と価格への悪影響が生じた。余剰を解消するのに数週間を要した。

当初の輸出予測は、出荷量の低下、果実サイズの小型化、多くの果樹園での低温被害のために修正され、今シーズンの輸出量は合計1,550万箱（4kg/箱）であった。次の出荷シーズンの最初の果実はすでに着果しているが、今はまだそれについて予測するには早過ぎる。南アフリカ産アボカドのリスク評価が中国で始まった。これは、中国市場参入への最初の一歩であるが、そのプロセスには何年もかかると予想される。

米国：今後6ヶ月分の十分な在庫

米国市場は現在、メキシコからの輸入アボカドにより十分な供給がなされている。取引業者は、今後6ヶ月間、この点について心配する必要はない。ミチョアカン州産のフローラ・ロカ品種が、メキシコ産アボカドの秋の出荷シーズンの始まりを告げている。現在収穫されているアボカドは、実際には8～10週間前に収穫できたものであり、余分な時間樹上にあったため、果実は通常よりより大きく成長した。

米国内では、カリフォルニア州での今年の収穫は約95％完了し、収穫量は16万7千トンと予想される。ペルー産もほぼ終了し、今シーズン米国市場で7万8千トンが販売された。ある輸入業者は「先週到着した冷蔵コンテナは4本で、終わりが近いことがわかる」と言う。これは、現在米国のアボカド市場では、5％未満のチリ産以外は、メキシコ産のみが入荷していることを意味する。米国市場での価格は、輸出国が最終的に出荷する量を決定する主要因となる。高価格では輸出がより関心をそそるが、現時点では市場の価格は昨年の水準を下回っており、メキシコからの入荷量を考えると、これはすぐには変わらないと予想される。価格は出荷シーズンの終わりに向かって上昇するかもしれないが、昨年の高騰の再現は予想されない。

市場の需要は現在、週2万2千トンで安定しており、15％がフードサービス向けである。通常、この用途は30％を占めるが、減少分は小売業者が吸収している。アボカドは間もなく秋の季節商品とスーパーマーケットの棚で競うこととなる。

中国：消費はさらに増加

コロンビア、ドミニカ共和国、フィリピン及び米国は最近、中国市場への輸出を許可された。中国では、様々な品種や生産国のアボカドの供給が増えており、需要も年々増加している。国内の熟成施設の数は依然として限られているが増加している。中国南部の雲南省でも栽培が見られる。

オーストラリア：チリから最初の試験出荷品が到着

オーストラリアは現在春で、南半球の夏に再開される生鮮アボカドの本格的な供給を待っている。この時期としては予想どおり、9月19～25日の国内産のほとんどは西オーストラリア州（約30％）とニューサウスウェールズ州中部（約20％）から入荷する見込みだ。2020/21年夏シーズンのニュージーランド産もすでにオーストラリア市場に入荷している。

9月には、オーストラリア政府が植物衛生上の輸入条件を設定して以降初めて、少量のチリ産アボカドが試験出荷品として空路でオーストラリアに到着した。チリ産アボカドを積んだ貨物コンテナ2本が、9月末にシドニーに到着したと報告されている。オーストラリアアボカド協会は、昨年の西オーストラリア州の開花・着果期の寒さと今年の嵐による国内の生産量の減少によって、2020/21年度シーズンにはチリ産とニュージーランド産が予期せぬチャンスを得るものの、輸入品のチャンスは長続きしないと見ている。春と夏の期間に生鮮アボカドを供給する南西部、西オーストラリア州、南オーストラリア州の産地では栽培面積がかなり拡大した。オーストラリア市場での周年供給を保証するための輸入の必要性は、次第に減少すると見られる。2025年までにオーストラリア国内で年間約11万5千トンの生産を見込んでいる。

パンデミックについては、ビクトリア州とニューサウスウェールズ州を除くすべての州と地域でコロナウイルスに関する懸念が沈静化し始めていると「園芸の革新分野及び消費者影響監視プロジェクト」が報告している。このことは、アボカドを含む生鮮青果物に関しては、缶詰や冷凍品の購入が減少し、自宅でより多くの時間を費やし健康的で栄養のある食事を作る人々の健康上の利点が益々重要になるものと解釈されている。

102. 南アフリカ産の柑橘輸出量は記録を樹立して終了

EUROFRUIT電子版（2020年10月1日）

コロナ禍で輸出が難しい中、南アフリカ産柑橘類は、またもや予想を裏切りそうだ。業界団体は先週、輸出量が1億5千万箱を下回るとの公式予測を発表したが、どうやらこの数字を上回ると見られる。

柑橘類生産者協会（CGA）の公式発表は1億4,880万箱で、昨年の公式結果である1億2,750万箱よりも約2千万箱多い。今シーズンはこれまでに1億2,800万箱以上が出荷された。品目別では、グレープフルーツを除いて、すべてシーズン前の推計値を超えている。グレープフルーツは事前の推計値に約100万箱足りないが、それでも昨年の出荷量よりも多いと見込まれる。ソフト柑橘類、レモン、ネーブルオレンジ、バレンシアオレンジについては、現時点での見込みどおりになればすべて事前の予想を上回る。

今年、南アフリカの柑橘類は、以前から予想されていた生産の加速の傾向を明らかに示し始めた。コロナ禍によって最初に輸出に混乱を来した時期に大量の入荷が発生したため非常な困難を生じたが、結局のところ、他のすべての重要な要因が生産者に有利に働いた。

ヨーロッパや他の北半球産の柑橘類は、国際的な需要により早期に売りつくされ、南アフリカ産の果実が市場に投入された時には在庫がほとんどなかった。為替レートはこれ以上ないというほど有利であったし、コロナ禍については、消費者がウイルスを寄せ付けない免疫力の強化をなじみ深い果物に関連付けたため、他の品目からの消費の切り替えが進んで需要の増加をもたらした。

要するに、コロナウイルスにもかかわらず、南アフリカの柑橘類生産者にとって、今年はおそらく歴史上最高の部類になるものと思われる。

103. フィリピンのバナナ産業は多様化が必要

FreshPlazaウェブサイト（2020年10月2日）

フィリピン最大の業界団体であるフィリピン商工会議所(PCCI)は、競争が激化する世界市場に追いつくため、政府に対して国内のバナナ産業の多様化を求めている。

PCCI のロベルト・アモレズ所長は、フィリピン農業の発展と成長は全般的にとても遅くほとんど停滞しており、厳しさを増す市場競争に対応するため、この分野の近代化と産業化を加速するよう政府に求めた。

フィリピンはキャベンディッシュ種バナナのトップ輸出国の一つであるが、世界市場で厳しい戦いが続くバナナ輸出競争で負けている。そこには、ミンダナオ島のバナナ農場とプランテーションに被害を与えているパナマ病（立ち枯れ病）などの問題がある。

Philstar.com はアモレズ所長の「我々の生産量はまた、エクアドルとのとても厳しい競争のために減少している。そして今、同じ品種、同じ品質のバナナをずっと低価格で生産しているカンボジアとベトナムとの競争が始まっている。」との発言を引用している。

また、フィリピンは韓国30%、日本18%という非常に高い関税を課されている。さらに、まだオーストラリア市場に参入できていない。アモレス所長は、国内の農業は、競争力、需要に基づいた供給、商品開発、収穫後処理の施設及び信用と資金調達へのアクセスの問題に直面しており、発展が妨げられていると言う。

104. オーストラリア　不妊ミバエを1億匹放つ

FreshFruitPortal ウエブサイト（2020年10月2日）

アデレート市（南オーストラリア州の州都）周辺の8つの地域でミバエが大発生し、同市郊外の250以上の地区に影響を与えていることから、これを全滅するため今後数週間の間に、野生のハエを惹きつけるが不妊化処理されている1億匹のミバエが放たれる。

デビッド・バシャム第一次産業・地域開発大臣は、不妊虫放飼法はアデレード市で大発生したミバエの根絶に役立つカギとなる手段であるとして、次のように述べた。

「アデレード市周辺の 8 か所でミバエが大発生しており、この壊滅的な被害をもたらす害虫から作物を守るために使用できるすべての手段を活用しなければならない。

不妊バエの使用は、前回南オーストラリア州でミバエが大発生した際にその根絶に重要な役割を果たした。これから暖かくなりミバエの活動が活発となるが、1億匹の不妊バエの放出は、アデレードのチチュウカイミバエをノックアウトするのに役立つと期待される。

南オーストラリア州政府は、ミバエの被害を受けやすい同州の13億ドル相当の園芸産業を守るためにミバエを根絶すると宣言している。

これまでに郊外の熟した果実の除去と殺虫剤により野生のハエの数を減少させており、不妊バエ技術は大発生した地域に残っている野生のハエを一掃するために導入される。放出された不妊バエは生き残っている野生のハエと交尾するが、何百万匹もの不妊バエは野生のハエより圧倒的に数が多い。

アデレード市近郊の8か所で大発生があり、この害虫を取り除くためにあらゆることを行う必要がある。

ミバエがいない状況は、果物の生産者を世界の市場で優位に立たせ、農薬の使用や費用がかかる作業なしに栽培することが可能となる。ミバエは、第一次生産者にとって壊滅的となりうるだけでなく、まさに目の当たりにしているように、家庭菜園にも大きな影響を与えている。

週末の連休が近づいており、南オーストラリア州にミバエがいない状態を保つためには皆がそれぞれの役割を果たすことが極めて重要である。皆がすべての熟した果実を樹上から取り除き、地面に落ちたものをすべて拾い、生の果物や野菜を持って州内を移動しないことを要請する。

果実の何らかの異常に気づいたら、気密容器に入れて密封し、ミバエホットライン（1300 666 010）へ電話をお願いする。我々は、ミバエ大発生を抑え込むために行われている、影響を受けた地域の住民の協力に感謝する。」

これ以上ミバエが見つからなければ、影響を受けた地域の検疫制限は2020年12月に解除される予定である。

国際植物防疫年
2020

中央果実協会は国際植物防疫年のオフィシャルサポーターです。

105. フィリピン パイナップルとスイカが高収益

FreshPlazaウエブサイト（2020年10月5日）

パイナップルとスイカは、フィリピンで現在、最も収益性の高い果実であり、2019年に生産者はそれぞれ377%と220%という高い投資収益率（ROI）を記録した。

フィリピン統計局は、主要な農産物についての最新の生産コストと利益に関するレポートを公表し、2019年に生産者がどれだけ収益を上げたか記載している。パイナップルとスイカ以外で収益性の高い果物はカラマンシー（訳注：ライムやシークワーサーに似た柑橘類）、ドリアン、マンゴーであり、パパイヤは昨年、純利益がマイナスであった。

この報告書は、農業省が現在、より多くの人々、特にミレニアム世代と海外から帰国したフィリピン人労働者に農業分野への参入を奨励していることから公表された。

報告書によると、2019年産パイナップルの1ヘクタール当たりの平均生産コストは94,927ペソ、平均収量は41,604キログラム、粗収益は45万3,070ペソであった。

現金支出を差し引くと1ヘクタール当たりの利益は37万7,979ペソに達し、現金支出と非現金支出の両方を差し引くと、平均37万6,796ペソであった。すべての費用を差し引いた利益は、1ヘクタール当たり35万8,143ペソであった。（訳注：1ペソ＝約2.2円）

106. チリのアジア向け農産物輸出　中国が1位、日本が2位

FreshPlazaウエブサイト（2020年10月6日）

2009年から2019年のわずか10年間で、チリのアボカドの総輸出額は1億7,070万米ドルから3億70万米ドルへ76%増加した。2019年にはオランダが最大の輸出先となり、輸出額は1億1,280万米ドルで全体の37.5%を占め、次いで英国向けが5,460万米ドルで2018年から87%の増加となった。

チリのアジア向け農産物輸出は伸びており、中国が最も重要な買い手であり、アジアへの輸出額の8.8%を占める。次は日本で8.3%を占め、前年より1.735%増加した。アジア市場は、世界のCOVID-19パンデミックから最も早く回復した。

107. タイ　イタリア産リンゴの輸入を開始

EUROFRUIT電子版（2020年10月7日）

－ マルレーヌブランドの果物の販売は、イタリアの輸出業者にとって貴重な新しい機会の始まり －

初めてタイに商業出荷されたイタリア産のリンゴが到着し、イタリアの果物輸出事業のアジアでの重要な拡大プロセスの最終段階となった。

バンコク北部の郊外に位置する流通施設に到着したマルレーヌブランドのリンゴは、ロレンツォ・ガランティ大使を始めとするイタリア大使館一行の歓迎を受けた。

イタリアのリンゴ輸出業者は、ベトナム市場の開放に続く大きな一歩として2020年4月にタイへの輸出アクセスを獲得した。ベトナム向けの最初の貨物はちょうど1ヶ月前にベトナムに到着した。

その後、台湾もイタリア産のリンゴに門戸を開き、2020/21年度は輸出できる市場の数が3つ増えた。

アジアでの3つの成功は、中心となったアソメーラ（リンゴ生産者団体）及びCSO Italy（農産品関連企業の団体）をはじめ、大使館、政府、イタリア貿易振興会（ICE）などいくつもの組織による協力の成果として歓迎されている。

（訳注：タイは日本のリンゴ輸出先第3位です。）

108. オーストラリアの落葉果実事情（生食用ブドウ）

米国農務省GAINレポート（2020年10月08日）

これは米国農務省海外農業局キャンベラ事務所（オーストラリア）が作成した「落葉果実年次報告書」であり、米国政府の公式見解とは異なる場合があります。

レポートの要約

オーストラリアの生食用ブドウ生産は、2020/21販売年度（以下「年度」）も拡大を続けると予想され、2019/20年度の改訂推計値より15,000トン多い、過去最高の24万トンに達すると予測される。この生産量の増加はブドウ園の成園化によるものであり、増加分のほぼすべてが輸出に仕向けられると予想される。2019/20年度の輸出量は、中国と東南アジアへの輸出を強化した結果、コロナ禍による出荷の混乱にもかかわらず過去最高水準の15万2,500トンに達した。新植と成園化が続くため、今後数年間は生産と輸出の一層の増加が見込まれる。

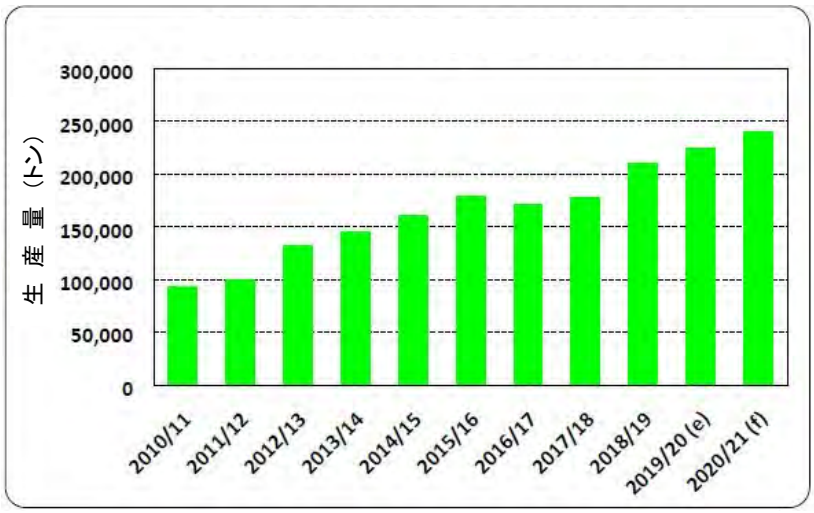
＜生食用ブドウ＞

生産

オーストラリアの生食用ブドウ生産量は次年度（2020/21年度）も拡大する見込みで、2019/20年度改訂推計値よりも15,000トン多い24万トンに達すると予測される。この増加は、栽培面積の拡大のほか2020年9月上旬にビクトリア州で非常に多数の発芽が見られたためである。

2020/21年度のオーストラリアの生食用ブドウ生産は、記録を更新し続けている最近の傾向が続くと予想される。過去10年間で、生食用ブドウの生産量は142%増加した（図1参照）。2020/21年度の生産はまだ非常に初期の段階であるが、特にビクトリア州とニューサウスウェールズ州南部の主要産地で、良好な生育条件によって9月上旬に多数の発芽が見られたと報告されており、非常に有望なスタートを切った。その後、高収量の可能性を示す申し分のない房が形成された。

図1　オーストラリアの生食用ブドウの生産動向



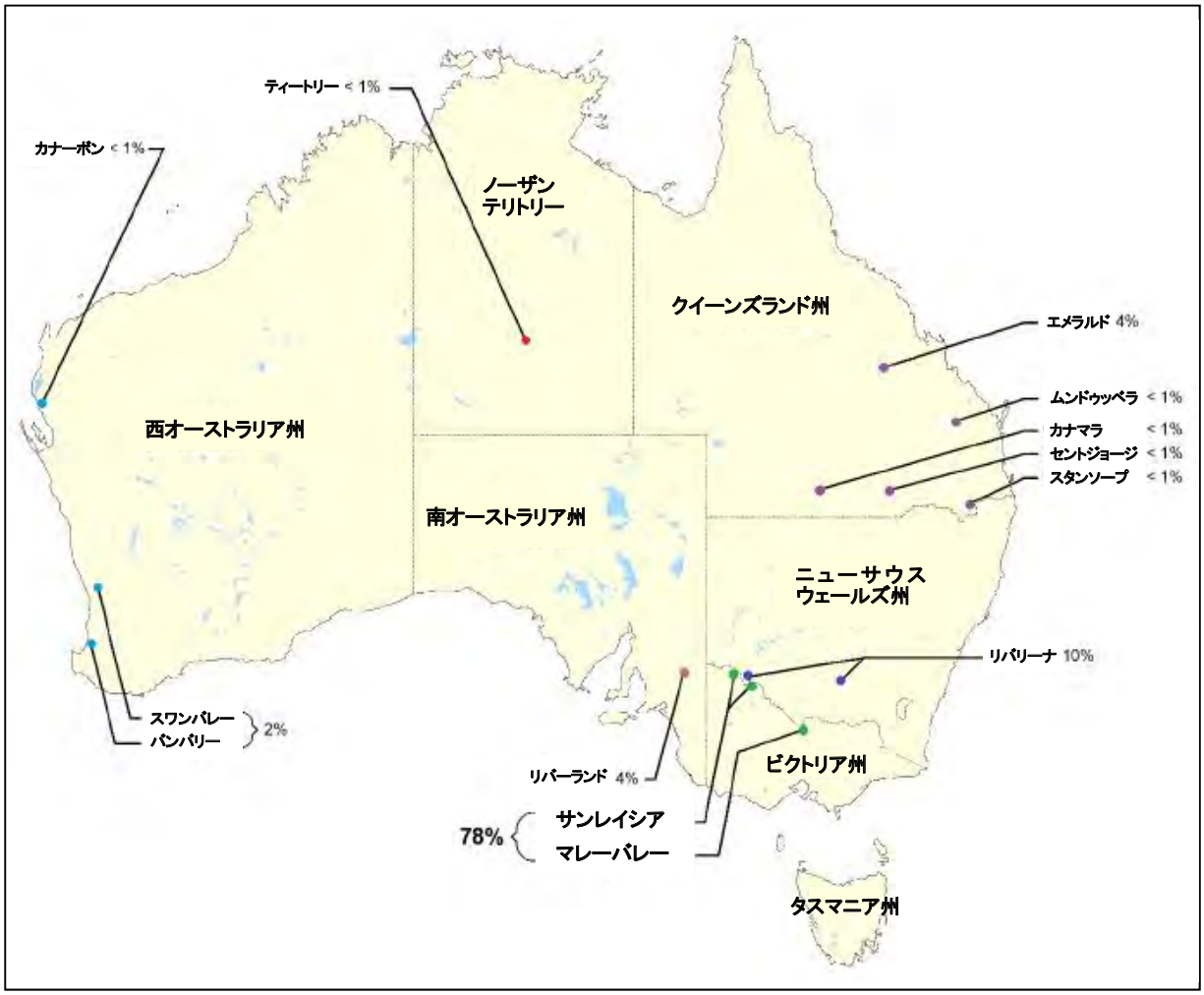
出典：Horticulture Innovation Australia 及びキャンベラ事務所推計

さらに、近年の好調な輸出需要により収益性が高いため、新植のほか、ワイン用ブドウから生食用ブドウへの転換が進んでいる。生食用ブドウ業界は、近年の栽培面積の増加を年率約20%と見積もっているが、今後は新植が減少すると予想している。新植された園地は成園化してきており、今後数年間は生食用ブドウの総生産量が増え続けるものと見込まれる。

オーストラリアの生食用ブドウ産業にとって重要で前向きな要素のひとつは、新植された園地が輸出志向で特徴のある新品種に特化していることである。品種の選択は、中国などアジア市場からの強い需要に基づいている。中国の消費者は、レッドグローブのような種有りのブドウから種無しの品種に次第に目を向けており、新しい品種や味を試すことにも関心を持っている。

オーストラリアの生食用ブドウの大半は、ビクトリア州北部のサンレイシア地域とマレーバレー地域で栽培されており、生産量の約78%を占めている(図2参照)。これに加えて、ニューサウスウェールズ州南部のリバリーナ地方の2つの地域が生産量の約10%を占めている。これらの地域の主な特徴は、温帯気候であり、土壌は砂壌土で水はけがよく、年間降水量が約300ミリメートルと少なく、そのほとんどが5月から10月の間に降り、基本的に11月から5月の収穫期間には降らないことである。冬は穏やかであるが、ブドウにとって十分な低温の期間がある。これらの地域は、ブドウに必要な水分を与えるため灌漑に非常に依存している。こうした条件は、潜在的に高い収量をもたらす良好な発芽を促し、春から秋までの降水量が少なく温暖な気候が、霜、湿度及び降雹のリスクを最小限に抑える。

図2 オーストラリアの生食用ブドウ産地



出典: オーストラリア生食用ブドウ協会

その他の重要な産地は、より北に位置するクイーンズランド州、ノーザンテリトリー、西オーストラリア州にあり、春の訪れが早く、生育シーズンが前倒しになる。しかし、これらの地域では、理想的な産地に比べて冬が温かく、寒冷な期間が短い点で劣っている。これらの地域の生食用ブドウは、ビクトリア州の主要産地よりも早く成熟し、米国産ブドウの輸入が減少し始め、ビクトリア州で収穫が始まる前の期間に出荷され、国内市場への供給期間の延長に貢献している。

オーストラリアの生食用ブドウの出荷は、10月にノーザンテリトリーのティートリー地域から始まり、11月上旬にはクイーンズランド州のエメラルド地域と西オーストラリア州のカナーボン地域からの出荷が始まる。さらに南の地域が徐々に出荷を開始し、最も南に位置するリバリーナ地方、マレーバレー地域、サンレイシア地域で大量の出荷が始まる2月から3月に出荷のピークに達する。これら南部の地域は、出荷の終わりも遅く毎年5月頃に出荷を終了する。

これから到来する2020/21年度出荷シーズンの重要な関心事項は、作物をすべてタイムリーに収穫できるかどうかである。業界の推計によると、収穫時には1万5千人の臨時労働者が必要である。この労働力は通常、短期ビザの保有者で、主にバックパッカーや太平洋諸国季節労働者事業の対象者である。コロナ禍のため、多数のバックパッカーがオーストラリアを出国し、太平洋諸国からオーストラリアに来る労働者は、14日間の必須の検疫期間とこれに関連する約3千豪ドルの費用のために減少した。連邦政府は農業界の懸念を認識しており、収穫労働者を確保するためのさまざまな選択肢を模索している。検討中の選択肢には、現在必須の検疫の必要性を軽減するため、大学生が収穫労働に従事することや、オーストラリアと一部の太平洋島嶼国との間での「移動バブル」(訳注:その内部で移動が認められる区域)の設定が含まれる。

さらなる問題は、収穫労働者の移動を制限している州間の境界閉鎖である。2020年9月上旬、5つの州と地域が全国農業労働者法に署名し、この問題が緩和されることが期待される。

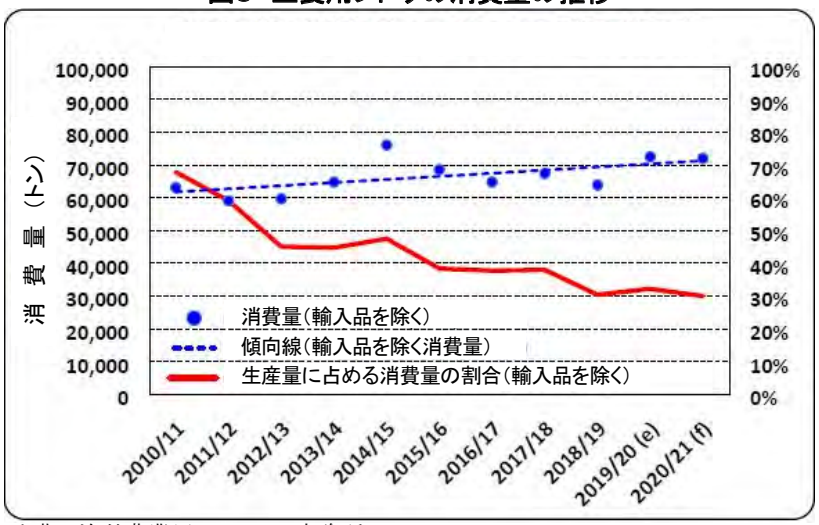
2019/20年度の生産予測は24万トンから22万5千トンに下方修正されたが、この修正された見通しでもまだ史上最高である。2019/20年度は、産地のほとんどで全般的に気象条件が良好であった。2019/20年度の早期の予測は、成園化する面積と新品種に改植される面積についてやや楽観的であった可能性が高い。下方修正のもう一つの要因は、2020年3月に始まり収穫労働者の確保に影響を与えたコロナ禍関連の州境移動制限であった。さらに、灌漑水の価格の高さも生産に影響を与えた可能性がある。

消費

海外農業局キャンベラ事務所は、2020/21年度の生食用ブドウ消費量は88,000トンで、2019/20年度の改訂推計値86,500トンからわずかに増加するものと予測する。2019/20年度の国内消費量は、2020年2月から3月頃のCOVID-19の最初の流行によって引き起こされた貿易の混乱により、国内市場に出回るブドウが増えたため、前年比1万トン以上増加した。

アジア諸国の需要が強いため、輸出価格は通常オーストラリア国内の小売向けよりも大幅に高く、国内仕向け量の伸びを制限していると見られる。国内産の生食用ブドウは12月から5月にかけて市場に出回り、8月から11月まで出回る輸入ブドウは、ほとんどが米国産である。

図3　生食用ブドウの消費量の推移



出典：海外農業局キャンベラ事務所

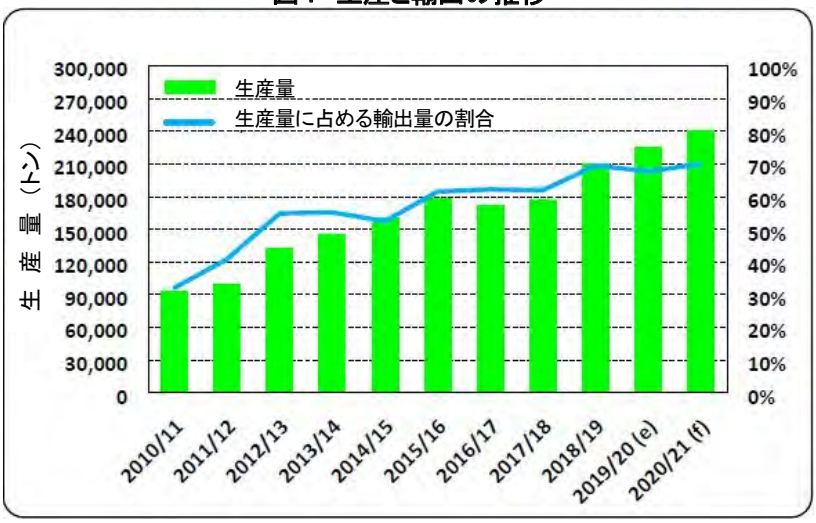
オーストラリアの生食用ブドウ生産が次第に増加するにつれて、国内消費量は上下に変動しながらも上昇傾向を示している。この変動は、主に国内市場価格に対する輸出価格の上乗せの程度と、果実の品質の年による差異によって引き起こされる。10年前は国内消費量(輸入品を除く)が生産量の70%近くを占めていたが、2020/21年度には30%に低下すると予測される(図3参照)。既に述べたように、新しい品種を選択する際、ほとんどの生産者は主に国内市場ではなく輸出向けの機会と需要を重視している。

貿易

2020/21年度の輸出量は16万8,000トンと予測されており、2019/20年度の記録的な輸出量である15万2,500トンから10%の増加となる。オーストラリアは現在、生産した生食用ブドウの大部分を輸出しており、近年の輸出の伸びは主に中国向けである。

生産が増加するにつれて、生産量に占める輸出量の割合も過去10年間で32%から68%に増加した(図4参照)。これは、2020/21年度には70%に増加すると予測されており、今後も上昇が続くと見込まれる。

図4 生産と輸出の推移



出典:オーストラリア統計局、Horticulture Innovation Australia 及びキャンベラ事務所推計

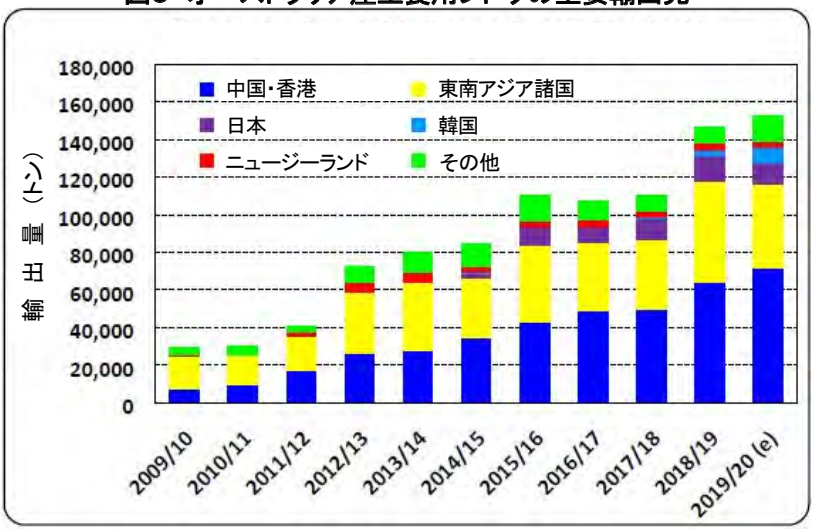
オーストラリアはアジア諸国向けを主体に生食用ブドウを輸出しており、輸出量は2010/11年度の29,900トンから2019/20年度には15万2,500トンと過去10年間で410%増加した。この成長期間中の中国と香港への輸出量は9,900トンから72,100トンに増加し、輸出の伸び全体の50%強を占めている(図5参照)。成長の主な理由は、中国とオーストラリアの自由貿易協定(FTA)の一環として、オーストラリア産生食用ブドウの輸入に対する中国の関税が2019年にゼロになったことである。中国向けの輸出量は、2017/18年度までは約41,700トンで横ばいであったが、関税が引き下げられた後の2018/19年度には35%増加し、2019/20年度にはさらに12%増加した。

東南アジア諸国も主要な輸出先であり、その中でもインドネシアは過去10年間で大幅に成長し、近年は輸出量全体の約15%を占めている。同様に、日本も主要な輸出先として伸びており、現在は輸出量全体の約9%を占めている。

韓国は2018年にオーストラリア産生食用ブドウの輸入関税を撤廃した。その結果、2017/18年度にはほんのわずかであった輸出量が、2019/20年度には8,150トンに増加し、オーストラリアの総輸出量の約5%を占めている。これはフィリピン、タイ、ベトナムと同様の水準である。

生食用ブドウは、冷蔵貯蔵が効く青果物であり、料金が高い航空貨物ではなく、冷蔵コンテナを利用して輸送することができる。過去10年間の冷蔵貨物の物流と温度監視技術の改善により、海上輸送で出荷される割合は84%から96%に増加した(図6参照)。航空貨物による少量の輸出は、主に出始めの時期のプレミアム市場向けである。

図5 オーストラリア産生食用ブドウの主要輸出先

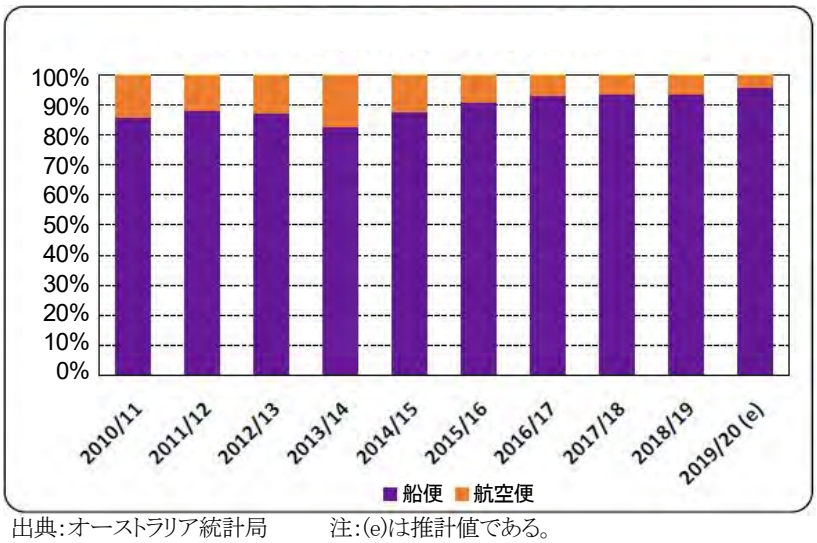


出典：オーストラリア統計局

注：東南アジアの主要輸出先は、インドネシア、タイ、シンガポール、ベトナム、マレーシア、フィリピンである。(e)は推計値である。

コロナ禍による国境閉鎖によって引き起こされた国際航空便の大幅な減少は、2020/21年度の生食用ブドウの航空輸送に影響を与えると予想される。生食用ブドウの輸出時期には、他の夏の果実の輸出体制も整うため、オーストラリアからの航空貨物の需要は増加する。しかし、航空輸送は前年度のブドウ輸出の4%に過ぎないため、このことが全体に大きな影響を与えるとは考えられていない。さらに、出荷が連邦政府の国際貨物支援メカニズム（IFAM）によって援助される場合がある。IFAM事業は、対象となる農産物の航空貨物のコストを輸出者と政府との間で分担する取り決めであり、その目的は対象品目の輸出を継続する手段を提供することである。オーストラリア政府は最近、このプログラムは2021年半ばまで利用可能であると発表した。業界筋は、この支援を受けても、輸出業者が負担する航空輸送コストはコロナ禍以前の約2倍であるとしている。

図6 輸送方法別生食用ブドウの輸出動向



出典：オーストラリア統計局　　注：(e)は推計値である。

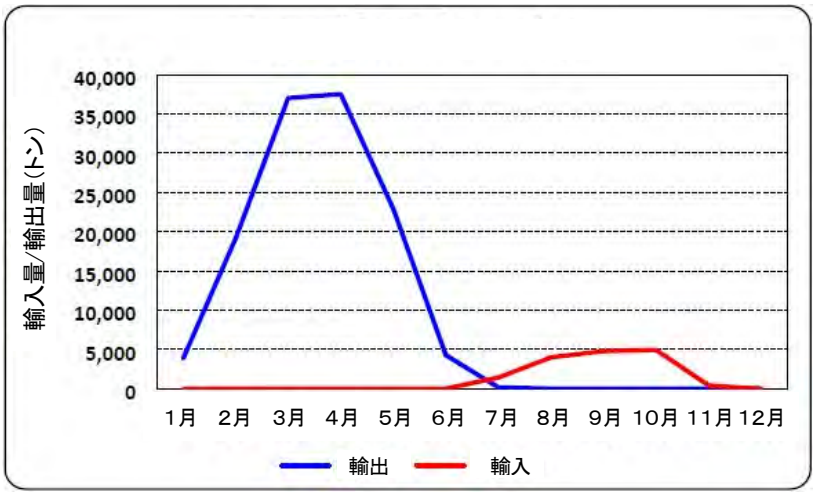
業界関係者によると、2020年2月から3月の中国及び他のアジア諸国向けを主体とする2019/20年度の輸出は、コロナ禍によって引き起こされた出荷の混乱によってほとんど影響を受けなかった。この時期は、オーストラリアからの輸出が急速に増加し、ピークに達する時である。この時期の輸出需要は不確実性にもかかわらず全般的に高いままであり、オーストラリアの輸出量は史上最高に達した。しかし、いくつかの小さな混

乱（例えば、オーストラリアの港に戻るブドウ出荷用の冷蔵コンテナの不足）は、輸出のさらなる増加を抑制した可能性がある。

オーストラリアは、中国への生食用ブドウの輸出国としてチリとペルーに次いで第3位である。オーストラリアの輸出業者にとっての主な利点は、南米諸国から中国への輸送には約35日を要するのに対し、オーストラリアからは18～20日で到着することである。輸送時間が短いほど、輸送コストが削減され、最終目的地での商品の品質も向上する。業界筋は、南米の主要な競合国に対する優位性と、主に新しい種無し品種に焦点を当てた継続的な生産の増加により、今後数年間にわたり輸出を成長させる絶好の位置にいると指摘している。

2020/21年度のオーストラリアのブドウ輸入は、2019/20年度の改訂推計輸入量から増加し、2018/19年度並みの水準になると予測される。2019/20年度の改訂推計輸入量は、6月から9月の出荷ペースが近年の実績から予想されたよりも遅かったため、14,000トンに下方修正した。オーストラリアのブドウ輸入は、ほぼ全量が7月から11月の端境期における米国からの輸入である（図7参照）。

図7　オーストラリアの季節別輸出入傾向（5年平均）



出典：オーストラリア統計局

表　オーストラリアの生食用ブドウ生産需給統計

ブドウ（生鮮・生食用）	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
	2018年10月～2019年9月		2019年10月～2020年9月		2020年10月～2021年9月	
オーストラリア	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	12,000	12,000	0	13,000	0	14,000
収穫面積	12,000	12,000	0	13,000	0	14,000
商業的生産量	210,000	208,300	240,000	225,000	0	240,000
非商業的生産量	0	0	0	0	0	0
生産量合計	210,000	208,300	240,000	225,000	0	240,000
輸入量	16,000	16,000	16,000	14,000	0	16,000
総供給量	226,000	224,300	256,000	239,000	0	256,000
国内消費量	79,900	78,200	96,000	86,500	0	88,000
輸出量	146,100	146,100	160,000	152,500	0	168,000
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向け量	226,000	224,300	256,000	239,000	0	256,000

単位：ヘクタール、トン

109. 世界のマンゴー市場

FreshPlazaウェブサイト（2020年10月９日）

メキシコの出荷シーズンが終わりに近づき、現在、ブラジルとスペインがマンゴーの主な輸出国となっている。主にユーラシア市場に輸出するエジプトと、北米の西海岸に輸出するエクアドルが今後それに続く。スペイン及びイスラエル等の地中海諸国からの輸出量は予想より少なく、そのため市場価格は高くなっている。多くの国が通常より早く出荷シーズンを終えている。中国では、南部の海南省で生産が増加しているが、東南アジアからの輸入と競合している。

オランダ：マンゴーの価格は良い方向へ

オランダのある輸入業者によれば、マンゴー市場は良い方向に向かっている。「スペインでは、オスティーンマンゴーの出荷は日焼けなどの理由により早く終わりつつある。そのため、ドイツのスーパーマーケットからはブラジル産の需要が高まっている。ブラジル産マンゴーの品質は、開花期の降雨により問題が生じたためシーズンの初めころは棚持ちがよくなかったが、今ではかなり持ち直した。パーマー種以外では、キーツ種が今最も市場で出回っている品種であり、ケント種もまもなく入荷する。全体として、価格がコンスタントに上がっており、市場は安定している。マンゴーが3ユーロで販売された時代は幸いにも過去のものとなった。唯一の問題は、コロナウイルス危機のため梱包材が十分に入手できないことであり、そのためブラジルは、現在本来輸出可能な量を輸出できていない。

ドイツ：スペインのマンゴーが出回る

ドイツの卸売市場では、ブラジル産のケント種が現在最も取引されている。価格は約35ユーロ/箱である。ブラジル産のレッドムーン種とキーツ種もいくらか取引されている。コロナウイルス危機は市場、特に商品の空輸に大きな被害を与えている。これは、ここ数週間出回っている（陸送の）スペイン産オスティーン種にとっての好機となっている。ハンブルグの輸入業者は「オスティーン種は興味深い選択肢だが、残念ながら、繊維と筋が多い。一方、スペイン産のケント種の品質ははるかに優れている。我々は先週から1箱約35ユーロで扱っている」と言う。

フランス：品不足による高価格

イスラエル産のケント種は、量が少なく今年の出荷シーズンはとても早く終わった。このため供給量は少なく価格は上昇しており、品質の劣るマンゴーでも需要は強い。マンゴー全体の需要は、11月上旬にブラジル産のシーズンが始まるまで低いと見込まれる。

イタリア：シチリア産のシーズンは12月まで、市場には主にスペイン産

シチリア産のキーツ品種の出荷は12月に終わる。卸売業者と消費者からは引き続き需要がある。コロナ禍は、国内の取引と海外との取引の両方で、事業者から消費者への販売を強固なものとし、事業者間の取引を増加させた。すでに出荷シーズンを終えたある生産者は「イタリアのスーパーマーケットでの生鮮品の販売は平均8ユーロ/キログラムを記録した」と語る。

シチリアでの生産は、50%安い卸売価格でイタリアに輸入されるスペイン産との競争に苦しんでいる。シチリアで最も成功している品種はグレン種、マヤ種、アーウィン種、ケント種そしてキーツ種である。これらは、海外からのオスティーン種とアーウィン種と競合しており、これに間もなくケント種、キーツ種、トミーアクティンズ種が加わる。前出の生産者は「我々は主に大規模な流通チェーンと組むことにした。ホテル、レストラン等の飲食サービスとオンライン販売も伸びている」と語る。

北イタリアのある卸売業者は、南米から空輸されるマンゴーの代わりに、陸路で輸送されるスペイン産を扱っている。スペイン産のマンゴーの価格は2～4.5ユーロ/キログラムである。熟してから収穫するため品質がよいにもかかわらず、価格は空輸されるブラジル産よりかなり安い。

スペイン：価格は予想を上回る

このシーズンはスペイン産マンゴーの「オモテ年」と見込まれていた。しかし、生産量は、猛暑と強風により期待していた約半分に減少した。

スペインではマンゴーの生産量が少ないため、産地価格は高く、さらに上昇している。しかし、この価格は欧州のマーケットが考えている価格より高い。ある輸出業者は「小売業者は今季は手頃な価格を期待していたため、この価格を維持するのは難しく需要はあまり大きくない」と言う。今季は生産量が少なく、出荷期間は通常よりも短くなると見られる。

この輸出業者は、価格は低くても生産者はより多く販売し、より多く稼げるため、マンゴーシーズンは生産量が大きい方がよいとしつつ「我々は何とかより競争力のある価格でより多く販売している。マンゴー市場の参加者は多く、スペインの収穫量が少なくても大きな影響はないだろう。スペイン産の価格が他の生産国よりわずかばかり高くても、多くのヨーロッパのバイヤーは、品質、地理的に近いこと、サイズの多様性、購入手続きのスピードなどのためにスペイン産を好む。しかし、ほぼ2倍の価格で販売するとなれば、それは別の話である。」と述べた。しかし、スペイン産マンゴーの品質とサイズはかなり満足できるものとなっている。別の生産・輸出業者は、スイス、フランス、ドイツなどの多くのスーパーマーケットチェーンは、価格にかかわらずスペイン産のマンゴーを求めていると指摘している。

オスティーン種の収穫は2週間で終了し、ケント種及び利益が大きく生産者の関心が高まっている晩生の2品種キーツ種とパーマー種が続く。総生産量の50%以上を占めるオスティーン種はシーズンの最初の頃に収穫され、入荷量が多いため価格を押し下げるので、晩生品種に関心が集まっている。スペインではマンゴーの消費は伸び続けている。消費者にとって手頃なマンゴー価格が続いており、そのことも重要な役割を果たしている。

イスラエル：期待外れの収穫量

イスラエルの「ウラ年」であることに加えて、猛暑がマンゴー栽培に深刻な被害をもたらした。したがって、キーツ種、ケント種、オメル種、マヤ種、シェリー種の収穫量は当初の予想よりも低くなった。マンゴーの出荷シーズンは終わった。イスラエルのマンゴー栽培面積は安定している。

エジプト：輸出と栽培が増加

30品種以上の「夏の果実の王」がエジプトで栽培され、ゼブディア種、マブルーカ種、シデカ種、アウィー

ズ種、キーツ種、ケント種、トミー種及びナオミ種が人気であり、もっともよく売れている。エジプトは近年、マンゴー生産を増やしている。エジプトのある輸出業者によれば、マンゴーは現在、柑橘類に次いで重要な輸出果実である。エジプトは、約200万トンのマンゴーを収穫し、2020年の輸出を着実に増やすことを計画している。エジプト農業省は、マンゴーは収益性が高いため、その栽培面積は9万ヘクタールを超えたとしている。エジプトのマンゴー輸出量は年間約53,000トンで、50カ国以上に出荷される。主な輸出先は、欧州、中東、アジア、ロシア及び中央アジア（旧ソ連）である。エジプト産マンゴーは、人々がより頻繁に、より多く果物を食べる9月から12月に強い需要がある。

南アフリカ：今後の収穫に明るい見通し

南アフリカ産マンゴーについて述べるのはまだ早いが、特に最近の雨が樹上の果実の生育に非常に良いこともあり、生産者は今後の生産に明るい見通しを描いている。今年の冬は寒く、マンゴー果樹園は今満開である。リンポポ州のある生産者は今まで見た中で最高の開花期だという。一部の低地では、寒さが少しダメージを与え、着果率が低くなっている。

公式な見通しはなされていないが、次のシーズンの収穫量は前のシーズンより30％増えるとの兆しがある。収穫は11月末に始まる。近年、輸出は少し増加している。

中国：国内生産は東南アジアからの輸入により圧力

海南省は、中国で最も重要なマンゴー産地の一つである。コロナウイルスの影響のほか、海南省の生産量は過去2年間増加し続け、市場で供給過剰となって価格が大幅に下がり、このことが生産者に影響を与える結果となった。

消費者に好まれているベトナム産マンゴーは、長年中国に輸入されており、輸入される時期は国内産マンゴーの出荷シーズンの最後と重なっている。

今年、カンボジアは中国へのマンゴー輸出に取り組んでいる。中国への輸出が増えている東南アジア産のマンゴーは、大きな生産量と安い価格によって強い競争力を持っており、国内産のマンゴーに大きな影響を与えている。

米国：品不足で価格上昇

米国市場は品不足となっている。ほとんどのマンゴーは現在ブラジルから輸入されているが、2週間前にブラジルで物流に問題があり、船が出航できなかったため、マンゴーが到着しなかった。品不足はメキシコ産のシーズンの終わりによって悪化すると見られる。ブラジル産のマンゴーは、輸送距離（船は東海岸に到着）のために西海岸では価格がより高い。

しかし、10月の第1週または第2週には、ブラジル産と共にエクアドル産が入荷する。西海岸では、エクアドル産のマンゴーはコストのためにブラジル産を押しやると見られる。エクアドルでは通常より早くマンゴーの収穫が始まっており、間もなくトミー・アトキンス種が到着する。サイズは一般に小さく、サイズ10と12が多い。販売業者は、多くの夏の果物が棚から消えたので、10月から12月のマンゴーの需要は堅いと予想している。価格は去年より高い。

オーストラリア：国内市場で果物のさらなるプロモーション

ダーウィン種マンゴーの出荷シーズンのピークが近づいている。オーストラリアマンゴー産業協会（AMIA）は、9月28日の週に38万4千トレイ（7kg/トレイ）が市場に出荷されたと報告している。また、ともに出荷シーズンが始まったばかりのキャサリン地方から3千トレイ、クヌヌラ地方から別の1千トレイが入荷した。オーストラリア北部の一部の地域で高温と嵐の予報があり、生産者は、天候を懸念している。

次の秋に始まる国内産マンゴーの出荷シーズンは、クイーンズランド州の栽培地域が市場に参入する12月/1月にピークとなる。コロナウイルス関連の規制のために見通しが立たない中、AMIAはマーケティングとプロモーション活動の増加、そして主要な輸出市場への投資によって、マンゴーを今年の夏の「重要アイテム」と位置付けたいと考えている。事業の継続を確実にするため、一貫して「優れた品質」での出荷が焦点となる。AMIAは、2019年に1,060万トレイを出荷したと報告した。

110. 米国の果実生産見通し(柑橘類)

米国農務省農業統計局(2020年10月9日)

訳注: これは、米国農務省農業統計局が2020年10月9日に公表した米国の柑橘生産見通しに関する資料から抜粋したものです。

米国の種類別柑橘生産　州別及び全米

作物及び州	生産量[1]			予想生産量[1]
	2017-2018	2018-2019	2019-2020	2020-2021
	(1,000箱)	(1,000箱)	(1,000箱)	(1,000箱)
オレンジ（バレンシア以外）[2]				
フロリダ州	18,950	30,400	29,650	23,000
カリフォルニア州	35,900	42,000	44,300	42,000
テキサス州	1,530	2,210	1,150	1,300
米国計	56,380	74,610	75,100	66,300
バレンシア オレンジ				
フロリダ州	26,100	41,450	37,650	34,000
カリフォルニア州	8,300	10,200	9,000	8,500
テキサス州	350	290	190	200
米国計	34,750	51,940	46,840	42,700
オレンジ全体				
フロリダ州	45,050	71,850	67,300	57,000
カリフォルニア州	44,200	52,200	53,300	50,500
テキサス州	1,880	2,500	1,340	1,500
米国計	91,130	126,550	121,940	109,000
グレープフルーツ				
フロリダ州	3,880	4,510	4,850	4,500
赤	3,180	3,740	4,060	3,800
白	700	770	790	700
カリフォルニア州[3]	3,800	4,200	3,800	3,800
テキサス州	4,800	6,100	4,400	4,900
米国計	12,480	14,810	13,050	13,200
レモン				
アリゾナ州	1,000	1,350	1,800	1,300
カリフォルニア州	21,200	23,700	25,700	22,000
米国計	22,200	25,050	27,500	23,300
タンジェリン及びタンジェロ				
フロリダ州	750	990	1,020	1,100
カリフォルニア州	19,200	26,500	22,000	23,000
米国計	19,950	27,490	23,020	24,100

注1　１箱のポンド数（１ポンド≒０.４５キログラム）
　　オレンジ：カルフォルニア州８０、フロリダ州９０、テキサス州８５
　　グレープフルーツ：カルフォルニア州・テキサス州８０、フロリダ州８５
　　レモン：８０
　　タンジェリン及びマンダリン：カルフォルニア州８０、フロリダ州９５

注２　フロリダ州：早生の非バレンシア種（ネーブルを含む）及び中生の非バレンシア種
　　カリフォルニア州：ネーブル及びその他品種
　　テキサス州：早生品種及び中生品種

注３　ポメロを含む

（関連記事）

米国フロリダ産柑橘は減収の予測

AMERICAFRUIT 電子版（2020年10月12日）

米国農務省による今年最初の2020/21年度産柑橘州別生産予測は、フロリダ産オレンジが15％減少としている。

米国農務省(USDA)農業統計局（NASS）による今年最初の生産予測は、フロリダ州の2020/21年度産柑橘類を、オレンジ5，700万箱、グレープフルーツ450万箱と見込んでいる。

金曜日のこの公表は、2019/20年度産より、オレンジで15％の減少、グレープフルーツで7％の減少となっている。しかし、特産柑橘類の今シーズンの生産は、前のシーズンよりわずかに増加して110万箱と予測している。

フロリダ州柑橘局のシャノン・シェップ局長は「フロリダ州の生産者は、果樹園の柑橘グリーニング病を減らすための新たな取り組みによって成功を手にしつつある。今日のこの生産予測は、隔年結果など生産者の取り組みを超えた要因を反映しているように思われる」と述べた。さらに、「シーズンの最初の生産予測は出発点であり、必ずしもその通りとはならないことを我々は認識している。我々は、果樹の状態、今シーズンの柑橘への準備、そしてグリーニング病に対する継続的な取り組みに楽観的だ」と付け加えた。

米国農務省　フロリダ産オレンジについて最初の予測を公表

FreshFruitPortal ウェブサイト（2020年10月13日）

米国農務省(USDA)は、フロリダ州の2020/21年度産オレンジについて、今年最初の生産予測を5,700万箱と発表した。このうちバレンシアを3,400万箱、早生/中生を2,300万箱と予測している。これは2019/20年度の6,750万箱、2018-2019シーズンの7,150万箱より少ない。

フロリダ柑橘組合の上級副組合長兼CEOのマイケル・W・スパークス氏は「今シーズンのオレンジを搾ったジュースが在庫に加わることは、消費者にとって素晴らしいニュースだ。冬の風邪とインフルエンザの季節に向け、質のいいフロリダ産のオレンジジュースを十分に供給できるだろう。人々は健康に過ごすためにオレンジジュースとそのビタミン C に目を向けるだろう。とても困難な状況で世界一の果物を生産し続けているフロリダの柑橘生産者を誇りに思う」と述べた。

米国農務省は毎年、最初の生産予測を10月に公表し、翌年7月のシーズン終了まで毎月、柑橘の生産状況に応じて更新する。2020/21年度のフロリダ産グレープフルーツは450万箱、特産柑橘類（訳注：タンジェリンとタンジェロ）は110万箱と予測している。

フロリダ州の柑橘産業は、ほぼ5万1千人を雇用し、約40万エーカーで栽培を行い、年間86億ドルの経済効果を生み出す。フロリダ州柑橘組合は、1948年に設立されたフロリダ州で最大の柑橘生産者の組織である。

111. ベトナム　日本向けライチ等の輸出は大成功

FreshPlaza電子版（2020年10月13日）

ハイズオン省は、ベトナム北部の紅河デルタ地方に位置し、ハノイ首都圏に属する工業化された省である。ハイズオン省は輸出が増えている米国、オーストラリア、EU及び中東の他、シンガポールや日本等要求の厳しい新たな市場への取り組みにも成功している。

今年のライチシーズンの総収入は1兆1,600億ベトナムドン（VND；100VNDは約0.45円）で、前年から4,450億VND増加した。ハイズオン省は今年の総収穫量43,000トンのライチのうち、約1,500トンを海外に出荷した。リュウガン（訳注:ライチよりやや小ぶりな果実）に関しては、今年の収穫額は1,200億VNDであったと推定される。

現在、ハイズオン省は9,750ヘクタールでライチを、2,100ヘクタールでリュウガンを栽培している。ベトナムのGAP基準を満たす23のライチとリュウガンの栽培区がある。関係者は来年、付加価値を高めるために、ライチ、リュウガン、グアバ及び野菜について、国際基準による栽培区域を拡充するとともに、持続可能な流通チェーンを構築する計画である。

112. 南アフリカ　専用冷蔵船がその価値を証明

EUROFRUIT電子版（2020年10月15日）

南アフリカの柑橘類が（史上最高の輸出量という）新たな節目を迎えたシーズンに、専用冷蔵船のさらなる使用は、物流チェーンの極めて重要な戦略的要素であることが証明された。

専用冷蔵船は今後も引き続き同国の柑橘類の物流チェーンにおける重要な要素であるというのが、南アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)の見解である。

CGAは生産者に対し「専用冷蔵船での出荷は33％増加した。コンテナでの出荷が大部分で遅れたのと対照的に、専用冷蔵船による日本、中国、米国（今年12隻を記録した）、EU及びロシアへの出荷は、信じられないほど順調だった」と述べ、このことから専用冷蔵船はこれからも、これらの重要な市場との取引における不可欠な手段であると指摘した。

南アフリカの柑橘類の輸出量は約1億7千万箱（約10万5千冷蔵コンテナ）に増加しており、今後数年間で冷蔵コンテナによる物流チェーンに対する圧力はかなり強くなると見られる。

CGA関係者は「将来、1年に1億7千万箱が輸出される際、今年と同じ様な港のコンテナターミナルの混乱を(輸出量とコンテナターミナルの能力のギャップを埋めてくれる)専用冷蔵船なしで経験するようなことはとても考えられない」と述べた。

113. 世界のブルーベリー市場

FreshPlazaウェブサイト（2020年10月16日）

10月12日の週、ブルーベリー市場はメキシコ、ペルー及び南アフリカが主役である。特にペルー産のブルーベリーは、すべての大陸で出回っている。ペルーからの最初の荷が今期も中国に到着し、他方ヨーロッパと北米では現地産のシーズンが終わりに近づいており、ペルー産のブルーベリーに代わりつつある。しかし、注目すべきは、より多くの南米の輸出国が世界の市場に力強く参入してきていることである。オーストラリアでは、供給過剰により価格が急落した。

オランダ：供給は多いが品不足

市場では現在、南米と南アフリカが最も重要なブルーベリーの供給者である。オランダのある輸入業者は、いくつかの新しい生産国が存在感を増していることが注目されるとしつつ、「例えば南米では、ペルー、チリ、ウルグアイ、アルゼンチン等の市場で地位を確立している国々に加え、ブラジル及びコロンビアからのブルーベリーの入荷量がますます増えている。品質に関してはこれらのブルーベリーは中級である。アフリカからは、ナミビア及びジンバブエからの入荷量が増えている。市場の状況はかなり良い。ペルー及び他のほとんどの国の生産量は近年の水準よりも多いが、ここ数週間、市場は品不足であり、需要はかなり高い水準となっている。価格が高く需要が落ちているため、品不足はいくらか解消しつつあるが、価格はまだ平均より高いといえる。ペルー産は現在、入荷量がピークであり、そのため、より多くの販売促進活動が、特に400～750グラムのパッケージ（500グラムが標準）で行われている。容量の大きいものの販売促進に力を入れることは在庫が早く捌けることを意味しており良いことである。一般の販売でも、特にドイツのスーパーマーケットでは、次第に125グラムのパッケージから200グラムのパッケージへ切り替りつつある」と語った。

ドイツ：国内生産が好調

ドイツでは、国内産のシーズンはほとんどの地域で終わりとなった。いくつかの地域でのみ、少量がまだ出荷されている。現在はペルー産が供給の主役だが、南アフリカ産とアルゼンチン産も存在する。アルゼンチン産の収量は良かったが、コロナ禍で空輸での輸送能力が不足しており、積荷は少量ずつヨーロッパ市場に到着しつつある、とある輸入業者は言う。小売部門の需要はそれほど大きくなく、500グラムのパッケージに代わって200グラムと300グラムパックが主体となっている。

国内生産は、季節労働者の不足と霜害のため、一部地域で平均より最大40%減少した。免疫システムに対するブルーベリーのプラスの効果のため、販売はコロナ禍によって一層促進された。このこともあって、ブルーベリーの出荷シーズンはいつもより少し早く終了した。最後に、ドイツではブルーベリーが次第に一年中扱われる商品になりつつあることは注目に値する。

イタリア：国内産のシーズンは既に終了:

イタリア産のブルーベリーシーズンは既に終了した。現在、イタリア市場のほとんどのブルーベリーはペルー産である。

9月にシーズンを終えた北イタリアのある大きな取引業者は、「イタリアの生産は毎年増えている。また、品質、大きなサイズの品種、そして棚持ちの良さが次第に重視されている。2020年シーズンは、1ヘクタール当たりの収量は平均的で、価格も満足できた。時期、サイズ、そして品質によるが、価格は1キログラム当たり6～12ユーロだった。シーズンの初めの5月と6月はコロナ禍のため労働者の確保に問題があったが、その後状況は安定した。イタリア北部では、収穫の開始を5月中旬に早めるため、様々な種類のブルーベリーが温室で栽培されている」と語った。

南イタリアのカンパニア州では、ブルーベリーシーズンは8月に終了した。「確かに良い年だったが、熱狂的となるまではいかなかった。収穫量は良好であり平均価格は1キログラム当たり4～5ユーロだった」と、ある業者は言う。現在、卸売市場ではペルー産のクラスⅠのブルーベリーが1キログラム当たり約15ユーロで売られている。

南アフリカ：低温で予測を見直す

ブルーベリー生産量は、北部のいくつかの地域の寒波のため当初の予測より少ない。ベリーズZA（訳注：南アフリカのベリー生産者団体）は今シーズンの収穫量を約23,000トン、うち17,000トンを輸出向けと予測していた。現在、収穫量の予測は22,000トンに下がり、よって輸出も減少すると見直されている。10月5日の週までに、3,703トンのブルーベリーが、主にイギリスとオランダに輸出された。南アフリカのブルーベリーの出荷は、今後10週間がピークとなる。

中国：ペルー産が今年も市場に出回る

今年最初のペルー産ブルーベリーは既に中国市場に出回っている。現時点では空輸されているが、2～3週間後には海上輸送による最初の冷蔵コンテナが続く見込みである。中国の一部の輸出業者は、以前よりも多くの南米の小企業が中国でのブルーベリーの販売を許可され、それらが扱う商品は必ずしも適正な品質ではないため、今年のブルーベリーは品質がこれまでより低いと言う。品質の違いのため、販売は昨年のように順調ではない。しかし、既に中国市場で地位を確立したいくつかの大きな企業は影響を受けておらず、販売は順調である。そのため、一部の主要事業者は、中国への輸出が増加した。

今年は、生産者が中国市場に多くを期待してより高い価格を要求していることから、輸入ブルーベリーの平均価格は前年よりわずかに高い。大きな輸出業者も安定した水準であるものの高い価格を設定している。今年初めて、ペルー産ブルーベリーが台湾にも到着する。最初のブルーベリーの冷蔵コンテナが10月初めに出航した。しかし、ほとんどの輸出業者の関心は引き続き中国本土にある。

米国：市場は品不足

北米市場でのブルーベリーの供給は、現在限られている。特に10月12日の週と19日の週は、かなりの品不足が見込まれる。国内産のシーズンは終わり、市場は現在メキシコとペルーからの輸入に依存している。メキシコ産は品質が高く、生産量は20～25%多いとの予測だが、今のところどうなるのかまだ明らかでない。

この間、ペルー産ブルーベリーが米国に到着している。ペルーでは多くの収穫が見込まれているが、輸入は現時点でまだ安定していない。

品不足の原因の一つは、ヨーロッパとアジアへの出荷量である。結局のところ、ペルーが輸出を開始した時の価格が低かったため、ブルーベリーの出荷先が他の地域へ変更されたということだ。出荷量が十分多い場

合にのみ、米国市場が関心を持たれる。輸入の動きは、国内のブルーベリー生産に影響を与えてきた。多くの地域にとって、販売はより競争の激しい時期になっている。ブルーベリーは成木化するまでに10～12年かかることから新しい品種への切り替えは多くの場合困難である。

現在、市場は堅調だが、11月には値が下がると見られる。ノースカロライナ州のある生産者は、出荷量が増加するため、価格は11月最初の3週間で28～32ドルの範囲になると予測する。ペルーは1週間以上前に収穫を開始しており、それらは10月26日の週には北米に到着する。その時期はメキシコ産の供給もまた、多くなる。「供給は増加しているが、米国の市場はあと2～3週間はひっ迫する」とその生産者は述べた。

メキシコ：生産量は20-25%増加

メキシコの出荷シーズンは10月に始まっており、生産量は20～25%増加すると見込まれている。米国が主な輸出先である。輸出量は増加しているが、米国の輸入業者への供給は現時点でまだ限定的である。輸出は今後数週間で増加するが、ペルーも出荷を増やすと見られる。このことは価格に何らかの圧力を与える可能性がある。

アルゼンチン：より良い品質

アルゼンチンのブルーベリーシーズンは既に始まっているが、生産量はこの時期の主な供給国であるペルーやメキシコより少ない。輸入業者は、今シーズンのアルゼンチン産ブルーベリーは前年と比較して品質が良いとしている。

ペルー：出荷期間の延長と収穫の増加

今年のシーズンの始まりは生産者によってばらついた。今後の収穫の状況によるが、そしてこの予測を確定するにはまだ早過ぎるが、総生産量は昨年と比較して40%の増加が見込まれる。ヨーロッパ、米国及び中国が主な出荷先である。出荷シーズンは2月まで続くと見込まれる。いつもこの時期に起こるように、出荷量が増加するにつれて価格は下落すると見込まれる。

オーストラリア：大量出荷で価格が大幅に下落

ニューサウスウェールズ州のブルーベリーシーズンは最盛期であり、大量出荷のためにここ数週間で価格は大幅に下落した。品質が良いにもかかわらず、125グラムトレイの価格は、ほとんどの主要なスーパーマーケットで約2.50豪ドル(1豪ドルは約75円)付近で上下し、時にはそれ以下に下落した。

ニュージーランド：輸出額は引き続き増加

年刊誌「Fresh Facts」の最新版によると、ニュージーランドのブルーベリー輸出は毎年増加し続けている。2019年のブルーベリーの輸出額は3,890万ニュージーランドドル(NZD：1NZDは約70円)、2018年は3,480万NZDであり、ちなみに2000年には680万NZDであった。この報告によれば、640ヘクタールから3,040トンが収穫され、2018/19年度の生産額(国内評価額)は2,300万NZDであった。ブルーベリー加工品の国内出荷額は280万NZDであった。

114. 香港税関　密輸団22人逮捕　日本産高級果物等を押収

FreshPlaza電子版（2020年10月19日）

中国本土向けに違法に出荷された約2千万香港ドル（1香港ドルは約13.5 円）相当の高級果物と冷凍肉が香港税関当局によって押収された。税関当局によると、10月15日夜の捜査で、密輸に関連した22人を逮捕し、貨物船1隻とタグボート3隻を押収した。

組織犯罪捜査局のLui氏は、「高級果物が海からの密輸によって違法に中国へ輸入されるのを見つけたのは初めてだ。密輸業者は、大量の果物を一度に密輸する方が容易だと思ったようだ」と述べた。*

密輸業者は香港の北西のルン・クウ・チャウ島沖で捕まった。当局は、密輸業者がはしけを「移動倉庫」として使っており、中国へ輸送するための小さな船に積み荷を移していたと語った。

押収された4トンの果物は、日本産とエクアドル産のブドウ、ハネデューメロン、パッションフルーツ、リンゴ、黄色ドラゴンフルーツ等であった。これらの果物が中国本土に密輸されれば、密輸業者は50万香港ドルもの税金を逃れていた。

出典：scmp.com　　＊訳注：この段落はこの記事の出典である South China Morning Post から引用しました。

115. 米国2019年有機農業調査の結果　2016年から31％増加

米国農務省農業統計局（2020年10月22日）

これは、米国農務省農業統計局の2019年米国有機農業調査結果から果実について抜粋したものです。

2019年の有機農畜産物の総出荷額は99億3,000万ドルで、2016年から23億7,000万ドル(31％)増加した。認定有機農場数は16,585で、2016年から17％増加し、認定された面積は550万エーカーで、2016年に比べ9％増加した。

カリフォルニア州の認定有機農畜産物の出荷額は36億ドル（米国全体の36％、他の州の4倍以上）で全米トップを維持した。また、認定農場数3,012と認定面積96万5,257エーカーも全米トップであった。有機農畜産物の売り上げ上位5州は、ワシントン州（8億8,600万ドル）、ペンシルベニア州（7億4,200万ドル）、オレゴン州（4億5,400万ドル）及びテキサス州（4億2,400万ドル）であった。

農業統計局ヒューバート・ハマー氏は、「2019年の有機農業調査結果は、米国における有機農業の継続的な成長を示している。これら包括的かつ基本的で、国レベル及び州レベルのデータは、有機農業ばかりでなく、有機農業を支えるアグリビジネスにとっても価値がある」と語った。

2019年の出荷額上位部門と品目は次のとおり

- 畜産物及び家禽製品：24億8,000万ドル（12％増）
- 野菜：20億8,000万ドル（27％増）
- 果物、ナッツ、ベリー類：20億2,000万ドル（44％増）
  - リンゴ：4億7,500万ドル（104％増）
  - ブドウ：3億3,200万ドル（52％増）
  - イチゴ：3億2,100万ドル（33％増）
  - ブルーベリー：2億500万ドル（52％増）
  - ラズベリー：9億2,000万ドル（197％増）
- 生きた家畜及び家禽：16億6,000万ドル（44％増）
- 畑作物：11億8,000万ドル（55％増）

（訳注：果物は詳細資料から品目別の数字を追加し、果物以外は品目別の数字を省略しました。）

116. カリフォルニア州　柑橘類の強い需要の中でマンダリンの豊作を予想

FreshFruitPortalウェブサイト（2020年10月22日）

カリフォルニア州の柑橘業界は、消費者の強い需要が続く中、昨シーズンと比べてマンダリン類は豊作を、ネーブルオレンジは同程度の生産量を予想している。

カリフォルニア柑橘組合のケイシー・クリーマー組合長兼CEOは、今年は過去数年のような南半球からの輸入による深刻な影響を受けておらず、生産者は2020-21年度のシーズンの始まりにかなり期待しているとして、次のように語った。

「今年の柑橘類の品質は素晴らしいが、着色がいくらか遅れたため今シーズンの始まりはいつもより少し遅かった。いくつかの地域はもう始めることができるだろうし、それほどは遅れないだろう。果物の味は素晴らしく、出荷シーズンは始まったばかりなので、私が受け取った全ての報告では、生産者は今年もまたシーズンが始まることにかなり期待している。

COVID-19パンデミックの1年半前には、荷動きと生産者価格に関し、柑橘業界の状況は本当に厳しかったため、生産者は苦しんだ。その後、中国の関税がほんの少し下がって市場が少し開いた。そうこうするうちにパンデミックが起こり、早い段階の需要はやや散発的だったが時間が経つにつれて着実になり、そして今年後半には柑橘類の荷動きはかなりよくなった。

バレンシアオレンジ類の販売は夏を通じて好調であり、このまま今シーズンのピークとなることを期待している。国内産については全てが通常の状況で、荷動きは今後も良いと感じている。人々は、毎日の食事からビタミンCを摂取したいと引き続き望んでおり、我々は彼らに提供できることをとてもうれしく思っている。誰に聞いても柑橘類の需要はまだ大きく、市場の状況は良いだろう。

国内産の柑橘類の供給が十分でなく、多くの人が入手できない時期が少しあった。南半球からの輸入がいくらかあったが多くの在庫が残っているようには見えず、出荷が進めば需要を満たせると楽観的だ。

今年の輸入の状況は全体としてより楽観的であったが、柑橘類に黒斑病が数多く検出されてEUへの輸出を停止したアルゼンチンからのレモン輸入が急増した。これは、飲食サービス業向けの販売ルートがほとんど全て止まった中で起こったため、特に厄介な問題であった。」

柑橘類の2020-21年度生産見通し

生産予測に関してクリーマー氏は、業界はマンダリンについて「わずかな豊作」を予想しているとして、「今年の供給は前のシーズンより良いと予想している。収穫面積が少し増えたので、我々はより多く供給できるだろう。需要は間違いなくあり、スーパーマーケットや小売店に歓迎されるだろう」と述べた。

セントラルバレー地方のネーブルオレンジの予測は8,100万カートンである。しかし、クリーマー氏は、最終的な数字は異なる可能性が高い、この地域の昨年の予測は7,300万カートンであったが、最終的な市場流通量は約8,500万カートンだったと指摘し、「生産者と話すと、昨年と同様の収穫量、場合によってはそれをわずかに下回ると見込んでいる。 私たちは手ごろな大きさで扱いやすく味のとても良い柑橘類を期待している。収穫量に関して多くの柑橘生産者にとって本当に良い年のように思える」と述べた。

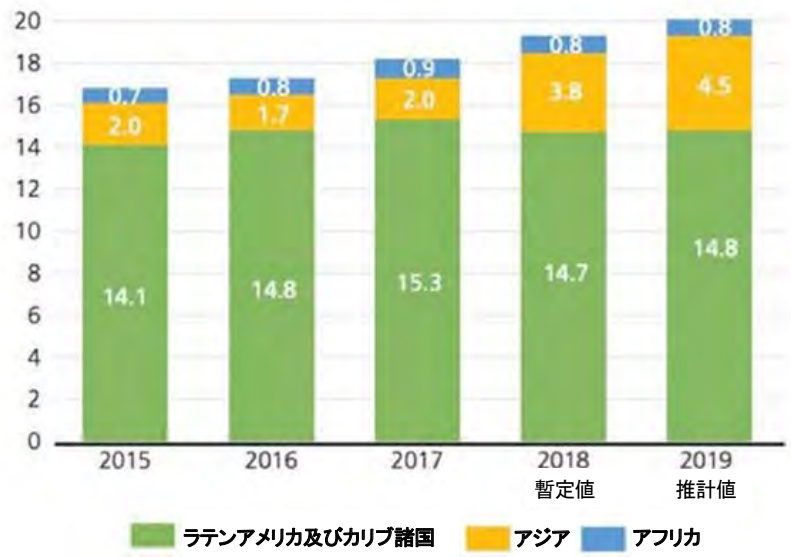
夏の終わりのカリフォルニア州の山火事についてクリーマー氏は、カルフォルニア柑橘組合は柑橘類の生産に直接影響を与えたとの報告を受けておらず、大気中の煙が着色をわずかに遅らせただけである、と付け加えた。

117. アジアのバナナ市場 急速な動き

FreshPlazaウェブサイト（2020年10月27日）

国連食糧農業機関（FAO）の「バナナ マーケットレビュー2019」に掲載された以下のグラフが明確に示すように、その輸出量が増加しており、また中国がかなり多い国内消費量の調達先を中南米等に多様化させていることから、アジアは特に注目すべき地域である。新パナマ病及び気候変動に関連する中国国内の生産の問題は明らかに重要な要因であり、急速に成長している国内販売網とその調達戦略も今後同様に重要な要因となると見られる。

世界の地域別バナナ輸出量 2015－2019年
百万トン



カンボジア：アジアのバナナ輸出の新星

カンボジアが年間20万トン以上の生鮮バナナを輸出する15カ国*のリストに入ったとのニュースは、EUと北米に次いで世界で3番目に重要な消費地域である東アジア市場の変化の兆しである。

農業省によると、カンボジアの農園への中国からの投資によって、2020年の最初の9カ月間の輸出量は、2019年と比較して200％以上増加した。現在、キャベンディッシュ種のバナナが約3万ヘクタール栽培されており、そのほとんどは中国で販売され、はるかに少ない量がベトナムと日本に輸出されると報告されている。同省はまた、現在、カンボジアのバナナの輸出のために登録された15の中国企業があり、2021年の輸出量は倍増すると見られるとしている。

労働条件や環境に配慮した生産に関する信頼できる情報は、現段階ではほとんど存在しないほど不足しているが、ここ数年の報告は、賃金は低く、農園と梱包施設の労働者の環境が十分でないことを示している。

＊ 他の14カ国は2019年の輸出量の多い順に、エクアドル、フィリピン、グアテマラ、コスタリカ、コロンビア、ホンジュラス、メキシコ、コートジボワール、ドミニカ共和国、パナマ、ペルー、カメルーン、ブラジル、ニカラグアである。

フィリピン：ほぼすべての面で不安定

フィリピンは、主要輸出国の中では初めて新パナマ病によって在来種のバナナに大きな影響を受け、輸出量がかなり変動し、年間輸出の統計にやや矛盾があるものの、依然として世界市場で2番目のプレーヤーである。ミンダナオ島南部の大農園や小規模農家組合の農園で生産されたバナナのほとんどは、日本、中国及び韓国に輸出され、そのほか輸出量が少なく変動が大きいが、中東にも輸出される。

ミンダナオ島のほとんどの地域の治安状況の不安定さ、新パナマ病の被害で放棄された何千ヘクタールもの在来種のバナナ園、深刻で定期的にやってくる異常気象、加えて農園の複雑な労働関係、居住地域付近での空中散布をめぐる紛争などが相まって、ミンダナオ島での投資、生産及び労働をめぐる環境は不安定になっている。

しかし、これらは、ミンダナオ島に新しい農園を拓く国内及び国際資本の妨げとなっていない。輸出量が維持されているとすれば、新しく生産性の高いキャベンディッシュ種バナナ農園のお陰である。

海運大手マースク社の熱帯果実物流の責任者クリントン・マチャド氏は、今月エクアドルで開催された国際バナナ会議で、「2019年の中国のフィリピン産バナナに対する需要は、カンボジアとの新しい取引のためにわずかな減少を示した。中国と中東の両方で、今後数年間、経済の成長及び健康と栄養への関心の変化が見込まれ、有機バナナの需要が高まると予測される」と報告した。

インド：今だ眠れるバナナの巨人

関係者は長年にわたり、巨大な国内市場とは対照的にインド産バナナの極一部しか輸出されていないにもかかわらず、西アジア及び東アジア、そしておそらくヨーロッパの市場の大きな再構築を引き起こしかねないとして、インドのバナナ輸出を注視してきた。

マハラシュトラ州（ムンバイ市（旧ボンベイ）の東）からの輸出はここ数年増加して、2019年に初めて12万トン（前年比30％増）を超えた。政府は全体として輸出に焦点を当てて市場開拓と輸出促進に投資しており、このため今後数年間でインドが主要なプレーヤーとして容易に台頭しうることに留意することが重要である。

マースク社のクリントン・マチャド氏が言ったように、インドの生産者の努力が成功すれば、中東及び地中海地域に進出できる可能性がある。しかしインドの農業大臣は今年の初めに、マハラシュトラ州ジャルガオン地区の5,000ヘクタールのバナナ農園が「気温上昇」によって悪影響を受けたと述べた。

出典：Bananalink.org

118. 台湾の落葉果実事情(リンゴ、ナシ)

米国農務省GAINレポート(2020年10月27日)

これは米国農務省海外農業局台北事務所(台湾)が作成した「落葉果実年次報告書」であり、米国政府の公式見解とは異なる場合があります。

レポートのハイライト

米国は台湾にとってリンゴの主要輸入先である。2019/2020販売年度(以下「年度」)において、米国産リンゴの輸入額は7,800万ドルで31%の市場シェアを占め、輸入量は、コロナ禍によっても出荷の遅れがなかったことと2019年後半の検疫制度の改正に助けられ、対前年度比45%増の61,173トンとなった。2020/2021年度の台湾のリンゴ総輸入量は15万9千トンとわずかに増加すると予測されているが、米国産の輸入量は前年とほぼ同じ62,000トンと予測される。

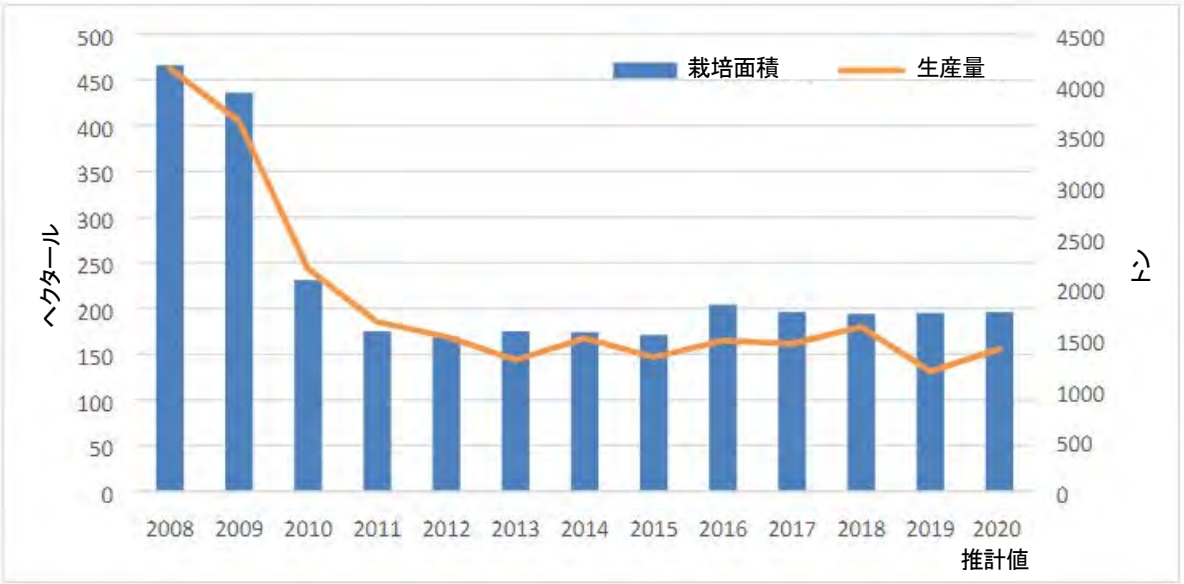
<リンゴ>

生産

2020/2021年度の台湾のリンゴ生産量は1,400トンと推定される。2019年に発生した受粉の問題は2020年には繰り返されず、台湾のリンゴとナシの生産は今年20~30%回復すると予測される。台湾のリンゴ産地は、主に台中市と南都県の山間地帯に位置している。台中市は台湾のリンゴ生産の75%近くを占めている。主な品種はふじ、Five Paw、ゴールドクラウン、ハニーである。最も有名なリンゴ農園は台中市の福寿山地区と梨山地区にあり、収穫期は9月から12月である。

2019/2020年度の生産量は受粉不良により27%減の1,179トンとなった。2020年には大型台風が来なかったため、2020/2021年度の栽培面積は前年度と変わらないと予想される。台湾のリンゴ生産量は依然としてリンゴ消費量の1%に満たない。ハニー品種は、独特の食感と風味で消費者によく知られている。収穫シーズン中には一部の農場が、農場でのリンゴ狩りや、ギフトボックスのインターネット直販等の販売促進活動を行っている。

リンゴの栽培面積及び生産量の推移



出典: 台湾行政院農業委員会

消費

台湾のリンゴの消費は輸入に大きく依存している。報告者は、2020年の米国での輸出向けリンゴの生産が安定していたこと及びコロナ禍の影響が最小限であったことにより、2020/2021年度の総消費量は1%増の16万400トンと推計する。2019/2020年度の消費量は、米国からの輸入の増加により10%増加し、15万9,272トンとなった。引き続きふじとガラが輸入リンゴの一般的な品種である。価格と品種は依然として消費者にとって最も重要な要因であるが、ワシントン州産のリンゴは歯ごたえのある食感とジューシーさで評価が高い。有機リンゴは引き続き重要なニッチ市場である。日本のリンゴは、その大きさによってプレミアム商品として認識され、祝祭日の時期には装飾されたギフトボックスに入れて販売されている。

貿易

台湾動植物防疫検疫局(BAPHIQ)は2019年10月29日、WTOに対し、「米国からの生鮮リンゴの輸入に関する検疫要件」の改正を通報した(TPKM/SPS/475/add.1)。この改正は、輸出検査が完了した後の出荷可能期間を延長するもので、リンゴを出荷するための貴重な余裕時間を荷主に提供するものである。これは、港湾での荷捌きや輸送が予定よりも遅れる場合は非常に重要である。2019/2020年度の米国産リンゴの輸入量は、コロナ禍による出荷の遅延がなく、生産と輸出が安定していたため、46%増の61,713トンとなった。チリは引き続き干ばつの影響を受け、同国からの輸入量は16%減少して41,327トンとなったが、輸入先国第2位の地位を維持している。コロナ禍の早い時期に日本からの出荷が遅れたため、ニュージーランドが台湾へのリンゴ輸出を13%増して22,943トンとし、日本を上回って第3位の輸入先国となった。2020/2021年度のリンゴの総輸入量は、米ドルの安値と米国内の生産が安定していることから、1%の増または15万9千トンの横ばいと予測される。

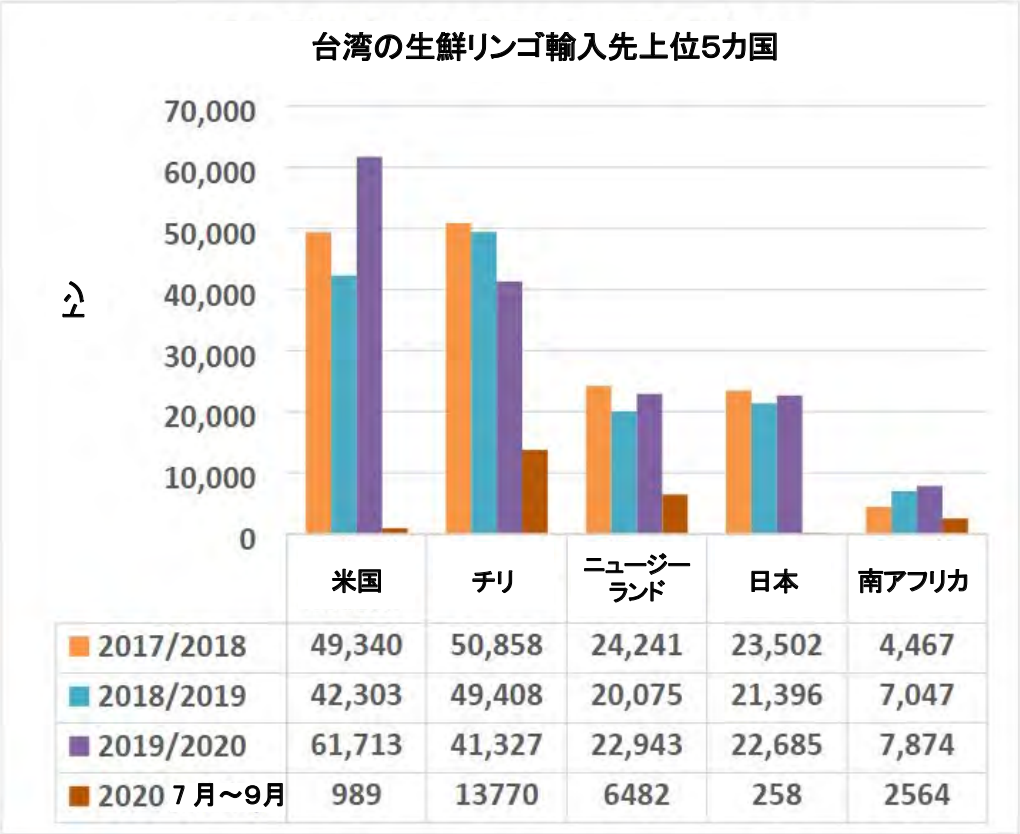
台湾の生鮮リンゴ輸入					
	輸入合計		米国からの輸入		米国の市場シェア(輸入量)
	トン	百万ドル	トン	百万ドル	パーセント
2017/2018販売年度	154,625	258	49,340	66	27
2018/2019販売年度	142,356	240	42,303	59	26
2019/2020販売年度	158,093	249	61,713	78	31

出典: Global Trade Atlas

ワシントン州産のリンゴは、台湾への米国産リンゴ輸出量全体の95%以上を占めている。ワシントン州産リンゴの5%近くが有機リンゴとして販売されている。ワシントン州のリンゴ生産者は2020年8月に、パンデミックの影響を受けていないことから安定した生産を予測した。2020/2021年度の米国産リンゴの台湾向け輸出量は62,000トンと予測される。安定した生産に加えて、米ドル安が台湾のバイヤーが輸入量を増加させるひとつの要因となる可能性がある。

販売

ハイパーマーケットやスーパーマーケットはリンゴの小売売上高の70%近くを占めており、この数字は増加すると予想される。これらの主要な流通チャンネルは、ガラやふじのほか、トキなど日本のプレミアム品種を提供している。輸入業者は最近、卸売チェーンに流通させる代わりに、ソーシャルメディアを通じたオンラインショッピングやプロモーションの開発に投資し始めた。台湾のリンゴ販売業者もこの傾向をまねて、収穫期に台湾産リンゴのギフトボックスを宣伝している。台湾の一部の生産者はまた、リンゴ園でのレクリエーションツアーを提供することにより、オンラインでの人気を得たいと考えている。



政策

輸入関税

台湾との貿易協定により、パナマ（2004年以降）、ニュージーランド（2013年以降）、シンガポール（2014年以降）からの生鮮リンゴ（HSコード080810）の輸入は、免税となっている。したがって、ニュージーランドは市場シェアを維持または拡大するのに有利な立場にある。グアテマラからのリンゴの輸入関税は2.6%であり、ニカラグア、エルサルバドル、ホンジュラスも台湾との貿易協定に基づいて5.3%である。米国を含むその他の国からのリンゴの輸入に対しては20%の関税が課される。

一般的な植物衛生要件と関連する規制

生鮮青果物を含む食品の輸入は、衛生福利部（MOHW）傘下の食品薬物管理署（TFDA）と農業委員会（COA）傘下のBAPHIQ（前出）によって規制されている。TFDAは食品安全を担当し、BAPHIQは動物及び植物の検疫を担当している。

米国産の生鮮リンゴは、BAPHIQの「米国からの生鮮リンゴの輸入に関する検疫要件」によって規制され、米国動植物検疫局（APHIS）発行の検疫証明書を添付する必要がある。（米国内の輸出手続きについては省略）

TFDAは、国境における食品安全検査を実施する権限を持つ機関であり、定期的に港で貨物を検査し、食品に残留する農薬や重金属を注意深く監視している。

台湾の最大残留基準値（MRLs）は、米国や国際的な基準設定機関によって設定されたものとは異なる場合がある。台湾がまだ基準を設定していない農薬と作物の組み合わせの場合、デフォルトの基準は0.01PPMである。TFDAの「農薬残留容許量標準」は、果物及び野菜の農薬残留許容量をリストで示している。重金属の基準は、TFDAの「食品中汚染物質及毒素衛生標準」に記載されている。

検査のために青果物が抜き取られた場合、輸入業者はTFDAに対し商品を暫定的に当該業者の倉庫に戻すよう申請することができるが、必要な検査にすべて合格するまで、貨物を商流に乗せることができない。台湾の基準に合致していない場合、商品の輸入が拒否されたり、廃棄が命じられたりする。

台湾のリンゴ生産需給統計

リンゴ（生鮮）	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
販売年	2018年7月～2019年6月		2019年7月～2020年6月		2020年7月～2021年6月	
台湾	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	195	195	195	195	0	196
収穫面積	194	194	195	195	0	196
結果樹本数	70	70	70	69	0	70
非結果樹本数	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計	70	70	70	69	0	70
商業的生産量	1,619	1,619	1,500	1,179	0	1,400
非商業的生産量	0	0	0	0	0	0
生産量合計	1,619	1,619	1,500	1,179	0	1,400
輸入量	142,400	142,356	145,000	158,093	0	159,000
総供給量	144,019	143,975	146,500	159,272	0	160,400
消費量	144,019	143,975	146,500	159,272	0	160,400
輸出量	0	0	0	0	0	0
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向け量	144,019	143,975	146,500	159,272	0	160,400
単位：ヘクタール、千本、トン						

出典： 台湾行政院農業委員会、Global Trade Atlas

追加事項

＜ナシ＞（HS コード080830）

概要

2019年の台湾のナシ生産はすべて同年初頭の受粉不良によって影響を受け、生産量は23％減の91,032トンとなった。主な品種は、東アジア原産の *Pyrus pyrifolia*（日本ナシ）である。

2019/2020年の栽培面積は5,191ヘクタールで、台中市の山間地帯が主産地であり、台湾の生産量の約65％を占めている。ナシはリンゴよりも標高が高い土地に植えられている。台湾産のナシも季節の果物として特に旧正月の贈答品に使われている。

2019/2020年度のナシの輸入量は14,120トンで、消費量の13％を占めている。高い関税率にもかかわらず韓国産のナシが市場に浸透してきており、2018/2019年度と比較して57％増加した。韓国は「その他のナシ」（西洋種以外のナシ、HSコード08083090）の最大の輸入先であり、2019/2020年度の輸入量は11,317トンであった。西洋種のナシ（*Pyrus communis*、HSコード08083010）の輸入量も1,222トンで第2位であり、これは前年度に比べて70％増加した。

米国産のナシの主な販売チャネルはハイパーマーケットやスーパーマーケットチェーンであるが、伝統的な卸売市場も祝祭日の時期には取り扱うことがある。台湾の消費者は、米国品種のナシに馴染んでいる。関税の引き下げにより、さらに拡大が期待される市場である。（注：米国産ナシの輸入関税は、10台湾ドル/キログラムであり、関税割り当ての対象ではない。）

政策

台湾は、2002年にWTOに加盟した後、「その他のナシ」の輸入禁止を関税割り当てと特別セーフガードに置き換えた。「その他のナシ」の年間関税割り当て数量は9,800トン、枠内の一次税率は49台湾ドル/キログラム、枠外の二次税率は58台湾ドル/キログラムである。特別セーフガードの数量トリガー（2020年は12,137トン）を超えた場合、33.3％の追加関税が適用される。（1台湾ドル≒3.6円）

119. ニュージーランドの落葉果樹事情（概要とリンゴの輸出入）

米国農務省 GAIN レポート（2020年10月29日）

これは米国農務省海外農業局ウェリントン事務所（ニュージーランド）が作成した「落葉果実年次報告書」の中のエグゼクティブ・サマリー及びリンゴの章の輸出入の項と図表の一部を訳したものであり、米国政府の公式見解・データとは異なる場合があります。

また、ニュージーランドの販売年度は1月1日から12月31日であり暦年と一致しますが、報告書原文では北半球諸国の報告様式に揃えるため、例えば2020年1月1日から12月31日までを2019/2020年度と表示しています。本翻訳では暦年での表示としました。

栽培面積の拡大及びこれまでの良好な生育状況により、ニュージーランドの2021年のリンゴ生産量は過去最高に近づくと予測される。しかし、COVID-19関連の問題、特に国境制限は、剪定、摘果、特に収穫に十分な労働力が必要なこの業界に不確実性をもたらしている。2021年のリンゴ生産量は前年比1％未満減少し、輸出量は過去最高であった2020年よりわずかに減少すると予測される。

2021年のニュージーランドのリンゴ収穫面積は、2020年より1.2％増の1万300ヘクタールと予測される。COVID-19による不確実性のため、生産者は果樹園の中の生産性の低い区画を廃園し、他の一部の区画を収穫しない選択をする可能性がある。2021年の収穫のための労働力確保を巡る不確実性が大きいため、リンゴの総生産量は2020年より0.7％少ない58万3千トンと控えめに予測される。収穫のための労働力の供給源は3つあり、1）太平洋諸島からの短期労働者を認可する公認季節雇用者（RSE）スキーム、2)就労ビザを持つ短期入国者、そして3)国内の季節労働者である。現段階では、COVID-19対応及び国境制限の結果、3つのすべての供給源が厳しく制限されている。

2020年のリンゴ総生産量の予測は、収穫及び梱包を行う期間中のCOVID-19による混乱により58万7千トンとわずかに下方修正されたが、収穫面積の拡大と良好な生育条件のため前年よりまだ4％多い。2020年3月下旬から5月の間のCOVID-19に対応したロックダウンと事業活動の制限の期間中、政府はこの業界を必須の産業とみなしたが、制限の一部は果樹園や梱包施設の効率に影響を与えた。

2021年の輸出量は2020年より約2％少ない39万トンと予測される。労働力不足が収穫に影響した場合、輸出量に直接的に影響が出ると見込まれる。2020年のリンゴ輸出の予測は、39万7千トンにわずかに下方修正されたが、2019年より1.5％多い。リンゴ生産の増加は輸出を大幅に押し上げる可能性があったが、COVID-19による混乱と政府の対応のため輸出量予測の増加幅は小さくなった。

2021年のリンゴの国内総消費量は、2020年の1.5％増の19万3,500トンと予測される。2021年の生鮮リンゴの消費量は7万3,500トン、加工仕向け量は12万トンと予測される。

梨については、ニュージーランドの2021年の総生産量は、安定した収穫面積が見込まれることから2020年と同じ1万2,700トンと予測される。2020年について、当事務所は、2019年より1％近く多いと見積もっている。良好な生育条件は増収の可能性を大きくしたが、COVID-19による収穫期の混乱は、その可能性を減少させた。2021年の梨の輸出量は3,700トンと見込まれ、2020年の輸出量は2019年より30％少ない2,750トンへ下方修正された。

リンゴ輸出

2021年のニュージーランドのリンゴ輸出量は、2020年より1.8％少ない39万トンと予測される。これは、生産量の予測の低下による。ニュージーランドのリンゴの約70％は生鮮果実で輸出されるため、リンゴ生産の下振れリスク、特に収穫期の人手不足は、輸出量に直接影響を与えると見込まれる。

ニュージーランドのリンゴの輸出先は極めて多様であり、アジア、EU、英国及び米国に多くの量が輸出されている。これら地域への2021年の輸出量は比較的安定的で、価格変動によるわずかな変化だけが見込まれる。

しかし、中期的にはニュージーランドの輸出は、主にアジア市場（特に中国）への拡大が見て取れる。一般にこれら市場の多くでは色(赤)が鮮やかでより甘いリンゴが好まれる。ニュージーランドはこれらタイプのリンゴ品種の生産にかなりシフトしている。そのため、アジア向けの輸出は今後も増加し続けると見込まれる。

ニュージーランドの生産者及び輸出業者は、主要な輸出市場における不確実性の増加とCOVID-19へのこれら国々の対応が消費者の購買行動に及ぼす影響に強い懸念を抱いている。

2020年の輸出量予測は39万7千トンにやや下方修正されたが、依然として過去最高であり、2019年より1.5％多い。下方修正の理由は、COVID-19への対応によって引き起こされた収穫期の混乱により、おそらく数千トンのリンゴが収穫されていないためである。

2020年の最初の9ヶ月間、輸出は前年同期と比較して2.2％増加している。EU向けは4.6％増加し、依然最大の市場である。ロシアは、この期間142％増加し、最も急激な増加を見せた。

2019年に2倍以上となった中国向けの出荷は15.4％減少した。これは、中国での価格が他の輸出先を下回ったことによる3月以降の販売減少の結果である。これまでニュージーランド産リンゴのかなりの量を扱ってきた生鮮市場の多くは、COVID-19への対応のため閉鎖された。ニュージーランドの輸出業者は、輸出量の少なくとも維持、できれば増加のためには、オンラインによるマーケティング及び配送への迅速な転換が重要と見ている。

リンゴの輸出業者は、COVID-19パンデミックの影響とそれへの国々の対応が供給網と販売計画を混乱させたと報告している。これら計画の多くは、事前に十分検討され、定期的な出荷を含んでいる。しかし、これら計画はずれ込み、輸入業者は次第にその場その場でリンゴを輸入・購入するようになっているとの報告がある。

リンゴ輸入

ニュージーランドは極めて限られた量のリンゴしか輸入しない。米国からの輸入は2019年に増加し、現時点では2020年も同様に増加する見込みである。輸入リンゴは通常ほぼすべて米国産である。

ニュージーランドの落葉果樹栽培面積（品種別）

ニュージーランドの落葉果樹栽培面積 （品種別）									単位：ヘクタール	
↓品種名／収穫年 →	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
Braeburn	1740	1589	1504	1381	1352	1303	1239	1199	1111	964
Cox	236	203	178	150	134	121	111	101	81	
Cripps Pink/Pink Lady	434	446	459	443	461	523	562	606	655	717
Dazzle										280
Envy	174	272	285	315	346	416	544	610	733	856
Fuji	970	934	906	832	837	858	831	854	848	822
Granny Smith	256	256	246	240	219	233	231	247	230	250
Honey Crisp							141	152	140	139
Jazz	983	943	905	869	855	825	821	807	844	868
Koru							120	150	160	150
Pacific Beauty	127	120	113	92	84	83	71	56	49	
Pacific Queen	291	351	456	622	730	827	878	880	862	859
Pacific Rose	399	396	390	379	364	365	342	321	260	227
Pacific系品種小計	817	867	959	1,093	1,178	1,275	1,291	1,257	1,171	1,086
Rockit										272
Royal Gala & sports	2423	2369	2386	2337	2410	2549	2604	2708	2859	2853
Other Varieties	376	385	484	709	790	707	643	759	972	817
リンゴ栽培面積合計	8,409	8,264	8,312	8,369	8,582	8,810	9,138	9,450	9,804	10,074
ナシ栽培面積合計	473	441	448	403	407	403	371	361	375	342
詳細未登録面積				383	320	384	395	409	425	442
合 計	8,882	8,705	8,760	9,155	9,309	9,597	9,904	10,220	10,604	10,858
Breabumの割合※	20.7%	19.2%	18.1%	16.5%	15.8%	14.8%	13.6%	12.7%	11.3%	9.6%
Royal Galaの割合※	28.8%	28.7%	28.7%	27.9%	28.1%	28.9%	28.5%	28.7%	29.2%	28.3%

※リンゴ栽培面積に占める割合

出典：NZAPI Survey

注：詳細未登録面積は、現在輸出向け果実を生産していない栽培面積を含む。

ニュージーランドのリンゴ生産需給統計

面積 ヘクタール　　量 トン

リンゴ（生鮮）	2019年1月～2019年12月		2020年1月～2020年12月		2021年1月～2021年12月	
	農務省公式	報告者推計	農務省公式	報告者推計	農務省公式	報告者推計
栽　培　面　積	10,315	10,315	10,725	10,725	0	11,050
収　穫　面　積	9,835	9,905	10,180	10,180	0	10,300
結　果　樹　本　数	0	0	0	0	0	0
未　結　果　樹　本　数	0	0	0	0	0	0
果　樹　総　本　数	0	0	0	0	0	0
商　業　的　生　産　量	573,850	560,000	590,000	584,000	0	580,000
非　商　業　的　生　産　量	3,000	3,000	3,000	3,000	0	3,000
生　産　量　合　計	576,850	563,000	593,000	587,000	0	583,000
輸　入　量	600	617	400	600	0	500
供　給　量　合　計	577,450	563,617	593,400	587,600	0	583,500
国　内　消　費　量	184,250	172,675	193,400	190,600	0	193,500
輸　出　量	393,200	390,942	400,000	397,000	0	390,000
市　場　か　ら　の　隔　離	0	0	0	0	0	0
総　仕　向　け　量	577,450	563,617	593,400	587,600	0	583,500

注：収穫面積には、非商業的生産面積の推計値を含む。

120. エジプト　柑橘類の日本市場への参入に期待

FreshPlazaウェブサイト（2020年10月30日）

欧州とサウジアラビアではエジプト産柑橘類に高い需要

エジプトの柑橘輸出業者は既にネーブルオレンジとバラディ品種のオレンジを扱っているが、パンデミックは柑橘輸出業者に多くの不確実性をもたらしている。サウジアラビアがトルコ産オレンジの輸入を禁止したことから、エジプトの生産者はサウジアラビアの大きな需要により良いシーズンになると期待している。同じ理由から、ロシアにおける価格も今シーズン不安定となる可能性がある。

エジプトでは柑橘類のシーズンは既に始まっており、ピラミッドアグロ社のビジネス開発責任者のアブドラ・タルワット氏は、ネーブルは少し心配だとして「私は、よくネーブルを短期間に多くの問題を起こす甘えん坊と表現する。ネーブルは気候の状態に極めて敏感であり、柑橘類の出荷シーズンはネーブルで始まる。そしてその味はエジプトの地元市場、湾岸諸国そしていくつかのアジア及びヨーロッパ市場で好まれている。バラディ品種は、ほとんどがジュース用であり、ネーブルと同じ時期に始まった。市場シェアが最も大きいバレンシアオレンジの出荷は、1月末頃に始まると見込まれる」と語る。

今シーズンの見込みについてタルワット氏は、パンデミックにより状況がいつでも変化し得ることを考え、いつものように綿密な事前の計画は立てていないと述べる。「我々の会社は通常、そのシーズンの計画と見込みを検討する会議を定期的に開催する。しかし、COVID19の第2波がもたらす不確実性と世界市場が現在我々の大きな関心事である。顧客の行動が変化しており、市場で起こりうる急速な変化に対して我々の計画が柔軟であることを確実にしたい。我々は多くのネーブルをロシアとサウジアラビアに輸出しているが、サウジアラビアがトルコ産オレンジの輸入を禁止したため、エジプト産に影響が出ると見られる。多くのトルコ産がロシアに輸出されると見られ、その結果ロシア市場の価格が不安定になる可能性がある。」

ピラミッドアグロ社は主にヨーロッパとアジアへ輸出しているが、同社にとって期待が高まるニュースは日本市場への参入である。「現時点で欧州の需要は高いと理解しており、極東とサウジアラビアでも今シーズン需要が高いと予想されている。一方、今年日本市場に参入することにも期待を膨らませており、日本での我々の市場シェアを拡大したいと望んでいる。これから毎シーズン、輸出量が増えることを期待している。」

エジプトは、柑橘類の輸出量に関して公式データでスペインを追い越した。タルワット氏はエジプトの好調を喜んでいるが、輸出に関してよりも競争を気にかけている。「エジプトは柑橘類の輸出量に関してはスペインに『勝った』が、私は勝負は数で相手を打ち負かすことではないと考える。私は、これは、最も賢明に、適切な市場で優れたビジネス判断を行う戦いだと考える。顧客の行動は常に変化する。そのため生産物と包装の両方で最高の品質を提供しており、持続可能性と共に働くチームを大切にし、そして最も重要なことに顧客との強固な関係を築いている会社が優位に立つだろう。社会的責任と透明性は今日必須であり、エジプトのため我々は今、生産量でリードすることが可能であるのみならず、ブランド力でもまたリードできることを証明する必要がある。」

「今シーズン柑橘類を輸入する企業に対する言葉をお伝えしたい。ビジネス関係と信頼の構築が大切。これがこのビジネスのすべてであると我々が考えていることである。我々は顧客を訪問したいし、同様に顧客側もシーズン中に私たちを訪問したい。それは人と人との関係だ。皆さんにとっての素晴らしい柑橘シーズンを願う」とタルワット氏は締めくくっている。

（参考）

令和2年11月2日にエジプト産かんきつ類生果実の我が国への輸入が解禁された。

https://www.maff.go.jp/pps/j/information/Zyoukentuki/kaikin_20201102.html

121. ニュージーランド　新造のキウイフルーツ用冷蔵船を歓迎

FreshPlazaウェブサイト（2020年10月30日）

ゼスプリは、その輸出船団にフレッシュキャリア社（訳注：東京に本社を置く海運会社）の新造冷蔵船コーファイ号（MV Kowhai）が加わることを歓迎する。

フレッシュキャリア社が、キウイフルーツ業界への信頼とゼスプリとの長年の関係に基づき、多額の投資によって3隻の専用冷蔵船を建造したことは、ニュージーランドのキウイフルーツ産業の後押しとなる。

3隻のうちの最初のコーファイ号は10月30日の朝タウランガ港に到着し、日本行きの初航海に先立って4,219トンのゼスプリキウイフルーツの積み込みを開始した。

ゼスプリの海外市場担当役員であるアラステア・ハルバート氏は、タウランガ港で多くの業界関係者と記念イベントに参加して船の就航を歓迎し、「ゼスプリは世界中のパートナーとの永続的な関係を構築することを約束しており、ニュージーランドのキウイフルーツ業界は、過去30年間にフレッシュキャリア社及びそのニュージーランド代理店であるオセアニックナビゲーション社との連携から大きな恩恵を受けている」と述べた。

同氏はまた「当社の果物を安全かつ迅速に市場に送り出すことは非常に重要であり、当社のチャーター船プログラムは、フレッシュキャリア社が北アジアの複数の港向けに提供するサービス及び今年のCOVID-19の発生への対応を含め、業界の成功の重要な要素となっている。（フレッシュキャリア社が行った）新しい船舶へのこの大がかりな投資は、ゼスプリと同社の連携の将来だけでなく、キウイフルーツ業界の成長の可能性に関して両者が共有する自信とコミットメントを強調するものであり、本当に誇りに思っている。そして、我々はこの船が今後さらに多くの消費者に我々の果物を提供することを楽しみにしている」と述べた。

輸送される主な貨物がキウイフルーツであることから、フレッシュキャリア社は3隻の新しい船に名前を付ける機会をキウイフルーツ業界に提供した。元生産者のリンダ・ホーズ氏が提案し採用された「コーファイ」は、ニュージーランドと日本の結びつきを強めているゴールドキウイフルーツを象徴し、残りの2隻は「カカリキ」及び「フエロ」と名付けられ、ゼスプリのゴールド、緑、赤のキウイフルーツの品揃えを完全にカバーした。（訳注：コーファイ、カカリキ及びフエロは、ニュージーランド先住民のマオリ語でそれぞれ黄色、緑色及び赤色を意味します。）

海洋航行責任者のブルース・ニスベット氏は、ニュージーランドのコーファイ号用の埠頭を見て喜んでおり、新しい船は今後ニュージーランド産キウイフルーツの輸出量を増やす上で重要な役割を果たすとし、「フレッシュキャリア社は毎年ニュージーランドから約19万トンのキウイフルーツを輸送しており、ゼスプリのアジアのトップ市場に果物を出荷する3隻の新しい船の最初の1隻が就航することを嬉しく思う。新しい船は、甲板が高いためより多くのキウイフルーツのトレイを積むことができ、エンジンは燃料効率の最新の基準に沿って作られている。船の新しい技術はまた果実の状態の遠隔監視を可能にする。ゼスプリは、世界中で最も成功した果物会社の1つであり、出荷ニーズに特化した冷蔵船のチャーターに最も取り組んでいる。世界の主要な市場への物流の管理を維持することが、その成功を支えていることは明らかである」と語った。

フレッシュキャリア社は今シーズン、北アジアの主要な港にゼスプリのキウイフルーツを出荷するために35隻の船舶を提供した。これは、今シーズンの出荷量の約30%に相当する。

コーファイ号は10月31日にタウランガ港を出発する予定である。それは今シーズンのゼスプリの最後から2番目のチャーター冷蔵便であり、東京と神戸に停泊する。

122. EUの落葉果実事情（リンゴ、ナシ、生食用ブドウ）

米国農務省GAINレポート（2020年10月30日）

これは米国農務省海外農業局ベルリン事務所（ドイツ）がEU域内関係事務所の協力を得て作成した「落葉果実年次報告書」であり、米国政府の公式見解・データとは異なる場合があります。長文のため、要約と主な図表のみ翻訳しました。なお、本報告は現在のEU関税同盟の構成員であるEU27カ国と英国を対象としています。

レポートのハイライト

2020/21販売年度（以下「年度」）のEUの商業的リンゴ生産量は、前年度比2%減の1,080万トンと予測される。EUの商業的ナシ生産量は、前年度の非常に低い生産量から反発して13%増の約220万トンと予測される。EUの生食用ブドウ生産量は11%減の約140万トンと予測される。COVID-19により生産量は減少しなかったが、生産コストが増加した。

要約

＜リンゴ＞

2020/21年度（7月～6月）のリンゴの商業的生産量は、前年度及び直近10年間の平均と比較して2%減少すると予測される。この減少は、晩春の降霜（オーストリア、チェコ、ドイツ、ハンガリー）、果樹の裏年（フランス、スペイン、ポルトガル）、受粉不良（ハンガリー）、干ばつ及び熱波（ベルギー、オーストリア、ポーランド、英国）、及び降雹被害（ハンガリー、ルーマニア）によるものである。ポーランド、ラトビア、リトアニア、スロベニア、スウェーデン、デンマーク、チェコ及びギリシャは、2019/20年度の非常に低い生産量からの一部回復を報告したが、増加量の合計は他の国の減少を補うのに十分ではなかった。生鮮リンゴのほか、リンゴ果汁及び濃縮リンゴ果汁の期初在庫も非常に少なかったので、市場の見通しは良い。加工部門が低品質のリンゴのかなりの量を吸収するので、果汁の在庫量は重要である。米国産のリンゴの輸入は、ワックスの添加剤としてモルホリンを使用すること及び収穫後処理にジフェニルアミン（DPA）を使用することに関連する技術的な問題のため、2014年以来かなり少ない。実態上EUに輸出される米国産のリンゴはすべて有機リンゴであり、英国に入る。EUは、サウジアラビア、アラブ首長国連邦（UAE）、インド等の輸出市場において米国産リンゴの競争相手である。

＜ナシ＞

2020/21年度（7月～6月）のEUのナシの商業的生産量は、昨年度（イタリアの収穫量が記録的に減少した）より13%増加する見込みである。EU最大のナシ生産国であるイタリアの生産量は、今年度は良好な生育条件により一部回復した。同様の良好な気象条件は、収穫面積の若干の増加と相まってベネルクス諸国（ベルギー、オランダ、ルクセンブルグ）での生産量の増加をもたらした。味、色、棚持ちが良いものと期待されている。一方、開花期や着果期の雹を伴う嵐や豪雨は、イベリア半島（スペイン、ポルトガル）の生産量の減少につながった。イタリア、オランダ、ベルギー、スペイン、ポルトガルはEUのナシ生産量の80%以上を占めている（ただし、2020/21年度のスペインとイタリアの収穫面積は減少した）。2020/21年度のEUのナシ消費量は、2019/20年度の減少（域内供給量の減少のため）から反発すると見られる。2020/21年度のナシの輸出入量は前年度と変わらないものと予想される。

＜生食用ブドウ＞

2020/21年度（6月～5月）のEUの生食用ブドウの商業的生産量は、主に3月末の開花時に深刻な霜害が発生したイタリアで生産量が20%減少するため、前年度から11%減少すると予測される。9月中旬の降雨と嵐も減少を招いた。ブルガリア（7.1%減）とスペイン（4.5%減）でも生産の減少が予測される。逆に、フランス（8.7%増）、ルーマニア（3.7%増）、ポルトガル（1.2%増）及びギリシャ（1.1%増）で生産量の増加が予測される。総じて言えば、7月から9月上旬までの暑さにより、果物の品質は糖度が高く良好であると予想される。

＜COVID-19＞

生産への影響

全般的に、生産量に対するCOVID-19の影響は限定的であった。しかし、COVID-19関連の衛生基準の導入により、生産コストが増加した。これには、最小限の距離を確保するルール、宿泊施設や輸送関係の基準の引き上げ及び追加の書類作成が含まれる。このため、業務フローの見直しと追加の投資が必要であった。季節的な労働力の不足 – パンデミックの発生により国境が閉鎖され、移動制限が実施された際のヨーロッパの果樹農家にとっての大きな懸案事項であった - が晩春から初夏にかけて発生し、剪定・摘果等の手入れと防除作業に影響を与えた。収穫時までには、季節労働者に関連する法的問題は解決した（ただし、一部の東ヨーロッパの生産者は、ウクライナとモルドバからの季節労働者が少ないと報告した）。EUの各加盟国では国レベルの業界団体がCOVID-19の予防策に関して、生産者や季節労働者に実践的な情報、ガイドライン、ヒントを提供した。

消費への影響

消費に関しては、COVID-19の良い影響と悪い影響が混在した。ロックダウン中（ロックダウンの期間は国によって異なるが、一般的には2020年3月から6月、またはその期間の一部において実施された。）のリンゴ、ナシ、生食用ブドウの家庭外での消費は、ホテル、レストラン、飲食サービス施設の閉鎖により急減した。人々が家に居るため、軽食の持ち歩きは完全に停止した。これらの減少の一部は、消費者が健康的で貯蔵可能な食品を買いだめするにつれて、小売の売上が増加することで相殺された。リンゴは、ホームベーキングの見直しにより恩恵を受けた。今後については、予想されるCOVID-19関連の景気後退の深刻さによって、消費者は果物の購入を減らす（例えばハンガリー）か、特売の時に購入することを選択するなど、消費が変化する可能性がある。

貿易・流通への影響

パンデミック当初の国境の閉鎖により、EU域内の国境を越えた貿易にはいくらかの混乱が生じたが、すぐに解消した。国際貿易は、輸出先（中国及び南米）のロックダウン措置の影響を受けたが、その影響はパンデミックの初期段階に限定された。しかし、業界の専門家は、ソーシャルディスタンス対策が流通プロセスに影響を与え続けており、パンデミック前よりも多くの時間を必要としていると指摘している。これは、物流の一般的な混乱と相まって、ナシの販売と配送のコストを増加させた。

＜英国のEU離脱＞

英国はEU産の果実にとって重要な市場である。EUの英国向け果実輸出全体に悪影響を及ぼす可能性があるため、EU27カ国の果実業界は、現在交渉されている移行期間終了後のEUと英国の貿易協定の詳細に懸念を抱いている。英国側では、生産者は通常翌年の収穫労働者を秋に募集するので、EU離脱に伴う不確実性は、今後の労働者確保に関する懸念を生み出している。

品目別図表

＜リンゴ＞

リンゴ(生鮮) 販売年度の開始月 欧州連合	2018/2019 2018 年 7 月		2019/2020 2019 年 7 月		2020/2021 2020 年 7 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	531,246	530,500	530,658	530,247	0	530,975
収穫面積	405,013	517,442	507,840	515,709	0	517,221
商業的生産量	13,166,729	13,199,988	10,626,790	11,011,426	0	10,802,640
非商業的生産量	1,863,672	1,828,623	850,000	693,280	0	1,424,800
生産量合計	15,030,401	15,028,611	11,476,790	11,704,706	0	12,227,440
輸入量	493,300	493,322	470,000	502,524	0	516,000
総供給量	15,523,701	15,521,933	11,946,790	12,207,230	0	12,743,440
国内消費量	14,328,301	14,346,553	10,946,790	11,192,056	0	11,628,440
輸出量	1,195,400	1,175,380	1,000,000	1,015,174	0	1,115,000
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向量	15,523,701	15,521,933	11,946,790	12,207,230	0	12,743,440
単位: ヘクタール、トン						

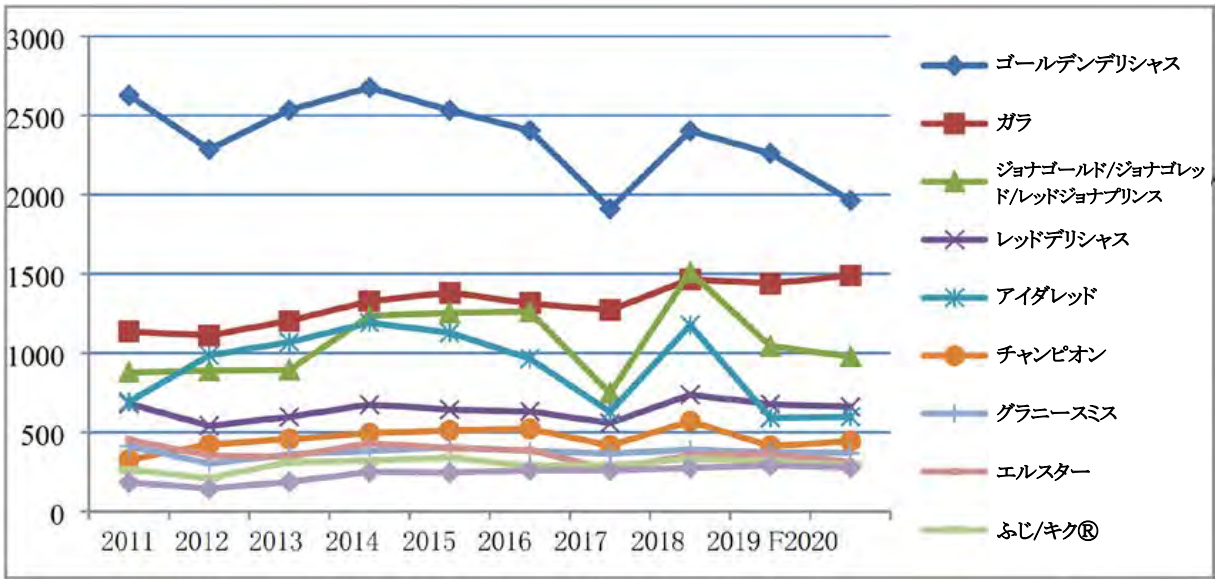
出典: 2018/19年度及び2019/20年度の貿易量は Trade Data Monitoring (TDM) 2020年9月25日アクセス
その他は海外農業局EU各国事務所

EU28カ国のリンゴの商業的生産量 (トン)

国　名	2018/19	2019/20	2020/21 推計値	2020/21 対前年増減	2020/21 生産量シェア
ポーランド	4,700,000	3,040,000	3,300,000	9 %	31 %
イタリア	2,264,081	2,095,586	2,079,970	-1 %	19 %
フランス	1,441,000	1,519,000	1,377,000	-9 %	13 %
ドイツ	1,093,000	991,451	951,000	-4 %	9 %
スペイン	532,950	619,300	598,900	-3 %	6 %
ルーマニア	470,000	370,000	380,000	3 %	4 %
ハンガリー	628,819	465,000	320,000	-31 %	3 %
ギリシャ	293,958	281,308	290,000	3 %	2.7 %
ポルトガル	249,960	340,000	287,000	-16 %	2.7 %
オランダ	267,000	272,000	234,000	-14 %	2.2 %
英国	219,000	205,000	207,000	1 %	1.9 %
ベルギー	222,200	233,000	160,000	-31 %	1.5 %
オーストリア	239,979	184,265	150,000	-19 %	1.4 %
チェコ	151,528	102,847	111,230	8 %	1.0 %
スロベニア	86,587	54,272	70,000	29 %	0.6 %
クロアチア	90,500	63,000	60,000	-5 %	0.6 %
リトアニア	62,000	26,000	58,000	123 %	0.5 %
ブルガリア	46,298	40,122	40,500	1 %	0.4 %
スウェーデン	32,000	20,000	32,000	60 %	0.3 %
スロバキア	43,928	35,185	29,540	-16 %	0.3 %
デンマーク	24,000	15,000	24,000	60 %	0.2 %
アイルランド	20,000	21,000	21,000	0 %	0.2 %
ラトビア	14,000	10,000	14,000	40 %	0.1 %
フィンランド	7,200	8,090	7,500	-7 %	0.1 %
合計	**13,199,988**	**11,011,426**	**10,802,640**	**-2 %**	

注: 表は、2020/2021年度の生産量が多い順で表示。四捨五入のためシェアの合計が100%をわずかに上回る。
出典: 海外農業局EU各国事務所

EU27カ国及び英国のリンゴ上位10品種の生産量の推移(千トン)



F = 予測　出典: 海外農業局EU各国事務所(世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)のデータに基づく)

EU27カ国及び英国のリンゴ輸入量 (トン)

輸入先国	2017/18	2018/19	2019/20	2019/20 対前年増減	2019/20 輸入量シェア
チリ	158,703	148,957	141,518	-5 %	28 %
ニュージーランド	135,780	127,702	114,076	-11 %	23 %
南アフリカ	109,689	92,132	94,990	3 %	19 %
北マケドニア	9,964	43,280	44,314	2 %	9 %
セルビア	24,858	9,032	44,071	388 %	9 %
アルゼンチン	24,400	18,129	18,388	1 %	4 %
ブラジル	28,313	26,161	12,734	-51 %	3 %
アルバニア	1,410	5,770	8,029	39 %	2 %
ウクライナ	11,588	10,699	7,307	-32 %	1 %
モルドバ	7,311	651	5,297	714 %	1 %
ボスニア・ヘルツェゴビナ	2,201	1,028	4,137	302 %	1 %
米国	**5,330**	**2,206**	**2,137**	**-3 %**	**0.4 %**
その他	11,050	7,575	5,526	-27 %	1 %
世界合計	**530,597**	**493,322**	**502,524**	**-2 %**	

注: 表は、2019/20年度の輸入量が多い順で表示。四捨五入のためシェアの合計が100%をわずかに上回る。
出典: Trade Data Monitoring (TDM) 2020年9月25日アクセス

EU27カ国及び英国のリンゴ輸出量 （トン）

輸出先国	2017/18	2018/19	2019/20	2019/20 対前年増減	2019/20 輸出量シェア
エジプト	71,693	268,236	250,715	−7 %	25 %
ベラルーシ	197,076	199,159	152,187	−24 %	15 %
サウジアラビア	59,503	81,953	79,035	−4 %	8 %
カザフスタン	58,640	84,938	59,817	−30 %	6 %
インド	11,471	76,584	48,154	−37 %	5 %
ヨルダン	29,245	52,936	40,118	−24 %	4 %
アラブ首長国連邦	35,381	46,581	38,061	−18 %	4 %
ノルウェー	33,161	34,978	32,991	−6 %	3 %
ブラジル	19,411	24,894	24,909	0.1 %	2 %
イスラエル	15,920	19,137	21,736	14 %	2 %
ウクライナ	3,911	17,138	19,509	14 %	2 %
コロンビア	9,804	10,429	19,188	84 %	2 %
スイス	32,010	15,778	18,615	18 %	2 %
ボスニア・ヘルツェゴビナ	19,072	19,661	18,197	−7 %	2 %
セルビア	26,280	23,903	12,103	−49 %	1 %
リビア	8,669	15,742	10,969	−30 %	1 %
ベトナム	5,117	8,144	10,497	29 %	1 %
米国	**93**	**24**	**22**	**−10 %**	**0.002 %**
その他	124,711	175,165	158,351	−10 %	16 %
世界合計	**761,168**	**1,175,380**	**1,015,174**	**−14 %**	

注: 表は、2019/20年度の輸出量が多い順で表示。四捨五入のためシェアの合計が100%をわずかに上回る。
出典: Trade Data Monitoring (TDM) 2020年9月25日アクセス

EU産と米国産のリンゴが競合する主要輸出市場

輸出市場	米国産リンゴと競合するEU加盟国
サウジアラビア	イタリア、フランス、スペイン、ギリシャ
アラブ首長国連邦	フランス、イタリア、スペイン
インド	イタリア、ポーランド、ベルギー、フランス、スペイン

＜ナシ＞

ナシ(生鮮) 販売年度の開始月 欧州連合	2018/2019 2018 年 7 月		2019/2020 2019 年 7 月		2020/2021 2020 年 7 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	116,054	116,264	116,677	116,059	0	115,770
収穫面積	111,289	111,417	111,655	111,505	0	110,173
商業的生産量	2,398,917	2,397,807	2,078,575	1,964,701	0	2,217,834
非商業的生産量	192,889	192,744	105,900	96,718	0	119,050
生産量合計	2,591,806	2,590,551	2,184,475	2,061,419	0	2,336,884
輸入量	168,600	168,450	180,000	182,694	0	170,000
総供給量	2,760,406	2,759,001	2,364,475	2,244,113	0	2,506,884
国内消費量	2,450,106	2,448,689	2,069,475	1,938,977	0	2,194,431
輸出量	310,300	310,312	295,000	305,136	0	312,453
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向量	2,760,406	2,759,001	2,364,475	2,244,113	0	2,506,884
単位: ヘクタール、トン						

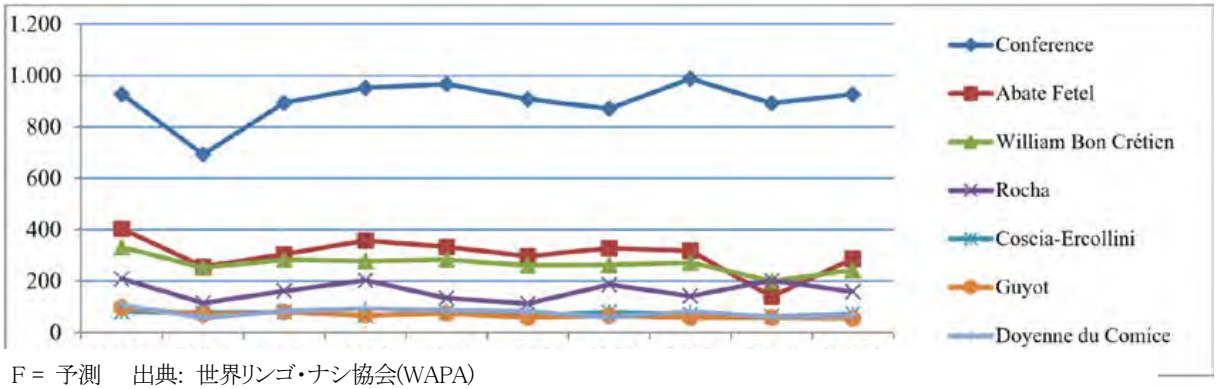
出典: 2018/19年度及び2019/20年度の貿易量は Trade Data Monitoring (TDM) 2020年9月アクセス
その他は海外農業局EU各国事務所

EUのナシの商業的生産量 (トン)

国　名	2018/19	2019/20	2020/21 推計値	2020/21 対前年増減	2020/21 生産量シェア
イタリア	730,000	363,000	642,000	77 %	29 %
オランダ	402,000	373,000	373,000	0 %	17 %
ベルギー	358,000	322,000	352,000	9 %	16 %
スペイン	294,333	307,651	295,847	-4 %	13 %
ポルトガル	159,350	200,000	157,000	-22 %	7 %
フランス	129,000	120,000	130,000	8 %	6 %
ギリシャ	80,096	76,270	76,000	0 %	3 %
ポーランド	85,000	68,000	65,000	-4 %	3 %
ドイツ	47,644	42,477	40,200	-5 %	2 %
ルーマニア	25,000	22,000	20,000	-9 %	1 %
英国	23,000	20,000	18,000	-10 %	1 %
その他	64,384	50,303	48,787	-3%	2 %
合計	**2,397,807**	**1,964,701**	**2,217,834**	**13 %**	

出典: 海外農業局EU各国事務所

EUのナシ主要品種の生産量の推移 (千トン)



F = 予測　出典: 世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)

Source: WAPA data

EUのナシ輸入量 （トン）

輸入先国	2017/18	2018/19	2019/20	2019/20 対前年増減	2019/20 輸入量シェア
南アフリカ	77,699	68,560	65,208	−5 %	36 %
アルゼンチン	53,370	42,070	50,911	21 %	28 %
チリ	46,020	39,313	40,365	3 %	22 %
中国	12,985	8,735	12,675	45 %	7 %
トルコ	5,989	5,184	9,869	90 %	5 %
セルビア	1,476	1,342	1,314	−2 %	0.7 %
ボスニア・ヘルツェゴビナ	554	1,501	1,071	−29 %	0.6%
スイス	56	222	464	109 %	0.3 %
ニュージーランド	484	236	313	33 %	0.2 %
ウルグアイ	387	949	225	−76 %	0.1 %
米国	**157**	**2**	**1**	**−50 %**	**0.001 %**
他	645	336	278	−17 %	0.2 %
合計	**199,822**	**168,450**	**182,694**	**8 %**	

出典: Trade Data Monitoring (TDM) 2020年9月アクセス

EUのナシ輸出量 （トン）

輸出先国	2017/18	2018/19	2019/20	2019/20 対前年増減	2019/20 輸出量シェア
ベラルーシ	130,919	117,181	120,119	3 %	39 %
ブラジル	63,058	48,226	42,905	−11 %	14 %
モロッコ	40,885	39,258	38,816	−1 %	13 %
ノルウェー	17,156	15,650	12,972	−17 %	4 %
カザフスタン	11,641	12,961	12,446	−4 %	4 %
ボスニア・ヘルツェゴビナ	10,729	10,592	8,105	−23 %	3 %
中国	5,071	7,711	6,641	−14 %	2 %
ウクライナ	1,540	2,701	6,385	136 %	2 %
スイス	11,507	6,036	5,967	−1 %	2 %
サウジアラビア	7,572	4,836	5,827	20 %	2 %
イスラエル	3,457	4,594	5,650	23 %	2 %
リビア	2,745	3,991	4,748	19 %	2 %
アラブ首長国連邦	3,532	2,612	3,294	26 %	1 %
セルビア	2,959	2,849	3,183	12 %	1 %
ロシア	1,786	2,159	2,849	32 %	1 %
カナダ	2,726	2,712	2,748	1 %	1 %
その他	27,225	26,243	22,481	−14 %	7 %
合計	**344,508**	**310,312**	**305,136**	**−2 %**	

出典: Trade Data Monitoring (TDM) 2020年9月アクセス

＜生食用ブドウ＞

ブドウ(生鮮・生食用) 販売年度の開始月 欧州連合	2018/2019 2018 年6月		2019/2020 2019 年6月		2020/2021 2020 年6月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	農務省公式	今回推計値	農務省公式
栽培面積	95,419	95,082	95,190	95,199	0	95,320
収穫面積	89,754	90,178	89,645	90,171	0	90,652
商業的生産量	1,585,933	1,578,483	1,365,000	1,564,743	0	1,394,000
非商業的生産量	11,000	11,005	10,500	8,521	0	8,500
生産量合計	1,596,933	1,589,488	1,375,500	1,573,264	0	1,402,500
輸入量	681,600	681,569	675,000	677,210	0	678,000
総供給量	2,278,533	2,271,057	2,050,500	2,250,474	0	2,080,500
国内消費量	2,199,733	2,192,221	1,975,500	2,172,346	0	2,005,500
輸出量	78,800	78,836	75,000	78,128	0	75,000
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向量	2,278,533	2,271,057	2,050,500	2,250,474	0	2,080,500

出典: 2018/19年度及び2019/20年度の貿易量は Trade Data Monitoring (TDM) 2020年9月アクセス
その他は海外農業局EU各国事務所

EUの生食用ブドウの商業的生産量 (トン)

国　名	2018/19	2019/20	2020/21 推計値	2020/21 対前年増減	2020/21 生産量シェア
イタリア	850,000	830,000	665,000	−20 %	48 %
スペイン	308,410	314,140	300,000	−5 %	22 %
ギリシャ	294,183	296,780	300,000	1 %	22 %
ルーマニア	61,400	48,200	50,000	4 %	3.6 %
フランス	35,000	46,000	50,000	9 %	3.6 %
ポルトガル	17,590	17,780	18,000	1.2 %	1.3 %
ブルガリア	11,900	11,843	11,000	−7 %	0.8 %
合計	**1,578,483**	**1,564,743**	**1,394,000**	**−11 %**	

注: 四捨五入のためシェアの合計が100%をわずかに上回る。
出典: 海外農業局EU各国事務所

EUの生食用ブドウ輸入量 （トン）

輸入先国	2017/18	2018/19	2019/20	2019/20 対前年増減	2019/20 輸入量シェア
南アフリカ	206,024	202,381	214,963	6 %	32 %
ペルー	63,349	100,661	94,346	−6 %	14 %
インド	90,547	114,801	88,634	−23 %	13 %
チリ	111,268	88,262	86,291	−2 %	13 %
エジプト	76,440	52,860	71,545	35 %	11 %
ブラジル	34,886	38,188	35,074	−8 %	5 %
トルコ	39,682	24,381	29,736	22 %	4 %
ナミビア	25,085	25,504	24,250	−5 %	4 %
モルドバ	20,471	16,572	19,231	16 %	3 %
モロッコ	6,419	6,458	5,079	−21 %	0.75 %
北マケドニア	3,965	5,325	3,926	−26 %	0.58 %
米国	**5,002**	**2,091**	**391**	**−81 %**	**0.06 %**
その他	4,972	4,085	3,744	−8 %	0.55 %
合計	**688,110**	**681,569**	**677,210**	**−1 %**	

出典: Trade Data Monitoring（TDM） 2020年9月アクセス　四捨五入のためシェアの合計が100%をわずかに上回る。

EUの生食用ブドウ輸出量 （トン）

輸出先国	2017/18	2018/19	2019/20	2019/20 対前年増減	2019/20 輸出量シェア
スイス	29,825	26,894	24,763	−8 %	32 %
ノルウェー	13,881	15,158	16,244	7 %	21 %
アルバニア	2,138	3,217	3,195	−1 %	4 %
南アフリカ	2,800	3,270	3,059	−6 %	4 %
ボスニア・ヘルツェゴビナ	2,113	2,323	2,932	26 %	4 %
ウクライナ	1,589	2,424	2,551	5 %	3 %
サウジアラビア	2,194	1,796	2,076	16 %	2.7 %
ベラルーシ	3,644	2,674	2,005	−25 %	2.6 %
アラブ首長国連邦	2,971	2,868	1,975	−31 %	2.5 %
ロシア	2,172	2,549	1,806	−29 %	2.3 %
コソボ	480	706	1,165	65 %	1.5 %
ナイジェリア	433	600	1,142	90 %	1.5 %
米国	**712**	**712**	**1,004**	**41 %**	**1.3 %**
セルビア	471	652	870	33 %	1.1 %
アイスランド	970	758	789	4 %	1.0 %
カナダ	1,005	975	689	−29 %	0.9 %
リビア	19	−	686	100 %	0.9 %
カタール	831	846	671	−21 %	0.9 %
ブラジル	1,014	420	634	51 %	0.8 %
他	9,428	9,994	9,872	−1 %	13 %
合計	**78,690**	**78,836**	**78,128**	**−0.9 %**	

出典: Trade Data Monitoring（TDM） 2020年9月アクセス　四捨五入のためシェアの合計が100%をわずかに上回る。

123. 中国の落葉果実事情(生食用ブドウ)

米国農務省GAINレポート(2020年11月1日)

これは米国農務省海外農業局北京事務所(中国)が作成した「落葉果実年次報告書」の中のハイライト及び生食用ブドウに関する部分を訳したものであり、米国政府の公式見解・データとは異なる場合があります。

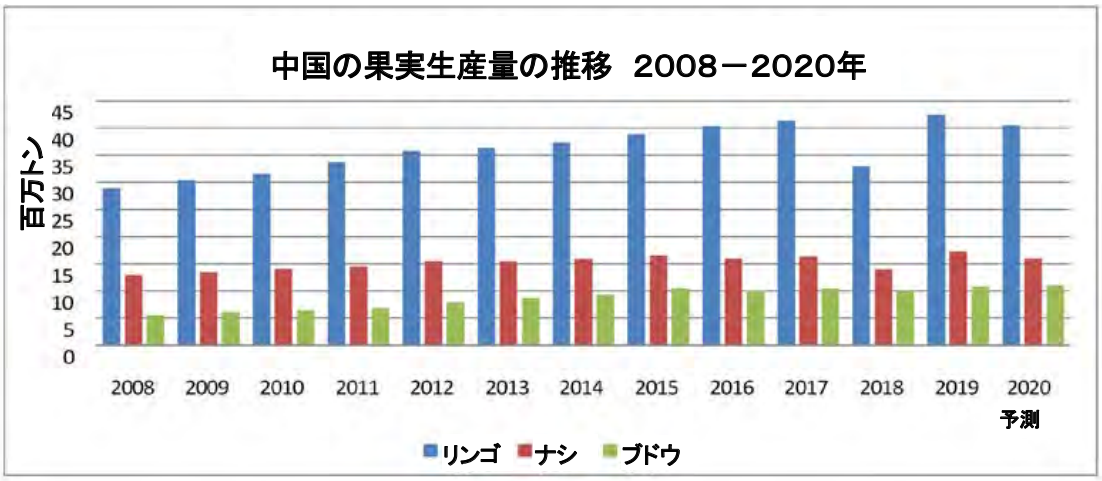
レポートのハイライト

中国のリンゴとナシの2020/21年度の生産量は、主に開花期の霜による被害のため減少し、それぞれ4,050万トン及び1,600万トンと予測される。ブドウの2020/21年度の生産量は、栽培技術の継続的な向上により、1,100万トンに増加すると見込まれる。同時に、COVID-19の大流行は景気減退をもたらし、消費者の果物購入を減少させた。これらのことから、2020/21年度は需要が減少する中、落葉果実の輸入量も減少する可能性が高い。

生産

中国の2019年のリンゴ、ナシ、生食用ブドウの生産量は引き続き世界最大である。

中国: 主要落葉果実生産量



出典: 海外農業局北京事務所、中国国家統計部

〈生食用ブドウ〉

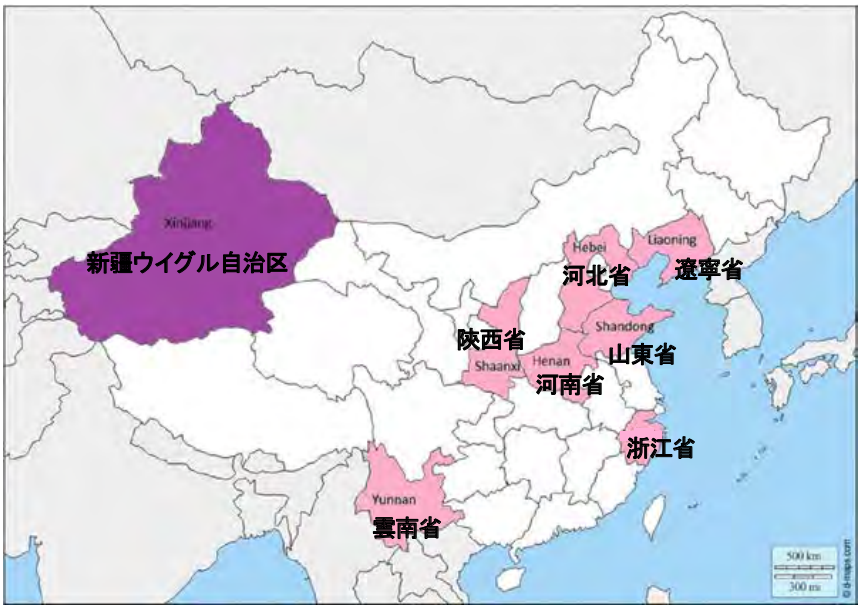
中国の2020/21年度(6月～5月)の生食用ブドウの生産量は、ブドウ生産者の栽培技術の進歩により、当事務所の前年度の改定見通しから4%近くの増の1,100万トンと見込まれる。ブドウは、リンゴやナシとは異なり、生産しているほとんどの省で生育期間中の異常気象による深刻な被害を受けなかった。しかし、中国北部の夏の大雨により果実の食味は低下した。業界情報に基づいて2019/20年度の生産予測を見直した。

新疆ウイグル自治区では、政府は、首都ウルムチ市でのCOVID-19大流行に伴い、7月中旬に自治区全域で検疫封鎖を実施した。その結果、地元の情報筋によると、ブドウの収穫を含む多くの農業活動が中断した。生食用ブドウは中国のいくつかの州で生産されているが、ウルムチ市以外では同様の封鎖措置は講じられなかった。さらに、生食用ブドウは傷みやすいため、通常、産地の近くで流通し消費される。このため、新疆ウイグル自治区の封鎖措置の中国における生食用ブドウ生産全体への影響は限られていた。

2020/21年度のブドウ栽培面積は、前年よりわずかに多い72万8,000ヘクタールと予測される。ブドウ栽培面積は安定しているが、業界の推計では、農家は、2018年に合わせて総栽培面積の57%を占めたレッドグローブや巨峰などの従来品種を改植し、シャインマスカット、サマーブラック、ジャンボマスカット、ゴールドフィンガー及びクリムゾンシードレスなどの人気品種の栽培面積を増やした。例えば、シャインマスカットの栽培は、急速にほぼすべてのブドウ生産省へと拡大し、栽培面積は10%近いシェアを占める。急速な拡大

により、今年のシャインマスカットの1キロ当たりの価格は50%以上下落した(価格の項参照)が、従来品種よりは高い価格を維持している。また、多くの農家は、ブドウの品質向上及び価格が高い場合に供給期間を延ばすために温室及び雨よけの設置への投資に意欲的である。当事務所は、過去2年間の栽培面積の数値を中国農業農村部の統計に基づいて修正した。

中国の主要ブドウ栽培省



出典: China Statistical Yearbook(2019 データ)

紫色: 中国生産量の20%以上(新疆ウイグル自治区)

ピンク色: 5%～10%(河北省、山東省、雲南省、河南省、遼寧省、浙江省、陝西省)

価格

〈生食用ブドウ〉

今年の生食用ブドウは、生産が増加する中で価格の低下が続いている。中国果物マーケテイング協会の価格データによれば、巨峰の平均卸売価格は9月初旬に1キログラム当たり7.37人民元(1.08米ドル)と、前年同時期より8%減少した。一定品質以上のシャインマスカットの小売価格は、栽培面積の急速な拡大により、1キログラム当たり20～40人民元(2.94～5.88米ドル)と前年より50%近く下がった。

消費

〈生食用ブドウ〉

生食用ブドウの消費は依然として強い。品質向上と新品種により、生食用ブドウの需要は増加している。中国の消費者はマスカットのような香りの良いブドウを好み、種なし品種は次第に人気が高まってきている。中国全土の消費者は、シャインマスカットのような高級ブドウ品種を買う余裕がまだ無い。しかし、今後は価格がより多くの消費者にとって手頃なものとなり、ブドウ消費量は増え続けると予想される。

2020年1月のCOVID-19の大流行は、所得と裁量的支出に大きな影響を与え、果実の消費減少をもたらした。すなわち、2020年上半期の一人当たりの可処分所得は2.4%増加したが、インフレを考慮すると1.3%減少した。市場関係者の報告によれば生鮮果実の販売は、2020年の最初の9ヶ月間大幅に減少したが、オンラインでの果実購入は増加した。

輸入

COVID-19の大流行は、2020年第1四半期に物流崩壊を引き起こし、消費は減速した。その結果、2020年上半期に多くの輸入業者は資金を失い、輸入に慎重となった。ブドウの場合、国内産が輸入品の代わりとなった。しかし、熱帯果実及び南半球諸国産の果物(中国のオフシーズン中)の輸入は、比較的強いままと予想される。

〈生食用ブドウ〉

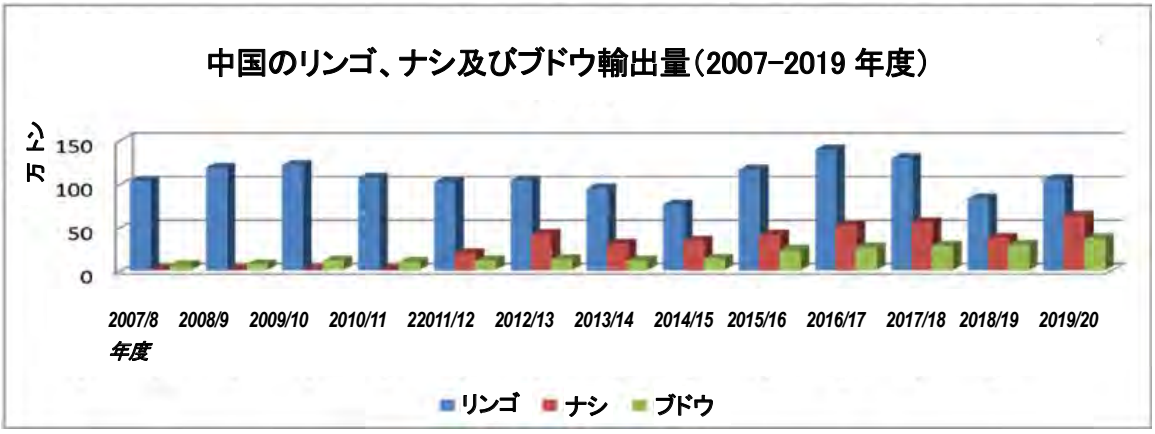
中国の生食用ブドウ輸入量は、2020/21年度(6月～5月)22万トン、前年度比6%減と予測される。中国産の生産量増大及び品質向上により、ブドウ輸入は減る見込みである。中国の輸入業者は、リンゴと同様に、中国のオフシーズン期間中、チリ、オーストラリア及びペルー等の南半球諸国から大部分のブドウを購入する。北半球諸国からの輸入は減少した。種なし品種の需要は依然として強い。国内産の種なし品種の品質は引き続き向上し、国内産のレッドグローブ種の生産は引き続き増加していることから、レッドグローブ種の輸入は減少している。

輸出

〈生食用ブドウ〉

2020/21年度のブドウ輸出量は42万トン、前年度比17%増と予測される。中国は、ブドウの生産量及び品質が増加・向上し続けており、ブドウ輸出の強い勢いを維持すると見込まれる。リンゴ及びナシと同様に、中国産ブドウは主にASEAN諸国に輸出される。

中国の落葉果実輸出量の比較



出典: China Customs data

米国産生食用ブドウ

ここ数年、主要な生食用ブドウ生産者は、新品種、そして、ブドウの棚持ち(日持ち)を長くする新しい包装技術の研究開発に投資したことから、国内産の生食用ブドウの品質が大幅に向上した。緑色と黒色の種なし品種は、中国の消費者に人気があり、販売業者に高い利益率をもたらしている。雲南省で開発された緑色の種なし品種のシャインマスカット(原文のまま)は、早くから全国的な人気を獲得し、価格は過去最高を記録し、栽培面積は増加し、そして今年は価格が大幅に低下した(価格の項参照)。

輸入ブドウについて小売関係者は、消費者の認知度と購買意欲を高めるため、輸入ブドウの特徴を強調した販売促進用品と装飾を使った店内でのプロモーションが大幅な売上増加に寄与したと報告している。

小売関係者はまた、中国の大きな祝日に合わせた販売促進イベントは極めて効果的である、品質が良い特別品、新品種そして豪華に包装されたものに対する支出を惜しまない消費者(特に大都市)が増えていると述べている。

124. 中国のマンダリン市場　今年は不調

FreshPlazaウェブサイト（2020年11月3日）

冬はマンダリンの季節であるが、今年の出荷は例年よりも早く始まった。中国の国内市場にはすでに大量のマンダリンが入荷している。シャタンタンジェリン（沙糖桔）、アイユアンタンジェリン（爱媛柑）及びハニーマンダリンは、通常11月下旬に市場に入荷するが、今年はすでに全国で出回っている。このように早生品種の収穫と販売はすでに進行中であるが、農家は例年ほど熱心ではない。

早生品種の購入価格は昨年ほど良くない。昨年のハニーマンダリンの購入価格は0.5キログラム当たり約1元（0.15米ドル）であったが、今年の平均価格は半分以下となり、すでに0.4元（0.06米ドル）を下回っている。この傾向は、広西省、江西省、湖北省のすべての主要産地で見られる。販売量も少ない。マンダリンの販売には大きな圧力がかかっている。

専門家は、通常この時期には（早生品種の）生産量の約3分の2はすでに売れているが、今年は2分の1だけだと言う。マンダリンの現在の価格は0.5キロ当たり0.4元（0.06米ドル）まで下落しており、農家は残りの果実の買い手を探している。マンダリンの販売シーズンは始まったところだが、このような市場の困難な状況に農家は安心できない。マンダリン市場の出だしは暗い。

COVID-19の発生は、マンダリンの輸出市場にも影響を与えた。海外経済はパンデミックの影響に揺らいでいる。このため、少なくとも今のところ、中国のマンダリン業者の関心は国内市場にあり、輸出量は極めて限られている。海外のバイヤーが突然大量のマンダリンを購入する可能性は事実上ない。このことが、中国のマンダリン農家や業者に大きな圧力となっている。供給量は膨大で、風味は理想的ではなく、マンダリンの一部は市場販売に適さない状況である。

専門家によると、中晩生の品種にも問題がある。今年はマンダリン販売にとって悲惨な年かも知れない。

出典: Hebei Crown Pear Production and Supply

125. 北半球の柑橘類生産はわずかに減少の予測

EUROFRUIT電子版（2020年11月4日）

世界柑橘類機構（WCO）事務局は、エジプト、ギリシャ、イスラエル、イタリア、モロッコ、スペイン、チュニジア、トルコ及び米国の業界団体から収集した北半球の2020/21年産柑橘類の最初の生産見通しを発表した。

この予備的な推計によると、合計生産量は2,874万トンと予想され、前年比1%のわずかな減少となった。WCO によると、量が少ないのは、一部の国で裏年であることと、いくつかの地域の干ばつの影響である。

オレンジは2%減、レモンは7%減、グレープフルーツは9%減と、ほとんどの品目で前年よりも生産量が減少すると予想されている。生産量が増加する唯一の品目がソフト柑橘類であり、5%増と見込まれる。

地域別では、欧州で生産量の増加が見込まれ、ギリシャで1%の減少が予想されるものの、イタリアとスペインはともに12%の増加が予測される。

地中海地域では、エジプト（-8%）、イスラエル（-4%）、トルコ（-15%）で前年度より減少し、モロッコとチュニジアはそれぞれ13%と20%の増加を予想している。

2020/21年度の北半球柑橘類生産予測（カッコ内は前年度）

総生産量	2,874万トン（2,903万トン）	増減率 -1%
オレンジ	1,608万トン（1,639万トン）	増減率 -2%
ソフト柑橘類	803万トン（763万トン）	増減率 +5%
レモン	384万トン（414万トン）	増減率 -7%
グレープフルーツ	78万7,991トン（86万7,355トン）	増減率 -9%

126. チリのサクランボ輸出 3割以上急増の見込み

FreshFruitPortalウェブサイト（2020年11月9日）

チリのサクランボ業界は、2020/21年度に36%の巨大な成長を予測しており、そうであればすでに体制が確立されているこの品目の輸出量は約31万トンに達する。

チリの果実輸出業協会（Asoex）が発表した、近年の業界の持続的な成長を裏打ちするこの数字は、5キロ箱で6,200万箱に相当する。その大部分は中国市場に出荷されるが、一部は北米等他の市場に送られる。

同協会のロナルド・バウン会長は、チリのサクランボ産業は量と品質の両方で順調に成長しているとしつつ、「今季は主にパンデミックのために課題の多い年になる。このため、チリ・サクランボ委員会は、可能な限り迅速に行動できるように、起こり得るすべてのことに備えた計画を立て、障害の回避に力を入れる」と述べた。この計画には、業界が労働者の健康と商品の安全性を確保するための手順の策定が含まれる。

中国では旧正月を過ぎると市場の需要が大幅に減少する。今年の旧正月は2月12日と遅いので、その前にチリ産のサクランボを大量に販売できる機会が大きい。

同会長はさらに、「中国は、我々のサクランボにとって重要な市場のひとつだ。サクランボの赤い色が希望と良い前兆を象徴しているので、特に旧正月には家族や友人と一緒に食べ、または贈り物として送ることが好まれる。

しかし、我々は米国、中南米諸国、中東諸国にもサクランボを輸出しており、アジア市場では韓国、台湾、タイ、シンガポール、フィリピン、インド、日本、カンボジア、マレーシア、ビルマに、今シーズンからベトナムが加わった」と述べた。

同協会は今年も中国でサクランボの購入を奨励する大規模なプロモーションを実施する予定である。既に本サイトで報告しているように、市場の不確実性が続く中、中国の一部の輸入業者は慎重になっている。

127. 中国 柑橘類販売仮想イベントで約86億円相当の輸出契約を締結

FreshPlazaウェブサイト（2020年11月10日）

初めての柑橘類仮想国際商談会が宜昌市（湖北省）で開催され、一帯一路構想に関連する27の国と地域から参加した103のバイヤーが同市の6つの柑橘類企業と商談を行い、柑橘類及び柑橘類製品約11万トンに関する総額8,200万米ドルの国際購入契約に署名した。

宜昌市は古くから「柑橘類の故郷」として知られてきた。現在、柑橘類産業の産出総額は140億元（約2千億円）に達しており、宜昌マンダリン、秭帰（Zigui）ネーブルオレンジ、清江ポンカンの3つの主要な地域認証ブランドをはじめいくつかの有名ブランドを有している。宜昌市の柑橘類は中国の国内外で販売されており、幅広い消費者から高く評価されている。

この会議は、オンラインとオフラインを統合した新しいモデルを開発した。これによって、宜昌市からより多くの柑橘類が世界に出荷され、より多くの海外消費者が中国を理解し、宜昌市を好きになってもらう機会が開かれることが期待されている。会議に先立ち、市内の主要な柑橘類輸出企業も国際的なバイヤーと3回のオンライン会議を開催し、前向きな成果を得た。

出典: Sanxia Daily

128. コロンビア ハスアボカドの輸出はパンデミック下の今年も続伸

FreshPlaza電子版（2020年11月10日）

コロンビア産ハスアボカドの輸出は目覚ましい成長を示している。2019年の輸出量は前年に比べて49%増加し、今年の1月から8月の期間にもパンデミックにもかかわらず前年同期比30%増加した。この増加率は年間でも変わらないと予想されている。コロンビアのハスアボカド生産輸出会社（Corpohass）役員であるレストレポ氏は、ウェブセミナー「農産業2021：農業セクターの予測と課題」でこのように述べた。

同氏また、「2021年の輸出量は2020年に比べ最大40%増加する可能性がある。さらに、コロンビアのこのセクターには成長を続ける絶好の機会がある。コロンビアのアボカド輸出先の90%を占める欧州連合（EU）への依存を減らすため、米国、中国、日本、アルゼンチン、ペルーなどの近年開かれた市場を活用するべきだ。国際市場でハスアボカドの地位を確立するためには、生産者は認証ー特に環境、生産工程管理、経済的社会的持続可能性に関する認証ーの重要性を認識しなければならない。」と言う。

同氏はさらに「コロンビアでは、輸出の発展に関連する商品やサービスは、輸出と同じ割合、すなわち30%ないしは40%では成長していない。バリューチェーンの関係者は、これが成長セクターであることを理解する必要があり、現在のボトルネック（の解消）を貿易の発展を促進するためのチャンスと捉えるべきだ。我々は、この分野の重要性とダイナミズムを関係者全体に認識させるためのコミュニケーションにもっと積極的になり、多くの投資を行う必要がある。アボカドの輸出は10年前には統計にも表れなかったが、新植と梱包施設の建設への投資が増加しており、今やコロンビアで4番目に多い輸出農産物である」と述べた。この分野は近年、発展が加速しているが、チリ、ペルー、南アフリカなどの他の国と比較するとまだ若く、長期的には多くの可能性がある。

出典：agraria.pe

129. メキシコ 日本向けアボカド輸出の衛生措置を強化

FreshPlaza電子版（2020年11月11日）

メキシコ農業省は、同国の主要なアボカド生産者と輸出業者が、日本市場向け出荷にかかる衛生措置を強化することに合意したと発表した。

ミチョアカン州アボカド出荷販売組合（Udecam）、ペリバン市（ミチョアカン州）アボカド出荷組合（Ueapac）、ハリスコ州アボカド生産輸出協会（Apeajal）及び全国アボカド生産出荷協会（Apeam）は、日本向けアボカドの輸出手続きについて職員を訓練し、また国の農産食品健康・安全・品質局（Senasica）が設定した汚染と農薬に関する概念について職員の認識を強化することを約束した。

同省によると、各団体はまた、無認可の農薬の使用及び国内の法的制限を逸脱した農薬の使用を避けるため、所属する生産者に対する一連の技術指導と訓練を毎年実施する。各団体はさらに、Senasicaが認定した業者から優先的に資材を入手し、日本向けにアボカドを出荷するごとに残留農薬の分析結果をメキシコの保健当局に提示することに合意した。

日本は米国とカナダに次いでメキシコ産アボカドの3番目の輸出先である。農業省によると、日本への輸出額は年間1億4,900万米ドル以上に上る。

Senasicaのメンデス農水産品安全部長は、日本市場は健康と安全の面で、世界的に見て最も要求の厳しい市場の一つであるので、生産者に対応を強化するよう求めたと語った。日本で消費されるアボカドの9割は、世界最大のアボカド生産国であるメキシコの産品である。

出典：efeagro.com（訳注：最後の段落は原典から引用して追加しました。）

130. 世界のミカン類市場

FreshPlazaウェブサイト（2020年11月13日）

訳注：本稿では、原文の mandarin がクレメンタイン、タンジェリン等を含む広義のマンダリンと思われる場合は「ミカン類」、クレメンタイン、タンジェリン等と並ぶ狭義のマンダリンと思われる場合は「マンダリン」と表記しました。

オレンジの需要はコロナウイルスのために今年急激に伸びた。ミカン類もこのより大きな需要の恩恵を受けると期待されたが、そうではなかった。実際、米国や南アフリカ等の国では、ミカン類はオレンジの成功の陰に隠れた。それでも、ミカン類の需要は依然として安定している。特にアメリカとヨーロッパでは、冬の前に需要が増えるとの見込みだ。供給に関しては、スペイン産は大きなサイズがほとんどない。中国産のミカン類の品質は、豪雨により深刻な影響を受けた。

オランダ：ミカン類の販売にコロナの影響無し
サンタクロースが解決策？

スペイン産ミカン類の今年の販売シーズンは、非常に高い期待で始まった。コロナウイルスの大流行は、海外産の入荷時期には柑橘類の需要を押し上げたが、このコロナ効果はスペイン産のシーズンではまだ現れていない。今年はサイズがかなり小さい。その結果、大きなサイズの販売は引き続き順調だが、小さなサイズの販売には少し困難がある。全体として、今シーズンはまだ当初の見込みに達していないが、輸入業者は楽観している。品質の面では、今シーズンは良好であり、サンタクロースの季節が近づけば、需要は再び増大すると見込まれる。

ベルギー：供給と需要がつり合う

ベルギーでは柑橘類のシーズンは良いスタートを切った。市場には海外産がまだある程度の量出回っているが、需要と供給はバランスが取れている。この時期にはマンダリンとクレメンタインの需要は強い。品質も良く価格はかなり良い水準にある。今年は、スペイン産柑橘類の入荷が昨年に比べて20～25%多く見込まれる。ベルギーの取扱業者は、コロナウイルスが柑橘類の需要を刺激しているので、良い柑橘類のシーズンになると期待している。

ドイツ：供給と需要が釣り合う

ドイツの卸売市場では、現在、クレメンタインに関してはスペイ産が独占している。イタリア産は散発的に入荷している。他方、トルコ産のウンシュウミカンは市場で良いポジションにある。トルコのイズミル地方の晩生種は先週から市場に流通しており、ドイツの卸売市場で大人気となっている。トルコのいくつかの輸出業者は、近い将来より多くの小売業者に供給したいと表明している。

全般的には、需要に問題なく応えることができる。ケータリング業界の休業もあり、あちこちで発注をいくらか減らす必要があった。コロナ禍により、価格も大きく変動している。他方、ドイツの消費者は柑橘類に関して依然としてブランド指向が強いようだ。今日、人々は、多くの品物について価格と品質の関係に大きな注意を払う傾向があるが、これは柑橘類にはあまり当てはまらず、Der Flieger や Götterfrucht 等の古くからの高級ブランドは依然として人気が高い。

有機のシーズンも良いスタートを切った。ほぼ1ヶ月前、最初のスペイン産有機クレメンタインが入荷し、現在は特に Clemenules 種と Basol 種が大量に出回っている。ある有機農産物輸入業者は「コロナ禍によって人々はビタミンの豊富な農産物を求めており、いつもより少し大きな需要が見られる。しかし、需要と供給は良くバランスがとれている」と述べた。

フランス：品種が切り替わり中

フランス市場では現在マンダリンの2品種が切り替っている最中である。供給量は十分だが、ポルトガルとスペインの気象の問題もあり、品質はそれほど良くない。ロックダウンと今だに続く高い気温のため需要は大きくなく、このことは消費者は他の果物を選ぶ傾向にあることを意味している。

スペイン：小さなサイズが多い　今後の英国の輸入関税は競争上不利

スペイン農業水産食品省（MAPA）によると、スペインの2020/2021年産クレメンタイン及びマンダリンの収穫量は2019/2020年産より12％多いと見込まれる。自由に栽培できる（一般品種の）Clemenules 種が、現在最も広く栽培・取引されている。生産量は今年回復しているように見えるが、着果数がかなり多いこと及び今年の天候条件により、サイズは全般的にかなり小さく、そのため収穫量は当初の予想より少ないことを考慮しなければならない。

コロナウイルス大流行第一波の広がりが2019/2020年の柑橘類シーズンの終わりをもたらしたように、マンダリンとクレメンタインの新しいシーズン開始時にヨーロッパに到来した第二波は、またもや市場に打撃を与え、不確実性を生み出している。当初小さかった需要が今はやや回復しつつあるように見えるが、ヨーロッパ市場では、特に供給が需要をかなり上回っている小さなサイズを中心に、価格はかなり低い。

英国への輸出では、2021年1月1日からスペイン産クレメンタインとマンダリンに対して16％の関税が課される可能性があり、課税されれば今シーズン後半に強い影響を与えると見込まれる。これらの高い関税は、直接の競争相手であるモロッコ、エジプト又はトルコ等の北半球の第三諸国に対するスペインの競争力を失わせる可能性があり、また、英国はすでにオフシーズン（南アフリカ産が市場に出回っている時期）の優遇ゼロ関税協定に署名した。英国はスペインの輸出業者にとって、ドイツとフランスに次いで3番目に大きな市場であり、購買力の高い6,600万人の消費者を有するこの市場に取って代わる輸出先はない。

イタリア：市場はこのところ大きく変動

イタリアのマンダリン及びクレメンタインの市場は、このところ変動しており、MからMLサイズの柑橘類の需要が強い。イタリア北部のある卸売業者は現在、スペイン産マンダリン及びイタリア産クレメンタインを販売している。価格の幅は、最も小さいものが0.60ユーロ/kg、最高級品は概ね2.00ユーロ/kgである。

生産に関しては、カラブリア州の収穫は10月1日に始まり、2月終わりまで続く。早生品種の収穫が終わり、通常のクレメンタインへと移っている。乾燥した天候と高温によって熟期が早まり、小さな果実が多くなった。イタリア国内外の高温とコロナウイルスによる不確実性のため消費が増加しないので、市場は現在、小玉の果実を受け入れていない。生産者に支払われる価格はほとんど下がっている。

シチリア産クレメンタインの生産は、今後数週間でピークに達すると見込まれる。生産量が少ないため価格はかなり高い。東部シチリアの市場の産地価格は約0.50ユーロ/kgである。

南アフリカ：今期のマンダリン市場はオレンジの影に隠れる

南アフリカの（最近終了した）前シーズンのソフト柑橘類の生産量は2,430万箱（15kg/箱）と推定され、事前の予測を上回った。ソフト柑橘類の今シーズンの輸出も前のシーズンよりも多くなっている（36％増）。マンダリンはソフト柑橘類の中で最も量が多いが、いつもとは様相の異なる柑橘類の出荷シーズンの中で、オレンジの人気がマンダリンを上回った。また、新しい晩生マンダリンの品種に対して今年の市場は厳しいとの報告があった。

次のシーズンについて述べるにはまだ早いが、南アフリカ北部の早生品種の地域では、生産者が果樹栽培を放棄するかどうかを決める November drop（訳注:南半球で11月に起こる柑橘類の落果現象）が間もなくやって来る。これについての最初の早期予測は既になされた。西ケープ州では、今シーズンが終わり、早い木は既に次の花を咲かせている。

エジプト：サウジのトルコ産柑橘類ボイコットがロシア市場に影響

世界市場の状況とヨーロッパでのコロナウイルスの第二波に関連した不確かさは、現在、エジプトのマンダリン出荷シーズンを前にした中心的な懸念材料である。市場に急な変化が引き起こされる可能性があり、エジプトの貿易業者はそれに対応しなければならない。対応すべき問題の一つは、サウジアラビアによるトルコ産柑橘類の輸入禁止である。エジプト産果実の多くはサウジアラビアとロシア向けであり、トルコ産も同じであ

る。しかし、トルコはこれまで以上に多くの果実をロシアに出荷せざるを得ないと見られ、これはロシアでの価格が非常に不安定になったことを意味する。このこととは別に、ヨーロッパ、東アジア及びアラブ諸国でエジプト産柑橘類の需要が大きい。エジプトは今年、柑橘類を初めて日本に輸出する。

米国：需要はより大きく、競争はより厳しく

北米の次のミカン類のシーズンは競争が激しくなりそうである。国内では、カリフォルニア州の早生のクレメンタインの収穫が始まった。今年は着果が多く、好収穫が見込まれる。しかし、年の初めの暖かい気候は、圃場での灌漑にいくらかの困難をもたらした。

ミカン類は15%の価格上昇が見込まれる。これは、西海岸から東海岸への輸送運賃が通常より高いためである。西海岸のミカン類の出荷価格は低下すると見込まれる。今後2週間で、チリ産のミカン類が入荷し、モロッコ産及びスペイン産の初荷も入荷する見込みであるが、米国の事業者はモロッコ産及びスペイン産の販売は1月頃までは増加しないと予測している。「品質はまだ十分ではない」とニュージャージー州のある事業者は語る。輸入品はカリフォルニア州産の国内産と大きく競合すると予想されている。

オレンジの需要は、ビタミンCが含まれることからコロナウイルスによって急に増加したが、この傾向は米国ではミカン類に及んでいないようである。ミカン類の需要は安定しており、むしろ例年よりわずかに低い。需要は持ち直し、この時期の通常の水準に達している。小売価格も合理的な水準になったと見ることができる。

チリ：今シーズンの最後のマンダリンが市場に

現在、今シーズン最後のチリ産マンダリンが市場に出荷されているが、米国市場に出荷されたものは米国産と競合している。チリ産マンダリンの大半は米国市場に出荷され、今シーズンは、2019年の850万箱よりも多い980万箱を米国に輸出し、輸出量としては良いシーズンであったが、価格は平年並みか低かった。全体として、チリでは、マンダリンはオレンジほどの増加は見られなかった。

ペルー：生産量は増加

ペルーのマンダリンシーズンは終了した。今年の生産量は増加し、最大の輸出先である米国に昨年の470万箱よりも多い720万箱を輸出した。コロナウイルスの大流行により柑橘類全体の需要が高いことから、生産者はこれまでよりも大きな需要を期待していた。今シーズン初めの春には高価格であったが、7月までに価格は下がり始め、10月のシーズンの終わりまで低い水準に留まった。

中国：豪雨でミカン類の品質は低下

中国の主要なミカン類産地の一つは四川省であり、栽培面積と生産量は昨年とあまり変わっていない。しかし、今年はこの地域の豪雨のため品質は低く、ブリックス（糖度）の低さや果皮の斑点が多いことが見込まれる。そのため、最高品質のミカン類の生産量は、今年は限られている。

現時点で、ババ種のマンダリンの収穫も中国で始まっており、アイユアン種（爱媛柑）は既に1ヶ月前から市場に出回っている。今のところ、供給は需要を上回り、品質が低いために価格が下がった。また、中国産ミカン類の一部は販売に適さないとして輸出に影響を及ぼしている。

オーストラリア：日本への輸出が増加

昨年は柑橘類にとって記録的な「当たり年」であった。マンダリンの輸出は、オーストラリアでの過去10年間の多くの新植により増加した。今年は収穫量は減少したが、サイズは良好であった。シトラスオーストラリア（柑橘生産者団体）は、2020年の柑橘類シーズンの収穫量は前年より少ないと予測したが、マーコット等のいくつかの品種の収穫量は、業界の当初の予想よりもさらに少なかった。

9月30日までに、中国はオーストラリアから多くのマンダリン（13,488トン）を輸入した。果実の大きさが原因で、中国市場の仕様を満たす果物は全般的に少ない。タイと日本も重要な輸出市場であり、日本は前年より多く輸入した。全体で、9月30日までに58,000トンのマンダリンが輸出され、数量は2018年と同じであったが、輸出額は2018年よりも多かった。業界は、コロナウイルスのため、過去とは異なる状況、すなわち仮想マーケティング空間での業務に適応しなければならなかったが、シトラスオーストラリアは、世界的な柑橘類の需要はかなり強いと報告した。

131. ニュージーランド　ゼスプリが今シーズン最後のキウイフルーツを出荷

ASIAFRUIT電子版（2020年11月18日）

ニュージーランドの今シーズン最後のキウイフルーツの積荷がタウランガ港を出発した。約735トンのグリーンキウイを積んだコンテナは、マレーシア、フィリピン、インドネシア、シンガポール及び中国へ向かっている。一方、今シーズン最後のチャーター冷蔵船、サウサンプトンスター号は、日本の東京と神戸で2,228トンのキウイフルーツを降ろす予定だ。

ゼスプリの世界市場担当最高責任者アラステア・ハルバート氏は、シングルデスクマーケッターであるゼスプリは、49隻のチャーター冷蔵船と17,829個の冷蔵コンテナを使用して、今シーズン、約1億5,700万トレイのキウイフルーツを世界の50カ国以上に出荷したとして、「政府と関係者の支援により、事業を継続し、今シーズンの果実を世界中の消費者に届けることができたことは本当に幸運だった。タウランガ港の最前線のスタッフを含む幅広いサプライチェーン関係者は、今シーズン収穫量がこれまでの新記録となったキウイフルーツを出荷し、さらにニュージーランドがCOVID-19に対応する中、関係者と地域社会の安全を維持するために実施された安全強化対策を受け入れるため、信じられないほど懸命に働いてきた」と述べた。

ゼスプリは2020年シーズンに8,700万トレイ以上のサンゴールドキウイフルーツと7,000万トレイのグリーンキウイフルーツを世界中の顧客に供給した。

ハルバート氏は、ゼスプリの取扱いは、現在、北半球のイタリア、フランス、韓国及び日本の契約生産者からの果実に移っていると述べた。

ニュージーランド産キウイフルーツの最終出荷は、12月上旬までに全ての市場に到着する見込みである。

132. フィリピン バナナ輸出先のトップは中国から日本へ

FreshPlazaウェブサイト（2020年11月19日）

日本は、COVID-19大流行の間の堅調な消費者需要を背景に、フィリピン産バナナの9月末までの輸入量が8.8%増加し、今年は中国を抜いてフィリピンのバナナ輸出先のトップとなる構えだ。

フィリピン統計局（PSA）の暫定貿易データによると、日本への1月から9月までのバナナ輸出量は、前年同期に同国に輸出された104万6千トンから8.8%増加し113万8千トンに達し、同じ期間に中国に出荷された89万3,628.177トン（昨年の117万8千トンから32%減少）を27%上回ったとBusinessMirror紙（businessmirror.com/ph）が伝えた。

輸出額では、日本向けが6.3%増加して5億7,128万3千ドル、中国向けが28.2%減少して3億6,536万3千ドルであった。中国は2018年に日本から30年続いたトップの座を奪って以来、2年間フィリピンのバナナ輸出先のトップであった。

フィリピンバナナ生産者・輸出業者協会（PBGEA）のアンティグ事務局長は、日本の消費者に好まれるフィリピン産バナナの品質面の優位性により、日本市場への出荷が中国市場を追い抜いたと述べた。

アンティグ氏はBusinessMirror紙に対し、「中国はこの時期、ベトナム、ミャンマー、カンボジア等他の東南アジアの生産国からもバナナを調達しており、このことがフィリピンの市場シェアを下げた可能性がある。さらに、通常中国市場向けを生産している小規模バナナ生産者がパナマ病の影響を大きく受けて、生産量を減らしている。今年は日本が一番になると思う。日本は、フィリピンが輸出しているバナナのサイズと品質にとても厳しい」と語った。同氏はまた、増加するバナナ需要のため、中国もフィリピンの主要な市場であり続けると指摘した。

PSAのデータによると、フィリピンの9ヶ月間のバナナ輸出量全体は、昨年の323万6千トンから298万3千トンに10%減少し、輸出額は14億7,100万ドルから12億8,100万ドルに13%減少した。アンティグ氏は、1年間の輸出量は、産地におけるパナマ病の影響と生産コストの上昇により、過去最高を記録した昨年の440万3千トンから15%～20%減少すると予測していると述べた。

フィリピンの1月から9月のバナナ生産量は、パナマ病と気候変動の影響により、昨年の678万6千トンから665万6千トンに1.7%減少した。

133. 日本　農林水産物・食品輸出の産地を育成（英字紙報道ぶり）

FreshPlazaウェブサイト（2020年11月20日）

消息筋は木曜日（19日）、日本政府は、もっぱら輸出のための農産物や水産物を生産する地域の育成を目的とした事業の立上げを計画していると述べた。

この事業は、日本の農林水産物・食品の輸出額を2030年に5兆円に引き上げるという目標を実現するための政府の取り組みの一環である。

この関係者は、「この事業により、地域がその産品について貿易相手が求める安定供給を行うことを手助けするために、政府は技術的及び財政的支援を提供する。政府は、この事業が輸出拡大によって地域経済の活性化に貢献することを望んでいる。この事業は、金曜日の関係閣僚会議で策定予定の輸出拡大戦略の骨子に含まれるだろう」と語った。

日本の和牛や果物は海外で人気があるが、輸出に積極的に取り組んでいる生産者は多くなく、輸出は見込み通り伸びていない。年間を通じた安定供給を確保することの難しさが、販売拡大の取り組みを妨げ、海外での高い小売価格につながっている。

「この戦略では、政府はいくつかの生産地域を輸出専用の地区とし、貿易相手国の要求を満たし競争力のある作物を多量生産することを支援することになる」とこの関係者は語った。

日本と14のアジア太平洋諸国は日曜日、地域的な包括的経済連携の下で自由貿易を促進する協定に署名した。日本は、この枠組みを利用して農林水産物の輸出拡大を目指す。

「この新しい新戦略には、個々の産品と輸出先についての輸出の数値目標及び輸出先国の規制緩和のための政府の働きかけを強化する政策が含まれるだろう」とこの関係者は述べた。

日本の2019年の農林水産物・食品の輸出額は9,121億円であった。政府は、2025年に2兆円、2030年に5兆円という輸出目標を達成するため、主に和牛、果物及び水産物の輸出を増やす計画である。

出典: The Japan Times

134. 世界のカキ市場

FreshPlazaウェブサイト（2020年11月20日）

9月から10月にかけて、カキの収穫が北半球で再び始まった。ここ数日、需要は増加してきており、取引業者はカキに良い値を付けている。スペイン産の収穫量が大幅に減少したこともあり、価格はほとんどの地域で昨年より高い。昨年は記録的な豊作のためにスペインの生産者価格がかなり低かったことを考慮すると、今年は生産量が減少するのも当然だった。一方、イタリアでは国産品の売れ行きが悪く、価格は対照的に下降傾向を示している。今年、オーストラリア産のカキが初めてタイに輸出された。

スペイン：収穫は大幅な減少

スペイン産Rojo Brillante種のシーズンは9月に始まった。昨年の記録的な豊作と壊滅的な販売成績によって、栽培面積は約6％減少した。今年は、スペインのカキの主要産地であるバレンシア地方において病害虫の増加により様々な面で影響を受けたこと等から収穫量が大きく減少した。このことと、嵐と雹による悪天候により、この秋の収穫は昨年の収穫量45万トンと比べて、最大45％減少した。2週間前のバレンシア地方の洪水によりさらに収穫量は減少し、圃場に入れないため供給は大きく減少し、需要増大と価格上昇の両方をもたらした。品質に関しては、今年は全般にサイズは大きく、嵐の被害のため二級品のカキが多い。

生産者価格は昨年同時期に比べて高いが、病害虫防除の費用増加が収益性を大きく損なっている。ほんの数シーズンで、カキに被害を及ぼす病害虫の数は急激に増加した。政府機関による防除資材の使用制限により、コナジラミ等の害虫、あるいはミコスファレラ等の病原菌がコントロールできずに広がり続けることとなった。

オランダ：価格は上昇

スペインの産地での今月初めの豪雨はかなりの被害をもたらした。その結果、カキの価格は高騰した。オランダのある輸入者は「先週はキロ当たり80～90セントで販売したが、現在は1.20～1.25ユーロに引き上げた。特に、主にスーパーマーケット向けの小さなサイズが不足している」と言う。

ベルギー：カキの人気が上昇

カキのシーズンが始まったところだ。カキは人気を得つつあるが、ベルギーの消費者の間ではまだあまり知られていない。ベルギーの取扱業者によると、カキは主にある民族的背景を持つベルギー人の間で知られている。いくつかの取扱業者は、カキをより多くの消費者に紹介しようと試みており、販売面で実を結びつつある。しかし、現在、供給が需要より多い。カキの不人気に加えて、品質と供給が一定しないことも課題である。

この問題が解決されればと、ベルギーのある取扱業者はベルギーにおけるカキの明るい未来を期待する。

ドイツ：カキはわずかに不足

現在、ドイツ市場ではスペイン産のカキがわずかに不足している。「輸入量はこの時期にしては通常より30～40％少ないことが、取引の中で明らかだ」とある卸売業者は述べた。シーズンが長く続くと見込まれないことから、彼らは市場が再びもう少し活発になることを望んでいる。その業者はまた「販売シーズンは5週間ほどで終わるだろう。12月中旬に柑橘類のいい品種が市場に出回ると、カキは見向きもされなくなる」と言う。

スイス：有機のカキは市場でギャップ

スイスでは今年、初めてギリシャの生産者からの有機カキの取り扱いが始まった。この取り組みを進めたのは、消費者と小規模な卸売業者を主な顧客としているGebana AG社である。11月1日の週、試験出荷のハナフユウ種のカキ240パッケージがスイスに到着したが、すぐに売り切れた。Gebana社は「今、取引先からのフィードバックを確認しており、それによって来年、カキ部門を拡大するかどうか決定する。いずれにせよ、有機カキの需要はあるようだ」としている。

フランス：クリスマスに向けて売り上げは増加

10月初め、最初のスペイン産のカキがフランス市場に到着し始めた。スペインではカキの収穫量は20～25％減少したが、これはフランスのランジス卸売市場に影響を与えていないようだ。販売状況は今のところ落ち着いている。しかし、この10日間にわたって需要は増加した。現在の平均販売価格は昨年よりキログラム当たり約0.30ユーロ高い。

イタリア：販売は緩やかで価格は低下

イタリアでのカキの出来は良好であるが、今年の売り上げは期待はずれだ。イタリア北部の取扱業者によれば、小売業者はイタリア産カキを多くは仕入れておらず、卸売市場での取引も緩やかで価格は下がっている。イタリア南部のカンパニア州の卸売市場でもカキの価格は下がっている。この傾向は10月末に始まったが、それ以前は、まだ満足できるものだった。ここ数日の降雨によって品質が低下して果実の日持ちも短くなり、状況はさらに悪くなった。これは特にTipo種に当てはまる。Vaniglia種については、状況は完全に悲惨であり、価格は底値のままだ。Rojo Brillante種についても状況はあまり良くなかった。前年同期と比較すると、価格は10％低下した。カキの販売はイタリア中部ではるかに好調である。

シチリア島では、Mela種の収穫が12月末まで続く。サイズに関しては今年は競争相手のスペイン産と比べて小さいが、食味は良く品質は一定している。これは、カラブリア州で栽培されているRojo Brillante種にも当てはまる。シチリア産カキのスーパーマーケットへの卸価格は現在キログラム当たり1.20ユーロである。卸売市場ではキログラム当たり0.85～0.90ユーロである。

米国：昨年に比べて需要はやや強い

カリフォルニア州は現在、カキシーズンのピークであり、セントラルバレーを中心に蜂屋柿と富有柿が多く収穫されている。今年の収穫量は2019年シーズンと同程度であり、幅広いサイズが揃っている。生産者は、市場の需要が好調であることに注目している。結局のところ、カキは主に小売店で販売される果物である。したがって、何社かの取扱業者によれば、需要は昨シーズンより少し強い。価格は昨年と同程度であり、天候が良ければ引き続き安定すると見込まれる。

カナダ：スペイン産カキの消費が増加

カナダ市場では、Rojo Brillante種はスペインから輸入されている。今年の輸入は、いつもの10月末よりも早い10月初めに始まった。シーズンは12月末に終了する。しかし、カナダの何社かの輸入業者は、貯蔵庫を使用して出荷シーズンを1月又は2月まで延長する。カナダのカキの需要は昨年より大きく、流通ルートはシーズンの早い時期の入荷をうまく捌いている。「カキは主流になりつつあり、販売にもそれが表れている」とケベック州の輸入業者は述べた。需要の増加は、スペイン産カキを宣伝するためにカナダで行われた販売

促進活動及び広告キャンペーンの結果である。いくつかのカキを詰めたパックは、現在、市場でよく売れている。しかし、コロナウイルスを封じ込めるためのカナダでの対策により、価格上昇が見込まれる。倉庫をフル稼働することはできず、カキの価格に反映されることになる。価格は数日中に上がると見込まれる。

エジプト：輸出はほとんど無し

今年、エジプト産カキの他国の市場への輸出はないものと見込まれる。エジプトの果樹園の多くは老朽化しており、このため収穫量が少ない。したがって、販売できるカキは、主に国内市場向けである。わずかに輸出されているのは湾岸諸国向けである。

南アフリカ：予測はまだ早い

南アフリカのシーズンは2021年4月まで始まらない。3週間前、花が咲き始めたが、このことだけで次のシーズンを予測するのはまだ早すぎる。南アフリカの栽培面積（ほとんどは西ケープ州）は安定しており、拡大していない。

中国：市場価格は昨シーズンよりわずかに高い

中国の主要なカキの産地は、カキ栽培に理想的な環境にある陝西省のフーピン県である。栽培面積は6,667ヘクタールである。しかし、フーピン県のカキは主に干し柿用で、生食用ではない。つまり、生鮮のカキは中国の消費者にあまり人気がない。中国の生鮮青果物市場の状況は現在、今年の上半期より好調であるが、今年のカキの価格は高いと見込まれる。

オーストラリア：タイへ初めてカキを出荷

オーストラリアは、依然として世界のカキ生産量の1%にも満たない小さな生産国である。カキのシーズンは2月末から6月半ばまでである。Hort innovation（非営利の研究機関）の最新の数字によれば、生産量は昨年に比べてわずかに増加し（3%増）、2,600トンであった。今年初め、オーストラリアは初めて、新しい手続きによってタイにカキを輸出することに成功した。コロナ禍のため、両国間の航空便は大幅に減少しているが、積荷は数少ないバンコク行きのフライトを使って出荷された。化学処理及び加熱処理を行わずに照射による植物検疫を使用した、オーストラリアからタイへの最初の生鮮品であった。Persimmon Australia社は、このカキの初めての出荷は到着後直ぐに完売したことから、この出荷の成功によってこの手続きが他の州へ広がることを期待している。

ニュージーランド：カキの輸出はわずかに減少

コロナウイルスによる困難にもかかわらず、ニュージーランドのカキ生産者は何とか2020年シーズンに1,200トンを生産することができた。これは2019年シーズンの1,600トンよりわずかに少ない。輸出に関しては、ニュージーランドは、オーストラリアに408トン、シンガポールに211トン、タイに162トン、マレーシアに94トン、香港に67トン、カナダに59トンそして中国に28トンを出荷した。業界にとって2020年の最大の課題の1つは、コロナウイルスのため海上輸送へと大幅に切り替わり、輸出税が急に増えたことであった。ニュージーランドカキ産業協議会は、サイズは天候によってわずかに小さくなったが、品質はシーズンを通して高かったとしている。

135. 米国の健康関連食品の日本への輸出機会

米国農務省海外農業局（2020年11月20日）

日本の消費者は健康志向が高まってきており、天然の原料を用い、食品添加物と甘味料を最小限に抑え、健康、ダイエットそして機能性に対するニーズに応える食品を求めている。米国の生産者と輸出業者には、日本への農産物の主要な供給国として、日本の食材と健康関連食品に対する高まる需要を満たすチャンスが十分ある。最近、米国と日本は、従来、米国の主要な競合国が持っていた関税の優位性を解消する貿易協定に署名した。さらに、世界的なCOVID－19の大流行が消費支出全体を減少させているにもかかわらず、日本の消費者の食料支出は変わっていない。

マクロ経済情勢とCOVID-19

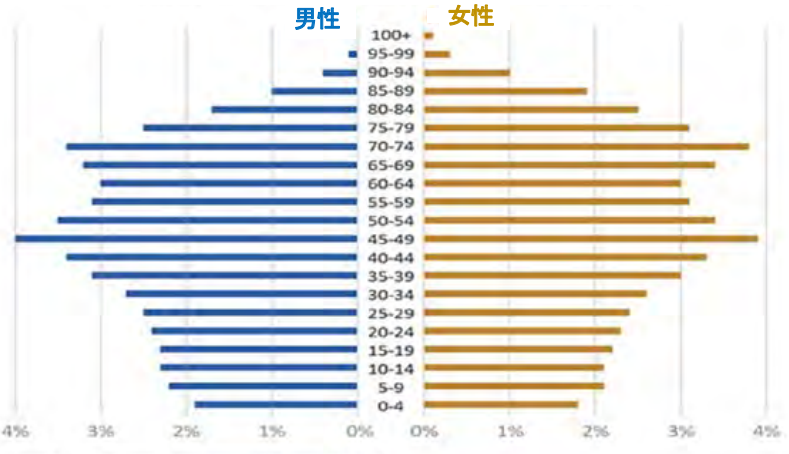
世界銀行によると、日本は、国内総生産（GDP）5.1兆ドルの世界第3位の経済大国である。人口に関するデータによれば、人口の91.7％が、多くの経済活動が行われている都市部に住んでいる。国際通貨基金（IMF）の推計によれば、2020年、世界的なCOVID-19大流行は、日本に、景気後退とGDPの5.3％減少という大打撃を与えた。特に、消費者支出は大幅に減少した。

しかし、こうした経済の減退の、日本の商品とサービスの輸入、そして非耐久財への家計消費に対する影響は比較的小さかった。農産物の観点からは、この状況は、日本が国内需要を食品の輸入に大きく依存している事実によると考えられる。農林水産省の食料・農業・農村白書によると、2017年の日本の食料自給率はカロリーベースで38％であり、日本のカロリー摂取量の60％以上が輸入によることを示している。また、貿易データは日本の2020年1月から8月までの農産物輸入額は352億ドルで、2019年から2.6％の減少に過ぎないことを示しており、このことは農産物輸入の重要性をさらに裏付けている。COVID－19により経済が受けた打撃と貿易の混乱の割には、農産物輸入は安定している。

社会要因と人口分布が消費者市場の動向に影響

日本の農産物輸入は、食品と飲料製品の全領域にわたっている。日本は国内人口1億2,630万人の高所得国である。IHS Markit社の家計データによると、日本の世帯の94.6％、約5,230万世帯が購買力平価（物価を考慮したドル換算）で2万ドルを超えており、この高所得の世帯数はインド、中国、米国に次いで世界で4番目に多い。これらのことは、レストランからスーパーマーケットやコンビニエンスストア、オンライン注文まで、消費者が食品へのニーズを満たすいくつもの選択肢を持っている市場が成立する要因となっている。消費者は、利便性と入手しやすさを重視し、直ぐに食べられる食事や加工食品を含む質の高い食品を求め続けている。

日本の年代別人口分布（2020 年）



出典：国際連合-世界人口見通し 2019

人口分布は、日本人の消費動向に影響を与えている。世界銀行によると、日本の人口は2010年以降減少している。さらに、日本は、65歳以上の人口の割合が28.0%以上と世界で最も高い高齢化社会である。

ユーロモニター社によると、日本の家計は昨年、食品とノンアルコール飲料に4,206億ドル支出し、うち1,998億ドル(約47.5%)は世帯主が60歳以上の世帯によるものである。日本の生活費は全般に高いが、収入と消費のデータは、高齢の日本人はより高品質で栄養価の高い食品へのより多くの支出を惜しまないことを示している。これらのことから、様々な健康やダイエットのニーズを満たすとされる食品の販売は、当面有望である。

健康関連食品の輸出機会

東京にある海外農業局(FAS)農産物貿易事務所によると、日本は世界第3位の健康関連食品の市場であり、その規模は2019年で133億ドルと推計される。このレポートでは、健康関連食品に、生鮮または加工した果実、野菜、ナッツ類及びジュースと乳製品を含む。これらの品目は、日本の高齢で、健康志向の人々の需要がある。

主な米国産健康関連食品の日本への輸出

	1月－12月(百万米ドル)			米国のシェア		
品目グループ	**2017**	**2018**	**2019**	**2017**	**2018**	**2019**
加工野菜	509.8	502.0	499.3	17.5%	16.6%	17.2%
ナッツ類	397.7	434.4	416.0	52.3%	54.1%	50.9%
生鮮果実	316.3	318.6	323.2	16.8%	15.7%	14.3%
乳製品	290.9	269.4	282.1	16.0%	14.8%	14.4%
加工果実	159.3	176.9	144.7	16.4%	16.9%	14.6%
果実・野菜ジュース	124.0	115.8	106.1	16.7%	14.9%	14.7%
生鮮野菜	97.2	108.5	77.7	9.8%	9.8%	8.4%
ノンアルコール飲料※	67.4	62.6	61.2	23.2%	21.9%	12.5%
米国輸出合計	**11,915.0**	**12,925.1**	**11,740.1**	**24.5%**	**25.7%**	**23.7%**

※ジュースを除く。米国のシェアは、ジュース、コーヒー、紅茶を除くノンアルコール飲料。

出典: 米国国勢調査局貿易データ、BICO HS-10; 米国のシェアは Trade Data Monitor LLC、BICO HS-6

ナッツ類: 2019年、日本は7億8,250万ドルのナッツ類を輸入し、米国のシェアは50%以上であった。特に、米国はクルミとアーモンドのほぼ唯一のサプライヤーである。「罪悪感のない」スナックとしてのイメージがあり、ナッツ類は、ドライフルーツやチョコレート製品等の他の食材と組み合わされるミックススナック食品とともに、健康的な焼き菓子に使用されている。

生鮮果実: 日本国内の果実生産は減少しており、米国の輸出業者には、日本の顧客に高品質の生鮮果実を供給するチャンスがある。近年の米国の市場シェアは、環太平洋パートナーシップ協定(CPTPP)の署名国、特にニュージーランドとメキシコとの競争が激しくなり、減少した。しかし、2020年に日米貿易協定が発効し、ラズベリー、キウイ、クランベリー等が免税で輸入されている。競合国と同じ優遇関税が適用されている生鮮オレンジと生鮮サクランボについては、米国がこれらの果物の最大の供給国であり、輸出可能性は依然として大きい。

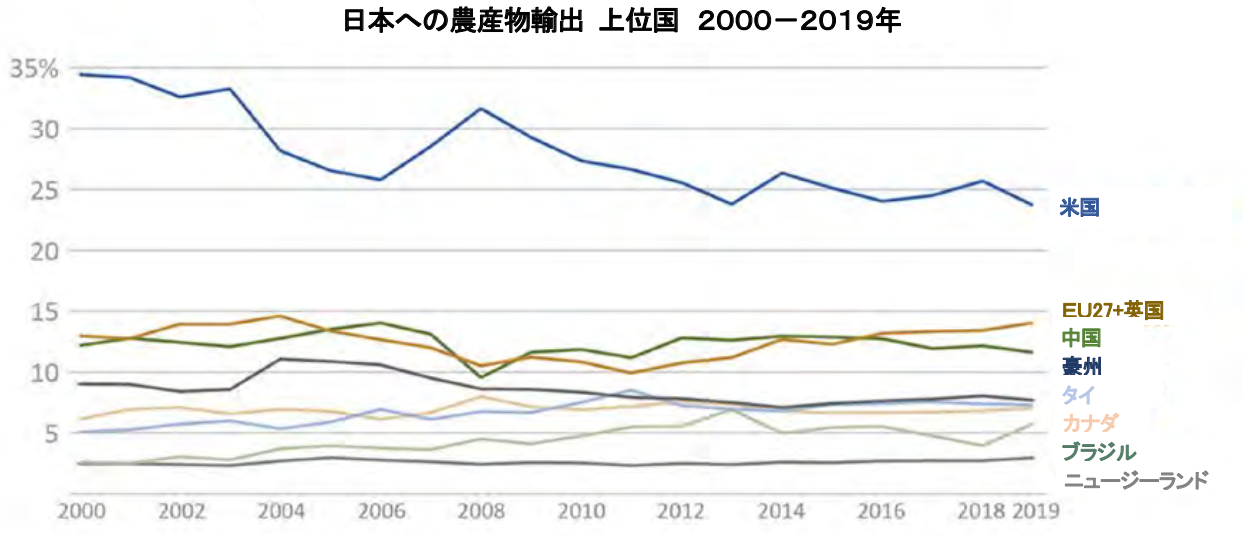
チーズ: ユーロモニター社によると、日本メディアのチーズの健康への効果に関する報道は、売り上げにプラスの影響があり、チーズ製品の健康的なイメージは、消費者、特に高齢者の認知度が高まっている。日EU経済連携協定(EPA)は、一部のEUチーズ製品に地理的表示(GI)を使用することを可能にし、製品を差別化し市場で有利となっている。しかし、地理的表示以外では、米国産チーズ製品の多くは競争国と同じ優先

税率が適用されるほか、プロセスチーズには関税割当ての米国枠がある。米国のチーズ製品の多くは、日本への輸入が2033年に免税となることとなっている。

ノンアルコール飲料: 消費者の健康意識の高まりに伴い、非アルコール飲料市場は、天然の原料を含み、そして(あるいは)人工甘味料の少ない飲料が伸びている。同時に、エナジードリンクやプロテイン飲料などの機能性/強化飲料は、フィットネスと健康を強調して消費者を引き付けている。トマトジュース、茶をベースとした飲料、プロテイン飲料等の飲料は輸出のチャンスが大きい。

日米貿易協定と健康関連食品

過去5年間、日本は、米国の主な競争国と重要な貿易協定を締結し、米国のシェアは過去20年間で最も低い水準まで下った。CPTPPは2018年に、日－EU EPAは2019年に発効した。一方、日米貿易協定は2020年1月1日に発効し、米国の輸出業者が、優遇関税や国別割当てに関して主要な競争相手と同じ条件で日本市場へ参入することを可能にした。FASの試算では、同協定により米国の90%近くの農産物を免税か優遇関税のいずれかにより日本へ輸出することが可能となる。



出典: Trade Data Monitor(TDM)－BICO－HS－6

日本の農業生産の減少と社会的要因・人口分布は、短期、長期の食料需要を満たすため、輸入に依存し続けることを示している。特に、消費者が食品の品質だけでなく食品の機能性をもより重視することから、健康関連食品は食品分野で重要な役割を果たすと見込まれる。関税の平等性、長期間の二国間関係、そして進んだ食品加工技術により、米国は日本の健康関連食品の需要の増加に応える、質の高い食材と健康関連食品を供給する有利な立場にいる。

136. 果実収穫ロボットは季節労働者不足をカバーできるか

FreshPlazaウェブサイト（2020年11月30日）

果実収穫ロボット‘Clive’は、人間の労働力の代替手段として商業的に成り立つかどうか確かめるため、グールバーンバレーの2つの果樹園で作業する予定だ。このロボットはオーストラリアのRipe Robotics社が作製した。テストのため、収穫が始まる今年の夏、シェパルトン近郊のTurnbull Brothers果樹園とHV McNab and Son果樹園に、配置される予定である。

テストに参加する果樹園のミッチェル・マクナブ氏は「ロボットが果樹の列に沿って移動する時、果実が樹木のどこにあるのか、収穫できる果実か、色やサイズは適切か、あるいは果実の表面に傷がないかを認識できるいくつかのセンサーとカメラがある。そして、リンゴ、ナシ等の果実を主に真空吸引で収穫するよう吸引アームに指示が出される」と語った。

同氏は長年にわたりこの技術を研究しており、実際の果実の収穫の中でロボットのテストが始まることを楽しみにしている。オーストラリアの生産者が、品質が低く生産コストが低い国々と競争するなら、技術がその解決策でなければならないと信じており、「実際、我々は世界のどこより最もコストの高い労働市場の中で農業を行っており、我々が世界規模で競争するためには、労働コストを削減し、その結果として生産コストを削減する必要がある。そうすれば、我々は、世界中で我々の果実を販売するにあたって、対等な条件での競争が可能となる」とオーストラリア放送に語った。

マクナブ氏は、今年の収穫に必要な労働者の確保を心配しているとして「通常、我々は収穫作業をバックパッカーに頼っている。オーストラリアに出入りするバックパッカーは、年間20万人余りいるが、私が見た最近の統計では、数百人が毎週出国して戻らず、オーストラリアには約3～4万人しか残っていない」と語った。

‘Clive’は、昨今の農業の労働力不足に対する答えになるかもしれない。

訳注：PDF 版では、Ctrl キーを押しながら上の写真をクリックすると原典のページが開き、ビデオが視聴できます。
また、以下のアドレスからも視聴できます。
https://www.freshplaza.com/article/9272751/fruit-picking-robot-might-cover-goulburn-valley-seasonal-worker-gap/?edition=4

137. エジプト　柑橘類の収穫が開始、今年は日本へ輸出

FreshPlazaウェブサイト（2020年12月2日）

エジプトの柑橘類シーズンは、ネーブルオレンジから始まった。その後、バレンシアオレンジが輸出される。ネーブルは昨年より収穫量が少ないと見込まれるが、バレンシアオレンジは今シーズン、一定の量が見込まれる。今年は、エジプト産柑橘類が日本市場へ輸出可能となった最初の年なので、関心を集めている。

エジプトの果実輸出業者であるMMA Fresh Produce社の販売担当者ウェッサム・タハ氏によると、エジプトの輸出業者は、見本市が開かれないことから一層困難なシーズンに直面する見込みだ。（以下「　」内はタハ氏の発言）

「エジプトの柑橘類のシーズンが今始まったところであり、全ての農家、出荷業者そして輸出業者は準備万端である。コロナ禍は多くの問題を引き起こすと見込まれる。旅行ができないので見本市も開催されない見込みであり、全ての輸出業者は新しい顧客を獲得するための戦略を持たなければならない。」

ネーブルオレンジによって柑橘類の出荷シーズンが始まるが、収穫量は少ない。シーズン中の出荷量の大部分は、日本市場で足がかりを得るために重要なバレンシアオレンジである。

「エジプトの柑橘類の出荷シーズンはネーブルオレンジで始まるが、収穫量は昨年よりわずかに少ない。バレンシアオレンジに関しては、我々は、その堅調な収穫量と優良な品質によって、かなり良好なシーズンを期待している。エジプト産オレンジの需要は常に良好であるが、市場は絶えず変化しており、今年は新しい市場である日本に焦点を当てるつもりだ。一方、東南アジア市場は、当社にとって見込みがあると感じている。もちろんヨーロッパ市場も常に重要であり続けるだろう。今年は、スペイン産が雨のために品不足になると見込まれるので、ヨーロッパがいつもより多くエジプト産オレンジを買うことを期待している。」

スペインはその柑橘類の出荷シーズン中にいくつかの問題に直面する可能性があり、タハ氏は、エジプト産柑橘類は、ヨーロッパ市場でスペイン産柑橘類に代わる第一の選択肢となるチャンスがあると感じている。「我々の主な市場は、ヨーロッパよりもインド、中国、インドネシア及びマレーシアである。既に述べたように、エジプト産オレンジの輸出はヨーロッパ市場向けで増加すると見込まれる。スペイン産の「危機」は、エジプト産オレンジが、その人気を考えると、これらの市場にとって最良の代替品であることを意味する。我々の競争力のある価格と品質は人気に応えるものだ。ロシアは、オレンジの需要に関して基本的に底なしの市場であり、我々にとって堅い市場となると見込まれる。そして最後に、我々は、ニュージーランドやブラジル等の新しい市場を狙おうとしている。」

「現時点で価格は妥当と思われるが、シーズンが進めば若干上がると見込まれる。今年、市場は昨年よりずっと面白みがあり、我々は、今シーズンは好調となると期待している。多くの取引業者はコロナ禍の始めから影響を受けており、新しいシーズンを回復の好機と考えている」とタハ氏は結論付ける。

138. イタリア　Yello™などクラブ品種のリンゴをアジアへ

FreshPlazaウェブサイト（2020年12月４日）

訳注：Yello™は長野県で開発されたシナノゴールドの商標で、VIP協同組合等イタリアの2団体が県と独占的販売契約を結んでいます。

Omnifresh™社は2018年にアジア市場で立ち上げられた。青果物を取り扱っているイタリアの3つの生産出荷団体、すなわちRK Growers、Rivoira及びVIPによる合弁会社である。3団体合わせて、イタリア産リンゴ40万トン以上を扱っており、これは同国のリンゴ生産量の20％以上に当たる。

Omnifresh™社のアジア市場責任者ケビン・オヨン氏はアジアの果実部門に4年以上従事している。（以下、「　」内は同氏の発言）

「当社の重点は、アンブロシア™、カンジ®、Yello™、クリムゾンスノー®等の当社が独占的に扱っているイタリア産高級クラブ品種のリンゴをアジア市場に持ち込むことである。当社は、また、アジアの絶えず変化している消費者の嗜好を満足させることができるよう、甘い新品種の研究への投資を続けている。」

Omnifresh™社のクラブ品種の一部（訳注：一番左がアンブロシア™、次がYello™（シナノゴールド））

2018年に合弁事業を開始して以降、Omnifresh™社は、アジアで高品質リンゴの評判を確立し、同社が独占権を持っているイタリア産アンブロシア™をはじめとするイタリア産リンゴのブランド確立に大きく成功した。香港、マレーシアそしてシンガポールの顧客の反応は好意的であり、多くの消費者は、イタリア産アンブロシア™の蜂蜜のような甘さとサクッとした歯ごたえがおいしいと語った。これらの地域ではクラブ品種の需要が増加を続けている。

ベトナム、タイ及び台湾への出荷の始まりに当たり、Omnifresh™社の全ての関係者は、同社のリンゴに対する3カ国の強い関心に大きな期待を寄せている。「我々は、市場のニーズをテストし、理解するためにすぐにでも試験出荷を開始するつもりだが、我々のリンゴはこれらの国々の消費者に好まれると楽観的だ。我々は、イタリアからアジアへのクラブ品種に焦点を当てた戦略がうまくいくと信じている。収入が増え続いている若くてダイナミックなアジアの消費者は、より甘い高級リンゴを求めている。」

今シーズン、南チロル地方のリンゴ生産量は、開花期の天候不順のため20％少ない。幸いなことに、クラブ品種の植栽面積は拡大を続けていることから、アンブロシア™等の品種は5，000トン増える見込みである。ピエモンテ州に関しては、全体の生産量は昨シーズンと同程度である。リンゴの全般的なサイズは昨シーズンと比べて大きく、食味は良い。

COVID－19は輸入果物部門に大きな影響を及ぼしている。Omnifresh™社は起こりうるいかなるリスクも最小限とするため、すべての必要な措置を講じている。「今シーズンの大きな課題は物流であり、時には遅れが見込まれ、それは我々の出荷スケジュールに問題を起こす可能性がある。当社のほとんどの梱包施設はほぼ完全に自動化されており、必要な人員を常に減らしている。これは今のような時に有利となっている。同時に、当社はまた、事務所、果樹園及び梱包施設のすべての社員が、政府とEUが求める厳しい安全手順に従うことを保証する。」

139. ベトナム ライチの日本への輸出

FreshPlazaウェブサイト(2020年12月4日)

バクザン省の担当部署は、ベトナム農業農村開発省植物保護局及び輸出企業とともに、50ヘクタールの「thieu」ライチの栽培地に関して、文書を作成し、調査を行い、各種基準の策定に取り組んだ。これらの全ては、日本への輸出のためだ。

バクザン省ルックガン県は、栽培・生産技術の適用を推進するとともに、ベトナムGAP規格に基づいた生産モデルを構築するために専門機関と調整を行った。

同地域の今年のライチ栽培には12農家が参加し、栽培面積は15ヘクタールに増加した。生産量は30トンに達する見込みである。各農家は、樹木の手入れと病害虫管理に関する技術、そしてベトナムGAP規格を満たすための技術を学んできた。これは、農作物をより環境に優しいものにする現代的な農業生産方法であり、生産者の安全を確かなものとし、農薬及び化学肥料等の使用を制限する。今後1年で、バクザン省はモデル地域を拡大し、経済的な基盤を確立する計画である。

バクザン省では現在、ベトナムGAP規格に基づいて15，000ヘクタールのライチが栽培されており、これは省全体の53%である。生産量は110，000トンで全体の69%近くと推定される。GlobalGAP規格を満たすライチ栽培面積は80ヘクタールであり、収穫量は500トンである。適切な輸出業者を選定するプロセスもまた重要である。

出典: en.vietnamplus.vn

140. ベトナム 包括的経済連携(RCEP)が開く新たなチャンス

FreshPlazaウェブサイト(2020年12月8日)

先日署名された地域的な包括的経済連携(RCEP)には、ASEAN加盟国10カ国、そしてASEANが自由貿易協定(FTA)に署名した5カ国、すなわちオーストラリア、中国、日本、韓国、ニュージーランドが含まれる。この協定は、加盟国の批准により発効して、22億の消費者を有する市場を創出し、世界のGDPの約30%を占め、そして世界最大の自由貿易圏をもたらす。

ベトナムの農業部門にとって、RCEPは熱帯農産物及び加工食品の大きな新しい市場を切り開くと期待されている。ベトナムは長い間、ASEAN市場にコメ、コーヒー、コショウ、野菜、そして魚介類などの多くの農林水産物を輸出してきており、ベトナムの果実と野菜にとってASEANは2番目に大きな消費者市場である。

さらに、RCEPは、輸出入手続きの簡素化、ビジネスに要する時間とコストの削減、そしてRCEP市場での利益の拡大と競争力の強化により、ベトナムの農林水産物の輸出拡大に多くの利点をもたらすと見込まれている。特にRCEPの原産地規則はベトナムの農産物にとって大きな利点と考えられている。RCEPは、域内の統一的な原産地規則を規定しており、多くのFTA協定を参照する必要はなくなり、同じ種類の商品に関してRCEP加盟国間で異なる手続きを調整することになる。

しかし、農業部門がRCEP協定の利点を最大限に活用することを望むならば、課題もある。RCEP各加盟国の類似の産品は、大きな競争圧力に直面することになる。他方、この協定が発効すれば、ベトナムは他のRCEP加盟国からの農産物の大きな輸入市場となると見込まれることから、ベトナム企業は、ホームグラウンドの国内市場を制する戦いで、厳しい競争に確実に直面することになる。

この協定により、ベトナムの農業産品の大きく安定した消費流通ルートが形成されて、世界市場におけるベトナムの農産業全体の確固たる地位の確立に貢献することが期待されている。

141. 南アフリカのグレープフルーツ事情

米国農務省GAINレポート（2020年12月９日）

これは、米国農務省海外農業局プレトリア事務所（南アフリカ）が作成した「柑橘類年次報告」の訳であり、米国政府の公式見解とは異なる場合があります。長文のため、この記事では概要、背景、グレープフルーツ（日本への輸出が多い）の項のみ掲載します。

概要

南アフリカの柑橘類、主にソフト柑橘類、新しいオレンジ品種、レモン、ライムの生産は、栽培面積の増加、収量の改善、本格的な生産が始まる新たな栽培地が多いこと、そしてCOVID-19の労働力と投入資材の供給への影響が最小限であることから、2020/21販売年度（以下「年度」）は力強い成長を続けると見込まれる。米国は依然としてプレミアム市場と考えられているため、（米国の）アフリカ成長機会法（AGOA）に基づく米国への柑橘類の免税輸出は、力強い年率の伸びを続けると予想される。

背景

南アフリカの柑橘類は、リンポポ州、東ケープ州、西ケープ州、ムプマランガ州、クワズールナタール州、北ケープ州、北西州をはじめ全国で栽培されている。図1は、南アフリカにおける柑橘類の産地の地図である。2019年には南アフリカの合計86,808ヘクタールで柑橘類が栽培され、2018年の81,603ヘクタールから6%増加した。ソフト柑橘類、レモン、オレンジの新品種への大きな投資と積極的な新植によってこの増加傾向は続き、2020年は95,200ヘクタールと見込まれる。

リンポポ州は柑橘類の全栽培面積の42%を占める南アフリカで最大の産地であり、次いで東ケープ州（27%）、西ケープ州（19%）、ムプマランガ州（8%）、クワズールナタール州（2%）、北ケープ州（2%）、北西州（1%未満）、フリーステート州（1%未満）が続く。西ケープ州と東ケープ州の気候は涼しく、ネーブルオレンジ、レモン、ライム、タンジェリン/マンダリン（ソフト柑橘類）の生産に適している。ムプマランガ州、リンポポ州、クワズールナタール州の気候は暖かく、グレープフルーツとバレンシアオレンジの生産により適している。

オレンジは南アフリカで最も多く生産される柑橘類であり、柑橘類の全栽培面積の50%を占めるが、ソフト柑橘類とレモン/ライムの栽培面積の増加が顕著である。この増加は、魅力的な投資リターン、ソフト柑橘類とレモンの生産の利益幅、世界的な需要の急増による。表1に南アフリカで栽培されている最も一般的な柑橘類の品種を示す。カリフォルニア大学リバーサイド校で育成された柑橘類であるtangoの育成者権が2016年に南アフリカに与えられ、Nardocott品種と競うことが見込まれている。表2は、柑橘類の収穫期は通常2月から9月であることを示している。

表1　柑橘類の栽培品種

柑橘の種類	栽　培　品　種
グレープフルーツ	Star Ruby, Marsh, Rose, Flame, Nelspruit Ruby （Nelruby）, Flamingo
オレンジ	**バレンシア種** - Delta, Midknight, Turkey, Oukloon（Olinda, Late）, Du Roi, Benny. **ネーブル種** - Palmer, Bahianinha, Washington, Robyn, Navelina, Lane Late, Newhall, Cambria, Cara Cara, Rustenburg, Autumn Gold
マンダリン/タンジェリン	**クレメンタイン** - Nules, Marisol, SRA, Oroval, Esbal, Clemenpons, Oronules, **マンダリン** - Tango, Nadorcott（Afourer）, Nova, Or（Orri）, Minneola, Mor, B17, Tambor, Naartjie, Thoro Temple, Sonet, B24（African Sunset） **温州みかん** - 三保早生、尾張温州、久能温州、宮川早生、興津早生、青島温州
レモン/ライム	Eureka, Eureka SL, Lisbon, Limoneira, Genoa

出典：柑橘類生産者協会（CGA）

図1　南アフリカの柑橘類産地

出典：**柑橘類生産者協会（CGA）**

表2　南アフリカの柑橘類の収穫期間

柑　橘　類	収 穫 期 間
マーシュグレープフルーツ	3月～6月
スタールビーグレープフルーツ	4月～9月
ネーブルオレンジ	3月～7月
バレンシアオレンジ	7月～9月
マンダリン/タンジェリン	3月～8月
レモン/ライム	2月～9月

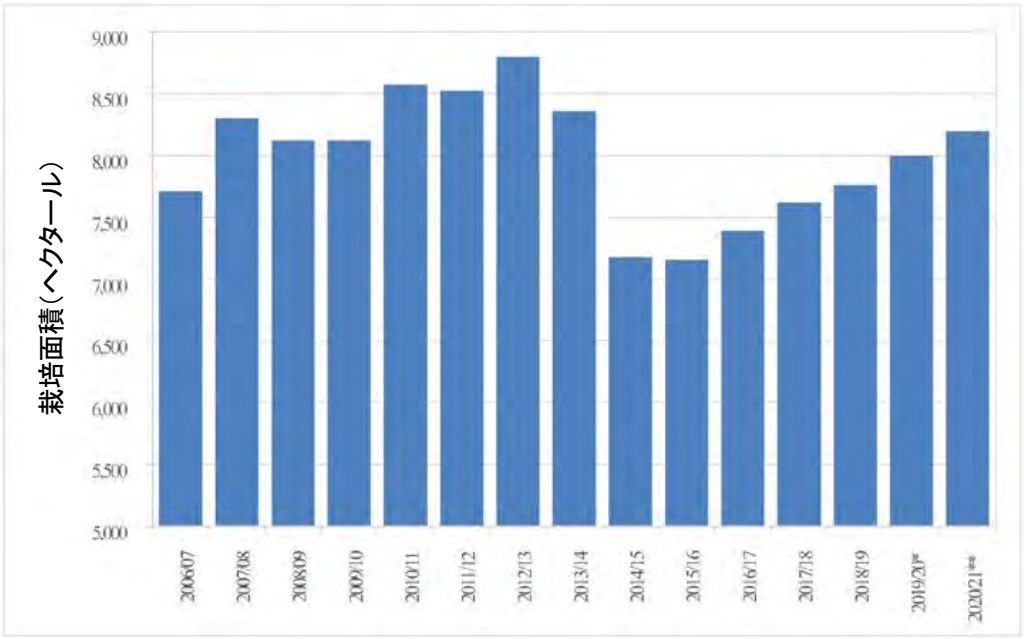
出典：柑橘類生産者協会（CGA）

グレープフルーツ（生鮮）

栽培面積

グレープフルーツの2020/21年度の栽培面積は、2019/20年度の8,000ヘクタールから3%増加して8,200ヘクタールと見込まれる。これは、欧州、アジア、中東をはじめとする世界的な需要の高まりへの対応による。図2は、グレープフルーツ栽培面積が、2014/15年度以降増加しているものの、2012/13年度に記録した最大面積に達していないことを示している。リンポポ州は、全栽培面積の58%を占めるグレープフルーツの最大の産地であり、次いでムプマランガ州（22%）、クワズールナタール州（9%）、北ケープ州（7%）、東ケープ州（4%）、西ケープ州（1%未満）が続く。主な栽培品種は、世界で需要が高く栽培面積の84%を占めるStar Rubyであり、次いでMarshの12%である。その他の品種には、Rose、Redheart、Pomelit、Java Shaddock、Flame、Narita、Fe 1（Jackson）などがある。

図2 グレープフルーツの栽培面積



*は推計値　　**は予測値　　出典：CGA及びプレトリア事務所の推計

生産

グレープフルーツの2020/21年度の生産量は、2019/20年度の35万8,000トンから1%増加し、36万トンと見込まれる。これは、気象条件が平年並みだったこと、主要な産地の降雨が良好だったこと、そして栽培面積の増加による。2020年のダムの水位は全産地で2019年の水位よりも高い模様であり、次の2020/21年度に十分な灌漑水があることを示している。さらに、グレープフルーツの生産には周期があり、2019/20年度は裏年であった。プレトリア事務所は、最終的な業界データに基づいて、2019/20年度の生産見通しを35万8,000トンに下方修正した。グレープフルーツは通常、3月から9月の間に収穫され、COVID-19の生産、収穫、労働への影響は今のところ最小限である。

消費

グレープフルーツの2020/21年度の消費量は、2019/20年度の8,000トンから増加して8,500トンと見込まれる。この増加は、生産の増加と、国内市場におけるグレープフルーツの健康上の利点に関する認知度と理解の高まりによるものである。ビタミンCがCOVID-19に対する免疫力を高める利点があると期待されるため、柑橘類の需要が急増している。

グレープフルーツは、南アフリカの国内市場では多くの消費者がその品質と味にほとんど馴染みがないため、あまり人気がない。その結果、生鮮グレープフルーツの一人当たりの消費量は、1年当たり1kg未満と比較的低くなっている。

加工

グレープフルーツ生産量の平均29%が加工用に仕向けられる。プレトリア事務所は、2020/21年度のグレープフルーツの加工仕向量は、輸出と消費が増加することから、2019/20年度の95,000トンから3%減少し、92,000トンになると見込んでいる。グレープフルーツはジュースと濃縮果汁に加工され、大部分はヨーロッパに輸出される。商業的にジュースを抽出した後の残渣物は、多くの清涼飲料で香料として使用されるグレープフルーツオイルの重要な原料である。皮の内側はペクチンとクエン酸の原料であり、どちらも食品業界によって、プリザーブ、ジャム、マーマレードに使われる。また、グレープフルーツの皮から抽出されるナリンジンは、トニックウォーターに独特の苦味を与える。グレープフルーツの果皮油は香料として使われる。

輸出

プレトリア事務所は、2020/21年度のグレープフルーツの輸出量は、生産量の増加と健康に関する理由により世界市場で柑橘類の需要が継続することから、2019/20年の25万6,000トンから2%増加して26万トンと見込んでいる。柑橘類は、ビタミンCがCOVID-19に対する免疫力を高める効力があると期待されるために需要が急増している。2019/20年度のグレープフルーツ輸出量は、Trade Data Monitorの最終的なデータに基づいて25万6,000トンに下方修正された。

欧州は、2019年の南アフリカのグレープフルーツ輸出全体の48%を占める最大の輸出市場で、次いでアジアが35%であった。南アフリカ産柑橘類は欧州市場で、欧州連合(EU)との自由貿易協定により関税が免税されているが、カンキツ黒星病(CBS)及びニセコドリンガ(FCM)の課題に引き続き直面している。南アフリカの業界は、EU市場におけるCBSの検疫条件に対応し、それを遵守するために、約18億ランド(1億1,800万米ドル)の費用をかけていると推計している。

総量は依然として少ないが、米国へのグレープフルーツの輸出は、2012/13年度の76トンから2018/19年度の5,347トンへと、過去5年間で年平均65%の指数関数的増加を示している。米国へのグレープフルーツの輸出は、需要の高まり及び品質の良さにより、またある程度はアフリカ成長機会法(AGOA)を通じた免税措置の継続によって、増加し続けると予想される。中東、カナダ及びアフリカも南アフリカ産グレープフルーツの成長市場である。

表3 南アフリカの生鮮グレープフルーツ輸出

南アフリカの世界への輸出							
品目 : 080540 グレープフルーツ(生鮮又は乾燥)							
暦 年							
輸出先国	単位	2015	2016	2017	2018	2019	2020*
世界	トン	220,318	202,527	230,635	288,155	258,423	242,600
オランダ	トン	53,256	59,236	63,868	68,184	75,083	71,953
中国	トン	19,972	17,463	20,254	54,530	36,439	47,229
日本	トン	44,802	31,154	39,505	37,688	30,072	26,826
ロシア	トン	18,020	15,842	19,187	20,064	14,128	21,861
香港	トン	5,034	5,828	7,162	13,761	12,130	13,270
英国	トン	11,415	9,965	11,990	12,275	11,779	10,498
イタリア	トン	11,976	9,365	9,533	12,858	10,434	9,399
エスワティニ	トン	3,575	3,229	4,463	4,861	7,459	3,301
ポルトガル	トン	4,368	5,991	6,231	7,768	7,384	4,522
韓国	トン	9,032	9,760	10,634	9,732	6,918	4,095
カナダ	トン	7,127	5,022	6,657	9,504	6,665	6,252
米国	トン	1,802	3,737	4,293	4,729	5,347	5,310
フランス	トン	5,816	3,183	3,251	4,328	5,106	699
ドイツ	トン	1,819	5,015	2,386	3,912	4,135	968
アラブ首長国連邦	トン	4,625	4,238	3,967	4,156	4,128	3,471
アイルランド	トン	834	768	278	1,011	3,321	516
スウェーデン	トン	887	767	872	481	2,857	481
台湾	トン	2,801	2,011	3,344	3,268	2,233	2,429
ウクライナ	トン	1,123	1,016	1,494	1,427	1,339	2,029
ギリシャ	トン	1,317	1,128	1,325	1,535	1,326	647
スイス	トン	295	0	0	41	1,236	0
スペイン	トン	23	42	545	1,105	1,053	295
サウジアラビア	トン	1,655	680	707	1,168	1,033	748

＊2020 年 9 月までの輸出。 出典 : Trade Data Monitor(TDM)

輸入

南アフリカはグレープフルーツの主要な輸入国ではない。輸入先は主にエスワティニ（旧スワジランド）、スペイン、トルコ、イスラエルで、収穫シーズンの終わりに向かっての小さな需給ギャップを埋めるための輸入である。エスワティニは、南部アフリカ関税同盟（SACU）の下での南アフリカへの免税アクセスと隣国としての地理的恩恵を受けている。

価格

輸出市場と国内市場のグレープフルーツ価格は、ランドの対米ドル為替レートの下落により、過去5年間で上昇した。加工用と国内市場の価格は、供給量によって変動する傾向がある。南アフリカ産グレープフルーツの価格としては輸出価格が依然として最も高く、これは業界が輸出指向である理由を説明するものである。

（表4　南アフリカの生鮮グレープフルーツの輸入、表5　グレープフルーツの価格　は省略。）

表6　グレープフルーツ（生鮮）の生産需給（PSD）統計

グレープフルーツ（生鮮）	2018/2019		2019/2020		2019/2020	
販売年度	2019年1月～12月		2021年1月～12月		2020年1月～12月	
南アフリカ	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	7,762	7,762	8,000	8,000	0	8,200
収穫面積	7,400	7,400	7,700	7,700	0	7,900
結果樹本数	7,400	7,400	7,600	7,600	0	7,800
非結果樹本数	800	800	900	900	0	920
果樹本数合計	8,200	8,200	8,500	8,500	0	8,720
生産量	372	372	387	358	0	360
輸入量	1	1	2	1	0	1
供給量合計	373	373	389	359	0	361
輸出量	258	258	270	256	0	260
生鮮国内消費量	8	8	9	8	0	9
加工仕向け量	107	107	110	95	0	92
出荷量合計	373	373	389	359	0	361

単位：ヘクタール、1000本、トン

142. 世界のオレンジ市場

FreshPlazaウエブサイト（2020年12月11日）

3月のロックダウンの間、オレンジの需要は天井知らずに上がり、南半球の産地が最も恩恵を受けた。年末に向け、ヨーロッパと北米の市場は安定しており、需要は数ヶ月前ほど高くない。この需要の減速は、当初高い需要が続くと見込んでいたスペインを失望させた。北米では、多くの卸売業者が、市場の不確実性のため、買い付けに慎重に見える。中国でもオレンジの需要が減少し、価格の低下を引き起こしており、販売は芳しくない。

注）本文中のSalustiana、Cara Cara等は、オレンジの品種や種類を表します。

オランダ：大玉の供給は限られている

オランダの輸入業者によれば、現在は十分なオレンジの需要があるが、ケータリング部門の閉鎖により、ジュース用オレンジの販売は落ちてきた。生食用オレンジの販売はまだ好調だ。小売店の棚にはまだ域外からの輸入品がいくらかあり、現在のところ、スペイン産Salustianaの需要を少し弱めている。スペイン産Salustianaは容易に11、12あるいは13ユーロに達するため、これは恐らく価格の問題である。加えて、大玉の供給は限られている。

ベルギー：市場のオレンジ需要は安定

柑橘類のシーズンは順調に進んでいるとベルギーの取引業者は語る。スペインの生育期の天候が良好だったことから、今年は十分な供給量がある。そのため、その取引業者は、今年は需要を満たす十分な供給があると見込んでいる。スペイン産オレンジの品質も良好である。Salustianaの最初の荷が到着し、品質は満足できるものである。そして、シチリア産 Cara Caraのシーズンがまた始まった。オレンジの需要は今のところ、通常の水準である。需要はもはや最初のロックダウン中ほど大きくなく、はるかに安定している。

ドイツ：寒い気候はオレンジの販売に有利

ドイツ市場では、スペイン産Navelinaオレンジが大きな位置を占めている。イタリア産ネーブルは、ポルトガル産NavelinaやNewhallと同様、徐々に増えている。ギリシャ産及びトルコ産Navelinaは、主に供給を補うものとして取引されている。南アフリカ産オレンジもところどころで流通している。

突然の冬の天候の到来は柑橘類の販売にとってかなり好ましい。供給と需要は全体としてバランスが取れている。ブラッドオレンジのシーズンはイタリア産Tarocoの第一便とともに始まったばかりで、ドイツの卸売市場では、今シーズン最初のスペイン産 Cara Caraも入荷している。

長期的には、最大のオレンジ供給国としてのスペインの優位性は増しているようだ。ここ数年、ドイツへの年間輸出量は約37万トン付近で変動している(ピークは2015年の40万1,714トン)。南アフリカは、現在、2番手争いでイタリアを追い越したようである(2019年の26,340トンに対し、33,424トン)。このほか、ギリシャが、2019年の総輸出量13,701トンと、依然として重要な役割を果たしている。ほかに、そこそこの貿易量があるのはフランス、ポルトガル、エジプト、トルコ、モロッコそしてジンバブエである。

フランス: 最初のロックダウン時より需要は低い

フランス市場のオレンジシーズンは数週間前に始まり、スペイン産とポルトガル産の両方が流通している。ポルトガル産に関しては、生産量はある程度良いが、果実のサイズは昨年より小さい。品質の面では、かなり良好である。フランスの消費は極めて通常の水準であり、最初のロックダウンが起こった3月よりはるかに低い。

スペイン: 高い見通しにまだ達していない

スペインのオレンジ生産量は、地域によって異なるが、この2020/2021シーズンは安定している(−1%)と見込まれる。東部のバレンシア地方では、生産量は昨年より8〜10%多いと見込まれる。南部のアンダルシア州のベガデグアダルキビール地域でも早生種は同様の状況であるが、晩生品種の生産量は昨年と比べて約10%減少すると見込まれている。

スペインの複数の業界筋によると、今年の柑橘類シーズンは、天井知らずの需要に対して供給が限られ高価格であった前のシーズンが終わった時点の期待に達していない。バレンシアのある販売業者は「今年の夏、多くのスペインの業者は、コロナウイルスによる柑橘類への需要が依然として大きいことを期待して、通常よりも早く産地のオレンジの買い付けに着手した。オレンジが売り切れることを避けるため、多くの輸出業者は、圃場の果実に高い価格を支払ったが、市場は期待通りに反応しなかった。圃場で支払った額を考慮すると、果実を納得できる価格で販売することはかなり困難になった」と語った。また、パンデミックのために生産と加工に要するコストが大きいことに留意すべきである。

価格がそれほど高くない理由の一つは、果実のサイズが小さいことである。しかし、最近の降雨は、2月頃に収穫が始まるLate LaneやValencia Late等の晩生オレンジの生育を促進すると予想される。

オレンジ市場は、マンダリン市場よりも安定しているように見えるが、それでも国内及び国際的な供給の両方の増大が現在の価格に大きな影響を与えている。「10月の終わりか11月の初めまで、状況はかなり良かったが、11月中旬から市場には既に多くの参加者がおり、事態はより難しくなった。イタリアには現在、国産があり、このことは、イタリアの市場にもはやアクセスできないことを意味する。トルコ、エジプトそしてギリシャもかなり積極的にキャンペーンを開始した」と、別の輸出業者は語る。

欧州市場のオレンジの価格は、輸出業者がより多くのオレンジをEU域外に出荷できる1月末までに改善される可能性がある。今シーズン、輸出業者は、コロナウイルス大流行により昨シーズン直面した輸出が難しい状況に対処する必要はなく、中国等の第三国への出荷が回復し、ヨーロッパの供給と需要のバランスを取るのに貢献することが期待される。他方、スペインの輸出業者は、世界中で売り上げが増え続けているエジプト産柑橘類を注視している。

これらに加えて、ブレグジットの問題もある。2021年1月1日から、英国はスペイン産オレンジに関税を課すことができるが、北半球(モロッコ、エジプト、トルコ)とオフシーズン(南アフリカ)の競争相手は、英国と署名した優遇協定により関税ゼロを享受することとなっている。英国は、ドイツとフランスに次ぐスペイン産柑橘類の3番目の市場である。

イタリア: 販売は好調、市場には多くのブラッドオレンジ

イタリアのオレンジシーズンは、通常のスイートオレンジで11月に始まった。イタリアのほとんどの地域では、今シーズン、小玉が多くなっており、価格を下げている。

シチリア産ブラッドオレンジ(Tarocco nucellare、Moro、Tarocco Ippolito、Sciara、Meli及びTDVの各品種)は豊富に供給されている。今シーズンの好調な販売の達成は、オレンジの品質(今年は良い)、気象

条件、さらには、小さな果実の余剰を吸収する加工業界を含む市場の動向等の多くの要因に依存する。現在、ブラッドオレンジの産地価格は、サイズによるが、キログラム当たり0.35～0.60ユーロであり、一方、一般のオレンジの価格はキログラム当たり0.30～0.35ユーロで安定している。

プッリャ州（イタリア半島東南端）の取扱業者も、「小～中玉のオレンジが出回っている。価格はキログラム当たり約0.20ユーロであり、クレメンタインより高い。主にサイズ6と4が最も需要が大きい。2020/21年のシーズンはまだ完全には始まっていないが、限られた範囲の販売状況は今のところ順調だ」と報告している。

エジプト：コロナからの市場回復に輸出が重要

エジプトのEUへの輸出は、増加すると見込まれており、これは主として柑橘類の需要の増加が予想されるためである。エジプト産オレンジの輸出市場は、前年と同じである。輸出先は通常、まずはアラブ諸国、次にロシア、ウクライナ及びベラルーシ、そして最後にEU及び東アジア諸国である。日本、ニュージーランド、ブラジル等の新たな市場にも進出している。人気のあるオレンジベスト3は、ネーブル、ジュース用Baladiオレンジ、そして「柑橘類の王様」バレンシアである。エジプトの関係者は、スペイン産が今年苦戦しており、このことはスペイン産オレンジに取って代わる大きなチャンスと見ていると言う。価格は今のところ妥当と思われるが、シーズンが進むと上がると見込まれる。エジプトのオレンジ輸出業者は、オレンジの輸出はコロナウイルスの影響からの回復の手助けとなるだろうと信じている。

南アフリカ：今年はヨーロッパへの輸出が大きく増加

直近の南アフリカのオレンジシーズンは素晴らしかった。最終的に、今年は5,240万箱（1箱15kg）のバレンシアオレンジが出荷された。このうち42%がヨーロッパ向けであった（2019年は37%）。東南アジアと中東はともに16%を占めた。

ネーブルの輸出は、前シーズンの2,276万箱に対し、2,620万箱と推計されている。輸出の36%はヨーロッパ向け（2019年は28%）、中東は21%、北米市場は14%であった。東南アジアへの輸出は、2019年の20%から昨シーズンは12%に減少した。

米国：フードサービスと卸売業者は購入に消極的

オレンジの国内供給は、今のところ良好であり、シーズンが進むにつれて改善されている。現在のオレンジは、主にカリフォルニア州、テキサス州そしてフロリダ州から入荷しており、少量のメキシコからの輸入品がある。チリと南アフリカの競合国からの入荷は、通常よりも長く続いて10月にはまだ市場に出回っていたが、現在は市場から姿を消している。

オレンジの需要は安定しており、今の時期カリフォルニア州の生産者は輸出向けの梱包を開始する準備も整えている。しかし一方、取扱業者は、卸売業者とフードサービス部門は発注に消極的であると感じている。国内市場の貨物輸送コストが上昇したにもかかわらず、現在の価格は昨年より僅かな高値で安定している。このことは、産地の出荷価格に多少影響している。フロリダ産は現在、東海岸の市場に入荷してきているところである。西部市場と同様、価格は安定しているが、今後上下する要素がある。例えば、特に小売部門のジュース用オレンジの需要が店舗によって実施されたコロナウイルス対策のために低下した一方、バレンシアなどの人気品種が市場に出回ることから、需要は今後数週間で増大すると見込まれる。

中国：現時点の柑橘類の需要は小さい

中国市場に輸入されるオレンジのほとんどはオーストラリア産と南アフリカ産であり、後者が多い。オーストラリア産オレンジの輸入量は比較的少なく、品質と価格は高い。南アフリカ産のオレンジの供給はかなり多く、価格は低いが、市場では人気がない。これらのオレンジ需要は、主に飲食業界からのものである。米国産が少量あるが、米中貿易戦争により減少している。

コロナウイルスのため、輸入果実の売り上げは減少し、国産果実の売り上げが増加している。しかし、中国の柑橘市場の全体的な状況はあまり良くなく、価格は下がり続けている。最近、チリ産柑橘類が中国市場に入荷した。オーストラリア産の輸入は、通関手続きが厳しく輸入業者のリスクが高いことから減少した。国産の中国ネーブルもあるが、今年は雨が多く、中国南部の収穫はかなり少ない。これは、中国南部のGannanネ

ーブルについても言える。

オーストラリア・ニュージーランド：柑橘部門のソフトドリンク等級制度をめぐる騒動

オーストラリアの柑橘業界は、ダイエットドリンクに対して、オーストラリア産100%オレンジ生果汁より高い評価を与えることとなる「Health Star Rating」制度の提案を、結果的に果実の売り上げに影響を与えることになるとして懸念している。オーストラリア及びニュージーランド閣僚級食品規制フォーラムは、この問題を見直し、2月に最終決定する。しかし、オーストラリアの州政府及び特別地域政府の6閣僚とニュージーランド政府は、この糖分含有量等級制度の導入を望んでいる。大多数の閣僚の意見に反対していたCitrus Australia（訳注：オーストラリアの柑橘生産者団体）は、今後の見直しを歓迎した。

Hort Innovation社の統計によると、2018年7月～2019年6月の期間に、オーストラリアは3億9,880万豪ドル（2億4,650万ユーロ）に当たる52万8,095トンを生産した。輸出は3億810万豪ドル（1億9,030万ユーロ)に当たる18万8,056トンであった。生食用オレンジの41%は、加工用として主に果汁業界に仕向けられた。

ニュージーランドのPlant&Food Research社と Horticulture New Zealandが毎年発行するFresh Factsの最新版によると、ニュージーランドでは2019年、183の経営体がオレンジを栽培し、783ヘクタールで13,342トンを生産した。2018/19年度の国内生産は1,800万NZドル（1,050万ユーロ）であり、2019年の輸出額は170万NZドル（100万ユーロ）であった。

143. 世界の落葉果実事情と市場動向（リンゴ、生食用ブドウ、ナシ）

米国農務省海外農業局（2020年12月11日）

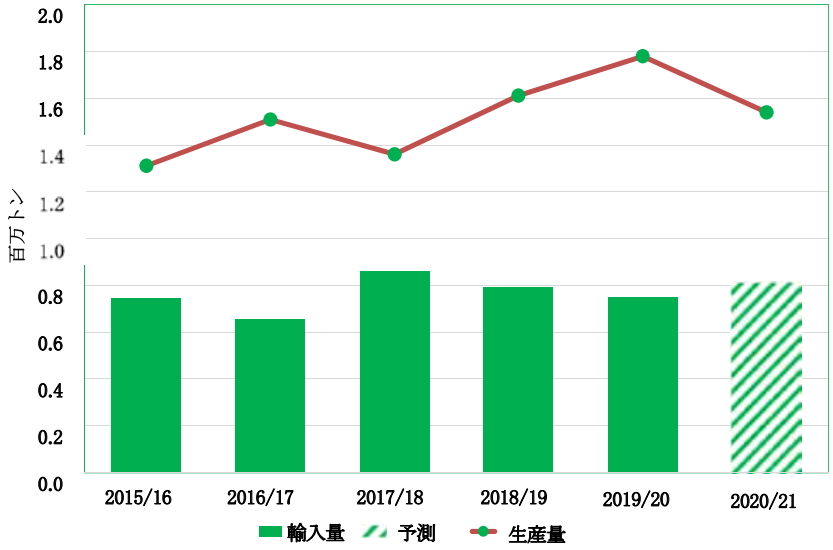
＜生鮮リンゴ＞

世界の2020/21年度の生産量は、330万トン減って7,610万トンの見通しである。これは、主として中国北西部のいくつかの省で春に厳しい霜害があったためである。供給量は少ないが、EU、特にポーランドが昨年の悪天候続きの影響から回復するため、輸出量は580万トンとほぼ変わらないと見込まれる。

中国の生産量は、190万トン減って4,050万トンと予想される。これは、北部のいくつかの省での深刻な霜が開花期の着果に影響を与えたためである。これにより、品質の高い果実の供給量が減少したが、価格に敏感な東南アジア市場に好まれる品質の低いリンゴが増加し、輸出を120万トンに押し上げると見込まれる。COVID-19による各種制限によって輸入業者は買い付けに慎重になるため、輸入は2万トン以上減少して8万と見込まれる。

EUの生産量は、50万トン以上増えて1,220万トンと過去の水準に回復する見通しである。これは、非商業生産における果樹の表年による増加が、ほとんどの加盟国で生じた霜、雹、受粉不良による商業的生産量の損失を補う以上となるためである。商業的供給量の減少にもかかわらず、輸出は、10万トン増えて110万トンと予想される。これは、EUで最大の輸出国であるポーランドが、昨年の霜と干ばつによる大きな被害から部分的に回復して生産量が増加するためである。

ロシア　リンゴの生産量減少により輸入量は増加



ロシアの生産量は、24万トン近く落ち込み150万トンと予想される。これは、春の霜と雹が商業果樹園に影響し、そして昨年は豊作であった非商業果樹園が裏年であったためである。ロシアの商業生産は、新しい果樹園によって栽培面積が拡大し、進化と成長を続けている。同時に、古い果樹園は伐根され、改植されている。しかし、これら新しく植えられた果樹の収量はまだ期待される水準にはない。国内供給量の減少は南半球の輸出国からの出荷を増やし、輸入は約6万トン増加して81万トンと見込まれる。

米国の生産量は、15万トン落ち込み470万トンと見込まれる。これは、ワシントン州の果樹園への嵐の影響と、ミシガン州での深刻な凍結のためである。米国農務省農業統計局（NASS）は、業界を調査し、2020年8月に作物生産報告書の中で米国のリンゴ生産の見通しを公表した。供給量の減少により、輸出量が81万5千トンに減少する一方需要を満たすためカナダと南半球の輸出国の出荷が刺激されることから、輸入量は12万トンに増加すると見込まれる。

チリの生産量は、4万6千トン増えて120万トンの見通しである。これは、冬（6～8月）の十分な降雨量が収量を改善すると予想され、栽培面積が6年連続の減少から横ばいに転じるためである。他の南半球諸国の生産者との競争の激化と利益の低さは、生産者にサクランボやクルミ等のより収益性の高い果実やナッツ類への転換を促してきている。供給量が多いことから、輸出量は5千トン増加して65万5千トンと見込まれる。

メキシコの生産量は、8万トン減って68万トンと予想される。これは、最も栽培が盛んなチワワ州で悪天候が果実の生育に影響したためである。この痛手にもかかわらず、栽培面積は拡大を続け、密植栽培により改善を続けており、今では密植栽培はチワワ州の栽培面積の30％近くを占めている。生産量の減少と弱い消費者需要にもかかわらず、昨シーズンからの持ち越しによって、輸入量は25万トンでほとんど変わらないと見られている。

ニュージーランドの生産量は、ほぼ横ばいで58万3千トンの見通しである。これはCOVID－19によって労働力の確保が不確実なためである。栽培面積の拡大と良好な生育条件による豊作の可能性はあるが、労働力不足が剪定、摘果及び収穫に影響する可能性がある。供給量の減少を見込み、輸出はわずかに縮小し39万トンと見通される。

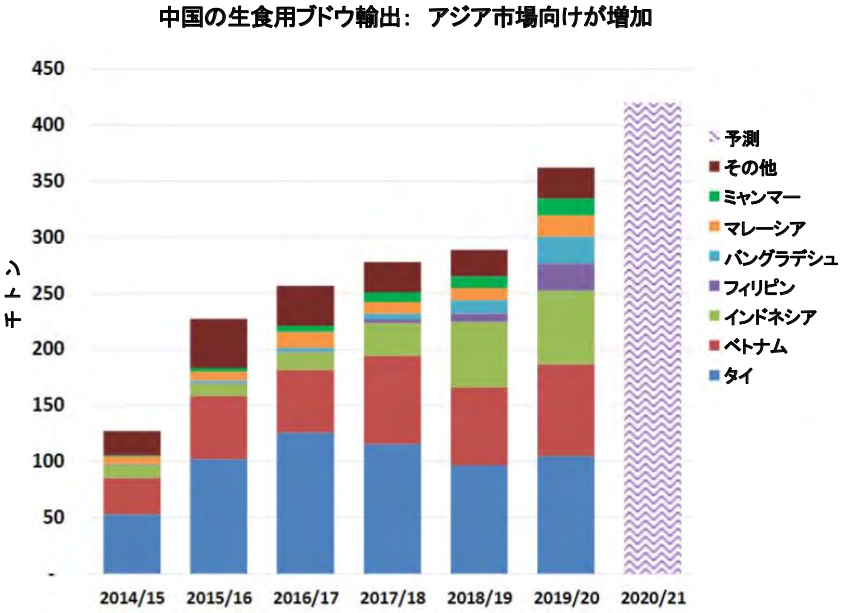
南アフリカの生産量は3年連続で増加すると予想される。新植された果樹の成木化が良好な生育条件と十分な水供給と相まって、生産量は1万8千トン増加し、史上最高の96万トンに達すると見込まれる。栽培面積は新たらしい農地で増え続けており、北部の州では、低温要求性が低い、すなわち通常必要とされるほどには低温を必要としない品種の導入が進んでいる。生産量が多いことから、輸出は51万トンに増える見込みである。

トルコの生産量は、最大の産地であるウスパルタ県を含む中央アナトリア地方の降雹にもかかわらず、新たに植えた果樹の成木化と全体的に良好な生育条件のため、68万トン増えて史上最高の430万トンの見通しである。古い品種は、輸出市場で好まれる新しい品種に改植が進められている。生産量が多いことから、輸出量は4万トン急増して25万トンに達すると見込まれる。また、供給量が多いことから、新しい投資が行われているジュース部門を含む、国内消費を広げると見込まれる。

＜生食用ブドウ＞

世界の2020/21年度の生産量は、2,570万トンでほぼ横ばいと見込まれる。天候要因によるEUの減少よりも中国の増加が大きい。安定した供給と横ばいの需要により、輸出量はほぼ変わらないと見込まれる。

中国の生産量は、40万トン増加して1,100万トンの見通しである。これは、栽培管理技術の継続的な向上による。新しい栽培技術により生産量が増加し、果実の品質が向上したことで、アジア市場への出荷がさらに強化され、輸出量は5万8千トン増えて42万トンと見込まれる。COVID-19による各種制約により輸入業者は買い付けに慎重になっており、輸入量は1万9千トン減の22万トンで、国内供給が輸入を代替するものと見込まれる。



トルコの生産量は、わずかに減少し200万トンと予想される。これは、エーゲ海地域における夏の降雹被害によって、品質と生産量がともに低下したためである。最大の輸出先であるロシアとウクライナ向けの増加を中東諸国向けの減少が上回るため、輸出量は僅かに減少して20万トンと見込まれる。

EUの生産量は、17万トン減少して140万トンと見込まれる。これは、加盟国最大の生産国であるイタリアで開花期に厳しい霜の被害を受け、さらに、秋の雨と雹による被害が続いたためである。夏の気温が高かったためブドウの品質はかなり良いと見込まれるが、供給量が少ないことから輸出量は7年連続で減少し、史上最低の7万5千トンとなる見通しである。供給量が減少し輸入量が横ばいであるため、消費量は、少なくとも2001/02年度以降最も低い水準となる見通しである。

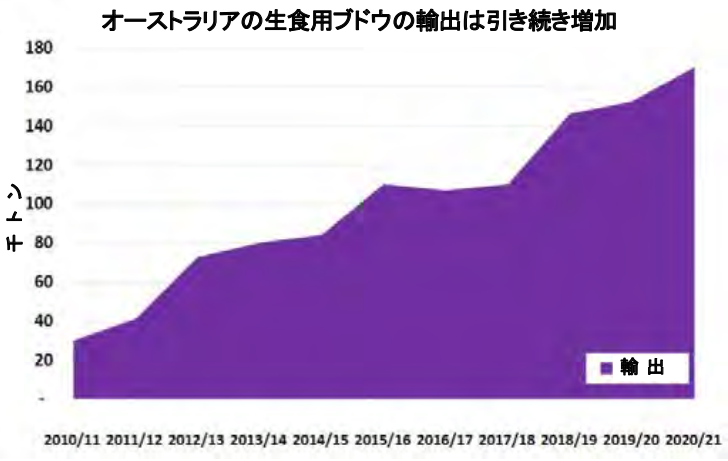
米国の生産量は10万トン以上増えて100万トンの見通しである。米国農務省農業統計局（NASS）は、業界を調査し、2020年8月の作物生産報告書で米国の生食用ブドウ生産の見通しを公表した。特にメキシコの需要が減少することから、輸出は30万5千トンに落ち込むと予想され、他方、昨年豊作であったメキシコの生産量が減少することから、輸入も65万トンに減少すると予想される。

ペルーの生産量は、引き続き増加し、1万2千トン増えて66万5千トンと見込まれる。これは、良好な生育条件に加え、引き続き新植果樹園の成園化が進むためである。北半球市場の需要によって栽培面積の拡大が促進され、また、市場の嗜好に対応して生産者はより価格が高いブドウ品種への切り替えを一層進めている。生産量の増加に伴い主要市場への出荷量が増加するため、輸出量は1万5千トン増えて41万5千トンの見通しである。

チリの生産量は78万5千トンと横ばいで、2012/13年度からほとんど歯止めがかかっていなかった減少が止まる見通しである。良好な天候と水供給の改善による生産量の増加が、栽培面積の引き続きの減少による生産量の減少を相殺するものと見込まれる。生産量が安定しているため、昨年の水準に近い輸出量が維持されるものと見込まれる。

南アフリカの生産量は、8千トン増えて33万トンと見込まれる。これは、水供給が十分であり、新しい果樹園と転換された品種の生産が始まるためである。北部の州では新しい土地が生食用ブドウの園地に転換され、西ケープ州では一部のワイン用ブドウ生産者が生食用ブドウに転換していることから、生食用ブドウの栽培面積は拡大し続けている。生産量の増加がEUへの出荷量を押し上げるため、輸出量は7千トン増えて30万5千トンと見込まれる。

オーストラリアの生産量は、1万5千トン増えて24万トンの見通しである。これは、良好な生育条件が多数の発芽と良好な房の形成を促すためである。COVID-19に関連した各種制限が収穫を妨げなければ、供給量の増加がアジア市場への出荷を押し上げ、輸出は長期間の上向きの傾向を継続し、1万7千トン増えて17万トンとなる見通しである。2009/10年度以降、輸出が減ったのは1年（2016/17年度）だけである。



ロシアの生産量は、わずかに減少して2万3千トンの見込みである。これは、南部の一部の地域で春の水供給が少なかったためである。生食用ブドウ生産よりもワイン用ブドウに投資されているため、生食用ブドウの栽培面積はほとんど変わっていない。トルコとウズベキスタンからの出荷が増加し、輸入は31万トンに増える見通しである。

＜ナシ（生鮮）＞

世界の2020/21年度の生産量は、100万トン以上減って2,220万トンと見込まれる。これは、中国での天候による減少のためである。中国の生産量が減ることから貿易量は減少すると予想される。

中国の生産量は130万トン減って1,600万トンの見通しである。これは、4月の霜によって、最大のナシ産地であり輸出品の主要産地でもある河北省の生産量が減少したためである。生産量が少ないことからアジア市場への出荷が減ると見込まれ、輸出量は7万トン近く減り55万トンの見込みである。輸入量は、西洋ナシの需要が変わらないことから1万1千トンと据え置く。

中国のナシ生産量と輸出量は過去3年間に2回減少

EUの生産量は、約28万トン増えて230万トンと予想される。これは、良好な生育条件のためであり、昨年の天候及び病害虫による減少からの回復、特に最大の生産国であるイタリアの回復を反映している。供給量が多いことから、消費量が増加するとともに、輸入量は1万4千トン減の17万トンと見込まれる。輸出量は30万5千トンで横ばいと予想される。

米国の生産量は、6万トン以上増えて72万トンの見通しである。これは、最大の産地であるワシントン州とオレゴン州の理想的な気象条件による。米国農務省農業統計局（NASS）は、業界を調査し、2020年8月の作物生産報告書の中で米国のナシ生産の見通しを公表した。供給量が多いにもかかわらず、主要な市場の需要が減少したため、輸出量は11万トンに減少すると見込まれる。国内供給が多いことからアルゼンチンとチリからの入荷は減少し、輸入量は7万トンに減ると見込まれる。

アルゼンチンの生産量は、生育条件が良好なためわずかに増えて61万トンと見込まれる。生産量の増加にもかかわらず、EUと米国で域内/国内供給量が多いことから輸入需要が減退し、輸出量は1万トン減って32万トンと見込まれる。

チリの生産量は、4年連続で減少し、9千トン減って21万3千トンと見込まれる。これは、収益性の低下により栽培面積が減り続けているためである。供給量が少ないこと及び北半球の市場での需要減少により、輸出量は11万トンに減少する見通しである。

南アフリカの生産量は、わずかに増えて41万トンと見込まれる。これは、良好な生育条件と十分な水供給による。栽培面積は、干ばつ前の2015/16年度の水準に回復しつつあり、4年連続で増加する見通しである。水供給の管理を改善するため古い果樹園は取り除かれ、新しい果樹園に置き換りつつある。輸出量は、ロシアの安定した需要により22万トンとほぼ変わらないと予想される。

ロシアの生産量は、4万3千トン減って24万7千トンの見込みである。これは、商業的な果樹園では天候による被害があり、さらに、昨年は生産量が多かった非商業的または自家用の果樹園は、今年は裏年に当たるためである。供給量は少ないが、ナシの価格が高いため消費者の購買意欲が次第にナシからリンゴに向っており、輸入量は19万5千トンでほぼ横ばいと見込まれる。

注意事項

欧州連合(EU)の定義

英国を含むEUの関税同盟の諸国を指す。英国は、2020年12月31日までの移行期間の間、EU関税同盟のメンバーである。当分の間、米国農務省海外農業局の報告書等はEU27か国に英国を加えたEU28か国として取り扱う。

データの変更(リンゴ、ナシ)

加工仕向け量: 過去のデータの正確性に関する懸念から、このデータは収集・報告されていない。
今後、落葉性果実に関するFASの報告では、加工仕向け量は、*国内消費量*に含まれる。

販売年度

リンゴ　米国及びメキシコは8月～7月。他の北半球の国は7月～6月。
南半球の国は、2年目の年の暦年。

ブドウ　米国とメキシコは5月～4月。他の北半球の国は6月～5月。
南半球のアルゼンチン、オーストラリア、チリ、南アフリカ及びペルーは、10月～9月。

ナシ　北半球の国は7月～6月。南半球の国は、2年目の年の暦年。

リンゴ（生鮮） 主要国の生産需給統計（1,000トン）

	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 12月推計値
生産量						
中国	38,900	40,393	41,390	33,000	42,425	40,500
欧州連合	12,453	12,723	10,005	15,029	11,705	12,227
米国	4,546	5,010	5,085	4,479	4,821	4,671
トルコ	2,570	2,926	3,032	3,600	3,620	4,300
インド	2,520	2,258	1,920	2,300	2,370	2,300
ロシア	1,311	1,509	1,360	1,611	1,779	1,540
ウクライナ	1,099	1,076	1,462	1,462	1,462	1,462
ブラジル	1,055	1,308	1,195	1,195	1,195	1,195
チリ	1,335	1,310	1,330	1,210	1,124	1,170
南アフリカ	924	902	836	894	942	960
その他	7,760	7,227	7,898	7,744	7,970	5,805
合計	74,474	76,641	75,512	72,524	79,413	76,131
国内消費量						
中国	37,826	39,088	40,172	32,275	41,487	39,380
欧州連合	11,145	11,568	9,773	14,347	11,192	11,627
トルコ	2,462	2,712	2,844	3,324	3,412	4,051
米国	3,956	4,314	4,212	3,884	4,067	3,976
インド	2,366	2,283	1,955	2,313	2,250	2,352
ロシア	1,980	2,042	2,156	2,322	2,443	2,273
ウクライナ	1,112	1,105	1,426	1,418	1,462	1,457
ブラジル	1,180	1,330	1,199	1,218	1,242	1,235
メキシコ	967	983	1,001	794	1,017	930
ベラルーシ	908	798	864	834	831	830
その他	9,803	9,479	9,252	9,378	9,707	7,638
合計	73,706	75,700	74,854	72,106	79,110	75,749

	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 12月推計値
輸入量						
ロシア	746	657	859	793	751	810
欧州連合	451	425	531	493	503	515
バングラデシュ	203	245	245	188	271	280
エジプト	267	145	72	271	253	250
メキシコ	218	267	287	247	257	250
ベトナム	141	150	160	185	233	250
インド	202	370	249	277	194	240
カナダ	230	221	222	203	205	205
サウジアラビア	205	192	181	182	195	200
タイ	182	175	160	126	172	185
その他	3,628	3,408	3,099	2,830	2,910	2,487
合計	6,474	6,255	6,064	5,795	5,943	5,672
輸出量						
中国	1,151	1,376	1,281	818	1,042	1,200
欧州連合	1,590	1,486	761	1,175	1,015	1,115
米国	778	868	1,007	741	862	815
チリ	765	716	779	674	650	655
南アフリカ	511	553	449	472	500	510
ニュージーランド	347	345	369	391	400	390
トルコ	110	217	189	278	209	250
モルドバ	170	168	264	299	238	230
セルビア	233	239	156	184	206	190
アルゼンチン	91	78	96	111	120	110
その他	926	629	1,122	762	643	352
合計	6,672	6,674	6,473	5,904	5,884	5,817

注: 販売年度は、米国とメキシコは8月～7月、他の北半球の国は7月～6月、南半球の国は2年目の年の暦年。

生食用ブドウ（生鮮） 主要国の生産需給統計（1,000トン）

	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 12月推計値
生産量						
中国	10,000	10,100	10,500	9,900	10,600	11,000
インド	2,590	2,784	2,800	2,900	3,125	3,000
トルコ	1,892	1,991	2,109	1,950	2,050	2,000
ブラジル	1,113	1,743	1,592	1,592	1,592	1,592
ウズベキスタン	1,613	1,626	1,590	1,590	1,590	1,590
エジプト	1,250	1,280	1,315	1,350	1,385	1,420
EU	1,753	1,718	1,448	1,589	1,573	1,403
米国	947	943	935	997	906	1,020
チリ	868	917	915	835	785	785
ペルー	540	611	623	630	653	665
その他	1,191	1,069	1,128	1,041	1,210	1,216
合計	23,757	24,783	24,955	24,374	25,469	25,690
国内消費量		none				
中国	10,022	10,081	10,464	9,873	10,477	10,800
インド	2,220	2,358	2,401	2,356	2,648	2,600
EU	2,280	2,280	2,057	2,192	2,172	2,008
トルコ	1,718	1,818	1,830	1,771	1,845	1,800
ブラジル	1,110	1,723	1,572	1,561	1,555	1,554
ウズベキスタン	1,507	1,528	1,463	1,472	1,494	1,485
エジプト	1,245	1,275	1,300	1,325	1,360	1,370
米国	1,150	1,189	1,217	1,199	1,253	1,365
ロシア	346	228	412	307	307	329
メキシコ	201	188	244	261	273	279
その他	1,751	1,838	1,928	1,784	1,833	1,848
合計	23,550	24,506	24,888	24,102	25,218	25,437

	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 12月推計値
輸入量						
EU	615	649	688	682	677	680
米国	530	593	618	571	672	650
ロシア	256	212	387	290	288	310
香港	232	229	250	259	238	235
中国	249	237	242	262	239	220
カナダ	170	176	180	179	189	190
タイ	131	157	143	124	131	140
ベトナム	74	74	101	101	113	125
エジプト	80	85	100	110	125	120
インドネシア語	49	68	81	112	94	95
その他	561	613	623	647	628	628
合計	2,948	3,093	3,412	3,336	3,393	3,393
輸出量						
チリ	688	731	731	655	610	620
中国	227	257	278	289	362	420
ペルー	297	311	277	388	400	415
南アフリカ	255	304	279	276	298	305
米国	328	347	336	369	325	305
香港	190	212	214	226	205	200
メキシコ	164	156	196	147	224	200
トルコ	175	173	280	179	205	200
インド	160	200	210	250	185	180
オーストラリア	110	107	110	146	153	170
その他	323	326	368	381	375	399
合計	2,916	3,123	3,279	3,305	3,341	3,414

注: 販売年度は、米国とメキシコは5月～4月、他の北半球の国は6月～5月、南半球のアルゼンチン、オーストラリア、チリ、ペルー及び南アフリカは10月～9月、ブラジルは2年目の暦年。
一部の国は干しブドウ用を含む。

ナシ（生鮮） 主要国の生産需給統計（1,000トン）

	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 12月推計値
生産量						
中国	16,530	15,960	16,410	14,000	17,314	16,000
EU	2,513	2,340	2,384	2,591	2,061	2,337
米国	729	668	663	726	658	720
アルゼンチン	580	540	580	600	600	610
トルコ	464	472	503	520	530	550
南	430	432	408	413	407	410
インド	323	340	280	3,000	310	300
日本	278	275	259	259	259	259
ロシア	155	236	218	242	290	247
チリ	267	290	262	252	222	213
その他	604	594	650	561	555	512
合計	22,872	22,146	22,618	23,164	23,206	22,157
国内消費						
中国	16,137	15,458	15,875	13,645	16,707	15,461
EU	2,404	2,241	2,240	2,449	1,941	2,202
米国	652	615	621	654	599	680
トルコ	440	456	459	478	479	495
ロシア	406	446	470	461	436	401
インド	307	333	267	2,988	327	320
アルゼンチン	271	261	260	290	270	290
日本	277	273	257	257	257	257
インドネシア語	92	155	180	145	236	200
南アフリカ	180	166	186	188	191	190
その他	1,476	1,515	1,597	1,451	1,576	1,553
合計	22,641	21,919	22,412	23,006	23,020	22,049

	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 12月推計値
輸入量						
インドネシア語	92	155	180	145	236	200
ロシア	267	252	285	261	194	195
EU	224	209	200	168	184	170
ブラジル	147	156	158	154	143	140
ベトナム	70	78	88	63	130	135
ベラルーシ	151	152	133	118	119	125
香港	76	68	73	85	76	80
メキシコ	77	67	72	92	84	80
米国	79	73	79	73	72	70
カナダ	68	64	64	66	60	65
その他	350	382	387	345	402	414
合計	1,601	1,656	1,719	1,569	1,700	1,674
輸出量						
中国	401	509	543	366	619	550
アルゼンチン	310	280	320	310	330	320
EU	310	308	344	310	305	305
南	250	266	222	226	217	220
チリ	129	152	129	132	116	110
米国	156	126	122	144	130	110
トルコ	24	16	44	42	51	55
ベラルーシ	122	92	83	70	16	25
韓国	23	26	32	27	31	25
オーストラリア	10	9	12	9	9	9
その他	16	18	13	15	15	12
合計	1,752	1,800	1,864	1,650	1,840	1,741

注: 販売年度: 北半球の国は7月～6月。南半球の国は、2年目の年の暦年。

144. エジプトの柑橘類事情

米国農務省GAINレポート（2020年12月11日）

これは米国農務省海外農業局カイロ事務所（エジプト）が作成した「柑橘類年次報告：エジプトは世界最大のオレンジ輸出国の地位を維持」の訳であり、米国政府の公式見解とは異なる場合があります。

概要

カイロ事務所（以下「当事務所」）は、2020/21販売年度（以下「年度」）の生鮮オレンジの輸出量が、2019/20年度の137万トンから増加して150万トンに達すると予測する。当事務所は、輸出の増加は良好な気象条件による生産量の増加のためと考える。エジプト産オレンジの主要輸出先は、引き続きサウジアラビア、ロシア、オランダ、中国及びアラブ首長国連邦と見込まれる。最近のエジプト産オレンジの輸出先には、ニュージーランド、日本*、ブラジルが含まれる。COVID-19パンデミックにより、2019/20年度のオレンジ輸出は前年度と比べて34万3千トン減少した。（訳注：エジプト産柑橘類の日本への輸入は、2020年11月に解禁されました。）

栽培面積

当事務所は、2020/21年度のオレンジ栽培面積を、前の年度と同じ16万8千ヘクタールと予測する。2019/20年度の栽培面積は、米国農務省の公式推計値と変わらず16万8千ヘクタールと推計する。オレンジ栽培面積全体の60%は干拓地に位置している。また、ナイル川デルタの栽培面積は、オレンジ栽培面積全体の40%を占める。

当事務所は、2020/21年度の総収穫面積を、前年度より3.57%多い14万5千ヘクタールと見込んでいる。収穫面積の増加は、開花期の良好な気象条件が開花、そして収穫に良い影響を与えたこと及び結果樹の本数が前年から7%増加したことによるものと考えられる。

生産

当事務所は、2020/21年度のオレンジの生産量を、（前年度の改定予測値から）6.2%、20万トン増の340万トンと予測する。この増加は、収穫面積の増加と開花期の良好な気象条件によるものである。また、2019/20年度の生産量を、米国農務省の公式推計値300万トンから20万トン増の320万トンに上方修正する。この増加は、商業生産を行う果樹園の収穫量の増加による。

ここ数年、政府、民間団体、生産者は古い果樹園を改植し、果樹園の灌漑技術を改善し、最新の施肥技術を取り入れ、収穫後のロスを減らす取り組みを続けている。

オレンジはエジプトの主要な柑橘類で、柑橘類栽培面積全体の約80%を占める。エジプトの主なオレンジ品種は以下のとおりである。

ワシントン ネーブル オレンジ：エジプトで栽培されるネーブルオレンジの主要品種であり、輸出されるネーブルオレンジで最も有名である。ワシントン ネーブル オレンジほど知られていないが、Navelate、Cara Cara、New Hall、Navelina、Fisher、Leng、Fukumoto、Lane lateなどのネーブルオレンジの品種がある。果実の着色は9月下旬に始まり成熟期は11月から3月である。果実は種なしで、大きさは中～大、一部の品種は表面が比較的ざらざらしており、他の品種は柔らかい。果実風味の甘い香りがある。果皮はオレンジ色で、果肉は濃いオレンジ色である。

バレンシア オレンジ：栽培面積は、ネーブルオレンジに次いで2番目である。ヌバリア地区は、エジプトで最大のバレンシアオレンジの産地とみなされている。バレンシア品種の成熟期は3月から7月と長い。果肉はジューシーで、大きさは中～大、形は円形～楕円形である。果皮は柔らかく、簡単にむくことができ、種は小さく、果皮と果肉はオレンジ色である。

その他の品種：他に、Baladi orange、Blood orange、Khalily orange、Yafawy oranges、Sweet orangeなどのオレンジの品種がある。これらの品種の栽培面積は、ネーブルやバレンシアオレンジに比べ

て小さく、主に生食用または果汁用として消費される。

消費

当事務所は、2020/21年度の生鮮オレンジの国内消費量は4%増加して155万トンに達すると予測する。国内消費量の増加は、生産量の増大、そして、COVID-19パンデミックの中でビタミンCの含有量が多いことから消費者の生鮮オレンジの利用が増加したことによる。2020/21年度の加工部門のオレンジ使用量は、パンデミックのために前年度から4.4%増加すると予測される。

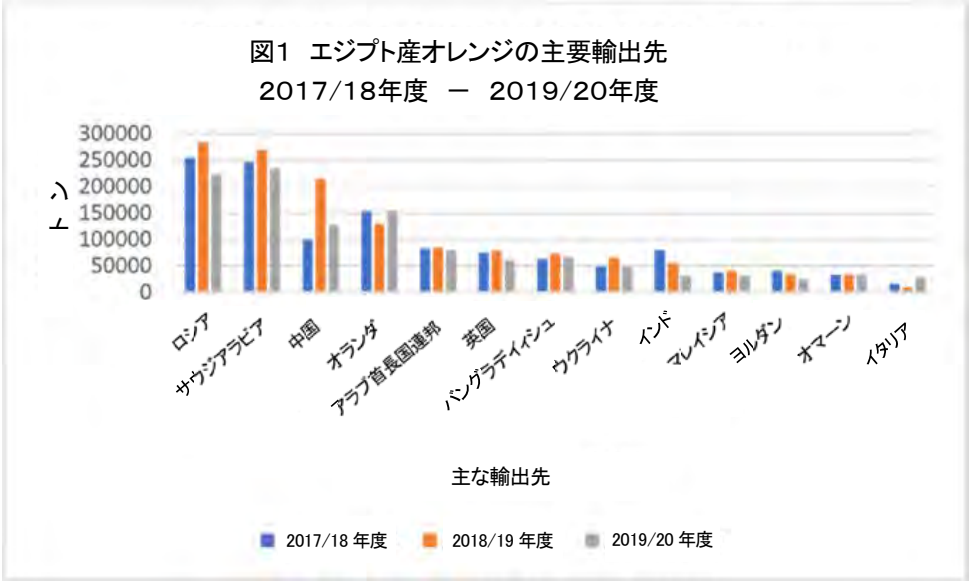
当事務所は、2019/20年度の生鮮オレンジの国内消費見積りを、米国農務省の公式見積もりの120万トンから29万トン増の149万トンに上方修正している。消費量の増加は、COVID-19パンデミックの中での消費者需要の増大とオレンジ果汁需要の増大による加工向けオレンジの30万トンから33万5千トンへの増加による。

オレンジの輸出業者の多くは、生産者であり、政府によって認められた輸出向けの出荷施設を所有している。彼らはまた、自らの生産量が輸出契約量に足りない場合、地元の農家から買い付ける。他の輸出業者は出荷施設を所有しているが、オレンジを栽培していないため、地元の農家に依存している。これらの場合、輸出業者は、オレンジの出荷施設までの輸送に責任がある。

貿易

当事務所は、2020/21年度の総輸出量は12万5千トン増加し、150万トンに達すると予測する。この増加は、予想される生産量の増加が輸出量に影響を及ぼすためと考える。当事務所はまた、2019/20年度の生鮮オレンジの輸出推計値を、COVID-19パンデミックにより、2018/19年度の170万トンから137万トンに減少したものと下方修正する。

農業・干拓省（MALR）植物検疫局（CAPQ）は、2020年12月1日、2020/21年度のオレンジ輸出シーズンの始まりを宣言した。オレンジの輸出シーズンは、通常、アラビア湾沿岸諸国への出荷で始まり、ロシア、ウクライナ、それからEUと東アジアへと続く。2019/20年度のエジプト産オレンジの輸出先は104カ国に達し、サウジアラビア、ロシア、オランダ、中国、アラブ首長国連邦、バングラデシュ、英国、ウクライナ、インド、マレイシア、ヨルダン、オマーン、イタリアが引き続きトップ10である。当事務所は、2020/21年度の輸出先トップ10は、2019/20年度と変わらないと予想する（図1）。



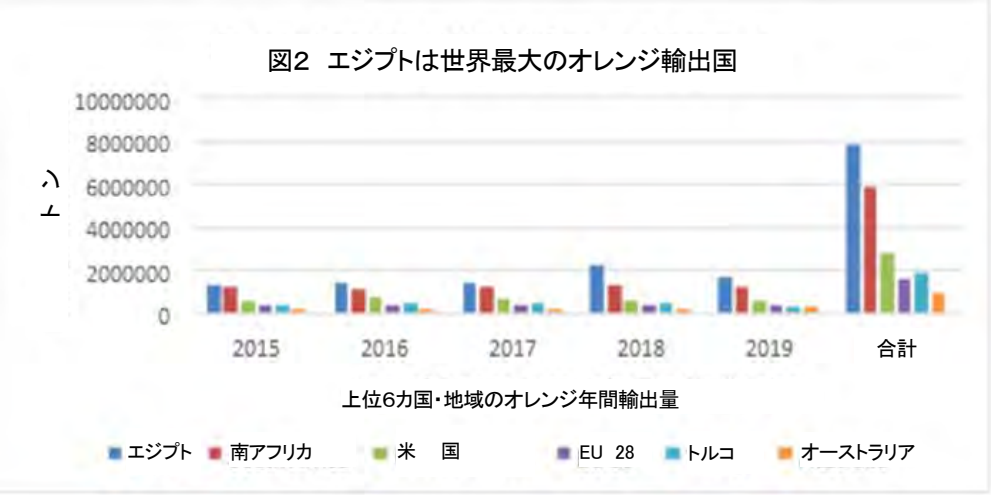
出典：エジプト農業輸出協議会（AEC）

ニュージーランド、ブラジル、日本などの新市場開拓のための、ここ数年にわたるエジプト政府と民間部門が協力した取り組みが成功し、オレンジの輸出は増加すると見込まれる。

これらの共同の取り組みはまた、オレンジ輸出のための、栽培、収穫、包装、輸出の各段階を通じた最新の追跡システムの導入に貢献した。

新しい市場の開拓とトレーサビリティシステム確立というエジプトの輸出政策の成功は、過去5年間の総輸出量776万トンのエジプトが世界最大のオレンジ輸出国であることに貢献している(図2)。

これらの全ての進展は、エジプト産オレンジ輸出の明るい未来、そして新たな施設や規模拡大へのアグリビジネス業界の投資促進を支えている。



出典: Trade Data Monitor

2019/20年度のエジプトのサウジアラビア、ロシア、オランダ、中国及びアラブ首長国連邦への輸出量がオレンジ輸出量全体に占める割合は、2018/19年度の57.3%に対し、52.1%であった。この減少は、2019/20年度の輸出量全体が、COVID-19の影響により前年より減少したためである。中国へのオレンジ輸出量は、2018/19年度の21万4,471トンから2019/20年度は12万7,280トンに減少した。ロシアへの輸出は26.6%減少した。

エジプト産オレンジのサウジアラビアへの輸出も約15%減少した。オランダへの2019/20年度の輸出は、2018/19年度と比較して18.6%増加した。当事務所は、これらの国への2020/21年度の輸出はわずかに増加するものと予測する。

販売先

ロシア: ロシア市場におけるエジプトの競争相手はトルコと南アフリカである。エジプトの2019暦年のロシアへの総輸出量は26万6,127トンであり、トルコの7万4,695トン、南アフリカの7万3, 332トンを大きく上回った。(出典: Trade Data Monitor)

中国: 中国市場におけるエジプトの主な競争相手はオーストラリアである。2019暦年のエジプトの輸出量19万1,430トンに対し、オーストラリアは11万5,262トンを供給した。(出典: Trade Data Monitor)

サウジアラビア: サウジアラビア市場におけるエジプトの主な競争相手では南アフリカである。エジプトは2019暦年の輸出量が24万9,897トンであり、南アフリカの輸出量9万7,853トンを大きく上回り、最大の輸出国である。(出典: Trade Data Monitor)

EU28カ国：EUにおけるエジプトの主な競争相手は南アフリカである。2019暦年には、南アフリカはEUに41万7,544トンを輸出し、エジプトの輸出量は28万4,513トンであった。（出典： Trade Data Monitor）

アラブ首長国連邦：2019暦年に、南アフリカは7万5,602トンを輸出し、エジプトは7万9,026トンを輸出した。（出典： Trade Data Monitor）

エジプトのオレンジ（生鮮）生産需給統計

オレンジ（生鮮）	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
販売年度	2018年10月～2019年9月		2019年10月～2020年9月		2020年10月～2021年9月	
エジプト	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	162,000	162,000	168,000	168,000	0	168,000
収穫面積	150,000	150,000	140,000	140,000	0	145,000
結果樹本数	12,650	12,650	13,000	13,000	0	13,910
非結果樹本数	9,900	9,900	10,000	10,000	0	10,000
果樹本数合計	22,550	22,550	23,000	23,000	0	23,910
生産量	3,600	3,600	3,000	3,200	0	3,400
輸入量	0	0	0	0	0	0
供給量合計	3,600	3,600	3,000	3,200	0	3,400
輸出量	1,700	1,700	1,500	1,375	0	1,500
生鮮国内消費量	1,540	1,540	1,200	1,490	0	1,550
加工仕向け量	360	360	300	335	0	350
出荷量合計	3,600	3,600	3,000	3,200	0	3,400

単位：ヘクタール, 1000 本, 1000トン

145. 国連「国際果実野菜年」を立ち上げ

EUROFRUIT 電子版（2020年12月15日）[1]
FreshFruitPortalウェブサイト（2020年12月16日）[2]
FreshPlazaウェブサイト（2020年12月16日）[3]

この記事は、上記の3つの出典の記事を中央果実協会で抜粋、要約、統合したものです。文中の番号は出典を示します。

来年は、昨年の国連総会で採択された国際果実野菜年2021（IYFV2021）であり、この機会に専門家と消費者が一体となって食料システムを変革することが期待されている。国連食糧農業機関（FAO）によると、IYFV2021は、栄養、食料安全保障、健康、さらには持続可能な開発目標（SDGs）の達成に果実と野菜が果たす重要な役割についての意識を高める比類のない機会である。[1]

IYFV2021は、提唱と啓発、知識の創造と普及、政策決定、能力開発と教育の4つの主要なカテゴリーにおいて、計画し行動することを目指している。[2]

また、IYFV2021は、「国連 栄養に関する行動の10年」（2016～2025年)及び「国連 家族農業の10年」（UNDFF 2019～2028年）の一環でもある。これらの行事は、（同時に行うことによって）小規模生産者にとって見えやすくなり、食料安全保障と栄養に対する意識を高めて互いに強化し合う。[3]

IYFV2021の正式な立ち上げのため15日に開催されたバーチャル式典では、世界中から講演やメッセージが寄せられた。

国連 グテレス事務総長[2]（メッセージ）
「2021年を国際果実野菜年と宣言することで、我々は一つの重要なセクターをより詳しく見つめるとともに、生産と消費に関して人の健康と環境の健全性に利益をもたらす、より包括的なアプローチの採用を促している。果物や野菜は健康的で多様な食事の基礎であるが、多大な利点にもかかわらず、消費量は十分でない。IYFVの重要な山場はフードシステムサミットであり、我々はすべての関係者に対し、食料システムを、排他的でなく、回復力があり、持続可能なものにする取り組みを特定するよう求める。コロナ禍が世界中の人々の健康と生活に影響を与え続けており、果物や野菜のような栄養価の高い食品が、最も脆弱な人々に一人残さず届くようにするために力を合わせなければならない。

FAO 屈（チュー）事務局長[3]
この取り組みは「世界的な認知度を高めるまたとない機会」である。コロナ禍のために、飢餓及び栄養失調との戦いにおいて新たな手法が必要となったが、栄養と市場機会を改善する上でデジタル技術の役割を強調したい。現在世界中で直面している健康上の危機において、免疫システムを強化するために健康的な食事を推奨することはとりわけ適切なことだ。農業生産と食品供給網の改善に関しては、果物と野菜は農家に適した換金作物であるので、IYFVを、インフラと農業の実践を改善し小規模農家を支援する機会と捉えてほしい。果物と野菜の損失と廃棄物は依然として大きな問題であり、安全性と品質を維持し、生鮮農産物の保

存期間を延長して高い栄養価を維持するのに役立つ革新的な技術とアプローチが重要である。

イタリア（FAOのホスト国） ベラノバ農業・食料・林業政策大臣(3)

ユネスコが地中海食を文化財として認めてから10周年を迎える中、イタリアは持続可能な生産に関する知識と経験を共有する準備ができている。

チリ（IYFV2021の採択に主導的な役割を果たした） ウォーカー農業大臣(3)

健康的な食習慣を促進する多くの課題に取り組むためには、栄養不良を抑制する協調した行動が必要である。

コンシューマー・インターナショナル（FAOパートナー） ロイレント事務局長(1)

食料と健康のつながりに関する理解は今やはるかに進んでおり、誰がどのように食料を生産しているかについての知識はより研ぎ澄まされ、気候変動についてより緊急性を感じている。人々は、ニーズに応えないシステムを危惧し、持続可能とは何を意味するのかを問い、誰を信頼できるか疑問に思っている。この暗い時代を乗り越えるために、共働する時だ。消費者を製品のエンドユーザーとしてだけでなく、システム全体を変更する上でアクティブなパートナーとして見ることが重要である。

IFOAM オーガニックス・インターナショナル ルー大使(1)

極端な干ばつや洪水のより頻繁な発生等気候変動が今や現実化しており、適応力と弾力性が重要だ。出発点は土壌である。土壌有機物を積み増すことによって、極端な降雨の際に土壌が水を吸収し保持する能力を高めることができる。乾季には、これらの土壌は干ばつに対して弾力性が高まる。有機物が少ない従来の土壌に比べ、これらの土壌では作物の収穫量は平均して30％高くなる。これが、農家の将来を保証する道だ。少額の資金でこの取り組みの規模を拡大し、食料安全保障に大きな違いをもたらすことができる。

フレッシュフェル・ヨーロッパ（欧州青果物協会） ビナード総代表(2)

現在EUでは果実・野菜の消費量がWHOの推奨摂取量（1日当たり400g）を下回っているが、果実・野菜部門の重要な役割と消費を刺激する必要性に関する世界の認知度を高める上で、IYFV2021は一里塚である。当協会は、EUの政策決定において青果物部門を一層支援するため、EUの意思決定者を対象としたデジタルキャンペーンを１月に開始することで、IYFV2021を祝うFAOを支援する。

参考ウェブサイト

FAO国際果実野菜年（英語）
International Year of Fruits and Vegetables | International Year of Fruits and Vegetables 2021 | Food and Agriculture Organization of the United Nations (fao.org)

FAO駐日連絡事務所　国際果実野菜年2021（日本語）
国際果実野菜年 2021 | FAO 駐日連絡事務所 Liaison Office in Japan | Food and Agriculture Organization of the United Nations

FAO駐日連絡事務所 「国際果実野菜年2021」立ち上げ（日本語）
FAO、「国際果実野菜年 2021」立ち上げ | FAO 駐日連絡事務所 | Food and Agriculture Organization

146. ブラジルの柑橘類事情（オレンジ果汁）

米国農務省GAINレポート（2020年12月14日）

これは米国農務省海外農業局サンパウロ事務所（ブラジル）が作成した「柑橘類年次報告」の訳であり、米国政府の公式見解とは異なる場合があります。長文のため、概要とオレンジ果汁の項のみ掲載します。

概要

2020/21販売年度（以下「年度」）のブラジル産オレンジの生産量は、4億1,500万箱（40.8kg/箱、1,693万トン相当）、今シーズンに比べて14％の増加と予測される。この予測は、2020年12月中旬の時点で、サンパウロ州とミナスジェライス州の商業柑橘類ベルト地帯の気象条件が概ね平年並みで、着果と果実の発育が促進されるとの仮定に基づいている。サンパウロ州とミナスジェライス州の柑橘類ベルト地帯のオレンジ生産量の推定値は、9月から10月の間の降雨不足と高温により、2億8,780万箱から2億6,940万箱（1,174万トンから1,099万トン）に下方修正された。2020/21年度のブラジル産冷凍濃縮オレンジ果汁（FCOJ 65ブリックス換算）の輸出量は、2019/20年度の改定値とほぼ同じ108万トンと予測される。

オレンジ果汁

生産

生産需給統計

次の表は、サンパウロ州とブラジル全体のオレンジ果汁生産の2019/20及び2020/21ブラジル販売年度（7月～6月）の生産需給統計と2021/22年度の最初の予測である。これらの年度は、それぞれ米国販売年度の2018/19、2019/2020、2020/21に該当する。

表には、冷凍濃縮オレンジ果汁（FCOJ）65ブリックスに換算された輸出向けの非冷凍濃縮果汁（NFC）の生産量が含まれている。換算率: 1トンのFCOJ（65ブリックス換算）＝5.4～5.6トンのNFC（11.6ブリックス）

ブラジル：冷凍濃縮オレンジ果汁　生産需給統計
（7月～6月，百万箱(40.8kg/箱），千トン，65ブリックス）

米国販売年度	2018/19	2019/20	2020/21
ブラジル販売年度	2019/20	2020/21	2021/22
加工仕向量	352	249	299
サンパウロ州 (FCOJ + NFC)	328	229	275
その他	24	20	24
期初在庫量	160	312	134
総生産量	1,324	965	1,157
サンパウロ州FCOJ	958	570	730
サンパウロ州NFC (FCOJ 換算)	286	315	331
その他	80	80	96
供給量合計	1,484	1,277	1,291
輸出量	1,120	1,080	1,080
サンパウロ州FCOJ	836	780	780
サンパウロ州NFC (FCOJ 換算)	245	260	260
その他FCOJ	39	40	40
国内消費量(FCOJ換算)	52	63	75
期末在庫量	312	134	136
仕向量合計	1,484	1,277	1,291

注：米国とブラジルの販売年度には1年のずれがある。例えばブラジルの2021/22販売年度は米国の2020/21販売年度に該当する。一貫性のあるデータとするため、本報告書では、ブラジルの2021/22年度は、米国の2020/21年度と記述する。

全般

加工仕向け量の増加が見込まれるため、サンパウロ事務所は、2020/21年度のブラジル産冷凍濃縮オレンジ果汁（FCOJ　65ブリックス換算）の総生産量を、20219/20年度のオレンジ果汁生産量より19.2万トン多い115.7万トンと予測している。サンパウロ州の加工業界は、2億7,500万箱のオレンジをオレンジ果汁に加工する（FCOJに1億9千万箱、NFCに8,500万箱）と予測され、これは果汁106.1万トン（FCOJ　73万トンとNFC（FCOJ換算）33.1万トン）に当たる。他の生産州は、96,000トンの果汁に相当する2,400万箱を出荷すると見込まれる。

2019/20年度のブラジル産FCOJ（65ブリックス換算）の総生産量は、FCOJへの加工用に出荷される果実の推計値が1億6,300万箱から1億4,800万箱に減少することを主な理由として、前の予測より57,000トン少ない9億6,5000万トンに下方修正された。

オレンジ果汁の数値には、FCOJ（65ブリックス相当）に換算された輸出用NFC生産量が含まれる。ブラジルにはNFCの需給に関する公式な推計値はない。

消費

サンパウロ事務所は、ブラジルでオレンジ果汁、特にNFCの消費量が継続的に増えていることから、2020/21年度の国内のFCOJ換算消費量を、前年度（63,000トン）より12,000トン多い75,000トン（65ブリックス換算）と予測する。ブラジル柑橘類輸出業者協会（CitrusBR）は、国内のFCOJ換算の消費量を8万トン（66ブリックス換算）と見積っている。なお、この報告書では、FCOJに換算されたNFCの消費量は、オレンジ果汁の統計に含まれる。

貿易

来シーズンは搾汁用のオレンジが多いと見込まれるため、サンパウロ事務所は2020/21年度のブラジル産FCOJの輸出量を2019/20年度の改定値と同じ108万トン（65ブリックス換算）と見込む。このうち、サンパウロ州の輸出は104万トン（65ブリックス換算）と見込まれる。

サンパウロ事務所は、2019/20年度の総輸出量を、前回の見積もりより11万5,000トン多い108万トンに修正した。搾汁するオレンジの数が大幅に減少したものと見られ、総輸出量は前シーズンより少ないが、公式の貿易統計に示されるとおり多量の在庫が輸出を支えた。ブラジル対外貿易事務局によると、2020年7月から10月の間のオレンジ果汁の輸出量は31万9,574トン（FCOJ　66ブリックス換算）で、2019年の同時期の39万8,064トン（FCOJ　66ブリックス換算）と比べて19%減少した。ただし、2020年7月から10月の米国への輸出量は54,089トン（65ブリックス換算）で、前年同期の57,350トン（FCOJ　65ブリックス換算）とほぼ同じである。

米国農務省経済調査局（ERS）が公表した調査によると、米国で2010年以降毎年減少していたオレンジ果汁の売上が、最近のCOVID-19パンデミックの間に回復した。米国の消費者は、健康な免疫システムを構築すると一般的に考えられている栄養素であるビタミンCの摂取量を増やす方法を求めていたとも考えられる。2020年4月11日までの4週間のオレンジ果汁の売上は、この5年間で最高の4,450万ガロン（1ガロンは約3.9リットル）に達した。4月の冷凍濃縮オレンジ果汁の平均価格は、前月から5%上昇し、12オンス缶当たり2.40ドルとなった。3月から4月にかけて販売価格が上昇したのは、2012年以来初めてであった。

2019年の米国のオレンジ果汁の消費量は一人当たり2.25ガロンと、2010年から40%減少した。オレンジ果汁の購入量の減少は、需要側と供給側の両方の要因に起因する。調査結果、砂糖を含む飲料に対する消費者の関心の低下が購入の減少に関係している可能性を示している。供給面では、昆虫が媒介する柑橘グリーニング病がフロリダ州のオレンジ果汁業界を衰退させ、2005年以降、果汁用オレンジの栽培面積が30%減少した。オレンジ果汁の売り上げは、4月に急増した後、既に後退の兆しを見せているが、この時期の平均売上高を上回っている。

以下の表は、ブラジル対外貿易事務局（SECEX）のデータを基にしたTrade Data Monitor（TDM）に

よる2017/18年度～2019/20年度の年度別(7月～6月)及び2018/19年度～2020/21年度の7月～10月期の生鮮オレンジ果汁の輸出相手国別の輸出を示している(関税分類 2009.11.00, 2009.12.00, 2009.19.00)。

「その他の果汁」は、FCOJとNFCの両方の輸出を含む。サンパウロ事務所は、「その他の果汁」の輸出先国別の毎月の平均価格は、FCOJとNFCを区別する判断基準となるものと考える。

冷凍/非発酵オレンジ果汁　輸出(千ドル(FOB)、トン)						
	2017年7月－2018年6月		2018年7月－2019年6月		2019年7月 - 2020年6月	
輸出先国	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量
ベルギー	225,720	132,577	198,441	104,843	271,180	165,417
オランダ	169,681	94,671	104,463	54,383	87,820	62,938
日本	114,108	58,609	74,810	38,070	100,694	58,009
中国	81,083	39,979	64,161	32,788	62,443	45,218
米国	286,410	169,153	40,768	20,973	27,946	19,069
オーストラリア	28,970	14,790	22,885	11,299	21,948	12,712
オーストリア	-	-	361	180	17,219	10,782
イスラエル	22,878	12,741	19,874	10,557	8,863	7,332
韓国	7,871	4,091	-	-	10,483	6,381
チリ	12,312	5,544	12,427	6,015	8,823	5,534
その他	96,296	49,266	77,211	38,004	65,730	40,145
合計	1,045,330	581,423	615,400	317,112	683,149	433,537

出典: ブラジル対外貿易事務局(SECEX)のデータを基にしたTrade Data Monitor 関税分類 2009.11.00

四捨五入の関係で合計は必ずしも一致しない。

冷凍/非発酵オレンジ果汁　輸出(千ドル(FOB)、トン)						
	2018年7月-10月		2019年7月-10月		2020年7月-10月	
輸出先国	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量
ベルギー	42,383	22,471	74,937	41,419	50,498	40,004
オランダ	47,037	24,089	41,113	28,405	30,489	21,979
中国	14,703	7,137	23,216	16,184	15,699	14,033
日本	14,203	7,422	42,927	24,278	18,382	12,971
オーストラリア	4,128	2,034	8,679	4,504	9,304	6,758
米国	24,116	12,326	553	375	7,272	6,421
イスラエル	4,752	2,489	2,554	1,658	3,021	2,445
スペイン	3,688	1,937	2,080	1,522	3,253	2,281
イタリア	1,127	574	2,646	1,913	2,340	1,634
サウジアラビア	1,826	871	1,134	570	2,060	1,294
その他	25,269	12,126	24,060	13,096	14,344	9,625
合計	183,232	93,476	223,899	133,923	156,662	119,444

出典: ブラジル対外貿易事務局(SECEX)のデータを基にしたTrade Data Monitor 関税分類 2009.11.00

四捨五入の関係で合計は必ずしも一致しない。

ブラジル産オレンジ果汁輸出　未冷凍かつブリックス20以下(千ドル(FOB)、トン)						
	2017年7月-2018年6月		2018年7月-2019年6月		2019年7月-2020年6月	
輸出先国	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量
ベルギー	186,742	566,197	178,621	525,064	178,466	495,518
米国	212,459	608,294	190,656	591,747	140,358	437,326
オランダ	113,974	327,726	116,831	365,919	124,646	381,418
オーストリア	-	-	-	-	16,745	44,728
スペイン	-	-	-	-	2,545	9,288
オーストラリア	-	-	1	2	403	1,075
チリ	610	618	1,027	1,034	994	955
中国	-	-	0	0	317	377
フィリピン	9	7	51	41	91	80
パラグアイ	17	12	19	17	71	80
その他	198	2,155	558	606	299	305
合計	514,010	1,505,009	487,763	1,484,431	464,936	1,371,151

出典: ブラジル対外貿易事務局(SECEX)のデータを基にしたTrade Data Monitor 関税分類 2009.12.00
四捨五入の関係で合計は必ずしも一致しない。

ブラジル産オレンジ果汁輸出　未冷凍かつブリックス20以下(千ドル(FOB)、トン)						
	2018年7月-2018年10月		2019年7月-2019年10月		2020年7月-2020年10月	
輸出先国	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量
ベルギー	53,250	153,971	77,778	201,502	57,183	200,858
米国	52,660	145,680	43,607	128,692	40,969	129,584
オランダ	49,325	151,770	50,144	154,405	42,538	127,338
スペイン	-	-	-	-	1,434	5,681
中国	0	0	3	1	1,093	1,305
チリ	527	529	319	311	327	319
パラグアイ	7	6	7	8	54	79
フィリピン	25	20	29	24	59	54
ニュージーランド	-	-	-	-	14	25
シンガポール	15	12	14	11	27	24
その他	116	89	41	37	32	27
合計	155,925	452,075	171,943	484,992	143,731	465,293

出典: ブラジル対外貿易事務局(SECEX)のデータを基にしたTrade Data Monitor 関税分類 2009.12.00
四捨五入の関係で合計は必ずしも一致しない。

ブラジル産オレンジ果汁輸出　その他の果汁(千ドル(FOB)、トン)						
	2017年7月-2018年6月		2018年7月-2019年6月		2019年7月 - 2020年6月	
輸出先国	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量
オランダ	293,954	157,472	277,587	162,111	310,418	214,394
ベルギー	289,929	156,493	278,282	138,171	210,151	116,868
米国	62,878	35,771	109,539	67,826	108,629	76,183
英国	8,230	4,412	7,261	3,877	26,058	17,939
アイルランド	610	494	732	520	519	442
トルコ	-	-	55	28	510	358
ロシア	-	-	1	0	474	270
クウェート	729	298	580	248	529	248
パラグアイ	34	89	340	374	151	243
日本	0	0	18,456	9,843	391	215
その他	14,247	7,190	5,982	3,287	1,673	1,033
合計	670,613	362,220	698,816	386,285	659,503	428,193

出典: ブラジル対外貿易事務局(SECEX)のデータを基にしたTrade Data Monitor 関税分類 2009.19.00
四捨五入の関係で合計は必ずしも一致しない。

ブラジル産オレンジ果汁輸出　その他の果汁(千ドル(FOB)、トン)						
	2018年7月-2018年10月		2019年7月-2019年10月		2020年7月-2020年10月	
輸出先国	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量
オランダ	121,491	65,850	105,310	70,576	74,212	55,372
ベルギー	101,825	50,500	147,902	77,750	56,491	35,107
米国	31,068	17,963	41,634	29,880	29,993	24,723
日本	18,455	9,843	304	167	13,044	9,844
英国	7,258	3,871	11,934	7,956	5,134	3,875
アイルランド	242	182	216	156	110	104
クウェート	177	75	231	99	182	99
韓国	-	-	50	23	169	92
パラグアイ	181	112	36	45	35	57
レバノン	-	-	206	99	75	50
その他	5,306	2,921	1,194	755	189	164
合計	286,003	151,317	309,017	187,507	179,636	129,487

出典: ブラジル対外貿易事務局(SECEX)のデータを基にしたTrade Data Monitor 関税分類 2009.19.00
四捨五入の関係で合計は必ずしも一致しない。

在庫

2020/21年度の期末在庫は、13万6,000トン(65ブリックス換算)と予測され、2019/20年度の持ち越し在庫(13万4,000トン)と比較して比較的安定している。在庫数量は、ブラジル国内のオレンジ果汁施設(加工工場、港湾ターミナルなど)の貯蔵タンクの在庫だけが含まれる。ブラジル企業が海外で所有する、例えば米国、ヨーロッパ、日本にある輸送中の一時保管場所や港湾ターミナルの在庫は含まれない。

ブラジル柑橘類輸出協会(CitrusBR)によると、ブラジル産オレンジ果汁の2020年6月30日時点の世界での在庫は47万1,138トン(66ブリックス換算)で、2019年6月30日時点(25万3,81トン(66ブリックス換算))から86%増加した。CitrusBRの世界在庫には、ブラジルの加工工場や港湾ターミナルの貯蔵タンクのオレンジ果汁及び海外の在庫(全世界の船舶および港湾施設内の在庫)が含まれる。

生産需給統計

この表は、次の換算係数を使用してFCOJ(65ブリックス換算)に換算された輸出用NFCの生産量を含む: 1トンのFCOJ(65ブリックス換算)＝5.4～5.6トンのNFC(11.6ブリックス換算)。

オレンジ果汁	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
販売年度開始	2019年7月		2020年7月		2021年7月	
ブラジル	農務省公式	事務所推計	農務省公式	事務所推計	農務省公式	事務所推計
加工仕向量(トン)	14,239,200	14,361,000	10,689,600	10,159,200	0	12,199,200
期初在庫量 (トン)	160,000	160,000	290,000	312,000	0	134,000
生産量(トン)	1,312,000	1,324,000	1,022,000	965,000	0	1,157,000
輸入量(トン)	0	0	0	0	0	0
供給量合計(トン)	1,472,000	1,484,000	1,312,000	1,277,000	0	1,291,000
輸出量(トン)	1,142,000	1,120,000	965,000	1,080,000	0	1,080,000
国内消費量(トン)	40,000	52,000	42,000	63,000	0	75,000
期末在庫量(トン)	290,000	312,000	305,000	134,000	0	136,000
仕向量合計(トン)	1,472,000	1,484,000	1,312,000	1,277,000	0	1,291,000

147. オーストラリアの柑橘類事情（オレンジ・タンジェリン/マンダリン）

米国農務省GAINレポート（2020年12月14日）

これは米国農務省海外農業局キャンベラ事務所（オーストラリア）が作成した「柑橘類年次報告」の訳であり、米国政府の公式見解とは異なる場合があります。長文のため、要約、オレンジの輸出、タンジェリン/マンダリンの輸出の項のみ掲載します。

要約

オーストラリアの大部分の柑橘類産地では、2020年に干ばつを解消する雨があり、柑橘類の生産は大きく改善してきている。2020年の降雨は、2021年（2020/21販売年度（以下「年度」））の生産に大きなプラスの影響をもたらし、オレンジの生産量は53万5千トンと、干ばつの影響を受けた2019/20年度から約10％の増加が見込まれる。2020年の主なオレンジ産地におけるタイミングの良い降雨は、良好な発芽と着果を促し、果実数は多くなった。灌漑シーズンが始まる前のこれら生育初期の恵みの雨により、樹木の生育を促進し、果実数が多い時に起こりやすい小玉化を極力防ぐための追肥が可能となった。オーストラリア産オレンジの輸出量は、2020/21年度は3％増の19万5千トンと予測される。生産量の増加分は、主に国内消費に向うと見込まれ、2020/21年度の国内消費量は14万トンへの増加が予想される。

マンダリン生産も同様に干ばつの影響を受けていたが、いくつかの主要産地は干ばつを解消する2020年の雨の恩恵を受けた。オーストラリアではマンダリンの産地はオレンジより分散しており、また栽培面積が拡大している。マンダリンの栽培面積は過去5年間で37％増加し、その多くは今後数年で着果が始まり、生産量全体を押し上げると見込まれる。2020/21年度のマンダリンの生産量は、約9％増の17万5千トンと予測される。マンダリンの輸出需要は、2019/20年度の推定値6万2千トンから、2020/21年度は8万トンに回復すると見込まれている。増加分は予想される生産量の増加に相当する。国内消費量は9万6千トンで大きくは変わらないと見込まれる。

オレンジ果汁については、輸入量が生産量より多い傾向が続くと予測される。2020/21年度のオレンジ果汁の生産量は、前年より4％多い1万6,500トンと予測される。これは、オレンジ生産量の10％の増加が見込まれ、オレンジの加工仕向け量が干ばつ前の水準に戻ると予測されるためである。2020/21年度の輸入量は、前年の推定値2万トンから減少し、1万8千トンと予測される。2019/20年度にオレンジ果汁の輸入量が急増したと推定されるが、これは生産量の減少と国内消費量の増加によるものである。COVID-19パンデミックがもたらした健康志向が、消費量の増加につながったものと推定される。

オーストラリアの柑橘類産業は、2020年、主として太平洋地域季節労働者プログラムの労働者と海外からのバックパッカーで構成される収穫労働力の減少という課題に直面した。労働者の数は、オーストラリア政府がこの問題を緩和するためにいくつかの対策を導入したにもかかわらず、COVID-19パンデミックにより2020年の年間を通じて大幅に減少した。オーストラリアに入国する旅行者の14日間の検疫期間のコストとCOVID-19ワクチンの世界での普及スケジュールを念頭に、生産者は2021年5月のオレンジ収穫の開始時に収穫労働力が極端に少なく、収穫できない果実が発生する可能性があることをかなり心配している。

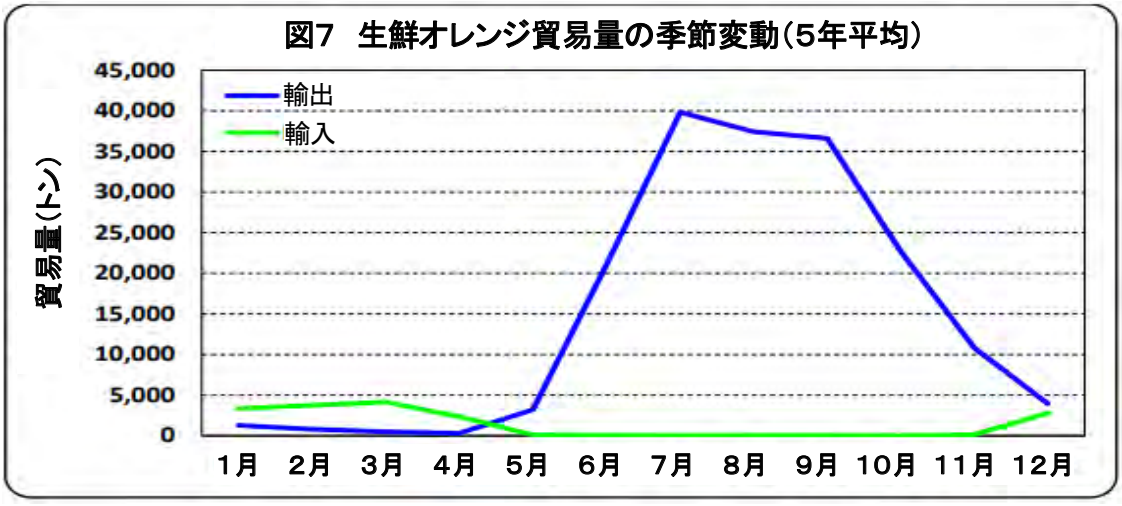
＜生鮮オレンジ＞

輸出

当事務所は、2020/21年度の生鮮オレンジの輸出量を、2019/20年度の推計値19万トンよりも5千トン多い19万5千トンと予測する。推計生産量が5万トン増と大幅に増加したにもかかわらず、輸出量の増加が少ないのは、2019/20年度の輸出量がすでに多かったためである。なお、この輸出量予測が実現すれば、業界にとって過去最大であった2018/19年度の19万8千トンに次いで2番目に多くなり、過去5年間の平均17万8,400トンを9％上回る。

オレンジの輸出量は季節によってかなり異なり、5月はオーストラリア北部の小規模産地からの少量の輸出であり、続いて、6月に3つの主要産地の収穫が始まると輸出量も大きくなる（図7参照）。輸出のピークは7月～9月であり、その後12月に向けて減少する。この季節による収穫量の変動は、近隣の生産量の少ないアジ

ア諸国のほか、季節が反対の北半球の国々へのネーブルオレンジの輸出機会を提供している。

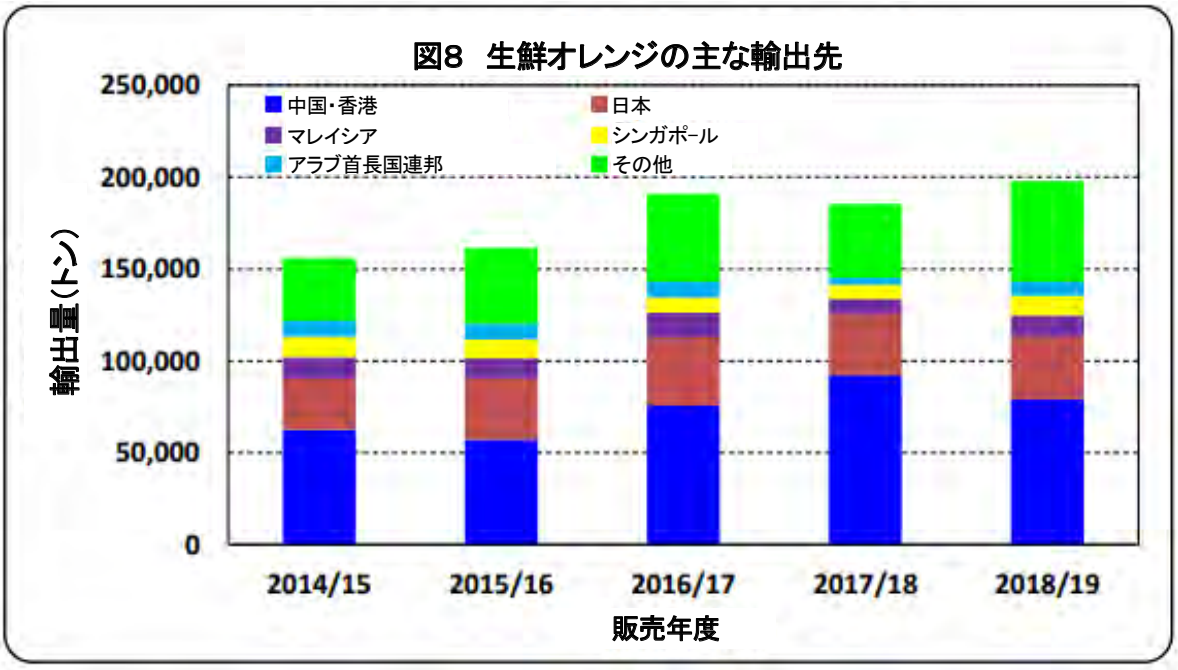


出典：オーストラリア統計局

オーストラリア産オレンジの主要な輸出先は中国であり、近年は輸出全体の35～50％で変動している。中国の過去5年間のオレンジ輸入量は169％増加し、オーストラリアと南半球の主要な競争相手である南アフリカの対中国輸出量の増加率はこれとほぼ同じである。しかし、中国のオレンジ輸入量の増加がとびぬけて多いのは、北半球のエジプトである。中国との緊迫した貿易関係は、オーストラリアの柑橘類輸出業者の間にある種の懸念をもたらしている。

日本は、オレンジ輸出量全体の約18％を占める、2番目に大きな比較的安定した輸出先である。インド、フィリピン、ベトナム、サウジアラビア、台湾等他の輸出先への輸出は、過去5年間概ね拡大している。

米国農務省の2019/20年度オレンジ輸出量の公式推計値19万トンについて、当事務所はこれまでのところ推計通りであるとして見直していない。オーストラリアの生鮮オレンジの輸出は平均して5月下旬に始まり、12月上旬に向けて減少する（図7参照）。4月～10月の輸出量は、過去5年間一貫して販売年度全体の約90％を占めている。2019/20年度は、4月～10月の輸出量は17万7,486トンに達し、推定値年間19万トンの達成に向けて順調である。



出典：オーストラリア統計局

オーストラリアのオレンジ(生鮮)生産需給統計

オレンジ(生鮮)	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
販売年度	2019年4月～2020年3月		2020年4月～2021年3月		2021年4月～2022年3月	
オーストラリア	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	20,600	16,800	20,600	17,000	0	17,100
収穫面積	20,600	14,750	20,600	14,900	0	15,000
結果樹本数	9,350	0	9,350	0	0	0
非結果樹本数	85	0	85	0	0	0
果樹本数合計	9,435	0	9,435	0	0	0
生産量	510	515	500	485	0	535
輸入量	20	16	20	16	0	15
供給量合計	530	531	520	501	0	550
輸出量	195	198	190	190	0	195
生鮮国内消費量	245	123	140	106	0	140
加工仕向け量	90	210	190	205	0	215
出荷量合計	530	531	520	501	0	550

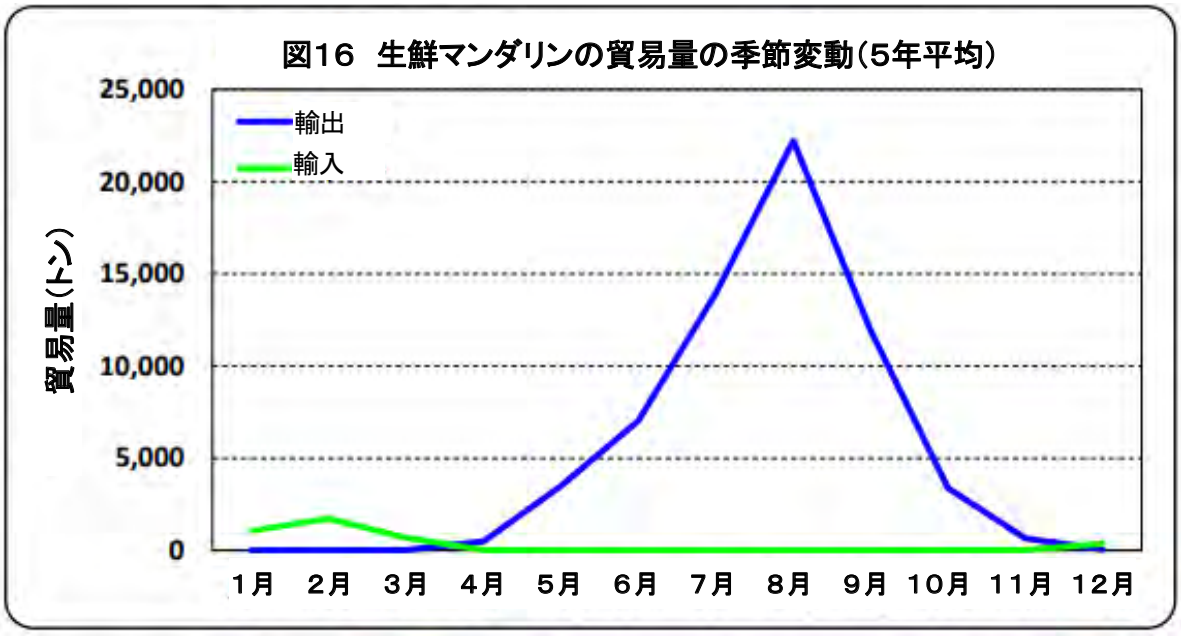
単位:ヘクタール、1000本、1000トン

＜生鮮タンジェリン/生鮮マンダリン＞

輸出

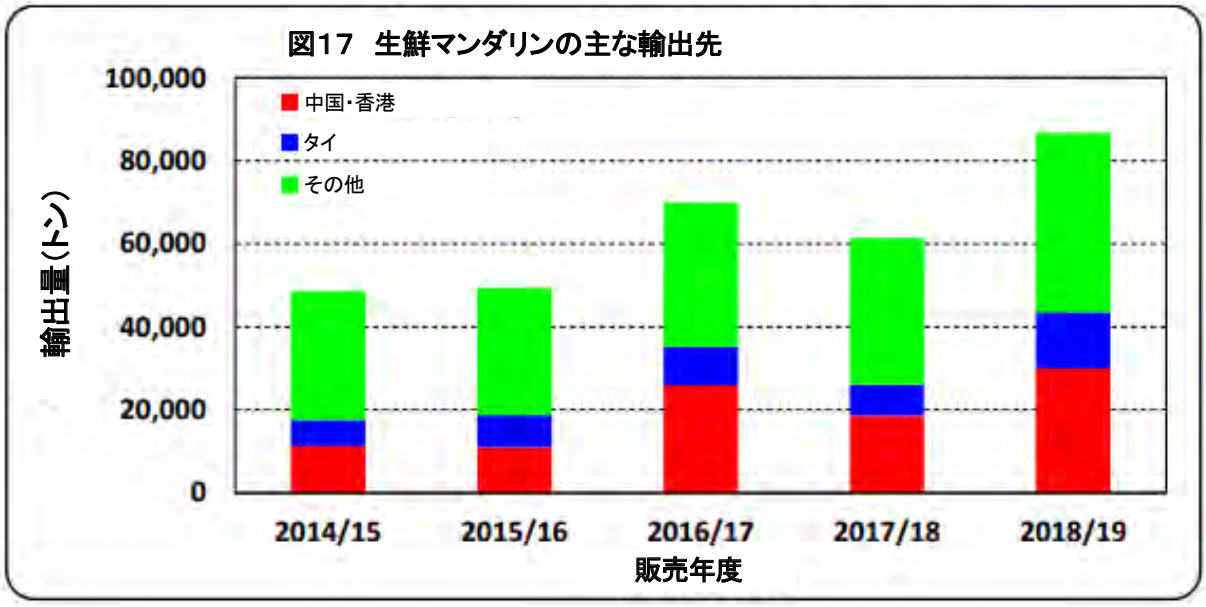
当事務所は、2020/21年度のマンダリン輸出量が、2019/20年度の推計値6万2千トンから8万トンに増加するものと予測する。生産量推計値の前年からの増加分1万5千トンはすべて輸出に向かう見込みである。2019/20年度の推計値6万2千トンは、生産量の推計値が少ないために、前年の8万7千トンの実績と比べて低くなっている。干ばつの最初の年で生産に大きな影響を受けなかった2018/19年度の輸出量の推計値を一部修正した。

過去5年間のマンダリン輸出は、ほぼすべてが5月～10月であり、8月がピークであった(図16参照)。(年度初めの)4月から10月までの期間で見れば、過去5年間の平均で輸出量全体の98%を超えている。2019/20年度の場合、2020年4月～10月の輸出量は、すでに6万901トンに達していた。



出典:オーストラリア統計局

オーストラリアは約40カ国にマンダリンを輸出しているが、上位2カ国が全輸出量の約半分を占めている（図17参照）。中国と香港が合わせて約35%、タイが15%である。中国は過去5年間で、最も輸出量が伸びた輸出先である。これに次ぐ6つの主要輸出先であるニュージーランド、日本、米国、インドネシア、フィリピン、アラブ首長国連邦への過去5年の輸出量は、全輸出量の3分の1以上を占めている。



出典：オーストラリア統計局

オーストラリアのタンジェリン/マンダリン（生鮮）生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮)	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
販売年度	2019年4月～2020年3月		2020年4月～2021年3月		2021年4月～2022年3月	
オーストラリア	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	0	7,465	0	7,700	0	7,900
収穫面積	0	5,076	0	5,400	0	5,700
結果樹本数	0	0	0	0	0	0
非結果樹本数	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計	0	0	0	0	0	0
生産量	0	175	0	160	0	175
輸入量	0	3	0	4	0	4
供給量合計	0	178	0	164	0	179
輸出量	0	87	0	62	0	80
生鮮国内消費量	0	88	0	99	0	96
加工仕向け量	0	3	0	3	0	3
出荷量合計	0	178	0	164	0	179

単位：ヘクタール、1000本、1000トン

148. EUの柑橘類事情

米国農務省GAINレポート（2020年12月15日）

これは米国農務省海外農業局マドリード事務所（スペイン）がEU域内関係事務所の協力を得て作成した「柑橘類年次報告」の訳であり、米国政府の公式見解とは異なる場合があります。長文のため、要約と品目別の図表のみ掲載します。なお、本報告は英国を含む28カ国を対象としています。

要約

COVID-19パンデミックの中、2019/20年度のEUの柑橘類シーズンの特徴は、EUでの柑橘類の消費量の増加（これは消費者が免疫システムを強化する食品を求めていたことによる）、活発な柑橘類市場及び柑橘類の高価格であった（EU柑橘類半期報告書（上期版 No. 57）を参照）。柑橘類の消費量の増加と昨シーズンのEU産柑橘類の供給減少は、2020年を通じてEUでの柑橘類の価格を押し上げた。さらに、消費者の要望に応えて、持続可能な栽培方法と包装が行われるようになっている。EUの柑橘類の生産は地中海沿岸地方に集中している。スペインとイタリアがEUの主要な柑橘類生産国であり、ギリシャ、ポルトガル、キプロスが続く。良好な気象条件と2019/20年度の大幅な生産量減少からの回復により、当事務所は2020/21販売年度（10月～9月（以下「年度」））の柑橘類全体の生産量を7.5%増の1,140万トンと見込む。COVID-19パンデミックのため、EUの柑橘類の消費量は増加傾向が続くと見込まれる。さらに、EUの柑橘類の輸出は引き続き活発と見込まれるが、輸入量は供給量の増加に伴い減少すると見込まれる。

2020/21年度は、EUのオレンジ生産量は前のシーズンより5.6%多い650万トンと予測される。これに伴い、EUにおけるオレンジ果汁生産量は、前年に比べて8%増加し、87,987トンと予測される。この予測は2020/21年度のEU産オレンジの加工仕向量予測と連動している。さらに、2020/21年度のEUのマンダリン生産量は10%増加して310万トンと予測される。過去10年間でEUのオレンジの総栽培面積は12%、マンダリンは10%減少したが、柑橘類の農園は生産性を向上させ、出荷量を増加させている。逆に、同じ期間、EUのレモン及びグレープフルーツの総栽培面積は、それぞれ9%と6%拡大した。これは主にスペインの増加であり、世界市場の需要に応えたものである。同様に2020/21年度のEUのレモン生産量は、前年と比較してほぼ11%増加し、160万トンと予測される。EUのグレープフルーツ生産量は9万6千トンで横ばいと見込まれる。

2019/20年度、EUの柑橘類生産量が減少したため、EUの柑橘類の輸入は、南アフリカ、エジプト、モロッコからのものを中心にわずかに増加した。EUの柑橘類の輸出先は主にスイス、ノルウェー、カナダ、セルビアであり、また中国、中東諸国等の振興市場への輸出が大きく増加している。EUの柑橘類の輸出は、カナダ、中東、中国等の戦略的に重要な市場で増加傾向が続くと予想される。一方、2019/20年度、EUの航空機補助金に対する世界貿易機関（WTO）への提訴に関連した米国の関税は、スペイン産マンダリンとレモンをはじめとするEU産柑橘類の輸出に影響を与えた。同様に、2018/19年度以降、EUの報復関税によって米国産オレンジ果汁のEUへの輸出は減少した。加えて、2020年11月9日、欧州委員会（EC）は米国の航空機補助金に対するWTO提訴に関連し、一連の米国産品に追加関税を課した。課税対象のリストには、グレープフルーツ、柑橘類調製品、冷凍オレンジ果汁及びグレープフルーツ果汁が含まれており、米国産グレープフルーツのEUへの輸出は、2020/21年度に影響を受ける可能性がある。

COVID-19パンデミックに対応するための封じ込め対策の間、EU最大の柑橘類輸出国であるスペインの柑橘業界は、国内需要と輸出需要にしっかりと対応した。その結果、昨シーズン、EUの柑橘類の貿易はコロナ禍による負の影響を受けなかった。

2020年4月30日、ECは、COVID-19パンデミックによる果物・野菜業界とワイン業界の市場の混乱に対する対応策を示した委員会委任規則（EU）2020/592を公表した。ECはまた、販売促進政策の対象産品の範囲を拡大し、輸出市場へより焦点をあてる見直しを行った。2020年の販売促進予算は2億5,500万ドルに達した。

品目別図表

＜オレンジ＞

表1　EUの生鮮オレンジ生産需給統計

オレンジ（生鮮）	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
販売年度	2018年10月～2019年9月		2019年10月～2020年9月		2020年10月～2021年9月	
EU	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	278,449	278,449	278,680	278,746		281,226
収穫面積	259,193	259,797	259,343	260,958		263,070
結果樹本数	0	0	0	0		0
非結果樹本数	0	0	0	0		0
果樹本数合計	0	0	0	0		0
生産量	6,799	6,796	6,194	6,205		6,556
輸入量	1,017	1,017	1,000	1,086		1,000
供給量合計	7,816	7,813	7,194	7,291		7,556
輸出量	357	357	310	290		300
生鮮国内消費量	6,080	6,107	5,804	5,949		6,121
加工仕向け量	1,379	1,349	1,080	1,052		1,135
出荷量合計	7,816	7,813	7,194	7,291		7,556

単位：ヘクタール、千本、千トン

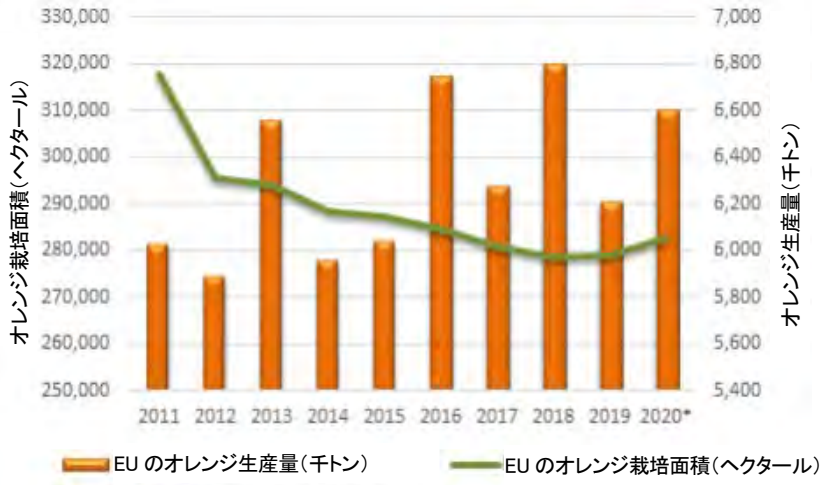
出典：海外農業局各事務所

表2　EUの生鮮オレンジ国別生産量（トン）

国名	2018/2019	2019/2020	2020/2021
スペイン	3,930,000	3,279,000	3,449,000
イタリア	1,592,000	1,650,000	1,850,000
ギリシャ	910,125	910,186	920,000
ポルトガル	344,000	347,000	317,000
キプロス	20,000	19,000	20,000
総生産量	**6,796,125**	**6,205,186**	**6,556,000**

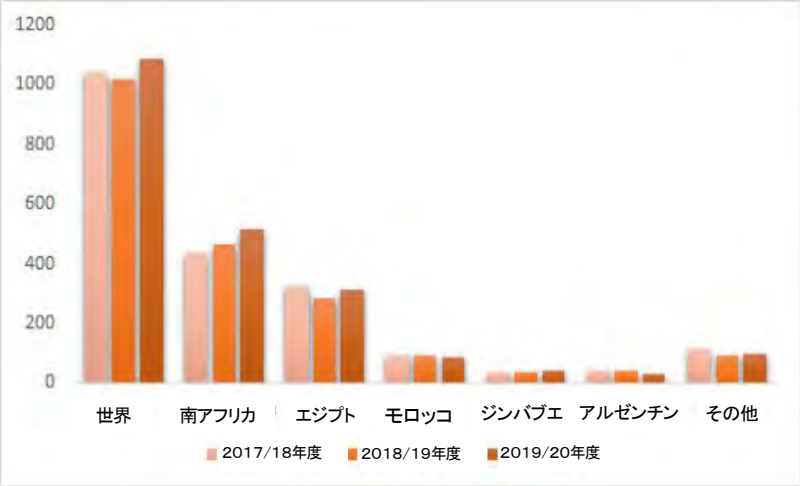
出典：海外農業局各事務所

図1　EUのオレンジ生産量とオレンジ栽培面積



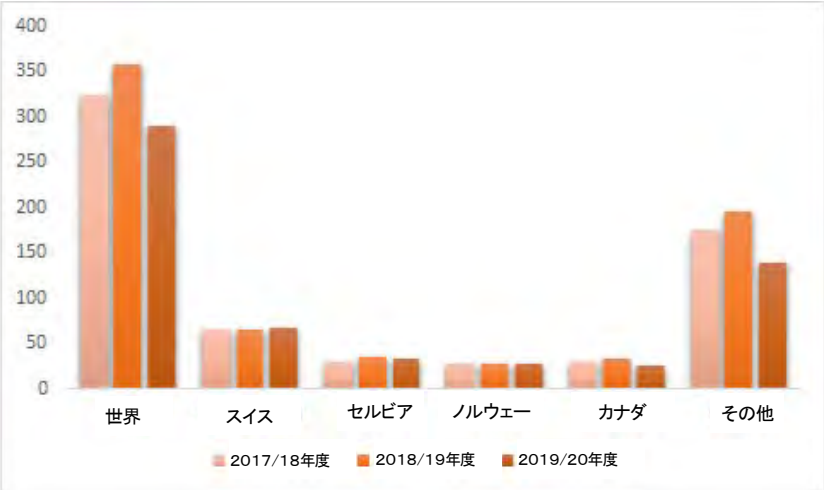
＊は推計値　　出典：海外農業局各事務所

図2　EUのオレンジ輸入量　輸入先別（千トン）



出典：TDM（Trade Data Monitor）

図3　EUのオレンジ輸出量　輸出先別（千トン）



出典：TDM（Trade Data Monitor）

＜オレンジ果汁＞

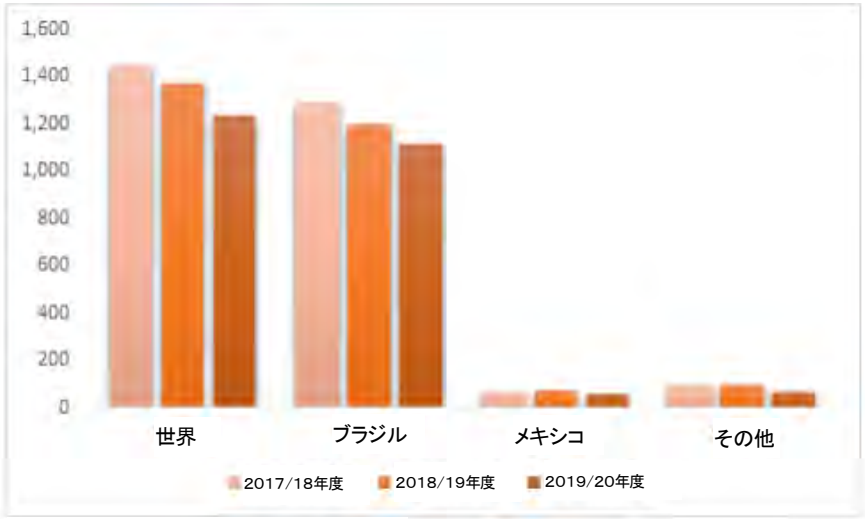
表3　EUのオレンジ果汁（ブリックス65）生産需給統計

オレンジ果汁 販売年度 EU	2018/2019 2018年10月～2019年9月 農務省公式	 今回推計値	2019/2020 2019年10月～2020年9月 農務省公式	 今回推計値	2020/2021 2020年10月～2021年9月 農務省公式	 今回推計値
加工仕向量	1,379,000	1,349,000	1,080,000	1,052,000		1,135,000
期首仕向量	15,000	15,000	15,000	15,000		15,000
生産量	106,903	104,577	83,724	81,553		87,987
輸入量	657,920	658,056	670,000	686,223		681,000
総供給量	779,823	777,633	768,724	782,776		783,987
輸出量	59,819	59,943	58,000	66,805		67,000
国内消費量	705,004	702,690	695,724	700,971		701,987
期末在庫量	15,000	15,000	15,000	15,000		15,000
総仕向量	779,823	777,633	768,724	782,776		783,987

単位：トン

出典：海外農業局各事務所

図4　EUのオレンジ果汁輸入額　輸入先別（百万ドル）（ブリックス65）



出典：TDM（Trade Data Monitor）

図5　EUのオレンジ果汁輸出額　輸出先別（百万ドル）（ブリックス65）

出典：TDM（Trade Data Monitor）

＜タンジェリン/マンダリン＞

表4　EUのタンジェリン/マンダリン生産需給統計

タンジェリン/マンダリン（生鮮）	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
販売年度	2018年10月～2019年9月		2019年10月～2020年9月		2020年10月～2021年9月	
EU	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	155,464	155,444	155,953	155,304		153,015
収穫面積	142,768	142,337	143,001	142,632		142,331
結果樹本数	0	0	0	0		0
非結果樹本数	0	0	0	0		0
果樹本数合計	0	0	0	0		0
生産量	3,211	3,225	2,761	2,834		3,117
輸入量	483	483	530	558		480
供給量合計	3,694	3,708	3,291	3,392		3,597
輸出量	246	246	245	172		245
生鮮国内消費量	3,093	3,191	2,820	2,990		3,097
加工仕向け量	355	271	226	230		255
出荷量合計	3,694	3,708	3,291	3,392		3,597

単位：ヘクタール、千本、千トン

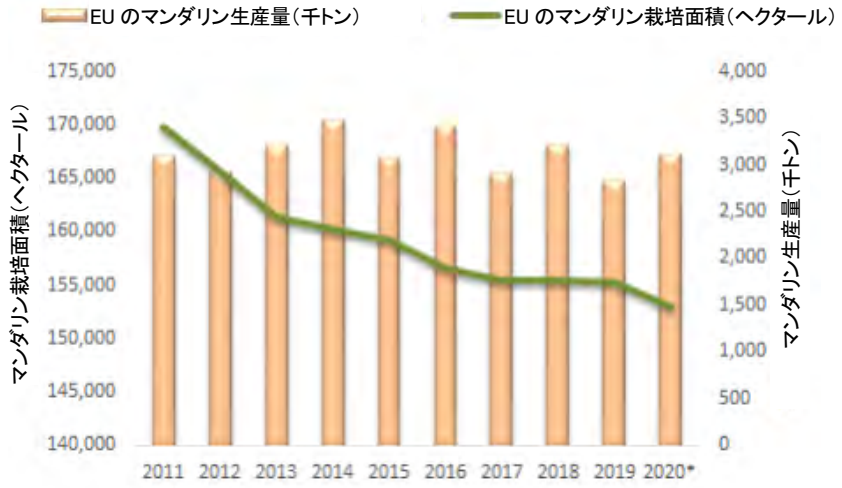
出典：海外農業局各事務所

表5　EUの生鮮マンダリン国別生産量（トン）

国名	2018/2019	2019/2020	2020/2021
スペイン	2,398,000	1,832,000	2,050,000
イタリア	577,000	763,000	825,000
ギリシャ	176,881	174,147	178,000
ポルトガル	40,000	40,000	34,000
キプロス	33,000	25,000	30,000
総生産量	**3,224,881**	**2,834,147**	**3,117,000**

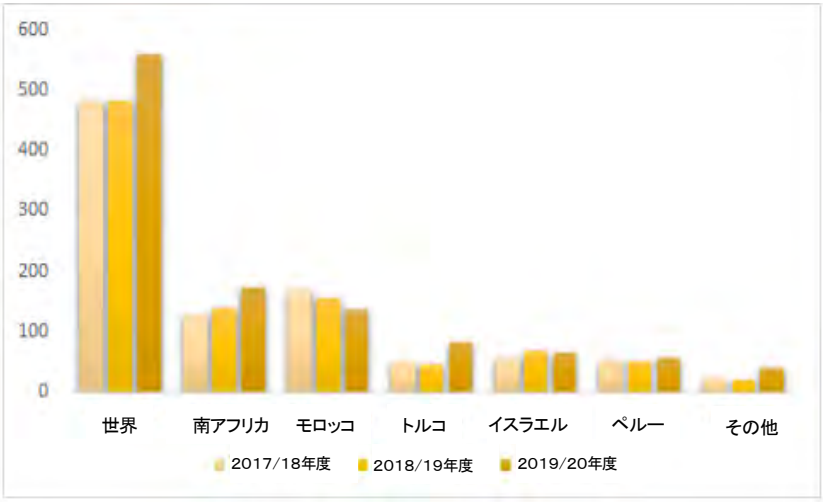
出典：海外農業局各事務所

図6　EUのマンダリン生産量とマンダリン栽培面積



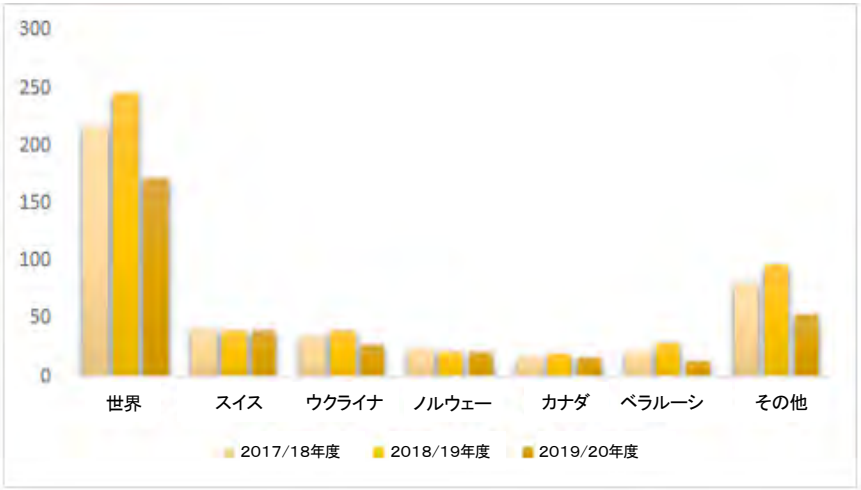
＊は推計値　　出典：海外農業局各事務所

図7　EUのマンダリン輸入量　輸入先別（千トン）



出典：TDM（Trade Data Monitor）

図8　EUのマンダリン輸出量　輸出先別（千トン）



出典：TDM（Trade Data Monitor）

＜レモン＞

表6　EUのレモン生産需給統計

レモン/ライム（生鮮）	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
販売年度	2018年10月～2019年9月		2019年10月～2020年9月		2020年10月～2021年9月	
EU	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	77,128	77,028	77,929	78,229		79,046
収穫面積	66,046	66,792	66,914	67,933		69,712
結果樹本数	0	0	0	0		0
非結果樹本数	0	0	0	0		0
果樹本数合計	0	0	0	0		0
生産量	1,683	1,683	1,417	1,480		1,640
輸入量	548	548	600	580		550
供給量合計	2,231	2,231	2,017	2,060		2,190
輸出量	82	82	80	81		82
生鮮国内消費量	1,871	1,871	1,716	1,747		1,818
加工仕向け量	278	278	221	232		290
出荷量合計	2,231	2,231	2,017	2,060		2,190

単位：ヘクタール、千本、千トン

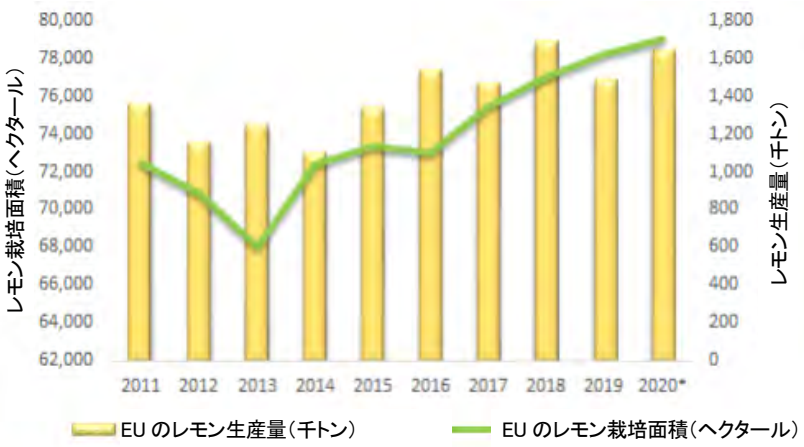
出典：海外農業局各事務所

表7　EUの生鮮レモン国別生産量（トン）

国名	2018/2019	2019/2020	2020/2021
スペイン	1,149,000	931,000	1,031
イタリア	424,000	445,000	491,000
ギリシャ	88,258	82,255	85,000
ポルトガル	16,000	17,000	27,000
キプロス	6,000	5,000	6,000
総生産量	**1,683,258**	**1,480,255**	**1,640,000**

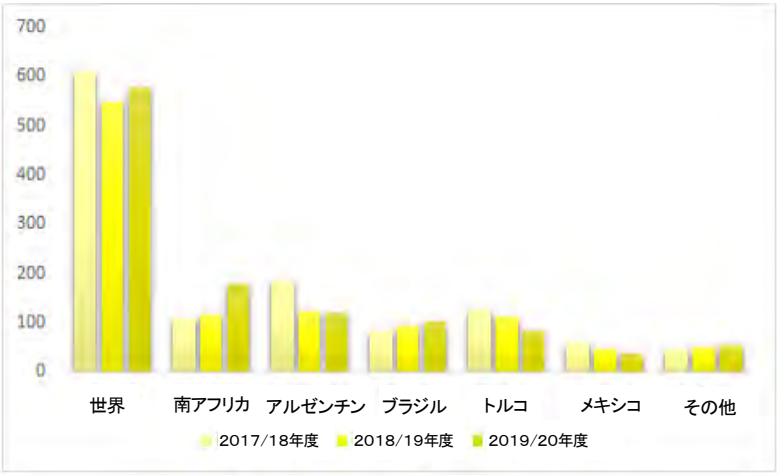
出典：海外農業局各事務所

図9　EUのレモン生産量とレモン栽培面積



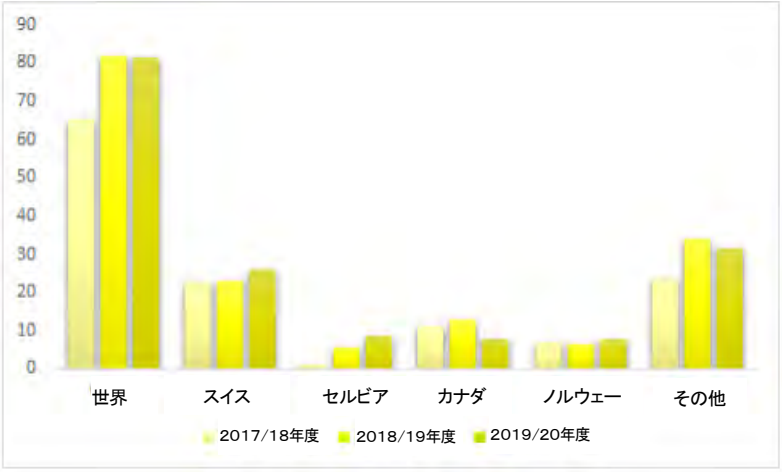
＊ は推計値　　出典：海外農業局各事務所

図10　EUのレモン輸入量　輸入先別（千トン）



出典：TDM（Trade Data Monitor）

図11　EUのレモン輸出量　輸出先別（千トン）



出典：TDM（Trade Data Monitor）

＜グレープフルーツ＞

表8　EUのグレープフルーツ生産需給統計

グレープフルーツ（生鮮） 販売年度 EU	2018/2019 2018年10月～2019年9月		2019/2020 2019年10月～2020年9月		2020/2021 2020年10月～2021年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	3,311	3,311	3,312	3,292		3,292
収穫面積	2,914	2,911	2,904	2,884		2,874
結果樹本数	0	0	0	0		0
非結果樹本数	0	0	0	0		0
果樹本数合計	0	0	0	0		0
生産量	108	108	96	95		96
輸入量	324	324	370	340		340
供給量合計	432	432	466	435		436
輸出量	16	16	17	17		17
生鮮国内消費量	395	395	434	404		405
加工仕向け量	21	21	15	14		14
出荷量合計	432	432	466	435		436

単位：ヘクタール、千本、千トン

出典：海外農業局各事務所

表9　EUの生鮮グレープフルーツ国別生産量（トン）

国名	2018/2019	2019/2020	2020/2021
スペイン	81,000	71,000	73,000
キプロス	19,000	16,000	16,000
イタリア	5,160	5,210	5,215
ギリシャ	3,051	3,098	3,000
ポルトガル	210	260	260
総生産量	**108,421**	**95,568**	**96,475**

出典：海外農業局各事務所

図12　EUのグレープフルーツ輸入量　輸入先別（千トン）

出典：TDM（Trade Data Monitor）

149. 世界の生食用ブドウ市場

FreshPlazaウェブサイト（2020年12月18日）

現在、ヨーロッパ市場ではナミビアと南アフリカから生食用ブドウ（以下「ブドウ」）が入荷しており、北米市場では主にペルー、チリ、カリフォルニア州から入荷している。ヨーロッパの海外産ブドウシーズンの初期にナミビア産と南アフリカ産が著しく出遅れたため、現在もヨーロッパではブドウの供給量の不足と価格の上昇が見られる。1月になればより多くのブドウが到着し、価格が安定するので、状況は変わる見込みである。北米では、価格の上値が重い。中国では輸入品から国内産品へ需要がシフトしている。

オランダ：海外産ブドウの入荷は限定的

今シーズン最初の南アフリカ産とナミビア産のブドウがオランダに到着している。ある輸入業者が述べたところ以下のとおり。

「ブドウ市場の状況はかなり良いと見ている。特にスーパーマーケット向けのトレイ包装の販売は順調に進んでいる。より入念に計画してきたバラ売りのブドウでも利益を上げている。ブラジル産ブドウはほとんど入荷が無くなり、ペルー産はあまり量が無い。これに加えて、南アフリカ産とナミビア産の出荷開始が遅れたことが、供給量の制約に輪をかけている。来週には入荷量が増えると思われるが、12月28日の週ないしは1月4日の週まではそれほど増えないと見込まれる。現在横ばいの価格もそのころにはおそらくいくらか下落する。」

「白ブドウの価格は14～15.50ユーロで、赤ブドウは15ユーロで販売されている。昨年は価格がもう少し高かったが、今年はヨーロッパ産のブドウの入荷が少し長くなり、ブラジルからの供給も少し多かった。全体として、価格水準に不満はない。ペルーからの供給もあるが、ストライキもあって、量は一層限られている。ペルー産のレッドグローブの価格は18～20ユーロで変動している。」

「懸念は、新しいコロナウイルス対策がブドウ市場にどのような影響を与えるかだ。市場が閉鎖されれば、影響が出るだろう。品質の面では、すべて良好だ。さらに、需要が伸びている新品種も多い。例えば、スイートグローブやオータムクリスプなどの品種の需要が、特に業務用スーパーで大幅に増加している。」

ドイツ：海外産は困難なスタート

今年の海外産ブドウのシーズンは困難なスタートを切った。通常、ナミビア産と南アフリカ産の最初の荷は11月下旬に市場に出回るが、今年は最初の荷が12月7日の週に到着した。したがって、クリスマス休暇前及び休暇期間中に出回る量は控えめと予想される。一方、海外産ブドウの出始めの状況は非常に有利だ。ある輸入業者は「欧州産の出荷が事実上終わっているため、小売業界からの高い需要が期待される」と言う。

他方、ブラジル産とペルー産の初荷はイタリア産と競合したため、シーズン開始時の価格はかなり低かった。ある輸入業者は、海外産品の品質は全般的に見て満足できると言う。気象条件のためインド産の出荷開始が最大約2週間遅れるとの話があり、1月にブドウの不足が予想される。

英国：南アフリカ産とナミビア産の初荷が入荷

ナミビア産と早生の南アフリカ産のブドウが英国に到着し始めている。果実の外観は非常に良い。ある輸入業者は「ナミビア産のフレーム種は、まるでアーリースイート種やプライム種のように味とサイズが良い。入荷は7日から10日遅れて始まったが、クリスマス期間の前に新鮮で良質なブドウの入荷が始まったことは良いことだ」と言う。

今年はスペイン産が増えたためヨーロッパ産が多い。ギリシャ産は、貯蔵中の白ブドウの量が少なく、品質の問題もあってやや困難であった。英国の小売業者は、コットンキャンディやセーブルなどの品種の販売を促進しているが、その他の品種は種類が少なく販売促進するには品質が安定していない。

フランス：供給が需要に追い付かない

フランス市場は2つの入荷シーズンの狭間にある。ペルー産と南アフリカ産はシーズンが始まったところだ。量は少ないが品質は良い。スペイン産、ポルトガル産、イタリア産はシーズンが終わろうとしているため、例えばスペイン産はクリスマスまでいくらか市場に出回るが、品質はもはやそれほど優れていない。需要は非常に高く、供給量を超えており、したがって価格はかなり高い。

スペイン：出荷はほぼ終了

スペインでは現在、ブドウの出荷シーズンはほぼ終わりに近づいており、販売面では、伝統的なアレドなどの種あり白ブドウ品種と主にペルーから輸入される種子なし品種を主体に、国内の新年向け販売キャンペーンに力を入れている。スペインは販売期間の拡大に成功しており、今年は種なしの赤色品種で特に顕著であったことが注目される。

クリスマスと大晦日の販売促進に関しては、コロナ禍が果実の販売に変化をもたらすと予想される。シェアの高かった飲食サービス業界への売り上げが失われたため、大晦日のディナーを家庭に届けるレストランチェーンやケータリングサービスに焦点が当てられている。業界としては、通常この時期によく行うレストランでの外食や国内旅行ができない場合、人々は自宅でより多く、より良いものを食べることになり、小売の売上高が増加することを期待している。

ムルシア州やアリカンテ県などの主産地の収穫量は昨年よりも少なかった。昨シーズンは目いっぱいの生産量だったので、今年は収穫量が少なくなると予想されていた。また、収穫直前の多雨のため一部でカビが発生した。需要と価格はともに、シーズンを通して全般的に良好であった。

昨シーズンは種ありブドウが悲惨な結果となり、生産者は赤字を計上したが、一部の小規模生産者は、改植苗の不足と収益性の低さから畑を放棄することを選択した。幸いなことに、今シーズンは状況がはるかに良かった。実際、世界的には種なしブドウへの関心が高まる傾向にあるにもかかわらず、今年は種ありブドウ品種の需要がわずかに増加した。

イタリア：国内産ブドウの出荷期間は短い

イタリアでは湿度の高い状況が続いており、収穫期最後のブドウは生鮮市場向けには適していない。イタリ

ア生食用ブドウ委員会によると、休暇期間中に国内市場に出荷できるのは、少量のリーガル種、レッドグローブ種、ブラックパール種に限られる。出荷期間のうち、シーズンの開始時にはエジプト産、ギリシャ産、スペイン産との競争が、終盤には域外産品との競争があり、イタリア産ブドウに多くのプレッシャーがかかった。プッリャ州のある業者は、エジプト産との競争により赤ブドウが多くのプレッシャーを受けていたと言う。8月中旬には、小売の販売促進活動により、赤ブドウ、白ブドウの状況が改善したが、9月にはギリシャの競合相手が市場に参入した。

シチリア島は現在、市場に最後のレッドグローブを出荷している。シーズンの初めの平均価格は0.50～0.70ユーロ/kgであったが、その後0.60～0.80ユーロ/kgとわずかに上昇した。有機ブドウは11月上旬から出荷できたが、シーズンの後半に出荷できる種なし品種が無い。マッツァローネ地区(少し早い)とカニカティ地区の両方で、徐々に種なしブドウの生産シェアが増えている。これらの品種の市場での需要は増加してきており、生産者はイタリア種などの伝統的な品種を栽培し続けながら、この増加への対応に備える必要がある。

南アフリカとナミビア：シーズンの開始に遅れ

今年のブドウの出荷は遅く始まった。ナミビアは現在出荷の最盛期であるが、南アフリカの西ケープ州はようやく始まったところである。同州のオリファンツ川流域では約10日間の遅れが生じており、ベルク川とヘックス川の流域では1週間の遅れが見込まれている。この遅れにより、南アフリカとナミビアの生産者は、クリスマス前のヨーロッパ市場への出荷機会が狭まった。今年は人々の旅行や休暇の計画が変化するため、クリスマス後にも良い価格が続くかもしれないとの声も聴かれる。今年の果物の品質とサイズは申し分ない。

この時期、この地域の主要な物流ハブであるケープタウン港では、風のために船の入出港が妨げられる場合がある。この7～8日間の状況はそれほど悪くないが、来週には再び強風のために港の活動を停止することを余儀なくされると予想される。港湾事情に加えて、コロナウイルスのためにナミビアと南アフリカの国境越えに関して緊張が高まる場面があった。国境はコロナウイルスが広がるのを防ぐために時折閉鎖されているが、両国政府はナミビア産ブドウの南アフリカの港への円滑な輸送を保証することに合意した。

11月29日までに、南アフリカは150万箱(4.5kg/箱)を輸出した。これは昨年同期（440万箱)よりもはるかに少なく、2年前よりも大幅に少ない。輸出量のほとんどは欧州市場向け（100万箱）で、英国向けと中東向けがこれに続いた。

インド：市場には初荷が入荷。1月から量が増加

インドのブドウの季節は始まったばかりであり、当分の間は量が少ないが、1月には収穫量が増える。ある輸出業者の場合、ブドウのほとんどをヨーロッパ市場に出荷している。ブドウ生産者が使用する販売経路は従来からある政府の市場プラットフォームを使用していないため、インドで現在起こっている農家の抗議行動は、今シーズンの販売に影響を与えていない。インドのブドウの主産地であるナシク地域では、1月11日の週からブドウの収穫が予定されており、4月中旬までは十分な収穫量があると予想される。10月に雨が続き、生産者は剪定作業を延期せざるを得なかったため、1月の収穫量は通常よりも少なくなり、2月には通常よりも多くなると見込まれる。1月には輸出可能な数量が限られているため、インド産ブドウの価格はシーズンの初めには高めになると予想されている。しかし、2月と3月には、多くのブドウが輸出できるようになり、価格が下押しされると見込まれる。

米国：国内産と輸入品が入荷

カリフォルニア州産の国内産品と輸入品の両方が入荷しており、ブドウの供給量はかなり多い。国内の収穫量は昨年と同程度である。カリフォルニア州は現在、クリムゾン、オータムロイヤル、レッドグローブ、アリソン、スウィートセレブレーションなどの晩生品種を出荷している。

多くの業者が現時点では需要は安定していると見ている。コロナ禍のために小売業者向けの販売が多い。新品種の開発も、食味の向上と品質の安定を通じてブドウの販売を後押ししている。価格は安定しており、前

シーズンと同程度である。

ペルー：米国向けの大量のブドウが価格に圧力

米国では、ペルー産輸入ブドウのシーズンがすでに始まっている。供給量は20％多くなる見込みである。ペルー産ブドウは出荷シーズンの初めころには米国以外の市場に向かうが、11月からは輸出量の大半が米国に出荷される。フロリダ州のある輸入業者は「ペルーの一部の地域では、寒さのために出荷が遅れ、糖度が適切なレベルまで上がらなかった。しかし、現在は、出荷量も多く品質も良い」と言う。

ペルーでは現在、出荷が国の南部地方に移っている。ある輸入業者は「ペルーは毎年、出荷期間を延長しようと試みており、通常は需要に応じて3月上旬まで出荷を続けるが、その後はチリとの競争が激しくなる」としつつ、今年はチリが出荷を早めるかもしれないと報告している。需要は好ましくなく、価格を圧迫している。

中国：需要が輸入から国内産にシフト

2020/21年度のブドウの収穫量は1,100万トンと推定され、前シーズンよりわずかに多い。シャインマスカットと夏黒（シャアヘイ）ブドウの2つが最も人気のある品種であり、その出荷量が増加している。特にシャインマスカットは、栽培面積が660万ヘクタールに達し、収穫量は市場シェアのほぼ10％を占めている。

価格は、品種により大きく異なる。シャインマスカットの価格は数年前には非常に高かったが、生産の増加に伴い、価格は年々下落している。今年は、シャインマスカットの平均価格はおよそ20～40人民元/kgで、昨年より50％低い。

パンデミックの間、物流に問題があり、ブドウの輸入量は昨年より6％少ない。一方、今年は国内産の質が大幅に向上した。このため、需要は輸入品から国内産にシフトしている。チリ、オーストラリア及びペルーが中国の生食用ブドウ市場における主要プレーヤーである。他方、中国産ブドウは、主に東南アジア市場に輸出され、来シーズンは17％の成長を達成する見込みである。

オーストラリア：コロナウイルスによる減産と制限に対する懸念

オーストラリアの北部と西部の一部の生産者は、すでに2020/21年度出荷シーズンの収穫を始めているか、始めようとしている。全国の青果物の生産者が直面している課題にもかかわらず、今季の予測は依然として肯定的である。コロナウイルス対策の入国制限による人手不足と国際市場への貨物輸送コストの上昇が懸念されている。2018/19年のオーストラリアのブドウ生産量は20万8,276トンで、その70％が輸出市場に出荷された。

業界では、連邦政府からの最近の資金提供が役立つことを望んでいる。オーストラリア生食用ブドウ協会は今月、生産者の市場アクセスの改善、業界の輸出認定システムの最新化、及び農薬残留基準のモバイルアプリの作成を目的とした2つのプロジェクトに60万豪ドル以上を受け取った。オーストラリアは2018/19年度に5億5,500万豪ドル以上に相当する14万6,093トンのブドウを輸出した。オーストラリアの出荷シーズンは11月から翌年5月までである。（1豪ドル＝約78円）

150. オーストラリア 果実輸出の話題（柑橘類、サクランボ）

戦略転換が2020年の柑橘類輸出の成功に貢献

FreshPlazaウェブサイト（2020年12月18日）

今年のオーストラリアの柑橘類シーズンは、日本とベトナムへの輸出量が増加するなど、アジアの主要輸出市場で大きな成功を収めた。「オーストラリア産柑橘を味わおう」キャンペーンは、オーストラリア産柑橘類を市場で最良の選択肢と位置づけることで、アジア市場における販売を促進した。

主要市場である日本へは対前年比38％増の9,270万豪ドルに相当する50,175トンの柑橘類を輸出した。ベトナムへは、対前年比44％増の1,860万豪ドルに相当する8,566トンを輸出した。（1豪ドル=約78円）

ホート・イノベーション社販売担当役員のコーツ氏は、「2020年の『オーストラリア産柑橘を味わおう』キャンペーンは、アジアの主要市場への柑橘類輸出の成功と継続にその役割を果たした」と述べている。

同キャンペーンはCOVID-19が世界的に流行する中で実施されたため、すべての市場は何らかの形で影響を受けた。変化する消費者の実状に確実に適合させるため、当初計画された活動が見直された。

日本とフィリピンでコロナ禍による外出規制が実施される中、小売業界は劇的に変化した。店舗の客足は遠のき、多くの消費者が食料品の買物をオンラインに切り替えた。これらの変化に対応し、家に閉じこもった消費者に届くよう、ソーシャルメディア、インフルエンサー、デジタル広告に的を絞り、電子商取引やデジタルでの販促活動への投資を増やすよう活動が修正された。

2020年の「オーストラリア産柑橘を味わおう」キャンペーンでは、中国、日本、ベトナム、フィリピンで以下のような販促活動が行われた。

- 小売店内の活動（サンプル配布、POS用資材、展示コンテスト）
- 電子商取引　・ デジタル広告及び交通/屋外広告　・ 映像のライブ配信　・ 広報
- インフルエンサーの活用　・ 主要オピニオンリーダーの活用　・ ソーシャルメディア

コーツ氏は「柑橘類シーズンの成功は、高品質な農産物の生産と業界の努力、さらに従来の店内販売活動からデジタル/オンラインモードへのキャンペーンの修正によって支えられた」と言う。

オーストラリア全国柑橘類産業協会のハンコック会長は、「困難な年であったが、生産者と販売担当者は、健康志向の消費者に訴えることでコロナ禍に誘発された柑橘類の需要を掴んだ。生産者は、困難がある中、高品質な農産物を提供するために努力した。来年も成長を続けることを期待している」と述べた。

出典: Horticulture.com.au

タスマニアから東アジアへサクランボの直行便

FreshPlazaウェブサイト（2020年12月22日）

タスマニア州のサクランボ輸出業者は、州都ホバートから香港への新しい直行便を利用して、彼らの生産物が完璧な状態で日本に到着したと聞いて本当に喜んでいる。ホバートと香港の間の新しい航空貨物便は、サクランボが積み替えの遅延に巻き込まれ、台無しになるかも知れないという生産者の懸念を払拭した。この貨物便は、コロナ禍に対応してオーストラリア政府が設けた一時的な選択的緊急資金措置の一部である。

タスマニア州のサクランボ生産者でリードフルーツ社社長のリード氏は、各フライトでサクランボを送る予定であり、すでに約2.5トンの日本品種のサクランボを飛行機に積み込んでいる。

キャセイパシフィック航空の777-300型機は、2月までホバートと香港の間で週3回運行される。リード氏は、コロナ禍であろうとなかろうと、来シーズンに再び直行便が飛ぶことを望んでいる。

出典: abc.net.au

151. 世界のアボカド市場

FreshPlazaウェブサイト（2021年1月8日）

世界市場でのアボカドの価格は、供給量の減少と大玉の不足によりここ数週間上昇している。現時点ではメキシコ産とチリ産が市場を支配しているが、その数量は減少してきている。ヨーロッパでは、出荷の最盛期を迎えているイスラエル、スペイン及びその他の地中海周辺諸国の産品への切り替えが進んでいる。多くの取引業者は、価格が高値で推移するものと見込んでいる。

オランダ：アボカド価格は高値安定

オランダでは、休暇期間中のアボカド販売は高値安定で良好に推移した。輸入業者は、市場のこの状況は今後数週間続くと予想している。コロンビア産ハスアボカドの入荷が少なく、このためこれまでコロンビア産より高価であったスペイン産ハスアボカドよりも価格が高い。グリーンスキンアボカドについては、イスラエル産ピンカートン品種が主体であり、価格が高い大玉の不足が目立っている。

ドイツ：困難なアボカド市場

現在の市場動向とロックダウンの延長の結果、アボカド市場の状況は非常に困難である。レストランの閉鎖により、卸売取引での購入量が減り、貨物の輸送量も不足している。

入荷量は全般的に安定しており、過剰な入荷はほとんどない。卸売価格は1パッケージ当たり10～12ユーロ前後で変動している。ある卸売業者は「現在の航空貨物の追加料金（が高いこと）と、ヨーロッパ産の熱帯果実の季節的な供給が相まって、（輸入品の）パイナップルやアボカドよりも（域内産の）柑橘類やザクロの方がよく売れる状況になっている。このことは市場の状況にはっきりと反映されている」と言う。

フランス：数カ国の産品が入荷

フランス市場では、メキシコ産、チリ産及びコロンビア産の供給は現在終わりに近づいていて、イスラエル、スペイン、その他の地中海周辺諸国から今季の初荷が到着している。しかし、寒い天候と雨のため収穫が制限されている。価格はやや上昇しているが、需要は現在安定している。

スペイン：１月と2月の見通しは好ましい

今年、スペインのアボカド主産地であるマラガ地域の収穫量は約10％少なくなると予想されるが、この減少

は、グラナダ、カディス、バレンシア、ウエルバの各地域及びポルトガルの産地の新植された園地の成園化によって相殺される可能性がある。スペイン産アボカドの出荷シーズンは、10月にベーコン品種で始まり、最初の数週間で良好な売り上げを上げた。10月下旬の時点で、パンデミックの拡大継続による不確実性の高まりと、各国・地域で実施された封じ込め措置の厳格化のため、売上高は約30～40%減少した。

過去10年間で最悪のクリスマス商戦の後、売り上げは回復し始めている。過去3週間、スペインでは投機的な動きが多くあり、価格は非常に高く、産地価格でキロ当たり概ね3～3.50ユーロに達している。価格が高いため需要は停滞していたが、現在、ヨーロッパの小売業者はスペインからの購入量を増やし始めている。しかし、依然としてコロンビア、メキシコ、イスラエル、チリなど、多くの産地からの入荷があり、市場に混乱を引き起こしている。輸入、生産、販売を営むあるスペインの業者によると、チリ産の出荷は終わりに近づいており、コロンビア産の供給量はさらに少なく、メキシコ産は品質が低いため、スペイン産アボカドは、市場でこれらよりも良い選択肢を提供しており、3月までは興味深い需要を維持すると見られる。売り上げ面では、1月と2月の見通しは良好である。多くの国で依然として飲食サービス業界が閉鎖されており、これは売り上げに悪影響を与えているが、投機的な動きが余程ない限り、全般的に良好な需要が見込まれる。3月にはペルーとケニアの出荷シーズンが始まるため、競争の激化が見込まれる。ペルーは今年、生産量が約20%増加すると予想されている。

南アフリカ：最も早生のアボカドの収穫は来月から

1月は、国内市場でアボカドの不足が見られる。価格は1キロ当たり約32ランド（1.70ユーロ）である。

来月には、リンポポ州のレブブ地域など最北部の地域で、南アフリカで最も早いアボカドの収穫が始まる。今のところ天候条件は良い。雨が多く、貯水池を潤している。来シーズンの見通しを示すのはまだ早いが、アボカドの栽植本数が増えていることを考えると、アボカドの市場出荷量は増える見込みだ。南アフリカ亜熱帯果実生産者協会の最高経営責任者（CEO）は、アボカドの着果は予想ほどには良くないと述べた。

米国：アボカド価格は上昇傾向

アボカドの価格は、大幅に下落した後に上昇しており、引き続き上昇する可能性がある。現在、ペルー、チリ、カリフォルニア州が出荷シーズンを終えたので、市場ではメキシコがアボカドを出荷している唯一の産地である。カリフォルニア州産は4月に再び市場に入荷すると見られる。ノースカロライナ州のある輸入業者は「メキシコでは、現在、標高の高い地域で収穫が進行中である。生産量は2週間前より少なくなっている。一部の地域では、価格の改善を目的に、各自治体の1日当たりの収穫許可数が通常の3分の2に抑制されている」と言う。供給を減らすことで、メキシコ産アボカド（25ポンド48玉）の価格は1箱当たり19ドルから26ドルに上昇した。1月と2月は引き続き価格が上昇する見込みである。

変動要因は他にもある。2021年初めにメキシコで降霜があり、数千ヘクタールが影響を受けた可能性がある。このことは、来年の収穫にも影響を与えるかも知れない。メキシコの生産者は、1月の間は霜が続くことも懸念しているが、既に開花しているので、収穫を続ける意欲がある。樹上で生育中のアボカドは、サイズが小さくなる可能性がある。

メキシコ：ヨーロッパ向け出荷量は増加

生産は順調であるが、食品サービス業の閉鎖による需要の減少のため、市場では供給過剰が見られる。ミチョアカン州は通常、アボカドのほぼすべてを米国に輸出しているが、米国の需要減少のため、この1ヶ月間には一部をEUに出荷した。ハリスコ州は米国への輸出許可がないので、EUは従来からアボカドの定番の輸出先であるが、現在はミチョアカン州からの出荷もあり、市場への供給量は多い。メキシコ産アボカドの価格は、昨年と比較して約50%と大幅に下落した。米国は世界最大のアボカド輸入国の一つであるため、ハリスコ州は、州内の生産者に多くの新しい機会をもたらすと見られる米国市場へのアクセス獲得に取り組んでいる。今年は、昨年に比べて71,000トン多い生産量が見込まれている。

中国：多くの輸入先国を承認

多くの国が昨年、中国にアボカドを輸出する許可を受け、アボカド品種もますます多様化している。現在はチリ産とメキシコ産が市場を支配しているが、チリの出荷シーズンは終わりに近づいていて、焦点はサクラン

ボに移ってきている。メキシコ産は品質のばらつきがあり、かなりの価格差がある。メキシコからの輸入は物流上の課題にも直面している。貨物が予定通りに到着しないため、市場で販売されている果実は、倉庫で一旦貯蔵したものである。

昨年は、ドミニカ共和国とコロンビアも中国に輸出した。コロンビアは中国の輸入業者の間で特に人気のある輸出国であり、一部の企業は購入を増やしている。しかし、未だコロナウイルスによる輸入上の問題がある。カリフォルニア州産のアボカドも中国市場に参入する可能性を有している。

中国の一部のアボカド企業は、雲南省で国産アボカドを栽培し始め、地元のアボカド熟成センターに投資している。アボカドは「スーパーフルーツ」と考えられており、また中国の多くの人々がコロナウイルスの影響で一層健康的な食事を目指しているので、中国の複数の企業は、アボカド市場はサクランボシーズンの後には回復し、消費者の需要は増加すると予想している。

オーストラリア：収穫量が少なくニュージーランドとチリに機会を提供

今は夏の季節に入り、予想どおり供給量は減少した。この時期の国内産品のほとんどは西オーストラリア州産であり、そのほかニューサウスウェールズ州中部とトライステート（ビクトリア州、南オーストラリア州及びニューサウスウェールズ州の残りの地域）からも若干の入荷がある。

クリスマスシーズン中、ニュージーランドはオーストラリアへの供給の大部分を占め、チリからは初めてオーストラリアに少量が出荷された。いくつもの寒冷前線と嵐が西オーストラリア州の生産に大きな打撃を与え、収穫量が減少したため、ニュージーランドが供給を増やし、チリが初めてオーストラリアに出荷する機会を得た。

業界団体アボカドオーストラリアは、新植した園地の多くが成園化するので、この状況は2020/21年度に限定される可能性が高いとしている。オーストラリアは2025年までに約11万5,000トンの生産を見込んでおり、これは同国の国内需要を満たすのに十分なはずだ。国内市場には依然としてハス種が供給されているが、クイーンズランド州北部の少数の果樹園はシェパード種の早期収穫の準備をしていると伝えられている。

152. メキシコ産アボカドは市場ごとの販売促進活動に注力

ASIAFRUIT電子版（2021年1月12日）

アボガドはメキシコ最大の成功例の一つである。昨年は130万トン以上のアボガドを世界中の市場に輸出した。大部分は米国向けであるが、その他にもカナダ、中国、日本等の戦略的に鍵となる市場で、更にある程度はヨーロッパ、南米、中東の市場でも、その地位を確立するのに成功した。

これは、メキシコ産アボカド生産者・輸出梱包業者協会（APEAM）のAvocados From Mexico（AFM）ブランドによる販売促進活動によるところが大きい。APEAMは、それぞれの国に応じて、極めて効果的な販売戦略を立てている。

米国では、アボガドが既に北米の小売店に十分出回っているスーパーボウル（訳注：2月頃開催）とシンコ・デ・マヨ（訳注：5月のメキシコの祝日）の時だけでなく、年間の様々な時期にアボカドの販売促進を行うことに焦点を当てて、多額の投資を行っている。

カナダは、昨年メキシコ産アボカドを37,378トン輸入したが、販売促進活動は、国民的スポーツであるアイスホッケーリーグの試合のテレビコマーシャルが中心である。小売店での販売促進と視聴率が最も高いテレビ番組でのコマーシャルは、販売拡大に不可欠である。

一方、中国では、APEAMは e コマース大手のアリババと戦略的に提携している。加えて、中国で最も普及しているソーシャルネットワークであるWeiboとWeChatを十分に活用している。

日本では、APEAMは日本のテレビと映画で知名度の高い俳優の速水もこみちをアボガド大使として起用した。また、マスコット Avocoを作成し、店内の販売促進、テレビの全国放送、電車広告で使用している。

これらの取り組みに加え、APEAMは、Fruit Logistica, PMA Fresh Summit, Foodex Japan, United Fresh等の主要な国際貿易見本市への積極的な出展を続けている。

APEAMは、業界が直面している今後数年間の大きな課題について、米国のフードサービス業界の混乱とコロナ禍によって生じた経済危機による出荷額の減少の一部を取り戻すことだと語る。2020年はレストラン及び学校等の公的機関の閉鎖が業務用の売り上げに打撃を与えたが、人々がより健康的な食事を求めたために家庭での消費が増加し、小売需要が急増した。このことは、アボカドを時々購入するものから毎日の食材とするのに役立った。

6年が経過し、AFMブランドはいつものスーパーボウル期間中のテレビコマーシャルをやめ、代わりにスーパーボウルの前、期間中及び後での販売促進活動を強化する。APEAMは、「このキャンペーンでは、レストラン業界に対し、1月から3月に積極的な販売促進活動を行う予定である。我々は、ワクチンが接種され、フードサービス業界が「新しい日常」に戻ることを望むが、業務用需要の回復には、それに適応した取り組みを行う必要がある。同時に、これまでにない強力な販売促進活動を夏に計画している」としている。

他には、中国での戦略は、メキシコ産アボカドの風味、汎用性、健康面の利点についての認識を引き続き高めることである。この戦略はこれまで大きな成果を上げており、中長期的に、2ケタの成長を続けることが可能とAPEAMは確信している。

一方、日本での販売促進キャンペーンは、身体の美容と健康に焦点を当てる予定である。カナダの販売促進活動は、店舗での活動、eコマース、他の団体やブランドとの提携を予定している。

APEAMの関係者は「いつかパンデミックが終結すれば、メキシコ産アボカドの未来は明るい。消費者はアボカドの家庭での消費に慣れてきており、レストランや学校給食等が再開すれば、アボカドを用いたメニューは消費者に歓迎されるだろう。他産地との競争が増えるが、メキシコ産アボカドは、そのブランドイメージ、品質、年間を通じて入手可能であることから、世界中の消費者、シェフ、健康愛好家にとって第一の選択であり続けるだろう」と語った。

153. 米国 ブルーベリー業界二団体が貿易公聴会で証言

FreshFruitPortalウェブサイト（2021年1月13日）

米国ブルーベリー産業の異なるセクターを代表する二つのグループは12日、米国国際貿易委員会の公聴会で、外国の貿易相手国が国内生産者に深刻な損害を与えているかどうかの調査の一環として証言を行った。

先週設立が発表された「進歩と健康のためのブルーベリー連合」は、輸入は国内の生産者を傷つけておらず、実際にはすべての関係者の利益のために市場を成長させるのに役立っているとの主張を堅持した。

一方、「米国ブルーベリー生産者同盟」（ABGA）は、春と秋の中南米からの輸入の増加が近年の価格の急激な下落の原因であると主張した。

キャピタル・プレス紙は、貿易委員会では相反する証言が述べられ、法的・経済的分析が激突したと報じている。

同紙は、生産者同盟委員長でジョージア州の農業者であるジェローム・クロスビー氏は、輸入が価格を引き下げていないという主張を「滑稽だ」と表現し、「私が住んでいる世界では問題だ」と述べた一方、米国に拠点を置き他の国でブルーベリーを栽培または買い付けする企業を代表するブルーベリー連合は、低価格の責任は国内で互いに競合している米国の生産者にあると主張し、ドリスコルズ社の南北アメリカ担当代表役員であるソーレン・ビョルン氏は「価格が落ち込む夏の数ヶ月間、市場は国内産で飽和している」と述べたと伝えた。

生産者同盟のクロスビー氏は公聴会後に発出されたリリースで、「国内の需要が旺盛なので、国内外の生産者の双方が市場の利益を享受する余地があるはずだが、米国市場を狙った外国政府の政策と輸入に関する大企業の思惑が組み合わさり、大量のブルーベリーを市場に持ち込むようになった。それは次第に、過去には生産者が収益の大部分または全部を得てきた期間にまで拡大してきた」と述べた。

ブルーベリー連合に参加する米州生鮮青果物協会（FPAA）はリリースで、トランプ政権による通商法201条に基づく輸入ブルーベリーに関する調査に重大な懸念を提起する上下両院の超党派の書簡に目を通していただいた両院議員を称賛すると述べた。また、332条に基づく、輸入イチゴ、ピーマン、スカッシュ、キュウリの調査に反対する議員も称賛するとした。

FPAAのランス・ユングマイヤー会長は、「この議会書簡による支援は、貿易に関与するアメリカ企業、特に予定されている貿易調査が新たなUSMCA（米国、メキシコ、カナダの貿易協定）を弱体化させることを知っている企業にとって、極めて重要である。今年、隣国であり最大の貿易相手国であるメキシコとの貿易摩擦を生み出せば、メキシコとの強固で双方向の農産物貿易に依存する多くの企業に壊滅的な打撃を与えるだろう」と述べた。

貿易委員会の調査が肯定的である場合、すべての審議を完了した上で、調査を開始してから180日以内に大統領にその調査結果と勧告を含む報告書を提出する必要がある。その後、大統領は60日以内に取るべき行動を決定することとなっている。

（関連記事）

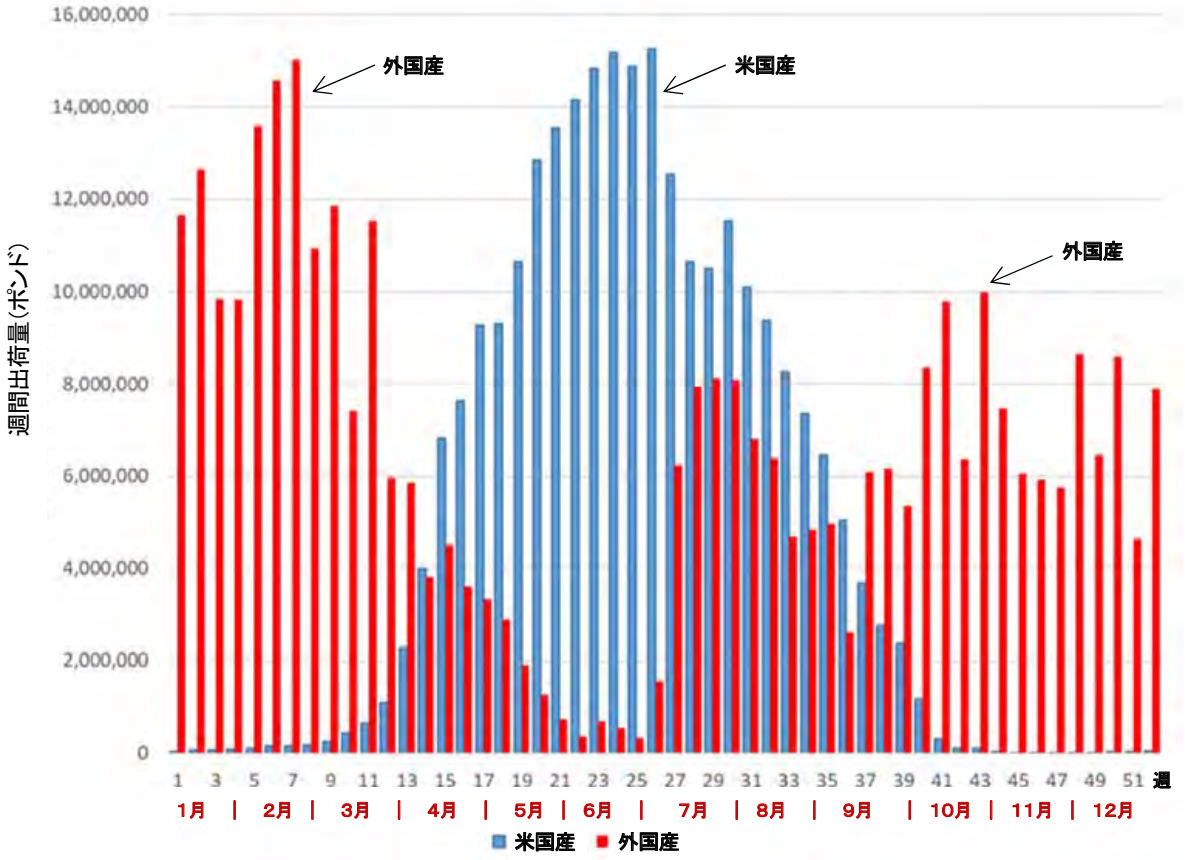
ブルーベリー連合は貿易委員会の調査に対し分析結果を発表

FreshFruitPortalウェブサイト（2021年1月12日）

この記事では、筆者は政治的な立場はとらず、ブルーベリー連合の報告書の記述内容にすべてに賛同するものではないとしつつ、ブルーベリー連合が公聴会に提出した資料の中から特に興味深いと思われるデータを紹介しています。翻訳では、原文中の上記の説明を省略しました。

この報告書の優れている点の一つは、米国市場の詳細な分析を提供していることである。示される情報は、長年業界を見ている者を驚かせるようなものではなく、生産効率と望ましい商業的特性を持つ新しい品種が、業界の成長と収益性の高いビジネスを促進していることを示唆している。

図5 － 供給の時期的な重複はない（2019年）



出典: 米国農務省農業流通局（Agronometrics編纂のデータによる）（訳注：Agronometricsは農産品データベース）

園地に投資していない産地は苦戦している。異なる産地の収量の比較は雄弁であり、収量が低い「従来からの産地」の生産が減少しているのに対して、収量が高い西海岸の力強い成長を示している。

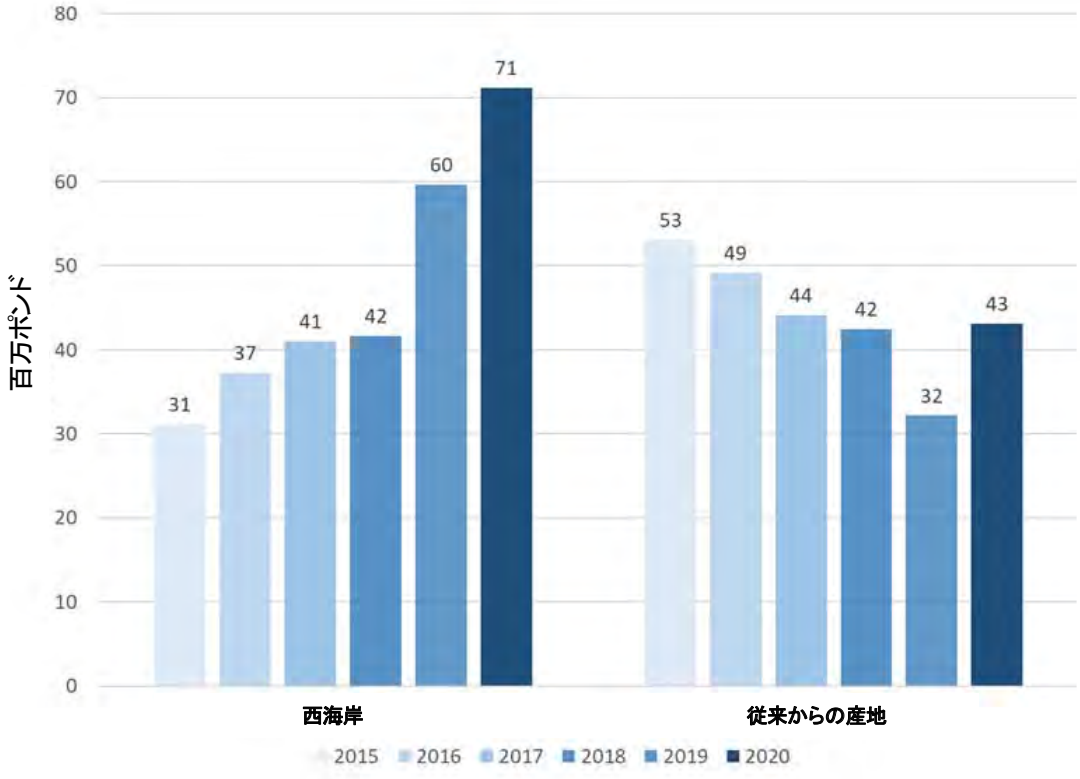
表7 – 収量の傾向（米国）

（トン/ヘクタール）

	2014	2016	2018	2019
西海岸の産地				
オレゴン州	11.690	13.382	12.953	13.608
ワシントン州	9.996	11.001	10.045	11.269
カリフォルニア州	7.621	8.467	10.064	10.685
従来からの産地				
ニュージャージー州	7.576	4.882	5.225	5.273
ミシガン州	4.870	5.260	3.604	4.682
ジョージア州	7.576	3.402	2.377	4.426
ノースカロライナ州	7.549	7.072	3.955	4.189
フロリダ州	4.536	2.753	2.995	4.067
全米平均	**6.886**	**6.121**	**5.400**	**6.585**
西海岸の産地平均	*9.769*	*10.95*	*11.021*	*11.854*
従来からの産地平均	*6.421*	*4.674*	*3.631*	*4.527*

出典: 国際ブルーベリー機構　https://www.internationalblueberry.org/

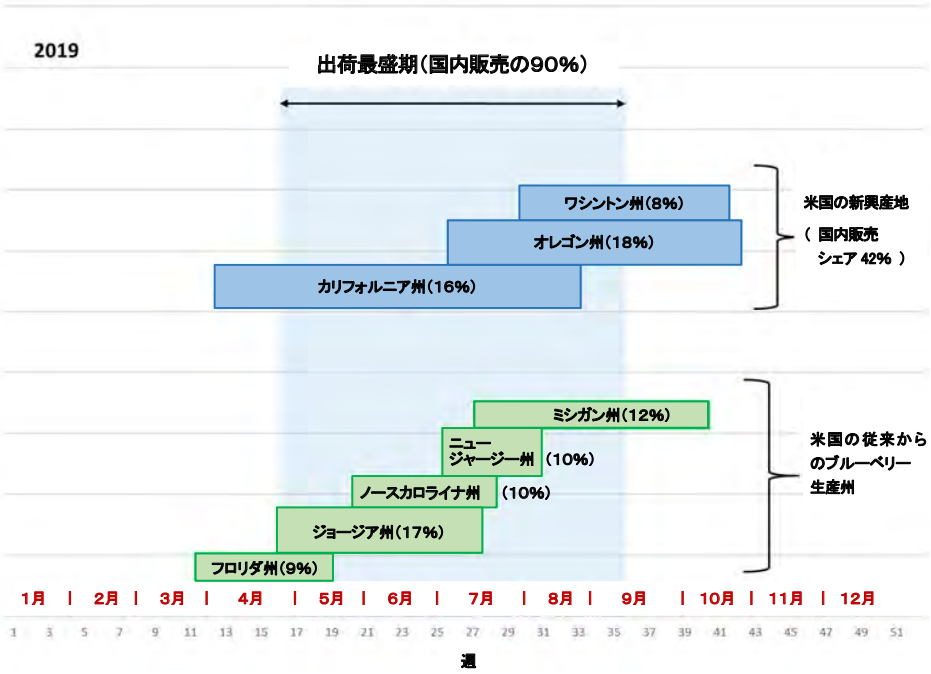
図12 – 出荷最盛期の後半における西海岸からの供給の増加



出典: 米国農務省農業流通局（Agronometrics編纂のデータによる）

もう一つの興味深いチャートは、西部とその他の地域の生産の季節性を比較している。これは、米国市場が二つの別々の世界に分割されている様子をよく表している。

図7 – 国内産地の競合



出典: 米国農務省農業流通局（Agronometrics編纂のデータによる）

（注）出荷最盛期は第17週～第36週と定義される。括弧内は各州の生鮮ブルーベリーの年間国内出荷シェア。

また、新しい品種や系統に明らかに多く投資している西部の州に対し、従来からの産地は遅れをとっている。

表17 – 西海岸の産地は新しい品種を受け入れる

オレゴン州及びワシントン州	カリフォルニア州
• Duke • Draper (2003) • Liberty • Aurora • Calypso (2013) • Valor (2015) • Blue Ribbon (2012) • Top Shelf (2012) • Last Call (2013) • Elliott	• Snowchaser (2005) • Emerald • Jewel • Star • Suziblue (2009) • Legacy • Proprietary（カリフォルニア州の生産の約20%）

出典: ドリスコルズ社ソーレン・ビョルン氏の供述書

表18 – 従来からの産地は主に古い品種を栽培する

ミシガン州	ノースカロライナ州
• Jersey（非常に古い） • Bluecrop • Elliott • Proprietary	• Star • Camellia • Legacy • Duke
ジョージア州	**ニュージャージー州**
• Very old Rabbiteye varieties (Brightwell, Powderblue, Premier, Tifblue, Climax, Columbus) • Emerald • Suziblue (2009) • Legacy	• Duke • Bluecrop • Elliott • Draper (2003)

出典: ドリスコルズ社ソーレン・ビョルン氏の供述書

154. 世界のマンゴー市場

FreshPlazaウェブサイト（2021年1月15日）

世界のマンゴー市場の状況は、現時点では比較的落ち着いている。供給量は限られているが、需要も少ないため、多くの取引業者が「低いが妥当」と表現する市場価格となっている。ブラジル産に加えて、ペルー産も現在出荷の最盛期であり、メキシコ産もまもなく入荷するため、市場価格を圧迫する可能性がある。東アジアでは、東南アジアからのマンゴーが市場に出ているが、状況は類似している。コロナウイルスによってかなり制限されている空輸をはじめ、引き続き世界中で物流が課題となっている。

オランダ：取引には最善を

オランダのある輸入業者は「今年のマンゴー市場の状況は昨シーズンとは全く異なる。昨シーズンは収穫量が多かったが、ロックダウンのために輸出が突然終了した。今シーズンは多くのことが変わった。ペルーからの入荷量は週当たり100コンテナも少ない。米国の需要が回復したため、（欧州への）供給は大幅に低い水準で推移している。いつものように市場には小玉の入荷が多いが、その供給もいくらか減少している。ブラジル産マンゴーの供給も限られているので、今後数週間の価格は横ばいないし上昇と見ている。取引を続けようとする人は、最善を尽くさなければならない」と語った。

ベルギー：ペルーから予想以上の供給

ペルー産のマンゴーは現在出荷の最盛期である。ケント種のマンゴーは、今シーズン最初の入荷が来週に予定されている。ブラジル産ケントマンゴーの入荷が先週で終わったため、ベルギーのある輸入業者は3月中旬頃まではペルー産しか入手できない。供給は順調で入手に問題はなく、品質と味は良好であり、価格は魅力的である。

ペルーからの供給は予想以上に良いようだ。収穫前には、雨がかなり少なかったために小玉しか出荷できないと思われたが、状況は変わり、今後数週間は、サイズ*10～12の小玉ばかりでなく、むしろサイズ7～9の方が供給量が多くなり、ほとんどの顧客のニーズを満たすと見られる。（訳注 *: 一箱（概ね4kg）当たりの玉数）

ドイツ：現時点では市場は安定

マンゴー市場は現在比較的安定している。ある輸入業者は「船便で到着するマンゴーは、主に小売業者を通じて販売されている。この分野では、最初のロックダウンの時と同様に、現在の販売はかなり安定している」と言う。一方、卸売市場では、状況は厳しい。ケータリング業界の閉鎖により、輸入果実市場の状況は良くない。ハンブルクの卸売市場はこれを明確に示している。これは主に、通常はドイツの卸売市場で人気のある空輸マンゴーに影響を与えている。売れ行きが悪い一方、空輸されるマンゴーの量も通常よりかなり少ない

ため、需給はどうにか均衡している。

域外産に加えて、スペイン産マンゴーがドイツ市場で足場を固めつつあると専門家は報告している。9月から12月中旬にかけての出荷シーズン中、スペイン産のケント種とオスティーン種のマンゴーは、特に持続可能性の観点から、域外産に代わる選択肢として次第に関心を集めている。

フランス：品質、味、色が良い

ブラジル産マンゴーの入荷が終わりに近づき、ペルー産の入荷が始まっている。海上輸送されたブラジル産マンゴーの販売は、妥当な範囲で高めの価格と良好な売れ行きにより、極めて順調であった。今入荷しているペルー産は味と色の面で品質が良い。今季は小玉が多いことが特徴である。航空運賃上昇の影響があるが、消費は良好である。

イタリア：消費は少なく供給は多い

1月のマンゴー市場の状況は悪い。北イタリアのある卸売業者によると、2つの主な問題が確認されている。第一には消費が低迷しており、第二には、ほぼ年間を通じて入荷するブラジル産と競合するペルー産の出荷が始まった。様々な品種が豊富に供給されたため、価格は急激に下落した。ペルー産の品質は優れており、ブラジル産の品質も悪くない。2月の第2週ないしは第3週からの市況の改善が期待される。北イタリアの別の卸売業者は、マンゴーの卸売価格は、産地により1.5～6ユーロ/kgの範囲であると言う。

物流部門は、空輸マンゴーに関して課題がある。コロナウイルスにより、通常に比べて航空便の数が90%減少した。また、スペインの悪天候も影響を及ぼしており、南米発マドリード行きの航空便の多くが、他の行先に変更されたり、完全にキャンセルされたりしている。航空便の不足は積み込みの遅れを引き起こし、一部の荷は、空港での予定外の積み替えのため、到着時には過熟となっているものもある。

スペイン：輸入マンゴーの平均価格は低い

9月に始まったスペイン産マンゴーの出荷は、11月下旬に終了した。スペインの業者は現在、主にブラジル産の輸入マンゴーを扱っているが、ペルー産のケントマンゴーも到着し始めている。スペインのある輸入者は、毎年この時期には価格が下落するが、今年は生産量が少ないことが価格の支えになるはずだと言う。昨年は、1箱当たり2～3ユーロに下落したが、現在は4～5ユーロであり、低いながらも妥当な価格となっている。

国内産のマンゴーは近年比較的低価格で販売されている。しかし、スペインの生産者によると、品質は輸入マンゴーよりも優れている。ある輸出業者は「だからこそ、スペインの業界は、ヨーロッパでも品質の良さで際立っているスペイン産マンゴーに付加価値を付ける一層の努力をしなければいけない。ヨーロッパのスーパーマーケットは、マンゴーを一定の価格で求め、それを維持するためにあらゆる努力を払っており、マンゴーはどこかの国から常に出荷されているので、スペイン産の収穫時期だからといって、あまり多く払う気はない。一方、品質がよい国産のマンゴーを好み、1箱あたり2～3ユーロ多く支払うことを気にしない顧客が増えている。販売促進の取り組みは多く行われているが、これまでのところ十分な影響を与えていない。ヨーロッパの消費者がスーパーの店頭にスペイン産マンゴーが並ぶことを要求しない限り、産地によってマンゴーの価格に差をつけることは非常に困難である」と語った。

南アフリカ：豪雨の影響はまだ不明

北部のリンポポ州のマンゴー生産者のほとんどはトミー・アトキンス種の収穫を終え、現在ケント種とシェリー種に移っている。果実の出来は平年並みであるが、収穫量は5～10%減少したと伝えられている。マンゴーの全体の収穫量は7万5千トンと推定される。近年、ホエドスプルイト地方の多くのマンゴーがソフト柑橘類に植え替えられている。南アフリカの最近の豪雨はマンゴーの品質に影響を与える可能性があるが、一方で生産者の貯水池の水位の上昇に良い影響を与えたことはすでに明らかである。国内市場でのマンゴーの平均価格は約8.47ランド（0.45ユーロ）/kgである。

生鮮市場に加えて、南アフリカはドライマンゴーの出荷が多い。サイズが大きく輸出に適していないケント種とキーツ種のマンゴーの多くは、この用途に仕向けられる。

エクアドル：市場の供給過剰

エクアドル産マンゴーの出荷シーズンは2021年の第1週に終わったが、今季は苦戦を強いられた。その理由は、収穫が11月に集中し、ブラジルの出荷期間が長かったことと相まって、市場の供給過剰と価格の下落を引き起こしたためである。悪天候のため今シーズンの輸出は約5％減少し、果実のサイズは小さくなり、価格も下落した。

ペルー：サイズが小さく低価格

ペルーでは、早生種の産地であるピウラ地域で雨が少なく、出荷シーズンの開始が遅くなり、また生産量と果実のサイズも影響を受けた。次いで2月に出荷が始まるモトゥペ地域も同様の問題を抱えていると予想される。サイズが小さいため、ヨーロッパ市場でのペルー産マンゴーの価格は現在低迷しているが、ブラジル産の長い出荷時期が終了すれば状況が変わる可能性がある。

メキシコ：出荷シーズンが早まった

メキシコ産マンゴーの今年の出荷シーズンは、例年より少し早まった。最初に出荷されるアタウルフォ種の最初の収穫物は、引き続き天候に恵まれれば、1月の第4週に出荷され、2月の第1週までに米国に到着する予定である。シーズン全体では、メキシコの生産者は出荷時期をずらしながらの安定した供給を見込んでいる（アタウルフォ種の後、すぐにトミー・アトキンス種が続く）。

米国：この2～3週間価格が上昇

米国市場のマンゴーは現在ペルーから入荷しているが、ニューヨークのある輸入業者によると、南米諸国の気象条件が悪く入荷量が限られている。ペルー産のほかに、エクアドル産とブラジル産も市場に出ている。メキシコ産もまもなく到着し、コスタリカ産とグアテマラ産が続くこととなっている。ペルー産はサイズ9～10が多くなっている。輸入業者は、港の物流上の問題は、これまでのところ予想ほど悪くはないと言う。いくらかの遅延があるが、通常の取引で起こりうる範囲である。

コロナ禍にもかかわらず、需要は予想以上に強く、3月以降は非常に安定している。ブラジル産に次いでエクアドル産が市場に入荷した時点では供給が長い間安定していたが、今は在庫が少なくなっている。市場価格は、この2～3週間、高めである。輸入業者は、供給量が再び増えるまで、この状況が続くと予想している。

中国：東南アジアからの輸入の増加

東南アジアからの輸入量が増加しており、国内産マンゴーに影響を与えている。東南アジア産は、量の多さと価格の低さによって強い競争力を有している。中国は昨年カンボジア産マンゴーの輸入を解禁した。カンボジア産が大量に入荷するため、東南アジアの他の国からの輸入シェアは減少すると予想される。また、オーストラリア産と南米産の高品質なマンゴーの需要も高まっている。

国内産に関しては、海南島産マンゴーが現在出荷シーズンである。他の地域では、マンゴーの出荷量が減少してきている。出荷期間の終わりに近づいているため、品質が低下しており、価格は低迷している。熟成期間が長いため、マンゴーの代わりに他の果物を選ぶ消費者が多く、このことが、マンゴーの貯蔵を担う者にとって大きな課題となっている。

オーストラリア：シーズン終了に向けて出荷が減少

オーストラリア産マンゴーの出荷量は、残り3ヶ月間の出荷期間を前に減少してきている。オーストラリアマンゴー産業協会（AMIA）の公式データによると、1月8日までの1週間に25万1千箱（7kg/箱）が出荷されたが、12月18日までの1週間では出荷量は42万2,000箱であった。

クイーンズランド州の一部の地域では、大雨のために12月下旬から1月上旬まで収穫が困難であった。この区域に含まれるマリーバ北部/ディンブラ地域では R2E2種とカリプソ種の収穫が完了し、生産者はケイト種の収穫に備えている。KP種の収穫は概ね準備ができており、今後3週間で少量が収穫される。ボーエン/バーデキン地域では、最新の品種ハニーゴールドの収穫が今週予定されている。クイーンズランド州の南東部の出荷は現在最盛期であり、1月中旬にピークに達する。西オーストラリア州のカーナーボン地域とジンジン地域の生産者は、高温、強風及び近隣の火災に悩まされている。

155. イタリア Yello など Vog のリンゴは幸先のよいスタート

EUROFRUIT電子版（2021年1月18日）

訳注：Yello™は長野県で開発されたシナノゴールドの商標で、Vog等イタリアの2団体が県と独占的販売契約を結んでいます。

欧州最大のリンゴ出荷団体であるVog（イタリア南チロル地方の果実生産者組合共同体）の関係者は、出荷量の増加、リンゴの品質の良さ、そして少ない持ち越し在庫のおかげで、2020/21年シーズンは好調なスタートを切った、と語る。

「現状にとても満足している。リンゴの品質は、官能特性（食味、香り、色等）と果実の大きさの両方とも昨シーズンに比べて良く、素晴らしい」と、Vogの販売責任者Hölzl氏は語った。

「在庫は計画通りで、すべてが順調に進んでおり、概ね予定通りだ。」

Vogは、前年より3%少ない51万トンのリンゴ生産を予想している。

「今シーズンは、ヨーロッパ全体で実態上すべての在庫がはけた状態から始まり、特段の問題も予想されない」とHölzl氏は続けた。「フランスやスペインなどの出荷量は昨年より少なく、このことが少なくともこれまでのところ、安定した状態で、かつ満足のいく価格水準で事業を行うことができる要因の1つとなっている。」

Vogは、Kanzi、Envy、Yelloなどのクラブ品種は強い需要があり、今年はより多く出荷できるので、引き続き広い販売スペースを確保したとしている。

Covid-19パンデミックの第2波は、昨年3月ほどの消費の混乱を引き起こしていない。

「最初のロックダウン時には、程度に差はあるもののヨーロッパ中でパニック買いが起こったが、今回は起こっていない」と、Hölzl氏は語った。

「消費者は、この状況に慣れてしまい、もう買いだめをしないようだ。しかし、全般的な不透明感と経済全体に関する懸念が市場のストレスとなっている。」

店内での販売促進活動について、店頭と卸売市場でのリンゴの試食は現在のパンデミックのため難しくなったが、他のプロジェクトをVogは計画通りに進めている。

「Marleneブランド誕生25周年を祝うために昨年秋行ったオンラインコンテストは、36カ国から6千点以上の作品が出品され、参加数の面で大成功だった」とマーケティング責任者の Tauber氏は述べた。

「審査員が選んだのはFrancesca Cito氏の作品で、2月からステッカーと包装容器に登場する。すべての青果物売り場に魅力的な色調で温かみのあるデザインを提供するものだと思う。」

一方、ボルツァーノ（南チロル地方の中心都市）に拠点を置くVogのメンバー生産者組合であるBiosüdtirolでは、今シーズン初めて一年を通じた有機リンゴの出荷が可能となる。

同組合のCastiglioni氏は、「50の新しい生産者が組合に加わり、栽培面積は650ヘクタールから800ヘクタールに広がり、生産量は昨年の販売シーズンの28,000トンから今年は37,500トンに増加した」と語った。

彼は、高品質で手ごろな大きさのリンゴは、さらに需要を伸ばすだろうと語った。

「食味、日持ち、新たな取り組みはすべて市場での成功の基本だ」とCastiglioni氏は続けた。

「当組合は、新品種の確保と品揃えの拡充に絶えず取り組んでおり、ここ数年でNatyra、Story Inored、Bonitaなどの新しい品種を加えた。我々の目標の一つは、夏の期間のリンゴの出荷をうまくカバーして、翌シーズンの出荷に切れ目なくつなげることだ。この目標を達成するための3つの新しい特許を近く発表する。」

156. 米国 輸出は多くの柑橘販売関係者にとって重要

The Packer電子版（2021年1月18日）

輸出は多くの柑橘生産・出荷業者の販売計画の中で一つの役割を担っているが、その役割は会社により、季節により異なるようだ。

California Citrus Mutual（カリフォルニア州Exeter市）（非営利の貿易組合）Creamer会長の話

カリフォルニア州では、商業的柑橘生産量の約30％が輸出されると見ている。輸出量は、果実の品質と輸出市場の状況によって左右される。カリフォルニア州産オレンジの主要な輸出先は韓国、日本、香港、中国、オーストラリアである。グレープフルーツは韓国に輸出され、少量がヨーロッパに出荷される。

海外市場でのカリフォルニア州産柑橘類の需要は国内市場に影響する可能性がある。それは輸出できない商品を国内で販売する必要があるからだ。カリフォルニア州の生産・出荷業者は、低い関税を望んでおり、また植物検疫手続きに関する外国政府とのより良好な協力関係を望んでいる。

Sunkist Growers社（カリフォルニア州Valencia地区）海外ブランドマーケティング担当Ward氏の話

弊社は、オレンジ、レモン、マンダリン、タンジェロ、グレープフルーツを輸出している。今シーズンの柑橘類の輸出はわずかに増加した。

（昨シーズン、米国とベトナムの国交樹立25周年を祝って、同社はベトナム市場への再参入を果たした。）

サンキストは今シーズン、ベトナム市場に復帰しており、ベトナムの消費者とともに歩むことをうれしく思っている。外国の消費者は柑橘類の用途の広さと健康に対するメリットを気に入っている。当社の輸出市場の消費者は、一つ一つのサンキストの果実のどれもが、最も高い水準を維持していることー細心の注意を払って手で収穫されることから始まり、最後には品質とその均一性が注意深く検査されること、さらに各果実が食品安全、包装、表示に関する最も厳しい規制に適合していることが保証されていることーを好んでいる。

Cecelia Packing社（カリフォルニア州Orange Cove市）販売担当者Saavedra氏の話

今年の初めオーストラリアにネーブルオレンジの輸出を開始し、ミネオラオレンジの収穫が始まればその輸出を計画している。（同社の以前の輸出プログラムは小規模で、今シーズンのこれまでの輸出取引は十分ではなかった。）立派な輸出プログラムを策定したので、今年はうまくいくことを望んでいる。

Limoneira社（カリフォルニア州Santa Paula市）上級副社長Teague氏の話

輸出の数字はCOVID-19の蔓延以降毎日変化している。今年は、ほぼ例年通り、弊社が扱う米国産農産物の約38％の輸出を見込んでいる。主な輸出先は、韓国、日本、オーストラリア、インドネシア、ニュージーランド、香港/中国、チリである。当社は、世界の80カ国以上に販売している。目標は、毎年2カ国を追加することだ。

Wonderful Citrus社（カリフォルニア州Delano市）輸出担当副社長Leodolter氏の話

弊社の輸出量は増加している。ネーブル、レモン、グレープフルーツ、Wonderful Halosマンダリン、バレンシア、カラカラネーブル、ミネオラオレンジ、ライムなど多くの柑橘を輸出している。主要な輸出先は、韓国、日本、中国、オーストラリア、ニュージーランド、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、東南アジアである。アラブ首長国連邦へも輸出を始めた。外国のバイヤーは、品質と食味が優れているカリフォルニア州産柑橘を好む。

今シーズン、ベトナムに少量を試験的に出荷する予定だが、ベトナムは大きな市場とならないだろう。ベトナムでは多くの熱帯及び在来の果実が栽培されており、価格は安い。そのためある程度の量が市場に出回るような大きなチャンスはない。

Texas Valley Citrus Committee（テキサス州Mission市）の責任者Prukop氏の話

昨年は、フランス、ドイツ、日本、オランダに約1万8千箱の柑橘類を輸出した。輸出はすでに1月上旬でその数字を超えたが、全体の出荷量は600万箱であり、輸出量はそのごく一部である。

157. 世界のキウイフルーツ市場

FreshPlazaウェブサイト（2021年1月22日）

ニュージーランドでは昨年、史上最高のキウイフルーツ収穫量を記録したが、北半球の産地では気象条件などにより収穫量が減少しており、スペインとイタリアでは8%近く減少したと報告されている。市場へのキウイフルーツの入荷は少ないが、需要もほどほどなので、今年の価格はやや高い程度である。黄色と緑色のキウイフルーツに加え、赤肉のキウイフルーツもニッチな商品として人気を集めており、特に中国で価格が上昇している。

ニュージーランド：史上最高のキウイフルーツ収穫量

ゼスプリは11月に、今シーズンのニュージーランド産キウイフルーツの最後の出荷を行い、市場には12月に到着した。同社は、2020年の出荷シーズンには、49隻のチャーター冷蔵船と17,829本の冷蔵コンテナを使用して、世界50カ国以上の消費者に、約1億5,700万箱の一級品（60万トンのゼスプリサンゴールド、グリーンキウイ及びゼスプリレッドキウイ）を出荷したとしている。このうち、ゼスプリサンゴールドは8,700万箱以上、グリーンキウイは7,000万箱であった。

同社は、コロナウイルスの大流行にもかかわらず、今季も好調な出荷シーズンであったと言う。ある管理職は「私たちは、政府と地域社会の支援を受けて、事業を継続し、今シーズンの産品を世界中の消費者に提供することができたことを幸運に思っている。タウランガ港のスタッフをはじめサプライチェーン全体が、今シーズンの記録破りの収穫量を出荷するために必死に働いてきた。ニュージーランドの収穫量はこれまでで最大であったが、今シーズンもグリーンキウイよりもサンゴールドキウイを多く出荷した」と語った。

ドイツ：南ドイツのキウイフルーツ市場が好調

気温が低いために多くの果物は需要が少ないが、キウイフルーツの需要は、特に南ドイツで増加している。ヨーロッパの出荷シーズンはまだ最盛期であり、フランス、ギリシャ、イタリアからの出荷が続いている。フランス産は最も価格が高く、大きなサイズは平均3.24ユーロ/kgである。一方、ギリシャ産の価格は1.59ユーロ/kg程度である。

ドイツのキウイフルーツ輸入は、何年も伸びてきたが、その後やや停滞しているようである。2020年の第1

四半期には約27,000トンが輸入されたが、これは2019年の第1四半期よりも約5千トン（15％）少ない。2019年には年間を通じて10万8,000トンのキウイフルーツが輸入された。ドイツの年間1人当たり平均消費量は約1.3kgであり、2018年と比較して約15％増加した。イタリアが総輸入量の60％弱を供給しており、依然として主要輸入先である。ニュージーランドとギリシャがかなり離されてこれに続く。

フランス：市場入荷量が少ない

今シーズンのフランスの生産量はごくわずかである。このため、フランス産にとっては価格設定が重要であり、その意味で糖度の高さと品質の良さが助けとなった。

スペイン：輸入価格の上昇で国内産が有利に

スペインの今シーズンのキウイフルーツの生産量は、前のシーズンと比較して6～8％減少した。スペインの主要産地であるガリシア地方とアストゥリアス地方の出荷は、12月に始まったが、大玉が多い。このため小玉果の価格が上がり、中程度の大きさのものと同様の価格で販売されている。

スペインのある業者は「キウイフルーツの販売は活気があり、価格は良い。今シーズンは二級品や小さすぎる果実は少ない。イタリアとギリシャでも収穫量が減少しているようで、競合が少ないことに注目している。今年は輸入価格が高く、スペイン産にとって有利だ」と述べた。

スペインではキウイフルーツが消費者にとって重要な商品となっており、売上は毎年平均8％増加している。スペインの一人当たりキウイフルーツ消費量は年間3kgで、最も多い国の一つである。

イタリア：グリーンキウイの輸出は2月に増加の見込み

キウイフルーツは、パンデミックの間もヨーロッパ市場で最も人気のある果物の一つとなっている。グリーンキウイの販売は、ギリシャとの競争にもかかわらず、品質と価格の両方の面で順調に進んでいる。欧州では、2月中旬から、特に春のイースターの前に需要が増加し、それに伴って価格も上昇し始めると見込まれる。また、有機グリーンキウイは、北米をはじめ世界的に需要が増えて価格が上がり、順調であることが注目される。

グリーンキウイに加えて、イタリアでは黄色いキウイフルーツも栽培されている。産地によって違いがあるが、2020年の生産量は非常に少なかった。生産量は着実に増加しているが、すべての市場需要を満たすには十分ではない。黄色いキウイフルーツはグリーンキウイに比べて人気を得つつある。果肉の赤いキウイフルーツはニッチな商品であり、市場での流通量は限られているが、価格は予想以上に高い。

ギリシャ：価格は昨年よりわずかに高い

ギリシャ産は、今シーズンは生産量が多い。品質は良さそうであるが、サイズは昨年より少し小さい。需要はかなり良い。コロナウイルス対策を強化した国もあるが、ギリシャの輸出業者はガイドラインに従い、労働者を保護しているので、ギリシャ産キウイフルーツの出荷に大きな影響を与えるとは考えられない。価格は昨シーズンよりやや高い。

トルコ：比較的新しい輸出市場

果物の輸出の中で、キウイフルーツはトルコにとって比較的新しい商品である。今年は様々な企業が初めて大規模にキウイフルーツを出荷している。彼らのターゲット市場は中東、イタリア、スペインである。ロシアは潜在的な市場であり、ドイツのスーパーマーケットも同様である。トルコ産はギリシャ産やイタリア産との競争に直面しているが、輸出業者らは品質と価格の両面で確実に競争することができるとの感触を得ている。

南アフリカ：観光客の減少により需要が落ち込み

国内産のヘイワード種のキウイフルーツの出荷は3月まで始まらないため、現在南アフリカの市場に入荷しているものはイタリアとスペインから輸入されている。通常多くのキウイフルーツ需要を生み出す観光産業は、コロナウイルスによって大きな打撃を受けている。ある市場の業者は、キウイフルーツは一年中入手可能であると言う。イタリア産の出荷シーズンの後は、すぐにニュージーランド産に切り替わり、端境期は国内産がギャップを埋める。ニュージーランド産の出荷シーズンの前を狙って、輸出用に黄色いキウイフルーツの栽培面積が増えている。

米国：供給は順調、価格は堅調

昨シーズンのカリフォルニア州産は、収穫量はやや少なかったが、大きなサイズが多かった。現在、同州では収穫したキウイフルーツの約60％の在庫があり、出荷は予定通りに進んでいる。需要は良好であり、収穫量が少ないため、価格は昨年よりも高値で安定している。

カナダ：今年は市場で品切れの可能性も

カナダで現在出回っているキウイフルーツはヨーロッパ、特にギリシャ産とイタリア産であり、一部スペイン産も見られる。しかし、入荷量は前のシーズンよりも少ない。オンタリオ州のある輸入業者によると、このところの需要は通常どおりクリスマス後に増加している。コロナウイルスのパンデミックもキウイフルーツの需要を押し上げ、同輸入業者の売り上げも増えているという。市場価格もコロナウイルスのため昨シーズンより高く、2月にはさらに上昇する見込みである。

強い需要は、欧州の在庫の早期終了につながり、品不足のために、市場で若干の品切れが発生する可能性がある。チリ産の出荷は1週間遅れて始まると見られ、来シーズンのニュージーランド産の確実な見通しは立っていない。前出の輸入業者によると、問題はヨーロッパのキウイフルーツが引き続き輸出市場に出回るのか、それともイタリアとギリシャが自国市場への多めの出荷を維持するのかである。

中国：輸出が少なく、赤肉のキウイフルーツだけが好調

中国のキウイフルーツの総輸出量は以前よりも少なくなっている。特に緑と黄色のキウイフルーツの価格は下落しており、売り上げは低迷している。一方、赤肉のキウイフルーツは順調で、価格は2倍以上となっている。

赤肉のキウイフルーツの産地価格は近年の傾向より低い。品質と棚持ちが良いため、市場価格はその後上昇し生産者価格のほぼ2倍となった。この市場価格の上昇には中国のソーシャルメディアが大きな役割を果たした。ライブ配信で短期間に大量の果物が販売され、在庫が減少し、急速に値上がりした。

輸出面では、赤肉のキウイフルーツは海外市場におけるハイエンド商品であり、価格は緑や黄色のキウイフルーツよりもはるかに高い。この品種は欧米等の市場でコロナウイルスの深刻な影響を受けており、東南アジアが現在の主な販売先となっている。そのため、輸出は前年に比べて減少している。今年は輸入品の市況も良くない。イタリア産の黄色いドリー種と緑のヘイワード種の中国での販売は不振であった。その理由の一つは、生産の落ち込みにより価格が上昇したことである。さらに、現在は輸送コストが非常に高い。リスクを回避するために、多くのイタリア企業が中国への輸出を減らした。

158. エジプト産柑橘類の輸出量は20%増加の見込み

FreshFruitPortalウエブサイト(2021年1月22日)

Vanguard社によれば、エジプトの柑橘類のシーズンは旺盛な需要に刺激されて好調に始まり、今シーズンの出荷量は大幅に増加する見込みである。

同社は、エジプト産柑橘類の輸出量は、昨年の約8千万箱を20%上回ると予測している。

この増加の大部分は新植と若木の成木化によるものである。加えて、進んだ栽培技術と調製技術は、輸出に適した柑橘類の増加に大きな役割を果たしている。さらに、新しい梱包技術に対する投資は、柑橘類をより多く店頭に届けるのに役立っている。

2019-20年度は、猛暑が果実の生育を阻んだという天候の問題があり、収穫量はわずかに減少した。今シーズンの天候は柑橘栽培にとってほぼ理想的であり、エジプトの生産量の増加を後押しするだろう。

同社によると、現時点の情報はすべて、史上最高の大豊作となり、品質についても色、果皮のなめらかさ、固さ、食味に関してかなり良くなることを示している。

ネーブルオレンジは収穫が始まり、果実はかなり良いようだ。糖度は約13～14%と高く、食味も素晴らしい。果実は固く、果皮はなめらかで全体がオレンジ色である。サイズは昨年よりわずかに大きく、一箱48～56玉が中心である。エジプト産ネーブルの収穫は1月中旬(1月11日の週)まで続き、一部の生産者ではやや遅く1月25日の週まで続くと見込まれる。

ネーブルに続いて1月末(1月25日の週)からは、生産者の関心はバレンシア品種に向かう。バレンシアの収穫はまだ6週間先であるが、こちらもかなり有望と見られ、サイズは一箱56～64玉が中心と予想される。果皮は滑らかで、状態は昨年よりしっかりしており、日持ちは長く、良い食味となるだろう。

ソフト柑橘類に関しては、生産者はFremont種とMerave種のマンダリンで忙しい。サイズのばらつきはちょうど良く、ブリックスは12～14%である。ソフト柑橘類に見られる隔年結果により、生産量は20%程度減少する見込みである。Orri、Honey Murcott、Golden Nuggetの3品種は既に出荷されている。

Orriの出荷は1月末(1月25日の週)までに、Honey Murcottの出荷は4月末(4月26日の週)までに終了する予定だ。サイズのばらつきはちょうど良く、果皮はなめらかで食味は優れており、果実の品質は昨年より良い。

一言でいえば、Vanguard社は、今年のエジプト産柑橘類のシーズンを、果実の品質と状態がよく、量も多いと予測している。良好な天候が続き、予期しない問題が起きなければ、今シーズンのエジプト産柑橘類の総生産量は9千6百万箱～1億箱と予測される。

(参考)

令和２年１１月２日にエジプト産かんきつ類生果実の我が国への輸入が解禁されました。

https://www.maff.go.jp/pps/j/information/Zyoukentuki/kaikin_20201102.html

159. 台湾 初めてイタリア産リンゴを輸入

FreshPlazaウェブサイト（2021年1月26日）

イタリア貿易庁（ITA）の台北事務所はこのほど、イタリア産リンゴの台湾への輸出に関する良い知らせを発表した。すなわち、イタリア産リンゴが初めて台湾へのアクセスを獲得し、両国の経済貿易交流に重要な進歩をもたらしたばかりでなく、台湾の消費者に新しい選択肢を提供するということだ。

ITAのパオロ・クアトロッキ所長は、「これはイタリアにとって大きな成果であり、新年の良いスタートだ。この数年、我々は高品質な産品を台湾に届けるために懸命に取り組んできた。これらのリンゴの品質に自信を持っており、台湾の消費者に好まれることを願っている。これからの数ヶ月、より多くの量が入荷してくることを楽しみにしている」と述べた。最初の20トンは、現在流通しており、市場で購入することができる。

今回台湾に輸出されたエヴェリーナ®品種のリンゴは、イタリア北部の産品だ。香りが良く、ぱりっとして、果汁が多い。豊かな香りが味覚を刺激し、生で食べても調理の素材としても素晴らしい選択肢だ。ITAはまた、将来への期待について「これは間違いなく台湾とイタリアの関係の新たな一里塚だ。イタリアには他にも多くの産品があり、今後も新たな産品の輸出を試みていく」としている。

出典: times.hinet.net
（訳注： 台湾は日本の生鮮果実輸出先第１位でリンゴがその大部分を占め、一方イタリアはリンゴ輸出額世界第3位です。）

160. 中国 栗の収穫量が多く冷凍栗の注文も増加

FreshPlazaウェブサイト（2021年1月27日）

中国の栗産地、特に河北省秦皇島燕山（ヤンシャン）地域の今年の生育条件は素晴らしかった。収穫量は3年続けて減少していたが、ついに再び拡大に転じた。同地域の栗を扱う食品会社のマネージャーが、現在の市場の状況と冷凍栗の販売について語った。

「中国産冷凍栗の最初の引き合いは、日本の貿易相手からのものであった。2002年に栗の出荷と日本市場への輸出を開始した。次第に国内市場も可能性が大きいことがわかってきたので、2015年からは国内市場へも販売している。

冷凍栗の加工技術は日本から導入した。最初に栗を蒸し、その後ローストする独特の加工方法を用いている。消費者が冷凍栗を解凍し、パッケージを開ければ栗はすぐに消費できる状態になっている。茹でてもよい。風味は甘く、もちっとしている。この中国産の栗は、夏の間、中国の消費者に非常に人気がある。

COVID-19の発生により、昨年の前半は多くのレストランが閉鎖された。中国の栗は一種のスナックであり、堅い需要はなく、COVID-19の発生後に国内の販売は急落した。市場は5月以降徐々に回復し、9月までにほぼ回復した。新しい収穫物が入荷した頃には、市場の状況は大幅に改善されていた。受注量は着実に増加し、価格は安定している。

中国産の栗の国内販売のピークは毎年5月に始まり、9月まで続く。しかし、近年、ピークの期間はややシフトしており、過去2年の販売は10月まで延び、さらには春節（2021年は2月12日）に至るまでの期間にさえ食い込んでいる。これは主に、一部の業者が冷凍栗をオーブンで加熱して販売しているためである。そうすることにより新たな風味が付け加わり、中国の消費者は冬の間この味を楽しんでいる。コロナ禍によって国内流通に多くの障害を生じたが、輸出市場向けの注文はすべて予定どおりに届けることができている。

中国産の栗の輸出のピークは3月から7月の間で、主にアジアと北米市場に輸出している。弊社の年間輸出量は増加を続けている。また、ヨーロッパのバイヤーにも栗の販売を始めた。以前は、これらのバイヤーは仲介業者を使用する傾向があったが、近年は工場に直接来ている。また、二重織りのジュートバッグに詰めた生栗を販売している。多様な市場からの需要に応えるため、様々な商品や包装方法を取り揃えており、例えば、日本へは80kg袋を輸出しているが、韓国向けは40kg袋であり、中東向けの袋は1～2kgだ。」

161. ニュージーランド ゼスプリの偽キウイ対策を規制当局が却下

FreshFruitPortaウエブサイト（2021年1月27日）

ニュースサイトStuffによれば、中国で無許可栽培された黄色いキウイフルーツを、ニュージーランドのキウイフルーツ生産会社ゼスプリが買い取るという目論見を、ニュージーランド政府の規制当局は却下した。

報道によれば、ゼスプリは、中国での盗み出した苗木による推定4千ヘクタールの違法な栽培と、未承認のサンゴールドキウイフルーツ（ゼスプリが育成したキウイフルーツの品種）の販売をいくらかでも阻止するため、2020年遅くに、中国の国営農場と業務協力を始めることで署名した。

この協力は、ゼスプリのサンゴールドに関する権利保護を中国政府に促す目的があった。当初は3年間の試行的な取り組みであり、ゼスプリと中国の生産者の両方にメリットがあると考えられた。しかし、規制当局であるキウイフルーツニュージーランド（KNZ）は、ニュージーランドのキウイフルーツ生産者にとってあまりにリスクが大きいとして、この合意を認めなかった。

Stuffが引用したKNZの決定の概要によれば、取り組みは「低リスクとは言えない」として各種規則に適合しないと判断したとしている。KNZトップのGeoff Morgan氏は、規制当局は多くのコメントを受け取り、その中で、生産者に対する潜在的なリスクとして、生産者の利益、ブランドイメージ、中国との二国間関係に基づく市場アクセス、果樹栽培技術及び知的財産等の6つを考慮したと述べた、とされている。

「ニュージーランドはキウイフルーツの栽培技術に関して間違いなく世界のトップである。関連する知的財産を、ニュージーランドの生産量をはるかに上回るキウイフルーツを生産できる広大な土地と能力を有する国に移転することは明らかに懸念事項だ。」（Morgan氏）

ゼスプリが修正のために提案を取り下げたため、何がリスクと見なされたのか、今のところ正確にはわからない。修正されたものが提出される予定である。

ゼスプリのWard氏（生産者・業界・持続可能性に関する責任者）は、この提案には、ゼスプリのブランドを冠したキウイフルーツの品質の維持の必要性、中国での知的財産の保護の必要性、中国政府を含めた良好な関係維持の必要性等の“幅広いリスク”があると述べた。同氏は、ゼスプリがサンゴールドの無許可栽培を「ある程度管理する」必要があり、KNZと生産者が納得するよう、業務協力の内容を再度修正する予定だと述べたとされる。

「我々はこれらのリスクを検討する必要があったが、コメントを受け取って提案を取り下げた。この問題をどうとらえてどう考えるのか、規制当局と一緒に、また我々の生産者と一緒に、建設的かつ前向きに取り組みたい。」（Ward氏）

Ward氏は、ゼスプリは生産者の同意を得るために、取り組みを提案した3年ではなく1年に限定する可能性がある、同社は中国政府の支援を受けており、これらの取り組みはGold3（サンゴールド）の無断栽培が広がるのを止めるために必要だと付け加えた。

Stuffは、この問題に関する中国の姿勢も報じた。ウェリントンにある中国大使館のスポークスマンは、中国は2020年1月付で、知的財産の保護と処罰を強化したと書面でコメントした。

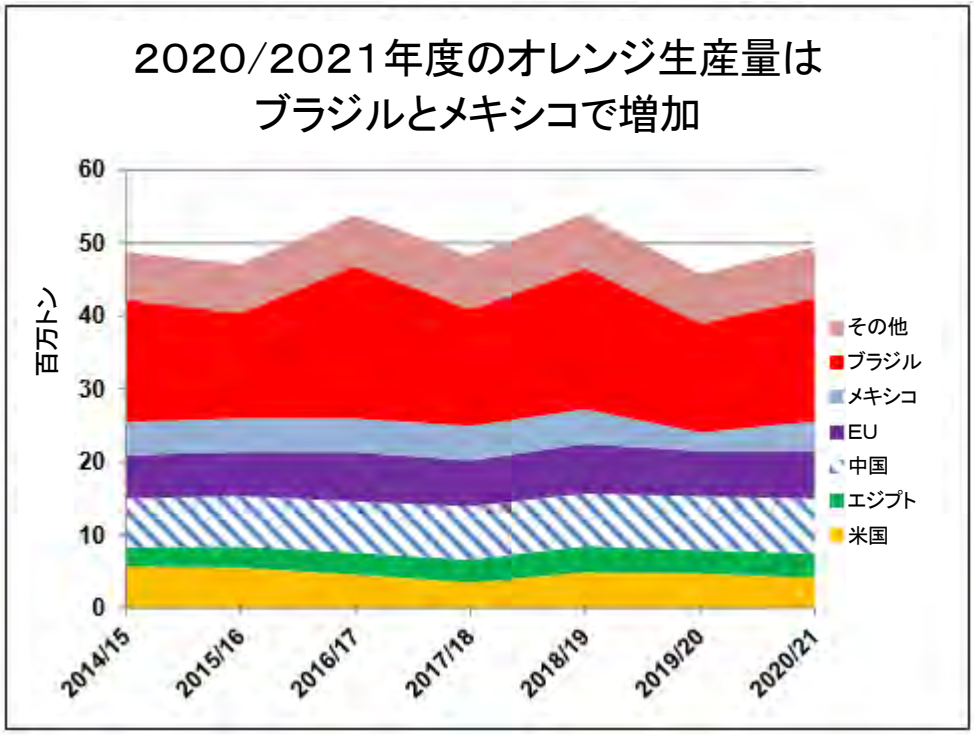
中国はまた、「中国経済に対するゼスプリの前向きな姿勢」に感謝を表明した。

162. 世界の柑橘類事情と市場動向

米国農務省海外農業局（2021年1月28日）

＜オレンジ＞

世界の2020/21年度のオレンジ生産量は、良好な天候によるブラジルとメキシコの増加量がトルコと米国の減少量を上回り、前年から360万トン増の4,940万トンと予測される。その結果、消費量、加工仕向量、生鮮輸出量も増加すると予測される。



ブラジルの生産量は、良好な天候、開花、着果が見込まれるため、14%増の1，690万トンと予測される。加工仕向量は200万トン増の1，220万トンと見込まれ、生鮮オレンジの消費量は横ばいと予測される。

メキシコの生産量は、昨年の干ばつによる大打撃から半分以上回復して400万トンと予測される。供給量の増加により、消費量と加工仕向量は増加すると予想される。

中国の生産量は、良好な天候によりわずかに増加して750万トンと見込まれる。生産量の増加により消費量は増加するが、加工仕向量は減少すると見込まれる。輸入量は横ばいと予測され、主な輸入先は引き続き、エジプト、南アフリカ、オーストラリア、米国、EU と見込まれる。

EUの生産量は、良好な天候と、イタリアの新しい果樹園の成園化に伴う収穫面積の増加により、6%増の660万トンと予測される。供給量の増加により、消費量、加工仕向量、輸出量はすべて増加し、輸入量は減少すると見られる。

米国の生産量は、13%減の410万トンと予測される。これは、フロリダ州の生産量が平均以上の落果により20%減と見込まれるためである。消費量、輸出量、加工仕向量はすべて生産量の減少により減ると予測され、輸入量は増加が見込まれる。

エジプトの生産量は、収穫面積の増加と、開花期及び着果期の良好な天候により、20万トン増の340万トンと予測される。供給量の増加により、消費量、加工仕向量、輸出量はすべて増加が見込まれる。上位の輸出先は、引き続きEU、ロシア、サウジアラビア、中国と見込まれる。

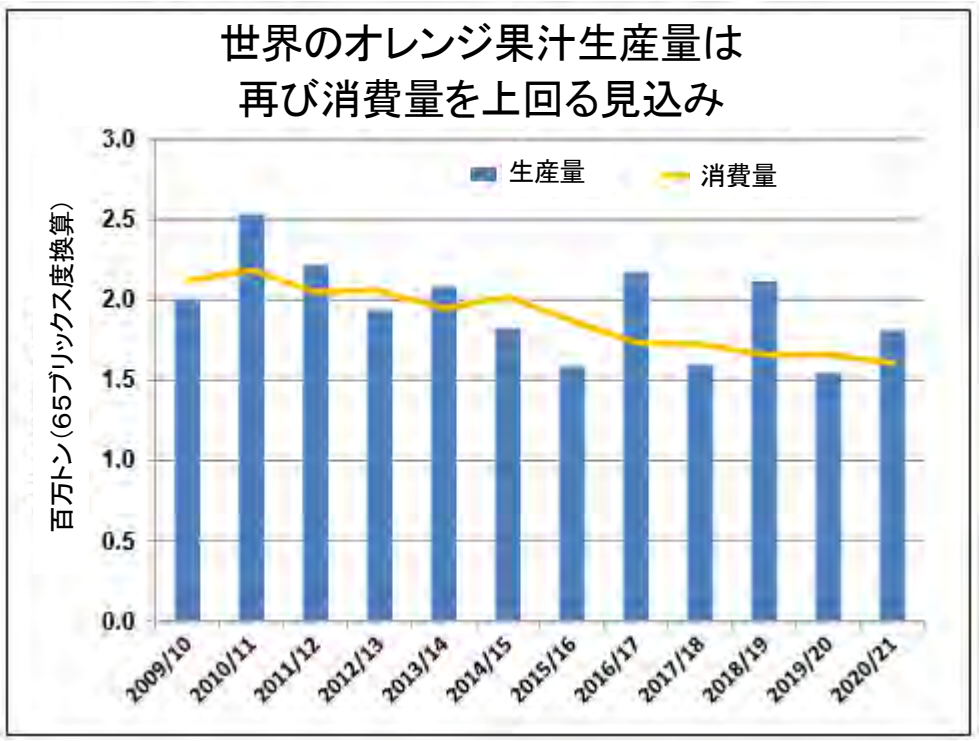
南アフリカの生産量は、平年並みの天候、高収量な晩生品種の新植による収穫面積の増加、及び水管理の改善により、3%増の170万トンと予想される。輸出量はわずかに増加して130万トンとなり、世界の貿易量の4分の1以上を占めると見込まれる。EUは引き続き南アフリカの最大の輸出先として輸出量の3分の1以上を占めると見込まれる。

トルコの生産量は、猛暑と強風により開花がダメージを受けたため、20%減の140万トンと予測される。供給量の減少により、消費量、輸出量、加工仕向量はすべて減少するものと見込まれる。

モロッコの生産量は、良好な天候と新しい果樹園の成園化に伴う収穫面積の増加により、3分の1以上回復し110万トンと予測される。消費量、輸出量、加工仕向量も増加すると予測される。

＜オレンジ果汁＞

世界の2020/21年度のオレンジ果汁生産量は、ブラジルとメキシコの増加量が米国の減少量より多く、17%増の180万トン（65ブリックス度換算）と予測される。しかし、世界の生産量は長期的な減少が続いている。消費量も同様に長期的な減少が続くと見込まれるが、輸出量はメキシコの回復により増加すると予測される。



ブラジルの生産量は、加工仕向量の増加によって20%増の120万トンと予測される。輸出量は変わらないが、消費量と在庫は増加すると予測される。ブラジルは依然として最大の生産国であり、世界のオレンジ果汁輸出の4分の3を占めると見込まれる。

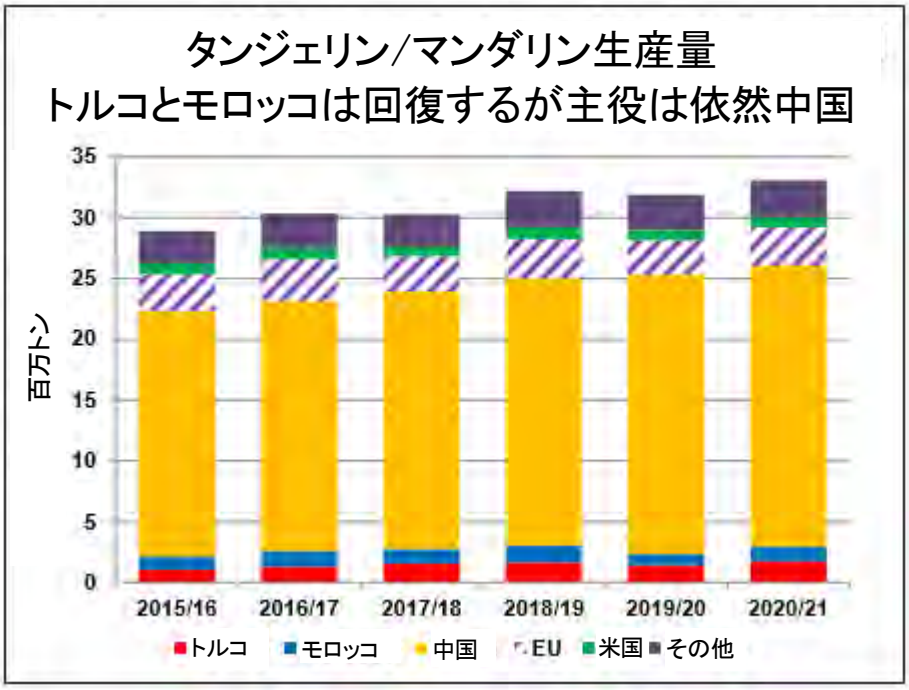
米国の生産量は、加工仕向量の減少により16%減の25万トンと予測される。生産量が減少するため、輸入量は増加するが消費量と在庫は減ると見込まれる。

メキシコは、昨年は干ばつによりオレンジ生産が大打撃を受けたが、今年は加工仕向量が増加するため果汁生産量は2倍以上の20万トンと予測される。消費量と輸出量は増加し、在庫量は変わらないと予想される。

EUの生産量は、加工仕向量の増加によりわずかに増えて8万8千トンと予測される。生産量の増加量が輸入量の減少量より多いため、消費量はわずかに増加する。EUへの最大の供給国は引き続きブラジルである。

＜タンジェリン/マンダリン＞

世界の2020/21年度の生産量は、中国、EU、モロッコ及びトルコの供給量の増加によりわずかに増えて3,310万トンと予測される。供給量の増加により、消費量と輸出量はともに増加する。



中国の生産量は、良好な天候によりわずかに増加し、これまでの記録を超える2,310万トンと予測される。供給量の増加により、消費量と輸出量はわずかに増加するものと予想される。中国は依然として生産量と消費量では世界の大部分を占め、輸出量では1/4以上を占める。

EUの生産量は、良好な天候により、10%増の310万トンと予想される。供給量の増加により、消費量と輸出量は増加するが、輸入量は横ばいと予想される。EUの最大の輸入先は、引き続きモロッコと南アフリカと見込まれる。

トルコの生産量は、良好な天候により、25%増の180万トンと予測される。供給量の増加により、消費量と輸出量は増加が予想される。

モロッコの生産量は、開花期及び着果期の良好な天候により、30%回復して120万トンと予測される。生産量の増加により、消費量と輸出量はともに増加が見込まれる。

米国の生産量は、カリフォルニア州の生産量の増加により、5%増の88万2千トンと予測される。生産量の増加とこれまでの記録を更新する輸入量により、新記録となる消費量が見込まれる。需要が大きいため、輸入量は10年間にわたり平均で年10%以上増加している。

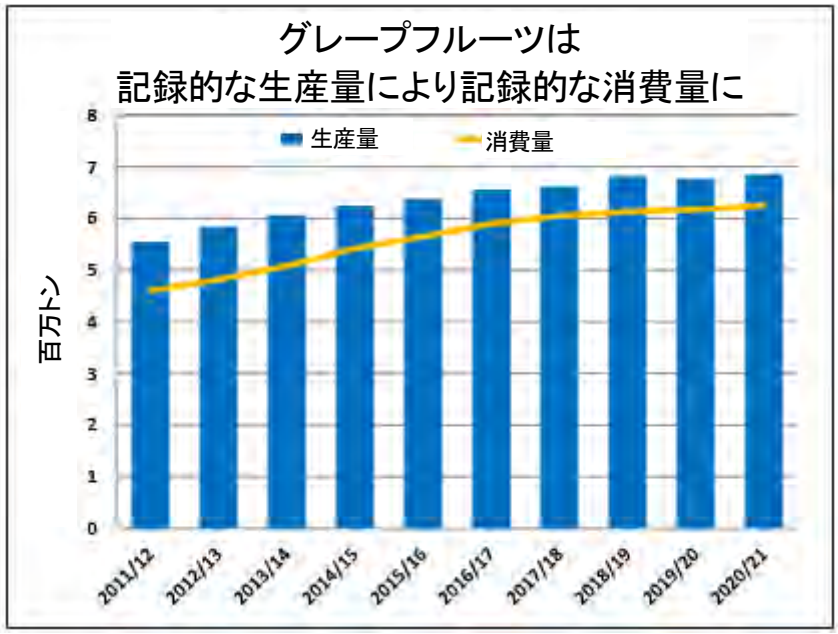
（訳注：本報告書には記載がないが、海外農業局東京事務所及びソウル事務所の報告の要点は以下のとおり）

日本の生産量は、97万3千トン（うちウンシュウミカンが悪天候で減収した前年から2.5%増の76万5千トン、その他は晩柑類）と予測される。生産量の増加に伴い、消費量は増加し輸入量は減少するが、コロナ禍の影響で輸出量は横ばいと見込まれる。

韓国の生産量は、隔年結果の表年に当たるため4.5%増の66万トンと予測される。生産量の増加等により、消費量及び輸出量は増加する。輸入はない。

＜グレープフルーツ＞

世界の2020/21年度の生産量は、良好な天候と中国とメキシコの栽培面積の拡大によってわずかに増加し、これまでの記録を超える690万トンと予測される。供給量の増加により、世界全体の消費量は新記録となることが予測され、輸出量は増加してこの3年間で最高の水準となると見込まれる。



中国の生産量は、良好な天候と栽培面積の拡大によりわずかに増加し、新記録となる500万トンと予測される。生産量の増加により、消費量はこれまでの記録を超え、輸出量も増加が予測される。

米国の生産量は、カリフォルニア州とテキサス州の良好な天候により、6%増の51万2千トンと予測される。輸出量は変わらないが、供給量の増加により、消費量と加工仕向量は共に増加が予測される。

南アフリカの生産量は、良好な天候により、わずかに増加して36万トンと予測される。供給量の増加により、消費量と輸出量は共に増加が予測される。

メキシコの生産量は、良好な天候と収穫面積の増加により、8%増の49万5千トンと予測される。生産量の増加により消費量は増加し、輸出量は減少が予測される。

トルコの生産量は、良好な天候と収穫面積の増加により、7%増加してこれまでの記録を超える29万トンと予測される。供給量の増加によって輸出量はこれまでの記録を超えるが、消費量の増加はわずかと見込まれる。

EUの生産量は、良好な天候のためわずかに増加して9万6千トンと予測されるが、それでもこの10年で3番目に低い水準である。輸入量の増加により、消費量は増加する。

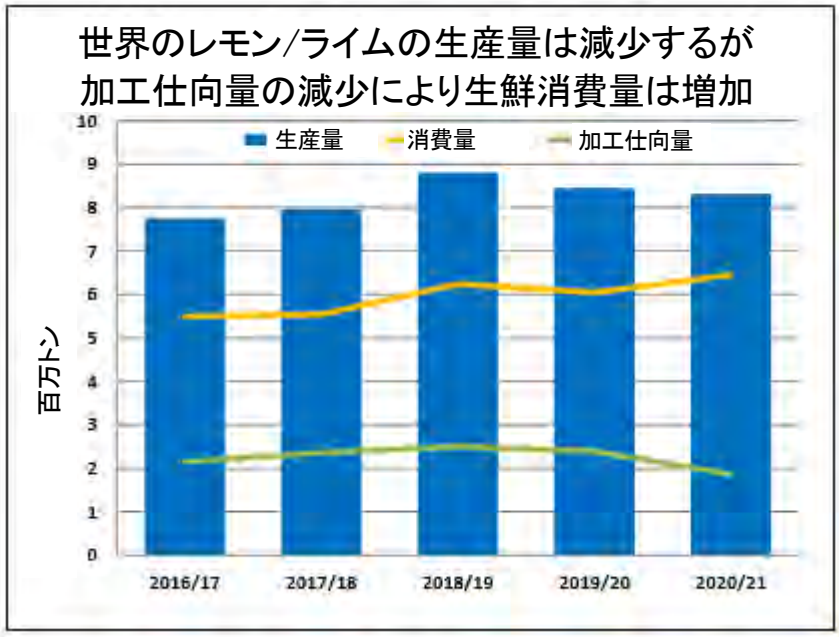
＜レモン/ライム＞

世界の2020/21年度の生産量は、アルゼンチンと米国の減少量がEUとメキシコの増加量より大きく、わずかに減少して830万トンと予測される。加工仕向量が減少するため、生鮮消費量と輸出量は増加が予測される。

メキシコの生産量は、良好な天候により6%増の290万トンと予測される。供給量の増加により、消費量と輸出量は増加する。

EUの生産量は、良好な天候と収穫面積の増加により、11%増の160万トンと予測される。供給量の増加により消費量と輸出量は増加するが、輸入量は減少が予想される。

アルゼンチンの生産量は、悪天候のため30%急減して100万トンと予測される。供給量の減少により、消費量、加工仕向量及び輸出量はすべて減少する。EUが引き続き最大の輸出先であり、輸出量の半分以上を占めると見込まれる。



トルコの生産量は、良好な天候により5%増の100万トンと予測される。生産量の増加により、輸出量は増加するが、消費量はやや減少するものと予測される。

米国の生産量は、カリフォルニア州の生産量の減少により6%減の94万トンと予測される。輸入量の増加により、消費量は増加が見込まれる。

南アフリカの生産量は、良好な天候と栽培面積の増加により、2%増加してこれまでの記録を超える67万トンと予測される。供給量の増加により、消費量は7年連続で、輸出量は5年連続で記録を更新する見込みである。

EUの定義

本報告においては、「EU」を旧関税同盟の加盟国(EU27カ国+英国)としている。

主要国の生産需給統計

オレンジ（生鮮）

（千トン）

	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 1月推計値
生産量						
ブラジル	14,414	20,890	15,953	19,298	14,908	16,932
中国	6,900	7,000	7,300	7,200	7,400	7,500
EU	6,038	6,739	6,270	6,796	6,205	6,556
米国	5,523	4,616	3,515	4,923	4,733	4,113
メキシコ	4,603	4,630	4,737	4,716	2,530	4,010
エジプト	2,930	3,000	3,120	3,600	3,200	3,400
南アフリカ	1,275	1,363	1,586	1,590	1,650	1,700
トルコ	1,800	1,850	1,905	1,900	1,700	1,360
モロッコ	925	1,037	1,021	1,183	806	1,100
ベトナム	637	768	770	770	770	770
アルゼンチン	800	700	750	800	650	700
オーストラリア	506	526	528	515	485	535
コスタリカ	335	322	315	295	290	285
グアテマラ	177	177	180	177	180	180
イラク	73	73	75	71	75	75
その他	175	168	166	158	150	145
合計	47,111	53,859	48,191	53,992	45,732	49,361
生鮮国内消費量						
中国	6,446	6,718	7,058	7,059	7,236	7,355
EU	5,407	5,950	5,834	6,107	5,949	6,121
ブラジル	4,940	4,761	4,982	4,961	4,765	4,749
メキシコ	2,929	2,473	2,785	2,486	1,596	1,975
エジプト	1,380	1,380	1,480	1,540	1,490	1,550
米国	1,346	1,184	1,216	1,259	1,400	1,248
トルコ	1,366	1,402	1,386	1,539	1,339	1,036
モロッコ	811	822	826	968	663	900
ベトナム	695	811	832	821	822	820
ロシア	470	425	458	457	426	444
サウジアラビア	392	374	380	402	387	395
アルゼンチン	469	350	320	410	383	390
バングラデシュ	158	158	242	175	213	220
グアテマラ	211	213	199	211	218	220
イラク	265	257	337	225	200	205
その他	1,696	1,567	1,568	1,566	1,514	1,551
合計	28,981	28,845	29,903	30,186	28,601	29,179
加工仕向量						
ブラジル	9,466	16,116	10,975	14,362	10,159	12,199
米国	3,684	3,001	2,010	3,378	3,024	2,600
メキシコ	1,650	2,100	1,900	2,200	900	2,000
EU	1,286	1,491	1,154	1,349	1,052	1,135
中国	600	580	570	520	400	380
エジプト	100	100	100	360	335	350
南アフリカ	142	123	239	333	282	302
アルゼンチン	270	273	375	307	194	230
オーストラリア	214	214	215	210	205	215
コスタリカ	230	238	232	216	215	210
その他	152	181	179	189	174	184
合計	17,794	24,417	17,949	23,424	16,940	19,805

（千トン）

	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 1月推計値
輸出量						
エジプト	1,450	1,520	1,540	1,700	1,375	1,500
南アフリカ	1,064	1,171	1,279	1,186	1,292	1,320
米国	657	613	511	479	509	490
ＥＵ	319	293	324	357	290	300
トルコ	371	397	454	298	293	263
オーストラリア	161	191	186	198	190	195
モロッコ	89	165	145	155	108	150
香港	107	176	189	167	117	125
アルゼンチン	65	80	60	85	74	80
メキシコ	56	76	72	60	65	65
中国	74	59	65	55	52	55
サウジアラビア	19	15	13	15	13	15
ブラジル	26	33	20	4	8	8
ロシア	3	5	5	5	6	6
シンガポール	8	6	5	6	4	5
その他	8	10	8	8	6	7
合計	4,477	4,810	4,876	4,778	4,402	4,584
輸入量						
ＥＵ	974	995	1,042	1,017	1,086	1,000
ロシア	473	430	463	462	432	450
サウジアラビア	411	389	393	417	400	410
中国	220	357	393	434	288	290
香港	286	315	347	332	270	275
米国	164	182	222	193	200	225
バングラデシュ	154	155	239	172	210	220
カナダ	204	183	190	186	198	200
アラブ首長国連邦	220	204	181	189	192	190
イラク	192	184	262	154	125	130
韓国	154	143	141	126	116	115
日本	100	92	83	85	91	93
マレーシア	101	98	92	106	88	90
ウクライナ	76	73	88	95	88	90
スイス	71	68	70	70	73	75
コスタリカ	52	70	69	66	71	70
ベトナム	58	43	62	51	52	50
トルコ	37	49	33	42	42	44
シンガポール	44	42	43	44	42	42
グアテマラ	34	36	19	34	38	40
ノルウェー	38	35	32	33	30	32
メキシコ	32	19	20	30	31	30
ブラジル	18	20	24	29	24	24
オーストラリア	18	21	14	16	16	15
モザンビーク	5	5	6	7	5	5
その他	5	5	9	6	3	2
合計	4,141	4,213	4,537	4,396	4,211	4,207

複数年表示は収穫販売年度であり、北半球では概ね11月～10月に当たる。
南半球では、収穫はほぼ第2年次を通じて行われ、収穫販売年度は第2年次に始まる以下の時期である。
アルゼンチン　1月～12月
南アフリカ　2月～1月
オーストラリア　4月～3月
ブラジル　7月～6月
上記の販売年度の違い等により、輸入合計と輸出合計が一致しないことがある。

オレンジ果汁

（65度ブリックス換算、千トン）

	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 1月推計値
生産量						
ブラジル	859	1,447	1,004	1,324	965	1,157
米国	361	303	187	329	297	250
メキシコ	166	210	190	220	90	200
ＥＵ	100	116	89	105	82	88
南アフリカ	21	19	49	63	49	52
中国	46	45	44	40	31	31
オーストラリア	17	17	17	16	16	17
その他	14	18	17	18	16	17
合計	1,582	2,174	1,596	2,115	1,545	1,812
国内消費量						
ＥＵ	826	741	736	703	701	702
米国	631	581	572	530	552	473
中国	83	97	110	108	89	90
カナダ	93	86	85	83	83	83
ブラジル	38	38	40	52	63	75
日本	78	72	73	70	60	68
オーストラリア	31	32	30	32	34	33
その他	90	86	79	80	78	83
合計	1,871	1,733	1,725	1,658	1,660	1,607
期末在庫量						
米国	302	268	261	376	297	285
ブラジル	6	185	160	312	134	136
南アフリカ	11	0	6	36	44	49
日本	13	12	23	26	40	38
ＥＵ	15	15	15	15	15	15
その他	8	4	7	25	8	8
合計	354	485	472	791	539	531
輸出量						
ブラジル	962	1,230	989	1,120	1,080	1,080
メキシコ	158	204	182	195	105	195
ＥＵ	52	63	58	60	67	67
南アフリカ	35	28	39	30	35	40
米国	66	57	35	30	34	34
その他	35	33	37	32	23	25
合計	1,308	1,614	1,341	1,466	1,343	1,441
輸入量						
ＥＵ	778	688	704	658	686	681
米国	280	301	413	346	210	245
カナダ	97	90	86	83	83	83
日本	73	71	84	75	76	68
中国	40	55	68	70	60	61
ロシア	37	35	31	33	32	33
オーストラリア	19	17	19	18	20	18
その他	54	47	51	45	39	39
合計	1,378	1,305	1,456	1,328	1,207	1,228

複数年表示は収穫販売年度であり、北半球では概ね10月～9月に当たる。
南半球では、収穫はほぼ第2年次を通じて行われ、収穫販売年度は第2年次に始まる以下の時期である。
南アフリカ　2月～1月
オーストラリア　4月～3月
ブラジル　7月～6月
上記の販売年度の違い等により、輸入合計と輸出合計が一致しないことがある。

タンジェリン/マンダリン（生鮮）

（千トン）

	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 1月推計値
生産量						
中国	20,200	20,600	21,200	22,000	23,000	23,120
ＥＵ	3,086	3,421	2,913	3,225	2,834	3,117
トルコ	1,040	1,300	1,550	1,650	1,400	1,750
モロッコ	1,065	1,278	1,185	1,375	926	1,205
日本	933	1,070	968	994	960	973
米国	861	933	729	1,004	842	882
韓国	635	600	577	608	631	660
南アフリカ	226	261	356	375	486	515
アルゼンチン	350	320	350	430	310	360
オーストラリア	154	160	157	175	160	175
その他	342	400	310	349	329	307
合計	28,892	30,343	30,295	32,185	31,878	33,064
生鮮国内消費量						
中国	18,910	19,413	20,058	20,735	21,767	21,860
ＥＵ	2,988	3,265	2,953	3,191	2,990	3,097
米国	769	862	876	956	990	1,012
日本	860	989	906	948	900	923
ロシア	724	841	836	903	820	860
トルコ	487	614	836	969	602	788
モロッコ	596	761	646	752	529	705
その他	1,823	1,789	1,749	1,955	1,924	2,015
合計	27,157	28,534	28,860	30,409	30,522	31,260
加工仕向量						
中国	660	650	640	620	620	610
ＥＵ	271	372	226	271	230	255
米国	288	309	171	317	198	230
アルゼンチン	110	110	116	113	77	105
韓国	85	56	72	63	77	90
日本	87	98	79	64	80	68
南アフリカ	11	24	75	59	77	68
その他	44	59	36	46	44	34
合計	1,556	1,678	1,415	1,553	1,403	1,460
輸出量						
トルコ	575	710	739	712	827	991
中国	658	587	556	706	657	700
モロッコ	469	517	539	623	397	500
南アフリカ	190	210	261	296	385	420
ＥＵ	250	236	217	246	172	245
イスラエル	87	120	88	102	98	90
オーストラリア	50	70	62	87	62	80
その他	92	81	73	85	82	79
合計	2,371	2,531	2,535	2,857	2,680	3,105
輸入量						
ロシア	724	841	836	903	820	860
ＥＵ	423	452	483	483	558	480
米国	232	274	353	314	391	400
ベトナム	116	118	143	160	202	210
ウクライナ	139	138	154	171	185	190
カナダ	146	154	154	157	159	170
フィリピン	68	68	87	101	112	115
タイ	141	123	73	85	71	90
インドネシア	60	69	60	73	69	70
マレーシア	69	64	67	69	58	70
その他	74	99	105	118	102	106
合計	2,192	2,400	2,515	2,634	2,727	2,761

複数年表示は収穫販売年度であり、北半球では概ね10月～9月、南半球では4月～3月に当たる。
南半球では、収穫はほぼ第2年次を通じて行われる。
上記の販売年度の違い等により、輸入合計と輸出合計が一致しないことがある。

グレープフルーツ（生鮮）

（千トン）

	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 1月推計値
生産量						
中国	4,350	4,600	4,800	4,900	4,930	4,950
米国	728	633	462	548	485	512
メキシコ	438	442	418	473	460	495
南アフリカ	315	354	403	372	358	360
トルコ	250	253	260	250	270	290
イスラエル	163	149	144	139	143	130
ＥＵ	107	106	107	108	95	96
その他	25	25	26	26	26	26
合計	6,376	6,562	6,620	6,816	6,767	6,859
生鮮国内消費量						
中国	4,224	4,460	4,670	4,713	4,797	4,808
ＥＵ	438	398	447	395	404	415
メキシコ	331	335	311	361	343	381
米国	287	282	231	214	229	234
ロシア	117	106	134	158	121	125
トルコ	62	131	71	112	87	91
日本	105	108	96	89	85	89
ウクライナ	18	15	27	29	39	42
カナダ	39	37	35	35	37	37
南アフリカ	5	6	7	8	8	9
その他	22	20	20	21	20	21
合計	5,648	5,898	6,049	6,135	6,170	6,252
加工仕向量						
米国	333	268	191	292	215	235
メキシコ	87	88	90	94	95	94
南アフリカ	111	118	111	107	95	92
イスラエル	92	80	68	77	78	60
ＥＵ	20	19	17	21	14	14
その他	1	1	2	2	3	3
合計	644	574	479	593	500	498
輸出量						
南アフリカ	203	231	288	258	256	260
中国	159	180	208	248	209	220
トルコ	190	125	189	138	184	200
イスラエル	61	61	68	54	59	63
米国	124	108	58	57	56	56
香港	11	15	32	21	24	24
メキシコ	22	20	18	20	23	21
その他	15	15	17	16	17	17
合計	785	755	878	812	828	861
輸入量						
ＥＵ	365	326	374	324	340	350
ロシア	117	106	134	158	121	125
中国	33	40	78	61	76	78
日本	82	84	71	64	61	65
ウクライナ	18	15	27	29	39	42
カナダ	39	37	35	35	37	37
香港	16	20	37	27	31	31
米国	16	25	18	15	15	13
スイス	7	7	7	7	7	7
トルコ	2	3	1	1	2	2
その他	6	2	4	3	2	2
合計	701	665	786	724	731	752

複数年表示は収穫販売年度であり、北半球では概ね10月～9月、南半球では4月～3月に当たる。
南半球では、収穫はほぼ第2年次を通じて行われる。
上記の販売年度の違い等により、輸入合計と輸出合計が一致しないことがある。

レモン/ライム（生鮮）

（千トン）

	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 1月推計値
生産量						
メキシコ	2,416	2,513	2,311	2,686	2,717	2,870
ＥＵ	1,333	1,535	1,472	1,683	1,480	1,640
アルゼンチン	1,350	1,450	1,770	1,780	1,471	1,030
トルコ	670	850	1,000	1,100	950	1,000
米国	820	800	806	909	998	940
南アフリカ	308	430	446	492	657	670
イスラエル	60	67	65	68	75	70
その他	93	99	91	92	99	94
合計	7,050	7,744	7,961	8,810	8,447	8,314
生鮮国内消費量						
ＥＵ	1,582	1,692	1,786	1,871	1,746	1,818
メキシコ	1,383	1,397	1,190	1,542	1,412	1,671
米国	1,135	1,222	1,222	1,361	1,418	1,515
トルコ	200	319	417	476	520	513
ロシア	184	210	216	229	221	236
サウジアラビア	102	123	125	124	126	128
アルゼンチン	70	90	151	170	150	110
カナダ	102	95	98	103	109	110
アラブ首長国連邦	97	93	84	105	85	85
イスラエル	55	60	60	60	66	64
その他	177	193	194	202	194	200
合計	5,087	5,494	5,543	6,243	6,047	6,450
加工仕向量						
アルゼンチン	1,004	1,122	1,348	1,377	1,066	731
メキシコ	374	388	396	397	507	350
ＥＵ	243	284	232	278	232	290
米国	190	164	189	240	308	255
南アフリカ	56	115	113	122	178	145
トルコ	40	40	50	50	50	50
日本	29	31	31	32	40	37
その他	2	4	4	6	9	5
合計	1,938	2,148	2,363	2,502	2,390	1,863
輸出量						
メキシコ	662	731	729	751	801	852
南アフリカ	237	299	315	350	455	500
トルコ	434	495	536	576	382	439
アルゼンチン	279	241	272	234	255	190
ＥＵ	69	79	65	82	81	82
米国	110	112	97	96	90	80
モロッコ	9	13	9	15	17	18
その他	22	26	17	14	11	12
合計	1,822	1,996	2,040	2,118	2,092	2,173
輸入量						
米国	615	698	702	788	818	910
ＥＵ	561	520	611	548	579	550
ロシア	186	213	219	232	225	240
サウジアラビア	102	123	125	124	126	128
カナダ	102	95	98	103	109	110
アラブ首長国連邦	91	87	79	100	80	80
ウクライナ	41	47	50	55	59	62
日本	51	53	53	59	48	52
香港	37	47	39	36	31	32
メキシコ	3	3	4	4	3	3
その他	8	8	5	4	4	5
合計	1,797	1,894	1,985	2,053	2,082	2,172

複数年表示は収穫販売年度であり、北半球では概ね10月～9月に当たる。
南半球では、収穫はほぼ第2年次の1月～12月に行われる。
上記の販売年度の違い等により、輸入合計と輸出合計が一致しないことがある。

163. 世界のブルーベリー市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年1月29日)

ペルー産ブルーベリーのシーズンが終わり、現在、市場の大部分はチリ産である。しかし、チリでは収穫のための労働力が不足しており、貿易業者はヨーロッパへの輸出量は2月15日の週以降減少すると予想している。その後、ブルーベリーのシーズンはスペインやモロッコなどの地中海沿岸諸国に移る。両国のブルーベリーは例年より遅れて市場に出回ると見込まれ、市場への供給不足が生じる可能性がある。北米では、ロサンゼルス港の物流上の問題により西海岸への輸送量が減少し、(行先を変えた)積荷が東海岸で滞る恐れがある。南アフリカでは、国産ブルーベリーの供給量が多く、価格が暴落し、国内市場への出荷量は現在減少している。

オランダ: 乱高下するブルーベリー市場

オランダのある輸入業者によれば、ブルーベリー市場は現在乱高下している。「現在、チリからの海上輸送の多くの積荷に遅れが生じている。一方、ドイツでは多くの供給量を必要とする大規模な販売促進活動が計画されているため、日々の取引はプレッシャーの中で行われている。大量の荷がチリから到着するのは今週が最後だ。その後、供給量は急速に減少するだろう。2月8日の週又は翌週からは、現在の50%の量が出回る見込みだ。チリは大幅な人手不足という問題に直面しており、これは、必ずしも適期に収穫できないことを意味する。このことは到着する商品の品質に影響し、過熟で傷みやすいブルーベリーが多くなる。チリ産ブルーベリー(バルク)の価格は5~5.50ユーロである。」

「モロッコの出荷シーズンは出足が鈍い。寒さのため、今シーズンは始まるのもやや遅かった。結果として、価格は良好であり、今のところ約9ユーロ/kgに達している。チリ産のシーズンは2月15日の週に終わると見込まれ、モロッコは2月15日の週又は翌週から十分な出荷量となるため、両者の移行はうまく行くに違いない。」

ドイツ: 小売段階での品不足と品質の問題

ドイツのブルーベリー市場は、今はかなり難しい状況である。現在出回っているほとんどはチリ産であり、チリではコロナ禍により収穫と包装に従事する労働者が不足している。ドイツのある輸入業者は「その結果、ヨーロッパへの輸出量が明らかに不足している。多くのブルーベリーの収穫が遅れてヨーロッパに輸出できないものになり、米国にも売り込めない。ロッテルダム港の貨物輸送にも問題がある。貨物が1週間遅れて到着することは珍しくなく、これはもちろん品質に悪影響を及ぼす」と言う。

一方、ドイツの小売段階の需要は依然大きい。「ケータリング部門が止まっていることで明らかに卸の取引に穴をあけているが、小売向けの売り上げの増加はそれを埋めて余りある。この大きな需要はしばらく続いている。チリ産のシーズンに輸入されるブルーベリーの量は毎年増加しているが、需要も同様に増加していることから余剰はなく、市場の状況はほとんど同じである。」

上述の問題により、チリ産のシーズンは数週間早く終了する。例年は3月に入ってもチリ産が豊富に供給されるのに対し、今年は最後のまとまった貨物は2月の第3週に到着する見込みである。「これは、モロッコ産とスペイン産のブルーベリーに例年よりずっと早く切り替わることを意味する。」チリ産ブルーベリーの価格は現在6～8ユーロ/kgで、スペイン産とモロッコ産のブルーベリーは約10ユーロ/kgで始まると予測される。

英国：チリの輸出量は予想より少ない

輸入ブルーベリーのシーズンは、ヨーロッパ産ブルーベリーが早く終了し、良好なスタートを切った。そのため9月、そして10月に入っても高値であったが、ペルーが大量のブルーベリーを輸出したため、10月末から11月にかけて市場に圧力がかかった。12月には、市場は回復の兆しを見せ始めた。1月は、チリが予想したほどの大きな量を輸出していないことから、今のところ落ち着いている。

フランス：需要は小さい

現時点で、チリはフランス市場で一番の供給国である。到着するブルーベリーの品質と量に、フランスの貿易業者は満足している。チリ産の後、隣国のスペイン産が届く。しかし、市場の需要は現時点でかなり小さい。

イタリア：販売は安定

北イタリアのある卸売業者は、ケータリング部門が止まっているにもかかわらず、ブルーベリー市場の状況は良好だと語る。菓子部門やレストランは常にブルーベリーの大きな買い手であったが、コロナ禍による閉店にもかかわらず、買い手が不足することはない。ペルー産が主役であった期間が数週間続いた後、現在チリ産が市場に出回っている。ブルーベリーは空路または海路で輸入され、卸売業者は125グラムのトレイにパック詰めされたものを受け取る。前出の卸売業者はgiantタイプのブルーベリーを販売し、1月の卸売価格は8～11ユーロ/kgの間で変動した。品質は良好である。チリ産の後、北アフリカ産、中でもモロッコ産が到着し始め、春の終わりにはイタリア産ー最初は南部から、次に中央・北イタリアからーの時期となる。春と夏はポーランド産と競合する。

スペイン：収穫の遅れで市場に供給不足の可能性

コロナ禍と各国の厳しい規制にもかかわらず、ブルーベリーの需要は依然大きい。南米諸国産（アルゼンチン産、チリ産、ペルー産）ブルーベリーの販売は極めて順調だが、今年の入荷量は少ないようだ。南米産のシーズンは例年3月上旬まで続くが、今年のチリ産ブルーベリーの最後の荷は、2月の第1週～第2週にヨーロッパに到着し、少量のペルー産ブルーベリーが2月の最終週に到着する。一方、スペイン産は1月上旬の吹雪と霜により、収穫が遅れる見込みである。モロッコ産も今年は始まりが遅い。このため、ブルーベリーの出回り量は、2月の後半2週間と3月の前半2週間はかなり少ないと見込まれる。その後、スペイン産の出回り量は徐々に増加する見込みである。

ポーランド：厳しいシーズンが終了

ポーランドは夏の霜害で、早生ブルーベリー品種の30～40%が影響を受けた。シーズン当初、需要はかなり緩慢だったが徐々に持ち直した。ポーランド産ブルーベリーの価格は、今年は天候とコロナ禍のために高くなっている。生産コストは他のほとんどの果実より高く、加えて、コロナ禍によりウクライナの労働者が働くためにポーランドに移動することが困難であり、ポーランドにとって、今年は労働力の確保が困難であった。ポーランド産ブルーベリーは世界中で販売されているが、ヨーロッパ諸国、中東諸国及びアジア諸国が引き続き主要な輸出先である。

南アフリカ：輸送の問題で国内市場の販売が増加

南アフリカ産ブルーベリーは2020年末までに1万5,636トン輸出され、1万2,221トンを出荷した2019/2020シーズンより多い。輸出のピークは10月5日の週から11月9日の週だったが、豪雨と寒さにより、収穫

量は当初の予想より少なかった。航空貨物便の不足と物流の遅れにより、多くの生産者がブルーベリーを国内市場で販売することとしたため、価格は急落した。業界は、2020年の空路輸送の費用がかなり高くさらに増加し続けていたため、空路の代わりに船便でより多くのブルーベリーを輸出するという目標を設定した。

先週、国内市場のブルーベリーの価格は100.47ランド（5.45ユーロ）/kgであった。供給量が少ないため、価格は現在77%上昇し、177.33ランド（9.46ユーロ）/kgに達した。輸出量のほとんどは、英国とEU向けである。中東とアジアも引き続き重要な輸出先である。

米国：港湾での遅れによって難しいシーズンに

北米におけるブルーベリー供給量は、主に物流の問題により、例年より少ない。現在、大部分のブルーベリーは今年初めに出荷が始まったチリ産である。メキシコ産は多くが西海岸に到着するが、チリ産は主に東海岸に到着する。チリは現在、収穫の労働力が不足している。さらに、ペルー産も予想より早く終わった。現在、ロサンゼルス港ではかなりの滞留がある。積荷は数日遅れることもある。東海岸のある輸入業者は、この状況をやや心配している。西海岸向けの積荷が東海岸に到着し、競争の激化と供給量の増加を招く可能性があるからである。

市場での需要は今は安定しているが、供給量は徐々に減少している。消費者は、より大きなパックに関心を示している。この2週間、価格は上昇を続けており、メキシコとチリの生産者にとっては朗報である。チリ産の供給のピークは3月まで続くだろう。

中国：増大する生産量と市場の可能性

チリ産ブルーベリーのシーズン当初、品質はそれほど良くなかった。市場の成長に伴い、より多くの輸出業者が中国市場の可能性を見て市場に参入し始めている。しかし、一部の新たな輸出業者は中国市場の傾向を把握しておらず、現地の顧客がどんな果実を求めているのかを知らない。一部の事業者はニーズにあわない品質のブルーベリーを大量に出荷する。コロナ禍のため、高価な輸入果実の購買力は全般的に低下している。今年の売り上げは、ウイルスへの恐れもあって、例年のように順調ではない。

中国のブルーベリー輸入量は毎年急速に増加しているが、雲南省のブルーベリー用温室の数も同様に急速に増加している。中国企業は、ブルーベリーの植え付けと総生産量に関しては大いに有利である。ブルーベリーには市場での大きな可能性がある。より多くの国際的な企業が中国のブルーベリー生産に投資してきており、これがブルーベリー市場での大きな圧力となっている。

サザンハイブッシュ系の品種は2018年から栽培されている。北部の産地の温室で新たに植えられたブルーベリーの80%以上及び山東省の無加温の温室の生産量の60%以上はこれらの品種である。O'Neill、Misti、Legosi、Emerald、Jewelryは、長江の南側における主要なブルーベリー品種となった。

オーストラリア：販売はピーク

オーストラリアのブルーベリーシーズンは今が最盛期であり、小売価格は上昇している。昨年、13%増の1万9千トンのブルーベリーが生産され、出荷額は10%増の3億3,870万豪ドル(2億1,270万ユーロ)であった。

ニュージーランド：ブルーベリー消費量が増加

12月に公表された統計によれば、昨シーズン、ニュージーランドでこれまでの記録を超える800万カップのブルーベリー（3千万NZドル（1,760万ユーロ）以上に相当）が消費された。これは110万パネット（カゴ状の小型容器）の増加（+15.2%）である。ニュージーランドのブルーベリー生産者による輸出協会は、コロナ禍により今年の夏はさらに売り上げが増加すると見込む。ブルーベリーの60%はオーストラリアとアジアに輸出される。

164. 台湾産ナツメの日本への輸出量は記録を更新

FreshPlazaウェブサイト（2021年2月４日）

台湾の台南市では現在、ナツメが収穫されている。いくつかの地方自治体による輸出機会を求める努力の結果、ナツメはその優れた品質により日本市場への参入に成功し、今年、日本への輸出量はこれまでの記録を更新する見込みだ。

今年のナツメは、2月中旬に日本に空路で出荷される予定であり、高級市場を目指している。1箱は2.5kgで、産地価格は2千台湾ドルである。今シーズンの収穫は4月まで続くと見込まれ、現在10トンが日本に輸出され、昨年の総輸出量より38％多い。

台南市の栽培面積は265ヘクタールで、台湾全体の14％である。品質は安定し、果実は甘味があり美味なため、国内需要が活況なだけでなく、輸出市場も年々成長してきている。

農業食品局（農糧署）のHu Zhong氏は、農産物の日本輸出のための条件はかなり厳しいと述べた。輸出時には毎回生産履歴の添付が必要であり、ナツメに病害虫が付着していないことを確認する必要がある。

165. 台湾向けに青森県産リンゴをオンラインで販売

FreshPlazaウェブサイト（2021年2月５日）

BeeCruise社は、BEENOS社（国内外における各種e-コマースを事業内容とする日本企業）のグループ会社で、e-コマースと日本のコンテンツの国境を越えた海外展開を支援しており、現在、青森県と協力し、青森県の特産品をe-コマースサイト「Buyee」（海外からの代理購入サービスを実施している）に出展している。

同社は、青森県の品質の優れた産品を台湾の顧客に売り込んで現在のコロナ禍による難局を打破するため、2月3日～2月10日の間の販売促進キャンペーンで送料を半額としている。

オンライン展示では、リンゴジュース、リンゴジャム、リンゴスイーツなど「日本のリンゴ王国」青森県の多くの素晴らしいリンゴ関連商品が購入できる。また、三方を海に囲まれ漁業で有名な青森県のホタテ貝製品、シジミ加工品、サバのほか、日本酒、お茶、米、木工製品、ガラス工芸品、陶器など同県自慢の様々な特産品も購入できる。リモート生活中の消費者の皆さんには、この機会に青森県特産の美味しい地元の食べ物と素晴らしい工芸品をお試しいただき、旅行気分を楽しんで欲しい。

コロナウイルスの新たな波はまだ終わりが見えないが、BeeCruise社は、この展示が台湾の顧客に青森県の文化の優れた面を紹介し、将来青森県を訪問するきっかけとなることを望んでいる。

166. 香港税関 ブランド偽装のサクランボを押収

FreshPlazaウェブサイト（2021年2月8日）

タスマニア州（オーストラリア）のサクランボ生産者は、テクノロジーがアジアの偽装業者を阻止し始めたと確信している。

香港税関は2月4日、油麻地地区（ヤウマーテイ地区。果実の卸売市場がある。）の果物店の捜索で、41歳の女性販売員を逮捕し、タスマニア産と表示され、ハワード・ハンセン氏の「南緯43度」ブランドを模倣した箱に詰められたブランド偽装の疑いのあるサクランボ196箱、重量にして約400キログラム、推定市場価格8万香港ドル（約110万円）と梱包資材を押収したと発表した。

税関は、同店が「偽ブランドのサクランボを販売している疑いがある」と主張する情報を受け取っていた。

タスマニア州のサクランボ生産者ハワード・ハンセン氏は、箱は彼の会社のものと同じように見えたが、個別のQRコードが付いていなかったとして「当社のブランドの偽造は15年も前から起こっているが、今は商品の追跡が可能（トレーサビリティ）で、QRコードを使用した一意の識別番号を箱に付けており、彼らはそれを複製できない」と述べた。

香港税関は、調査は進行中であるとし、「税関は事件に関与したサクランボの出所を調べており、サンプルは安全性検査のために政府の研究所に送られる。旧正月が近づいているので、休暇前及び休暇期間中の偽造品や偽装食品の販売に対抗するために、税関は引き続き調査と取締りを強化する」と発表した。

ハンセン氏のサクランボは、アジア市場で、特に旧正月を前にして人気があり、偽装業者にとって非常に魅力的だ。

以下同氏の話：

「彼らにとっては、商売の機会だ。彼らはおそらく弊社のサクランボの1割以下の値段でチリ産のサクランボを市場で仕入れることができるので、それを偽造した箱に入れ、消費者をだまして弊社のものと同じ値段で売れば大儲けできる。偽装業者は長い間、弊社のロゴ、スタンプ、写真をコピーし、包装を真似してきた。それらを区別することはほとんど不可能だ。

彼らが複製できなかった唯一のものは、弊社の「南緯43度」ブランドの箱に付いているサクランボの写真の中の反射材で、偽造の箱には反射材が付いていなかったのだが、QRコードがなければそれに気づくこともなかった。

すべての箱には最終消費者がスキャンするとサクランボの産地が分かるQRコードが付いており、コードは箱ごとに異なる。弊社が発行したものではないQRコードが繰り返し検知され、それは何らかの不正行為が起こっているという警告であったので、弊社の香港代表は当局に通報することができた。結果はご覧のとおりである。

ついに技術が追いつき、偽装業者を捕まえられることを喜んでいる。これからも偽装が起こるのであれば、箱の一層の特定とトレーサビリティにより、もっと定期的に告発することができるようになると思う。」

香港では、偽造商標を付した商品の販売または所持には、最高5年の懲役と50万香港ドル（約680万円）の罰金が科される。ハンセン氏は、偽装を抑止するために最大の罰則を適用するよう求めている。

出典：www.abc.net.au

167. メキシコのアボカド輸出量　2020-2021年度は記録更新の勢い

FreshPlazaウェブサイト（2021年2月８日）

メキシコ産アボカドの最大の市場は米国だが、輸出先は米国だけではない。アボカド・フロム・メキシコ（AFM）*とそのメキシコ側関係機関であるAPEAM（メキシコ生産者・輸出業者協会）は、メキシコ産アボカドの輸出先の拡大、更には世界でのプレゼンスと市場シェアの拡大のために積極的に取り組んできた。
（＊：米国のメキシコ産ハスアボカド輸入者協会とAPEAMのために米国でのアボカド販売を調整する非営利団体）

ミチョアカン州のアボカド年度は7月～翌年6月であり、2020-2021年度は2020年7月に始まった。今年度は今のところ、アボカドの輸出量は記録を更新している。APEAMは「コロナ禍にもかかわらず、アボカドの輸出は止まらなかった。今シーズンは幸いにもこれまで大きな打撃はない。2020年後半の6月29日の週から12月28日の週の間、これは今年度の前半だが、世界各国への輸出量は60万8,081トンとこれまでの記録を超えた。これは、2019年の同じ時期と比較して11.8％の増加だ」と述べ、6月の年度末までに、メキシコから米国への輸出量は100万トンを超えると予想する。

メキシコ産アボカドは、米国、カナダ、エルサルバドル、ホンジュラス、グアテマラ、日本、韓国、中国、香港、シンガポール、スペイン、フランス、オランダ、イタリア、ドイツ等世界中の34カ国に輸出されている。APEAMは「特にカナダと日本は、メキシコ産アボカドを好む点で際立っている。コロナ禍でわずかに減少した中国向けを除き、輸出量はほぼ全ての市場で増加し続けている。中国の需要は当初大きな打撃を受けたが、早いペースで昨シーズンを超えるほどまでに回復した」と言う。

輸出市場の拡大に加え、国内市場も伸びている。APEAMは「メキシコ国内での消費量を増やすための販売促進活動が始まった。目的は、もう一つの販売経路を国内に作ることだ」としている。

訳注：コロナ禍関連の記述は省略しました。

（関連記事）

メキシコ　ハリスコ州のアボカド輸出量が増加

ASIAFRUIT電子版（2021年2月８日）

2020年のメキシコ・ハリスコ州のハス種アボカドの輸出量は、コロナ禍による困難にもかかわらず17％増加した。ハリスコ州生産者・輸出業者協会（Apeajal）のイグナシオ・ゴメス氏は、El Economista紙に、ハリスコ州のアボカドは、欧州とアジアを中心に21カ国に出荷されたと語った。同協会は、新しい市場がさらに増えることから、2021年の輸出量は二桁伸びると見込んでいる。

ゴメス氏は「我々は、米国や中国など大きな可能性がある新しい市場の開拓に懸命に取り組んできた。これらの市場が開けば、数字は指数関数的に伸びるだろう。それが実現しなくても、輸出量は同じ割合で増え続けるだろう。その割合は、年間10％、15％、あるいは20％かもしれない」と述べ、コロナ禍によるロックダウン期間中にホテル、レストラン、カフェが閉鎖されてアボカドの卸売は壊滅状態となったが、多くの人がアボカドは健康にいいと認識し、家庭での消費量が増加したことによって埋め合わされたと指摘した。

同協会によると、2020年、ハリスコ州の生産者は11万2千トンのアボカドを輸出し、その35％が欧州（主にスペイン、オランダ、フランス、英国、ドイツ、ベルギー）、30％がカナダ、25％が日本、残り10％が中南米、中東、香港向けであった。

ゴメス氏は、ハリスコ州産アボカドの米国市場参入を期待している、トランプ政権はその試みを阻んだがハリスコ州の担当者は米国のカウンターパートと交渉を継続するだろうとして、「（バイデン政権の）新長官と幹部は着任したばかりだが、我々はメキシコ政府の農業・農村開発省検疫・食品安全局（Senasica）と連携しており、明らかにハリスコ州産アボカドの米国への輸出問題は交渉のテーブルに上がっている」と、語った。

168. 米国の果実生産見通し(柑橘類)

米国農務省農業統計局(2021年2月9日)

訳注: これは、米国農務省農業統計局が2021年2月9日に公表した作物生産統計のうち、果実関係を抜粋したもので、表を次頁以降に掲載しています。

柑橘類

<オレンジ>

米国の2020-2021年度のオレンジ総出荷量は462万トンと予測され、前回の予測値から2%の増加だが、2019-2020年度の出荷量確定値からは11%の減少である。

フロリダ州のオレンジ総出荷量は5,600万箱(252万トン)と予測され、前回の予測値から4%の増加だが、昨シーズンの確定値からは17%の減少である。同州の早生、中生、ネーブル種の出荷量は2,200万箱(99万トン)と予測され、前回の予測値から10%の増加だが、昨シーズンの確定値からは26%の減少である。同州のバレンシアオレンジの出荷量は、3,400万箱(153万トン)と予測され、前回の予測値と変わらないが、昨シーズンの確定値より10%の減少である。

カリフォルニア州とテキサス州のオレンジ生産予測は、前回の予測を持ち越した。

<グレープフルーツ>

米国の2020-2021年度のグレープフルーツの出荷量は、56万4,000トンと予測され、前回の予測値と変わらないが、昨シーズンの出荷量確定値からは5%の増加である。

フロリダ州の生産量は460万箱(19万6,000トン)と予測され、前回の予測値と変わらないが、昨年からは5%の減少である。

カリフォルニア州とテキサス州のグレープフルーツ生産予測は、前回の予測を持ち越した。

<タンジェリン及びマンダリン>

米国のタンジェリンとマンダリンの出荷量は97万トンと予測され、前回の予測値よりわずかに減少したが、昨シーズンの出荷量確定値からは5%の増加である。

フロリダ州のタンジェリンとマンダリンは105万箱(5万トン)と予測され、前回の予測値より5%減少したが、昨シーズンからは3%の増加である。

カリフォルニア州のタンジェリンとマンダリンの予測は、前回の予測を持ち越した。

(関連記事)

米国農務省 フロリダ州のオレンジ予測生産量を引き上げる

The Packer電子版(2021年2月9日)

2月公表の米国農務省 作物生産報告書によると、2020-21年度のフロリダ州のオレンジ予測生産量が3.7%増加した。米国農務省の報告書では、フロリダ州のオレンジの予測生産量は5,600万箱に上方修正され、同州のグレープフルーツの予測値は460万箱と変わらなかった。

フロリダ州柑橘局のシャノン・シェップ局長は、「この予測は、残りのシーズンについて、楽観はできないが明るい材料を与えてくれる。今後数ヶ月間、生産者が、最小限の落果でできるだけ多くのバレンシアオレンジを収穫できると期待している」と、ニュースリリースで述べた。

ロサンゼルスの卸売市場では、カリフォルニア州のネーブルオレンジの卸売価格は前年の水準よりわずかに高く、2月9日の価格はカートン当たり30～32ドルであり、昨年のカートン当たり29～30ドルよりわずかに上がった。

訳注: 上記の米国農務省農業統計局の公表と重複する部分は省略しました。

品目別柑橘類の出荷量　州別及び米国計：2019-2020年度及び予測（2021年2月1日時点）

作物年度は、第1年度の開花に始まり、翌年の収穫終了までである。

作物及び州	出荷量（箱）[1]		出荷量（トン）	
	2019-2020	2020-2021	2019-2020	2020-2021
	（1000箱）	（1000箱）	（1000トン）	（1000トン）
オレンジ				
カリフォルニア州計[2]	53,300	51,000	2,132	2,040
早生・中生・ネーブル[3]	44,300	42,000	1,772	1,680
バレンシア	9,000	9,000	360	360
フロリダ州計	67,300	56,000	3,028	2,520
早生・中生・ネーブル[3]	29,650	22,000	1,334	990
バレンシア	37,650	34,000	1,694	1,530
テキサス州計[2]	1,340	1,500	57	64
早生・中生・ネーブル[3]	1,150	1,300	49	55
バレンシア	190	200	8	9
米国計	121,940	108,500	5,217	4,624
早生・中生・ネーブル[3]	75,100	65,300	3,155	2,725
バレンシア	46,840	43,200	2,062	1,899
グレープフルーツ				
カリフォルニア州[2]	3,800	4,200	152	168
フロリダ州計	4,850	4,600	207	196
赤[4]	4,060	（NA）	173	（NA）
白[4]	790	（NA）	34	（NA）
テキサス州[2]	4,400	5,000	176	200
米国計	13,050	13,800	535	564
タンジェリン/マンダリン[5]				
カリフォルニア州[2]	22,000	23,000	880	920
フロリダ州	1,020	1,050	48	50
米国計	23,020	24,050	928	970
レモン[2]				
アリゾナ州	1,800	1,900	72	76
カリフォルニア州	25,700	24,000	1,028	960
米国計	27,500	25,900	1,100	1,036

（NA）データ無し

注1 一箱のポンド数（1ポンド≒0.45キログラム）

オレンジ：カリフォルニア州 80 ポンド、フロリダ州 90 ポンド、テキサス州 85 ポンド

グレープフルーツ：カリフォルニア州 80 ポンド、フロリダ州 85 ポンド、テキサス州 80 ポンド

タンジェリン：マンダリン：カリフォルニア州 80 ポンド、フロリダ州 95 ポンド

レモン：80 ポンド

注2 今年度の予測値は前回の予測値を持ち越した。

注3 カリフォルニア州のネーブル種とその他の品種。フロリダ州とテキサス州の早生(ネーブル種を含む)と中生品種。

注4 2020-2021年度は予測を廃止した。

注5 タンジェロ及びタンゴールを含む。

果実とナッツ類の生産量　米国：2020年及び2021年

データは、今回または以前のレポートから利用可能な最新の推定値を採用した。
今年の推計値は、柑橘類は2020-2021年度、その他は2021作物年度。
空白のセルは、推計を行う時期には至っていないことを示す。

作　物	生産量	
	2020	2021
	（トン）	（トン）
柑橘類[1]		
グレープフルーツ	485,340	511,650
レモン	997,900	939,840
オレンジ	4,732,780	4,194,820
タンジェリン/マンダリン	841,870	879,970
非柑橘類		
リンゴ（販売量）	4,830,760	
アプリコット	31,570	
甘果オウトウ	303,000	
酸果オウトウ	89,360	
コーヒー(ハワイ州)	12,510	
クランベリー	406,870	
ブドウ	6,513,590	
モモ	585,590	
ナシ	725,750	
ナッツ類その他		
アーモンド（殻付き、カリフォルニア州）	1,360,780	
ヘーゼルナッツ（殻付き、オレゴン州）	64,410	
ペカン（殻付き）	137,140	
クルミ（殻付き、カリフォルニア州）	707,600	

注1 生産年度は2019-2020年度及び2020-2021年度

169. ニュージーランド　リンゴの収穫が早まり、輸出市場に大きな需要

FreshPlazaウェブサイト（2021年2月11日）

ニュージーランドでは既にリンゴの収穫が行われており、これは昨シーズンより約1週間早く、収穫量は2月末から3月に向けて増えていく。ニュージーランド リンゴ・ナシ協会（会員はリンゴとナシの生産、流通販売等の関係者）のCEOアラン・ポラード氏によれば、最近の暑さはリンゴの収穫量に大きくは影響しなかったようだ。今シーズンの総生産量は55万8,672トンと予測され、内訳は、輸出が37万4,751トン、国内販売が6万9,649トン、加工向けが11万4,272トンである。これらの数字は昨年より5％の減少であり、輸出量は5％の減少、国内販売量は2％の増加、加工用は2％の減少である。

輸出市場の需要は強い

ポラード氏は「重要な市場の需要が強いことは、早い段階で示されていたが、我々は国際輸送の混乱と港湾の混雑が続いていることを依然として懸念している。コンテナが手配できるかどうか早い時点では心配したが、それ以来状況は改善した。ニュージーランドのBraeburn品種のリンゴの輸出は、昨年より36％、1万6,800トン減少する見込みである。北半球/欧州の生産量の減少と相まって、ヨーロッパ大陸は品不足となるだろう」と語る。

2020年シーズンは、ニュージーランド産リンゴの48％がアジア向け、24％がヨーロッパ向け（イギリスとアイルランドで10％）、北米へは9％、中東へは6％であり、国別で一番多いのがドイツ、次いでイギリス、中国、ベトナム、米国である。

労働力不足

同氏は「園芸部門全体で季節労働者が不足している。ニュージーランドは、常時最大5万人のバックパッカーを見込んでいる。国境が閉鎖されて以来、1万～1万3千人がニュージーランドに留まっており、労働者として見込めるのはその一部だけだ。例年この時期には、太平洋島嶼国の労働者約1万500人がニュージーランドに滞在すると見込んでいるが、国境が閉鎖されて以降ニュージーランドに留まっているのは約5千人で、そのいくらかは今後数週間のうちに帰国するだろう」と語る。

ニュージーランド政府は、例外的な特別国境措置により2千人余りの労働者のニュージーランドへの入国を承認した。4日に一度、合計13回、飛行機で労働者を運ぶ予定で、最初の便は1月17日に到着しており、最後の便は3月上旬に到着予定である。労働者は、ニュージーランドへの入国が認められるまでの14日間、政府が管理する検疫施設に滞在する必要がある。

（関連記事）

ニュージーランド　シーズンの前進を知らせるリンゴ新ブランド

FreshPlazaウェブサイト（2021年2月11日）

T&G Global社の早生リンゴの新しいブランドは、アジアの主要市場に今シーズン最も早く出荷される品種の一つだ。同社のPoppi™リンゴは、甘い風味があり、サイズは中程度で果皮は濃い赤色である。

同社海外販売担当のストッター氏は「Poppi™リンゴは、市場の端境期を埋める試みとして、ニュージーランドの2か所で少量栽培されてきた。アジアの消費者は当社のリンゴを好んでおり、Poppi™リンゴは収穫時期が早いので、新しいブランドを立ち上げて大きく生長しているアジアの重要な市場に迅速に投入することで、ニュージーランド産リンゴの輸出シーズンを広げる戦略的なチャンスとなった。」と語る。

このリンゴは、早く収穫するために、ホークスベイ地方の微気象に恵まれた区画で新しい植栽方式を用い、陽当たりが最大限良くなるよう栽培されている。

同氏は「今後数週間収穫が続き、合計で約2万箱（160万個）のPoppi™リンゴを試験的に輸出する。大半は中国へ向かう」と語る。

（記事の一部を省略しました。）

170. 米国ブルーベリーに関する国際貿易委員会の判定に対する内外の反応

FreshFruitPortalウエブサイト（2021年2月12日）

輸入ブルーベリーが米国の国内産業に深刻な損害を与えていないとの昨日の米国国際貿易委員会（ITC）の歴史的な判定に対し、米国内と国外の業界関係者から反応が続々と届いている。委員会の判定は5-0の投票結果によるもので、調査は終了し、委員会は大統領へ救済策を勧告しないことを意味する。勧告に肯定的な投票結果であれば、ここ数年のうちに青果物業界で大いに注目されるようになった農産物の一つに対して、いずれ輸入関税等の貿易障壁をもたらすこととなったたであろう。

以下は、米国と中南米の主なブルーベリー輸出国の関係者の反応の概要である。

米国の反応は賛否で分かれる

「進歩と健康のためのブルーベリー連合」－米国企業、国際企業、貿易団体で構成－は、米国のブルーベリー産業は健全で繁栄しているとして、判定を歓迎した。同連合は「この健康的で栄養価の高い果実は一年を通じて市場需要があり、またその需要は増大しており、米国の業界は輸入品も合わせてこの需要に対応するために懸命に取り組んでいる。米国の1人当たりのブルーベリー消費量は2005年から300％以上増加しており、現在は1人当たり1.79ポンド（812グラム）とこれまでの最高となっている。米国へのブルーベリーの輸入制限は、消費者のこの健康的でおいしく、栄養価の高い果実の購入を妨げ、米国の生産者にとって何の利益もないだろう」としている。

他方、逆の立場にある「米国ブルーベリー生産者同盟（ABGA）」－カリフォルニア州、フロリダ州、ジョージア州、ミシガン州等全米の州のブルーベリー生産者で構成－は、ITCの判定に失望しているとした。

ABGAは「調査の期間中、全米のブルーベリー生産者は、特に重要な栽培・収穫期間中の輸入急増が、米国市場におけるブルーベリーの供給と価格形成にもたらした甚大な悪影響に関して、幅広いデータと個別の経験をITCに提供した。我々は、このデータと証言は、セーフガード措置が国内農家の存続に必要であるという説得力があると確信していたので、委員会の判定に失望している」としている。

ABGAは、米国の貿易法は、米国の農家にとっての公平な競争の場を支援すべきと信じており、積極的にこの調査に参加したとして、「人件費が安く、環境基準が緩い国々の生産者は、我々米国の生産者を農業から追い出してはいけない。今回の結果は、米国の貿易法の欠陥を明らかにし、不幸にも国内のブルーベリー業界の長期的な存続を危うくするだろう」とし、米国の生産者は「2021年産のブルーベリーを栽培し収穫する中で、再度経済的に不確実な年」に直面するだろうと加え、「間違いなく、輸入は加速し、今年は国内市場を席捲するだろう。これは、家族経営の農場、梱包業者、冷凍業者により大きな困難をもたらし、地域社会と税収基盤に損害を与えるだろう」としている。

中南米の各国貿易協会は判定を歓迎

ペルー・ブルーベリー生産者協会（ProArandanos）のブスタマンテ氏は、この判定は「業界全体の効率的で組織的な取り組みの成果である。素晴らしいチームワークによって、優れた品質のブルーベリーの通年の消費に輸出が貢献したと判定された。この取り組みは、ブルーベリー業界の高い水準のプロフェッショナリズムを示しており、ペルーはProArandanosを通じて、この作業に積極的に参加してきた」と述べた。

チリ果実輸出業者協会（ASOEX）傘下のチリ・ブルーベリー委員会シルバ委員長は、「これは素晴らしいニュースだと思う。2020年9月から、当委員会、ASOEX及び弁護士が協力して取り組んできたが、全ての努力が報われた。この調査で示されたのは、輸入は被害を与えていないということだ。むしろ、ブルーベリーの需要を増大させ、消費量が増加した。我々は、様々な市場で一層の販売促進戦略を駆使してブルーベリー市場拡大の取り組みを続けなければならない」と述べた。

メキシコの農業・農村開発省と経済省は共同声明で、判定は「メキシコの輸出は米国産品を補い、米国消費者の一年を通じたブルーベリー購入に役立つ」ことを示していると述べ、メキシコ政府は「北米の生産連携を強化し、地域の経済回復を後押しするために、T-MEC（米国、メキシコ及びカナダの自由貿易協定。米国での呼称はUSMCA）の貿易相手国との緊密な協力を前向きに続ける」ことを改めて表明した。

171. 世界のパパイヤ市場

FreshPlazaウエブサイト（2021年2月12日）

現在の世界のパパイヤ市場の状況はかなり安定している。多くのヨーロッパ諸国では、パパイヤの需要はまだ大きくないが、人気は徐々に高まっている。コロナ禍による航空貨物輸送能力の不足は、パパイヤの供給と価格水準に大きな影響を与えており、価格は他の年よりもかなり高い。ブラジルは最大の生産国の一つであり、パパイヤを通年供給できる。ブラジル産パパイヤの2つの主要な輸出市場は、欧州と米国である。

オランダ: パパイヤ市場にコロナ禍の影響　昨今はオランダ産温室パパイヤも

パパイヤはマンゴーやアボカドと同じ道をたどっており、かなり人気のある輸入品になりつつある。オランダでの需要は近隣諸国と比較してまだ大きくないが、小売業者とフードサービス業者は喜んでパパイヤを扱っている。ブラジルでは通年生産できるが、従来から夏には他の果実と競合するために需要が落ちる。欧州、特にスペインの生産者は、チャンスを探しており、欧州での売上を増加させようとしている。新しいこととしては、フォルモサパパイヤがオランダの温室で栽培されている。2年前に最初の試験栽培が行われたが、栽培面積は4ヘクタールに拡大しており、供給量はかなり増加している。

オランダのある輸入業者は、ゴールデンパパイヤの供給は現在やや限られているが、需要は少し大きくなっていると語る。フォルモサパパイヤの供給は順調であり、需要は例年通りである。しかし、全般的にはパパイヤの販売はコロナ禍の影響を受けた。「全体に需要が幾分減少したことに注目している。価格に関しては、何年もかなり安定している。販売価格は、主に航空貨物輸送のコストで決まる。南アメリカからの便が何週間も止められているため、航空貨物輸送の運賃は高くなり、必然的にパパイヤの価格の上昇を招いた」という。

ドイツ: パパイヤは人気を得つつある

ドイツ市場のパパイヤ人気は高まりつつあり、主に概ね10月から翌年5月までの気温が高くないシーズンに消費される。ブラジル産フォルモサパパイヤは、最も重要な品種であり、ゴールデンなど他の品種が続く。他の輸入果実と同様、多くの定期便が止まり航空貨物輸送の能力がかなり不足している。そのため、価格水準は他の年よりもかなり高い。

西ヨーロッパでもパパイヤ栽培が試みられている。ドイツのWeyers GmbH社主導で、ドイツとオランダの国境に近い4ヘクタールの温室で試験が実施されている。このパパイヤは、ドイツの小売チェーンや他の店舗で販売される。

フランス: パパイヤ市場は何年間も停滞

パパイヤはフランス市場で一年中扱われている。今のところ、ブラジル産パパイヤは品質が良く、価格は安定している。消費量はあまり増えておらず、パパイヤ市場はここ何年も停滞している。これは、パパイヤを消

費するのは、パパイヤを実際に知っており好んでいる人だけであることが主な理由である。フランスでは、主に都市部のアジア系及びアフリカ系のコミュニティで消費されている。

スペイン: 供給量が多く価格に圧力

スペインのカナリア諸島はパパイヤの出荷シーズン最盛期である。今が、カナリア諸島で最も生産量の多い時期である。市場には、ブラジル産、メキシコ産、エクアドル産、コスタリカ産パパイヤも溢れており、かなりの量が出回っている。パパイヤは、食品サービス部門にとって大切な農産物であるが、コロナ禍により大打撃を受け、食品サービス部門を見込んでいたパパイヤは小売業者に渡った。供給量が多く、販売先が少ないため、需要量が供給量を下回り、価格は圧力を受けている。市場では中南米産パパイヤが主役であるが、カナリア諸島産パパイヤは、エコロジカルフットプリントが少ない(輸送に伴う環境負荷が小さい)欧州産熱帯果実として、徐々に欧州内での評価を得つつある。

イタリア: シチリアの出荷シーズンは4月～11月

イタリアのパパイヤ市場は安定している。北イタリアのある卸売業者は、需要と消費の両方が例年どおりだと報告している。ここ数日、在来種パパイヤの1箱(3.5kg)当たりの価格は16ユーロであり、大玉のフォルモサパパイヤは、1箱(4.5キロ)当たり20ユーロで取引されている。

フォルモサパパイヤは、主にブラジルから空路で供給される。価格は主に輸送費によって決まるが、一時の輸送費の高騰は収まった。コロンビアは海上輸送を試みていたが、海上輸送ではパパイヤを早期に収穫する必要があり到着時にまだ未熟であることから、完全に取りやめとなった。主な顧客は、果物や野菜の専門店とロックダウン前のケータリング業界である。この部門は現在、わずかに回復している。

パパイヤはシチリア島でも栽培されており、出荷シーズンは4月～11月である。最も一般的で人気のある品種はフォルモサである。

米国: パパイヤの需要は増加中

ニューヨークのある貿易業者によれば、パパイヤの供給は安定している。今年初めの供給量はいくらか少なかったが、天候の回復により多くの収穫が可能になった。現在、パパイヤのかなりの部分はメキシコのコリマ州産だが、チアパス州、カンペチェ州、ベラクルス州等他の地方のものもある。グアテマラ産もある。

パパイヤ等のトロピカルフルーツの需要は、人々の健康志向の高まりで大きくなっている。前出の貿易業者は、今年の需要は昨年の同時期より大きく、価格は同じレベルであると言う。

南アフリカ: この時期の出回り量は多くない

南アフリカではパパイヤはむしろ冬の果実であり、現在市場に出回っている量は多くないが、ヨハネスブルグ市場で約2千箱など多少の供給量はある。

価格は良く、他の年と同程度である。包装されたパパイヤの価格は、出荷のピーク時にはわずか6ランド(0.33ユーロ)まで下がるが、現在は25ランド(1.4ユーロ)～30ランド(1.68ユーロ)である。

ある市場関係者は、パパイヤは販売用にパックするのに手ごろな大きさになっており、品質は良好だと言う。サイクロンに伴う降雨の翌週に多少収穫の遅れがあったが、今の状況はこの時期としては普通である。

中国: パパイヤは人気がない

中国ではパパイヤはあまり人気がなく、ほとんど生産していない。国内市場で販売されているパパイヤは主に海南省産である。出荷シーズンは8月に始まる。甘いレッドミルクパパイヤが最も普及している品種である。価格は500グラム当たり5人民元程度である。中国が輸入するパパイヤは主にフィリピン産である。

パナマ: 新しい品種へ投資

パナマの輸出業者は、新しい品種を欧州市場に投入している。ハワイアンビッグパパイヤは台湾の品種とハワイの品種の交配種である。平均的なパパイヤよりわずかに大きく、通年生産できる。パナマ産パパイヤは、従来から海上輸送で米国とカナダに出荷されている。しかし、パナマの輸出業者は新しい市場の開拓に取り

組んでおり、新しい輸送方法を検討している。欧州市場へ進出するため、例えば航空貨物輸送の選択肢を検討している。パパイヤの日持ちは、コールドチェーンが途切れなければ21～28日である。ヨーロッパへの海上輸送には14日かかり、これはこれで一つの選択肢ではあるが、航空輸送ならばパパイヤをより早く顧客に届けることが可能であり、顧客がパパイヤを欧州全体に輸送する時間が生まれる。

ブラジル: ほとんどが国内消費向け

ブラジルは一年中パパイヤを供給することが可能であり、2つの主要産地がある。エスピリトサント州のLinhares地域とリオグランデ・ド・ノルテ州のBaraúna地域である。Linharesの生産者は、主にゴールデン種を栽培し（フォルモサ種もある程度栽培）、Baraúnaの生産者は、主にフォルモサ種を栽培している。今週、Linharesでは雨が多く、供給が滞っている。この影響は今後数週間市場に現れるだろう。他方、Baraúnaからの供給は、天候が良かったことから順調である。

パパイヤの大半は国内消費向けだが、ブラジル産パパイヤの主な輸出市場は欧州と米国である。多くのパパイヤは航空貨物として出荷されるが、航空貨物輸送の制約と高い運賃のために年間を通じて問題があったので、多くの輸出業者は価格を安定させるため海上輸送を利用した。

オーストラリア: パパイヤの供給のピークは秋と冬

オーストラリアはパパイヤ/ポーポー（パパイヤの別名）を通年供給しており、ピークは秋と冬の数か月、春が来るまでの間である。最新のホートイノベーション社の統計によると、2020年6月までのシーズンの生産量は1万9,648トンで、2019年より32%増加した。また、出荷額は15%増加し、3,180万豪ドルであった。現在、オーストラリアでは、生鮮パパイヤ生産の85%を占める赤パパイヤと、残りの15%を占める黄色パパイヤの主に2つの種類が栽培されている。オーストラリアは生鮮パパイヤの純輸入国であり、2020年6月までの1年間の輸入量は86トンで前年より78%減少し、輸出量はわずか10トンであった。消費に関しては、オーストラリアの全世帯の18%しか生鮮パパイヤを購入しておらず、パパイヤの人気を高める余地が十分にあることを示している。

172. フィリピン　バナナの生産量が少なく輸出量は18.3%減少

BusinessMirror紙電子版（2021年2月16日）

昨年のフィリピンのバナナ輸出量は5分の1近く減少し、359万5千トンと2年ぶりの低水準となった。これは、国内生産量が少なく、全ての主要市場への出荷量が減少したためである。

フィリピン統計局（PSA）の貿易統計暫定値をBusinessMirror紙が分析したところ、昨年のバナナ総輸出量は、過去最高を記録した2019年の440万3千トンから80万8千トン（18.35%）減少した。同統計によると、2020年のバナナ輸出額は、19億5,300万ドルから20.6%減少し、15億5,200万ドルであった。輸出額が二桁減少したことで、バナナはフィリピンの農産物輸出額の第6位にワンランク下がった。（訳注：以下の統計データは全てフィリピン統計局（PSA）による）

フィリピンのバナナ生産者・輸出業者協会（PBGEA）は、輸出量の減少は“少ない生産量”のためであり、これはCOVID-19対策としての移動制限など物流上の問題によって病害が急速に広がったことによるものだとした。昨年のフィリピンのバナナ生産量は、2019年の915万7千トンから1.1%減少し、905万6千トンと3年ぶりの低水準となった。約半分はキャベンデッシュ種であった。

PBGEAのスティーブン・A・アンティグ事務局長は、「廃棄されたバナナが多かった。外国市場におけるバナナを含む生鮮果実への需要があるにもかかわらず、輸出量と輸出額の両方の減少が見込まれた」と語り、パナマ病などの病気の農場での広がりが“放置されている”とし、「主に地方自治体の規制によって作業の中断が強いられた」ために栽培状況が悪化した、地方自治体をまたぐ移動が困難であり、生鮮バナナの農場から出荷場、出荷場から積出港までの輸送が遅れた。これが、輸出用生鮮バナナの品質に影響した」と指摘した。

展望は明るくない

アンティグ氏は、今年のバナナの輸出展望は明るくないだろう、それは、フィリピンが主要市場で引き起こした供給不足を他のバナナ輸出国が簡単に埋めたからだとして、「ひどく病気に罹った栽培地の改植を急ぐ必要がある。我々は成功を祈りつつ、願わくば政府の支援を得て、コロナ禍に耐えなければならない。」と語った。

日本、中国、韓国、サウジアラビア等の重要な市場への輸出は、輸出量、輸出額共に減少した。中国、韓国、サウジアラビアへの出荷は、25～30%減少した。

日本は再びトップに

出荷量が前年比4%減少したにもかかわらず、日本は、中国が2018年から2年間維持していたフィリピンのバナナ輸出先トップの座を奪還した。昨年のバナナの日本向け輸出量は134万5千トンで、中国へ輸出された113万9千トンより18%多かった。

フィリピンから中国への輸出は、殆どが国内の中小規模のバナナ生産者によるものだが、2019年の160万3千トンから29%減少した。

アンティグ氏はBusinessMirror紙に対し、2020年11月には、日本の消費者がフィリピン産バナナの品質を好むことから、日本への輸出が中国への輸出をわずかに上回ったと述べたが、最近のインタビューでは、中国はバナナをベトナム、ラオス、カンボジアなどより近い供給国から購入し始めており、中国市場向けのフィリピンの輸出業者は契約を失い、輸出価格の低下で損失が発生したとしている。

同氏は、「中国向けの輸出は、小さな輸出業者が多い。中国で他の輸出国のバナナが出回わるとフィリピン産バナナの価格が下がり、フィリピンの多くの輸出業者は損害を被った。それは供給過剰時の通例である。小規模輸出業者の多くは中国の混載業者に直接販売しており、契約取引ではなく、スポット取引価格に依存している」と語った。

173. 世界のナシ市場

FreshPlazaウエブサイト（2021年2月19日）

訳注：この記事中の「ナシ」は、中国産については中国梨、その他については西洋梨です。

欧州のナシ市場は現在、少し行き詰っているようだ。オランダではConference品種が苦戦しているとの話が聞かれる。イタリアやドイツなど他の以前からのナシ生産国も、需要の減少に向き合っている。フランスは例外的に好調で、ナシ市場は依然成長している。北半球では貯蔵ナシが出回っているが、南半球は収穫の最盛期である。南半球の生産国でも、出荷シーズンが問題なく進んでいる訳ではない。現在のコロナ禍だけでなく、天候とブレグジット（英国のEU離脱）も、問題の背後にある。

ベルギー：Conference品種は難しいシーズン

ベルギーのConference品種の今期の出荷シーズンはこれまでのところ難しい状況だ。今年の収穫量は多くの生産者と取扱業者の予想よりも多く、市場に多くの量が出回った。加えて需要は停滞しており、市場に多くのナシが滞留して価格を下げている。しかし、Doyenné du Comice（またはComiceとも）品種は順調だった。冷蔵倉庫はほとんど空であり、出荷シーズンは高値で終えた。

オランダ：Conference品種の市場は明るくない

オランダのある輸出業者は、現時点でConference品種の市場は明るくないとして、「欧州の隅々まで行き渡る量がある。残念なことに、この大量販売では価格は良くならない。2月1日時点のオランダとベルギー両国の貯蔵量の数字が参考となる。この業界はかなり細分化されており、そのため、購入業者が徐々に集約されているのと比較して、供給業者が多すぎる。これは我々全員の責任であり、中期的な期間では解決されないだろう。これでは良い価格設定は進まない。

輸入に関しては、小売業者は7月か8月まで販売するだけの大量の欧州産ナシを抱えているため、輸入の発注を減らすと見込まれる。Comice品種の出荷シーズンは例外的にうまく終了した。栽培上の難しさから面積が減少したことと、売上と消費が安定していることが相まって健全な需給バランスとなり、将来の見通しが立っている」と語った。

イタリア：供給と需要が釣り合う

イタリアではナシはそれ程問題なく販売されている。ナシの需要は実際それ程大きくないが、収穫量が少なかったため、需要と供給はうまくバランスが取れている。取扱業者の一人は、Williams品種は販売が最も難しい品種だと言う。全体に、価格は高く過ぎでも低く過ぎでもない。別の取扱業者は、南米産Abate Fetel品種が今後欧州に到着する見込みであり、売れ残っているイタリア産ナシへの脅威になると心配している。

ドイツ：例年以下の需要、価格は安定

イタリア、オランダ、ドイツからの供給量は全ていくらか減少したが、需要を満たす十分な量はある。南アフリカ産Bon Chretien品種（Williams品種の別名）は、主要品種ではなく、新しく収穫されたナシはハンブルクで16ユーロ/12.5キロ（70個）で販売された。冬の天候は需要全体に悪い影響を与えた。取引は低調だが、価

格にはあまり反映されておらず、価格水準は極めて安定している。ケルンでは、オランダ産ナシの価格が今週わずかに下がった。他方、ミュンヘンでは、イタリア産ナシの価格が全般に以前よりやや高かった。ハンブルクでは、大玉のトルコ産Deveci品種の価格が僅かに下がった。

スペイン: ナシの輸出は低調

スペイン産Blanquilla品種は、霜害による品質の問題と小玉が多いことから、今シーズンはこれまで極めて難しい状況だ。主な輸出市場はイタリア、イスラエル、ギリシャである。イスラエルでは今年、国内産が十分供給されている。さらに、イスラエルの消費者は大玉のナシを好むが、今シーズンのスペイン産は大玉が極度に不足している。ギリシャは現在、徐々に国内生産を重視しており、スペイン産の輸入が減少している。キプロスもギリシャ産ナシを輸入しており、この市場もまた徐々に失われつつある。

スペイン産Conference品種はシーズン前半かなり人気があり、需要は供給よりかなり大きかったが、オランダ産とベルギー産が魅力的な低価格で入荷すると状況が変わり、スペイン産の価格が下がった。スペイン産の在庫量は少ないとしても、オランダ産とベルギー産が市場に圧力をかけ続ける限り、今シーズンのConference品種の状況は引き続き難しいと見込まれる。

スペインのある輸出業者は、長い目で見れば、気候変動も大きな役割を果たしているとして、「暖冬化によりベルギー産とオランダ産のConference品種が甘くなり、スペイン産は国際市場での出番がなくなる」という。

南アフリカ: 輸出に遅れ

南アフリカ産ナシの今シーズンの輸出量は昨年より約50万箱(1箱12.5キロ)減少した。今シーズンは低調に始まった。これまで輸出された150万箱のナシの3分の1は欧州向けだった。南アフリカ産ナシの2番目と3番目の買い手は中東とロシアである。

早生のWilliams品種(Bon ChretienまたはBartlettとも)の収穫は終了したが、果皮がざらざらで輸出は減少した。Packhams品種の収穫が始まったが、多くの生産者が今年のナシは見た目がかなりきれいだと言っており、大きな出荷額が見込まれる。約1ヶ月前にラングクルーフ地方を襲った雹を伴う激しい嵐は、ナシ果樹園に多くの被害を与えた。

2021年のナシの予想生産量は1,714万箱(1箱12.5キロ)と、昨年と大体同じである。あるナシ取引業者は、全体的な果実の需要は現在やや小さく、価格はそれ程良くないと語る。

オセアニア: 収穫労働者不足の懸念

オーストラリアとニュージーランドではナシの収穫が徐々に始まっているが、両国は収穫労働者の不足を懸念している。コロナウイルス対策として、両国政府は約1年間にわたり国境を厳重に封鎖しており、そのため収穫労働者の入国が止まった。これにより収穫量が減少する可能性があるが、収穫量を正確に予測するにはまだ早い。この問題のため、生産者は量より質を重視することになるかも知れない。

オーストラリアでは、ホートイノベーション社の統計によれば、昨年度(2020年6月まで)は118.5トンのナシが生産された。これは、2019年度より4%多い。総生産額は13%増の1億3千万ドルであり、39%が最終的に加工用となった。オーストラリアはまた9.7トンを輸出し、そのうち3分の1(3.2トン)が隣国のニュージーランド向けであった。品種については、Packhamが依然として生鮮市場で最も一般的で総収穫量の63%を占め、Williams(20%)、Beurré Bosc(10%)が続く。オーストラリアの人口の約60%が生鮮ナシを消費している。

アルゼンチン: 平均的な収穫量、良好な輸出市場

アルゼンチンでは、収穫は見込みどおり年末から1月4日の週に始まった。予想収穫量は概ね例年どおりだが、雹を伴う嵐によって僅かに減少した可能性がある。1月の短期間の熱波は、晩生のWilliams品種の品質問題につながる可能性がある。販売面では、ロシアとブラジルがアルゼンチン産ナシの主要な輸出市場であり、欧州と米国が続く。今シーズンの欧州の需要は大きいが、通常ロシアに出荷される量で埋められる見込みだ。全体として、輸出市場のアルゼンチン産ナシに対する需要は依然大きく、この傾向はシーズン中続く見込みだ。

チリ: 雨の影響は限定的

チリでは、最近の雨によりナシ生産量にわずかに影響があったが、近隣諸国と比較すると目立たなかった。生産者が雨から作物を保護する必要な措置を行っていれば、影響は最小限のはずである。チリの収穫は現在最盛期であり、船便で多くの目的地に輸出されている。

フランス: ナシ市場は拡大

フランス産ナシの出荷シーズンは、これまで順調に進んでいる。生産量は昨年より約10%多く、貯蔵中の品質もかなり良い。全体的にブリックス度が高く、表面の傷はほとんどない。業界は、販売状況に十分満足している。フランスの消費者は再び国産のナシを受け入れ、消費量は増加している。若い消費者は、近年市場に投入されている新しい品種を特に好んでおり、国産ナシに多く支出することを厭わない。売り上げはこのままいけば記録を更新する、と関係者は報告しているが、これには逆の側面があり、今のところ国産ナシで需要のすべてを満たすことはできない。

北米: 小玉で収穫量は少なめ。価格は高い

ベルビュー市(ワシントン州)の市場調査員ランデイ・ハートマン氏は「北米の今年の収穫量は2019年より少ない。ワシントン州とオレゴン州の主な品種は依然D'Anjouであり、シェアは約50パーセントである。生産量は予測された850万箱から11%減と大幅に減少しており、原因の一部は古い果樹園の生産量が少ないためだ。長期的には、地域全体の栽培の問題となる可能性がある。このことが、賃金コストの上昇や栽培、収穫、包装、販売に関する他の課題と相まって、地域経済と生産者の経営に影響を与えることは避けがたい」と言う。

一方、ハートマン氏によれば、Bartlett品種は増加しており、年間50万箱の増加が見込まれる。D'AnjouとBartlettが総収穫量の約75%を占め、Bosc(14%)とRed D'Anjou(5%)が続く。

今シーズンの特徴は、大半の品種で小玉が多いことである。このことと、生産量が限られ、フードサービス部門の需要が増え始めていることから、かなり高い価格水準となっている。同氏は、「平均すると、一箱当たりの価格は2019年よりも3～4ドル高い。これは、供給量が限られる中、品質が良く、ブリックス度が高く小売りに適したサイズの果実が多いだけでなく、比較的廃棄率が小さく箱詰め時の歩留まりが高いことと関係している。2020年産の品質は格別に優れていたと記録に残るだろう。全米のナシの小売販売額は毎年8～15%成長している」と言う。

米国産Bartlettは今後2週間、国内の小売店に引き続き出回るとハートマン氏は予想する。その後は、輸入Bartlettが出回り始める。

イギリス: 南アフリカ産シーズンへの準備中

イギリスは南アフリカ産ナシの出荷シーズンの始まりに向けて準備をしている。南アフリカ産の最初のナシは現在輸送中であり、まもなく小売店に出回る。ブレグジットは今のところ、大きな問題を引き起こしていない。せいぜい港湾でのわずかな遅延であるが、これは、ブレグジットよりも、コロナ禍による人手不足と関係がある。今後出発するコンテナが他の港へ行先を変更し、輸入業者の輸送コストが増える可能性がある。

国内の出回り量の予測はまだできないが、取引業者は小売の需要は依然大きく、全体的に安定していると言う。

中国: 輸出のピークは3月の見込み

中国産ナシは現在、主に東南アジアからの需要がある。旧正月の間、ほとんどの出荷施設や他の施設が休業し、輸出はほぼ停止した。最初の輸出ピークは3月中旬からと見込まれる。欧州では、中国産ナシの第一便の到着は5月になる。

物流に関して、中国の輸出部門は現在、大きな課題に直面している。海上コンテナの輸送コストは依然高く、国内輸送も同様である。昨シーズン、国内生産が大きく減少し、価格は例年よりかなり高かった。貯蔵量に関する正確な情報はないが、6月中旬まで十分な在庫があるものと見込まれる。オランダ産Conference品種は中国市場で足場を確保しつつある。中国市場での出回り量が多くないため、価格は比較的高く、市場シェアは国産に比べかなり小さい。

174. ベトナム RCEPは近隣市場へ農産物輸出を増やす好機

SAIGON GIAI PHONG紙 電子版（2021年2月22日）

地域的な包括的経済連携（RCEP）協定の署名によって、ベトナム等の加盟国は貿易が容易となる。RCEPは、貯蔵・物流コストの削減により、ベトナム産農産物、特に生鮮果実・野菜の輸出額を増加させると見込まれている。

新たなサプライチェーンを開拓

ベトナム農場農業企業協会によると、昨年、ベトナムは多くの重要な経済協定に署名した。特に、昨年11月に署名したRCEPは、消費者約22億人を擁し、世界のGDPの約30％に当たる約26兆米ドルの市場規模を有する世界最大の経済連携協定とされている。

「RCEPは、世界最大の自由貿易圏を構築し、地域と世界のバリューチェーンを開拓し、国内外の投資を呼び込む見通しを高めることで、ベトナムの農業部門を新たな段階に引き上げることが期待されている。RCEPによって、企業は、輸出機会を活用して困難を乗り越え、新しい市場にアクセスし、生産を改善するだろう」と、同協会のレ・ミン・デュイ会長は述べ、RCEPによって、貿易競争、反ダンピング、補助金相殺関税に関するルールが標準化されたと付け加えた。

RCEPは、ASEAN加盟国10カ国とオーストラリア、中国、韓国、日本、ニュージーランドの5カ国で構成される。ベトナム果実・野菜協会のダン・フック・グエン事務総長は、RCEPは米国、メキシコ及びカナダの貿易圏や欧州連合（EU）より大きいと述べた。RCEPには中国が参加しており、加盟国のGDPの合計は、環太平洋パートナーシップ協定（CPTPP）加盟国のGDPの合計を上回っている。

経済発展により、RCEPのGDPは2050年までに100兆ドルを超えると見込まれる。RCEPは、新しいサプライチェーンを開拓してより多くの品目を輸出する機会を創出する。例えば、中国市場は、生鮮果実・野菜に関して（国境近辺の住民による小規模な取引等を除き）公式な輸入は10品目しか認めていないが、RCEPにより、ドリアン、パッションフルーツ、アボカド、ポメロ、スターアップル等他の農産物の輸出拡大が可能となる。

同様に、日本、韓国、タイ、ニュージーランドの市場への新たな農産物の輸出解禁によって、さらに有利になる。この協定参加国のほとんどは、農産物、水産物等のベトナムの主要産品を輸入する需要がある。これらの国々の輸入基準と消費者の嗜好は、かなり似ている。加盟国間の地理的距離はそれほど離れておらず物流コストは小さく、これらの国々への商品の輸送は、米国や欧州等の他の市場より容易である。

熱帯農産物は人気

農業農村開発省によると、韓国は平均して毎年約350億ドルの農林水産物を輸入しているが、ベトナム製品はそのごく一部である。例えば、ベトナム産野菜・果物の韓国市場への輸出額は、2019年には1億3,100万ドルであり、2018年より15.7％増加したが市場シェアは3.5％に過ぎない。同様に、日本は世界第4位の農産物輸入市場であるが、ベトナム産農産物の割合は非常に小さい。ベトナムの農産物が食味と品質の要求を十分満たせば、特に加工品は、韓国と日本の市場でさらに成長する余地がある。

多くのRCEP参加国では生鮮熱帯果実の輸入が増加している。果実と野菜の輸出の伸びは、過去数年間かなり大きく、特に熱帯果実は大きな割合を占めている。これは、多くの種類の熱帯果実を有するベトナムの果実業界にとって大きなチャンスである。ベトナムの果実の貯蔵と一次処理の能力は比較的低いままであり、ベトナム産果実の輸出に課題を投げかけている。

コロナ禍のため青果物のオンライン取引が増加しているが、ベトナムの輸出企業の多くはうまく対応できていない。また、GAP認証を得た栽培面積は10～15％程度で、輸出規格に合った農産物を大量に供給することが難しい。国内的にも輸入品との競争が激しくなるため、政府は生産者と企業の品質重視の連携を支援する必要がある。先進国市場向けには、品質規格の設定、品質と商標の管理等が必要である。市場対応の強化と政府、業界、生産者が連携した経験の蓄積と共有が求められる。（一部要約しました。）

175. 南半球のリンゴ・ナシ 2021年の生産量予測

FreshPlazaウェブサイト(2021年2月24)

世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)は、来シーズンの南半球のリンゴとナシの生産量予測を公表した。これは南半球の主要生産国6カ国の業界団体、すなわちASOEX(チリ)、CAFI(アルゼンチン)、ABPM(ブラジル)、Hortgro(南アフリカ)、APAL(オーストラリア)、ニュージーランド・リンゴ・ナシ協会のデータを集約したもので、2021年のリンゴの生産量は前年より6%増加し、ナシの生産量は変わらないと予測している。

WAPAのビナード事務総長は「データの取りまとめが世界のリンゴ・ナシ業界にとって有用であり、北半球から南半球へ出荷シーズンが移る際の頼れる情報源となることが以前から分かっている」と述べた。

リンゴに関しては、2021年の南半球全体の予測生産量を、昨年の481万8,000トンから6%増の509万トンとしている。オーストラリア、ブラジル、南アフリカはそれぞれ23%、20%、6%増加し、ニュージーランドは5%減少、アルゼンチンとチリはほぼ前年同である。2018年～2020年の平均との比較では、南半球全体で2%増加と予測した。

チリの2021年予測生産量は151万2千トンで依然南半球最大のリンゴ生産国であり、2位がブラジル(113万トン)で、以下南アフリカ(101万3千トン)、アルゼンチン(61万7千トン)、ニュージーランド(54万7千トン)、オーストラリア(27万1千トン)と続く。

主力品種は依然Gala(39%)であり、次いでFuji(14%)、Red Delicious(13%)が続く。

全体の輸出量は前年とほぼ同じ169万1,562トンで、チリは前年とほぼ同じ(65万773トン)、南アフリカは前年から4%増加(47万6,000トン)、ニュージーランドは前年から7%減少(37万2,000トン)と予測される。

リンゴ生産量 千トン

国	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021※	(1)	(2)
アルゼンチン	840	776	744	760	774	545	557	550	614	617	0	8
オーストラリア	293	289	275	309	301	306	292	288	220	271	23	2
ブラジル	1,184	1,063	1,165	1,145	826	1,329	1,094	1,101	939	1,130	20	8
チリ	1,806	1,746	1,670	1,708	1,635	1,675	1,761	1,665	1,515	1,512	0	-8
ニュージーランド	476	550	478	554	539	506	576	554	575	547	-5	-4
南アフリカ	813	907	794	924	902	940	884	878	955	1,013	6	12
合 計	**5,412**	**5,331**	**5,126**	**5,400**	**4,977**	**5,300**	**5,165**	**5,035**	**4,818**	**5,090**	**6**	**2**

※ :予測値

(1):***2021***※の2020からの増減% *(2)*:***2021***※の2018～2020平均値からの増減%

ナシに関しては、南半球全体の生産量は、前年とほぼ同じ134万6千トンと予測され、これは2018～2020年の平均から2%の増加である。南アフリカ、オーストラリア、アルゼンチンはそれぞれ3%、2%、1%の増加であり、チリの3%の減少とニュージーランドの10%の減少を補うと見込まれる。

主要品種は、前年同様、Packham's Triumph(36%)とWilliams BC/Bartlett(28%)である。

ナシの予測輸出量は、全体では前年より6%増加して70万8,690トン、アルゼンチンは12%増加の37万3,996トン、南アフリカは2%増加の21万4,361トン、チリは3%減少の10万8,315トンである。

ナシ生産量 千トン

国	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021※	(1)	(2)
アルゼンチン	743	801	702	782	815	578	579	600	648	656	1	8
オーストラリア	124	129	107	104	100	102	105	94	85	87	2	-8
チリ	189	200	170	188	177	149	185	193	166	161	-3	-11
ニュージーランド	9	12	10	12	12	11	14	12	13	11	-10	-12
南アフリカ	361	379	399	415	432	436	423	411	418	431	3	3
合 計	**1,426**	**1,521**	**1,388**	**1,500**	**1,535**	**1,276**	**1,305**	**1,310**	**1,330**	**1,346**	**1**	**2**

※ :予測値

(1):***2021***※の2020からの増減% *(2)*:***2021***※の2018～2020平均値からの増減%

(本文の重複箇所及びリンゴの品種の推移の表を省き、WAPA の原典からナシの生産量の表を挿入しました。)

176. 世界のバナナ市場

FreshPlazaウエブサイト（2021年2月26日）

バナナ市場は、多くの国で予期しない需要の増減もなく安定しており、供給も安定している。ここ数週間、海上貨物に若干遅れがあったが、それらは解消されたようだ。バナナの価格は例年どおりの水準だが、一部の国では若干上昇傾向を示している。いくつかの地域では異常気象に対応する必要があったが、生産量は例年どおりであり、世界の供給に大きな影響を与えていない。

オランダ: エクアドル産のスポット価格は高いが、市場に大きな圧力はない

バナナ市場は現在、平穏である。オランダのあるバナナ熟成業者は「悪くはないが、活気があるとも言えない。祝日があったためか先週は少し忙しかった。」と言う。また、今後数週間は安定した市場を見込んでいるとして、「供給は全く例年どおりだ。スポット市場に関しては、エクアドルの価格が高めであり、目立った不足はないが供給より需要が大きいことを示している。ここ数週間は船便にいくらか遅れがあったが、今は予定どおり到着しているようだ」と述べた。

ドイツ: 暖かい天候が需要を喚起

ドイツのバナナ市場の状況は良好である。春の陽気は需要を喚起したが、供給は需要を問題なく満たすのに十分であった。価格の推移は地域により異なっており、上昇している地域も低下している地域もある。ケルンではプレミアムバナナの価格が上昇した一方、ミュンヘンの販売業者は需要を増やすため価格を下げた。

英国: 需要は安定し、需給はバランス

英国のバナナ需要は安定しており、需給バランスが取れている。契約取引は順調だが、スポット取引はあまり多くない。過去12ヶ月間ロックダウンが繰り返されたため、需要の急増が何回かあったが、全体として需要は安定していた。有機バナナも同様である。小売は依然好調だが、卸売はフードサービス市場が失われて甚大な影響を受けた。

南米諸国からの供給は全般に良好だ。昨年の一時期、コロナ禍関連の規制が農場労働者の数に影響を及ぼし、何回か供給量が落ち込んだ。8～10週間前のメキシコの寒波は生産に打撃を与え、果実が収穫される中、今頃になってその影響が表れてきた。生産は通常どおりに戻っている。

昨年初めには、船のキャンセルや行先変更により出荷が混乱したが、状況は正常に戻った。輸送コストは本来の水準と思われるが、一部の運送業者は繁忙期料金を適用している。

イタリア: 需要は今後拡大が見込まれる

全般的に、欧州ではバナナの価格が上っており市場の状況は良好である。イタリアの主な品種はキャベンディッシュであり、主にエクアドル産だが、コスタリカ産とコロンビア産の入荷もある。

イタリアのある取引業者は「現在、追熟前のバナナの1箱当たりの卸売価格は約15ユーロだが、本来は

16.5～17ユーロが適当だ。米国では、欧州より物流コストが小さいが、価格は3週間にわたり約20ドルだった。バナナの需要は今後大きくなると見込まれるが、供給は増えない。これは、一部のバナナ生産国がハリケーンの被害を受けたためだ。エクアドル産バナナの価格は昨年より高い」と述べた。

米国: 需要はゆるやかに増加拡大の見込み

ニュージャージー州（東海岸）のある取引業者によれば、2020年に中米を襲ったハリケーン（ハリケーン・イータ/ハリケーン・イオタ）の後、多国籍のバナナ供給業者が価格は上昇し供給は不足すると警告したという。しかし、今のところはそうなっていない。

その取引業者は「それは、地域別の市場への供給に変化があったためだ。いつもは西海岸に向かう南米産バナナ（エクアドル産）が東海岸に到着している。グアテマラ産、ホンジュラス産、コスタリカ産バナナは西海岸へ向かった」と語った。また、ホンジュラス等の中米諸国は、通常は自国で消費するバナナを輸出している。メキシコは中西部にバナナを供給しているが、悪天候で出荷量が減少する可能性がある。

出荷シーズンのピークは今からメモリアルデー（戦没将兵追悼記念日： 5月の最終月曜日）までである。1月の需要は前年より大きかった。ある取引業者によれば、今年の需要は例年より歩みは遅いが大きくなる見込みだ。すなわち、価格が良好で上がる可能性が高い。エクアドルは価格を上げ始めており、そうなると北米の価格もそれに応じて上がると見られる。

エクアドル: ハリケーンで価格が上がったが、その後市場は正常化

現在、エクアドル産バナナは、契約取引よりスポット市場で多く取引されており、そのため価格は安定していない。2020年のスポット価格は通常より低く、COVID-19の蔓延から従業員を保護するために強いられた予防措置によって生産コストが増加した生産者にとっては厳しい状況だった。

ハリケーン・イオタとハリケーン・イータが中米を襲った際、この地域からの供給に大きな影響を及ぼした。そのため、世界市場の総供給量が減少し、エクアドルの生産者にとってはスポット価格が上がった。現在状況は安定し始め、スポット価格は低い水準に戻りつつある。

南アフリカ: 需要は変動、価格は安定

南アフリカのあるバナナ取引業者は「バナナ価格は今のところ安定しており、とても良いことだ。ヨハネスブルグ市場（南アフリカ最大の市場）では、一箱18kg入りのバナナの平均価格は約8ランド（0.45ユーロ）/kgであり、多く出回っている一箱1kg入りは13.80ランド（0.78ユーロ）/kgとなった」と語った。

1ヶ月前のエロイーズ サイクロンの前、隣国モザンビークの生産者が多くのバナナを収穫しており、市場は供給過剰となっていた。これらのバナナはすべて市場から出荷されて価格と品質は十分回復したと、あるバナナ取引業者は言う。その業者は、今のバナナ市場に満足しているとして、中央市場と沿岸地域は順調であるが、クワズール・ナタール州の市場は例外であり、同州の生産者によるバナナの収穫が続く中で、隣接するムプマランガ州のコマティポールト地域からの入荷があり、圧力がかかっていると語った。

別の取引業者は、バナナの需要は引きが弱い、価格は2月中旬の平均8.40ランド/kgからわずかに下がったが、2月の初めよりは高く、現在の価格は期待できると語る。

中国: 旧正月でも販売は好調

昨年の中国産バナナの取引はかなり停滞し、今年の2月に入ってようやく市場で準備が始ったようだ。今は市場には十分なバナナが出てきており、価格は上昇した。例年、旧正月をはさんだ時期はバナナの取引が低調だが、今年のバナナの販売は引き続き良好であった。フィリピン産バナナは、旧正月前の8米ドル/箱（1箱13.5kg）から現在の10米ドル/箱以上へと値上がりした。シーズン中の値動きは、主にベトナム産とカンボジア産のバナナの輸入量次第だ。

今は気温が低く、国産バナナの出荷はない。最初の国産バナナは、3月末に市場に出荷される。現在のバナナはほとんどが、フィリピン産、ベトナム産、カンボジア産である。東南アジアのバナナ農園では今シーズンの生産は良好なところが多い。カンボジアのバナナ業界は急速に発展している。昨年、年末までに約200

～300個のコンテナが中国に出荷された。カンボジアのバナナ業界の発展は、南米のバナナ業界を圧迫している。南米は距離が遠いため高コストとなり、市場価格が高くなる。南アジア産バナナは有利である。

コロナ禍により、フィリピンの多くの小規模農園は困難に直面した。バナナの品質が悪く、受注は減少した。大規模農場にはこのような問題はなく、品質の良いバナナを供給できる。品質の良いバナナの需要は大きい。

オーストラリア: 低価格が続けば新植は減少か

オーストラリアバナナ生産者協議会（AGBC）によれば、2020/21年度半ば（2020年12月30日）までの生産量は前年より約5%多い。しかし、ABGCは、年度末までの生産量はそこまで多くないと見ている。また、同協議会は、現在長引いている低価格のために、新植が減り、来シーズンの生産に影響する可能性があると予測する。現在、バナナ生産者にとって労働力不足が依然として最大の問題である。

消費に関しては、最新のホートイノベーション社の統計によると、2020年6月までの1年間、全国の世帯の95%が一年を通してバナナを購入した。加工向けは生産量の1%未満（1,142トン）であった。また、生鮮バナナを輸出した記録はないが、年間80トンの乾燥バナナが輸入され、63トンが輸出された。

海外果樹農業情報　刊行物一覧

No.	調査報告書名	発行年月
88	海外の果実生産・貿易状況　2006 年版	06.　4
89	台湾における果実の生産・流通・消費事情等に関する調査報告書	06.　6
90	スペインにおけるカンキツ類の生産・流通事情調査報告書	06. 10
91	ベトナム･韓国･インドネシア･台湾における果実の生産･流通事情調査報告書（補遺版）	06. 10
92	チリにおける落葉果実等の生産・流通事情調査報告書	07.　2
93	台湾における果実の輸入関連制度に係る調査報告書（付　果実の生産・流通状況）	07.　5
94	アラブ首長国連邦・インド・タイにおける果実の生産・流通・消費事情調査報告書	07.　7
95	ニュージーランドにおける果実の生産・流通・消費事情等調査報告書	08.　3
96	台湾における日本産果実の流通・消費実態調査報告書	08.　6
97	韓国における主要果実の生産及び輸出入等に関する実態調査報告書	08.　7
98	ドイツ・オランダにおける果実・果実加工品の生産・流通状況調査報告書	09.　2
99	台湾における日本産果実の生産・流通・消費実態調査報告書	09.　6
100	世界の主要果実の生産・貿易概況 2009 年版	09. 11
101	中国におけるポンカンの生産・流通実態調査報告書－福建省及び浙江省を中心として－	09. 11
102	米国におけるリンゴの加工品等実態調査報告書	10.　2
103	ロシアにおける日本産果実の販売可能性及び同国の果樹農業・政策基礎調査報告書	10.　7
104	米国連邦行政組織による果実消費拡大に向けた取組みに係る調査報告書	10.　8
105	台湾における日本産果実の流通・消費実態調査報告書	10.　8
106	グローバリゼーション下の米国の果汁産業及び新たな生産流通システム実態調査報告書	10.　8
107	インドにおける日本産果実の販売可能性及びインド産ブドウの対日輸出可能性調査報告書	10. 10
108	カナダの果樹農業・政策実態調査報告書	11.　3
109	米国カリフォルニア州におけるオウトウの生産・流通事情調査報告書	11.　6
110	台湾における果実の生産・流通・消費等実態調査報告書	11.　6
111	中東における日本産果実の販売可能性調査	11.　8
112	ブラジルにおけるオレンジ及びオレンジ果汁を中心とした生産・流通事情調査報告書	11.　9
113	中国の主要都市における日本産果実の販売可能性及び中国のオウトウ産地調査報告書	11. 10
114	世界の主要果実の生産・貿易概況 2012 年版	12.　3
115	台湾における日本産果実の流通状況等実態調査報告書	12.　6
116	中国におけるブドウの生産・流通・消費調査報告書	12. 10
117	韓国の対米国 FTA 締結による韓国果樹産業への影響等調査報告書	12. 11
118	台湾における東日本大震災後の日本産果実等流通状況実態調査報告書	13.　3
119	中国におけるモモの生産・流通・消費調査報告書	13.　3
120	世界の主要果実の生産概況　2013 年版	13. 10
121	台湾における日本産果実の流通状況及び輸入に関連する規制等に係る調査報告書	14.　3
122	世界の主要果実の貿易概況　2013 年版	14.　3
123	世界の主要果実の生産概況　2014 年版	14. 10
124	世界の主要果実の生産概況　2015 年版	15.　3
125	台湾における日本産果実の流通及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	15.　3
126	ニュージーランドの果樹農業及び香港の日本食品・果実事情調査報告書	15.　8
127	海外の果樹産業ニュース　2015 年度版	16.　3
128	台湾における日本産食品の輸入規制強化にともなう日本産果実の流通への影響に係る調査報告書	16.　3
129	海外の果樹産業ニュース　2016 年度上期版	16. 10
130	世界の主要果実の生産概況　2016 年版	17.　2
131	海外の果樹産業ニュース　2016 年度下期版	17.　3
132	台湾における日本産果実の流通状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	17.　3
133	海外の果樹産業ニュース　2017 年度上期版	17.　9
134	世界の主要果実の生産概況　2017 年版	18.　2
135	世界の果樹産業ニュース　2017 年度下期版	18.　3
136	台湾における日本産果実の流通・消費の状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	18.　3
137	海外の果樹産業ニュース　2018 年度上期版	18. 10
138	世界の主要果実の生産概況　2018 年版	19.　2
139	海外の果樹産業ニュース　2018 年度下期版	19.　3
140	米国ワシントン州のりんご生産の現状と省力・機械化技術に関する調査報告書	19.　3
141	海外の果樹産業ニュース　2019 年度上期版	19. 10
142	欧州及びイタリアの果樹農業の現状とスマート農業に関する調査報告書	20.　3
143	海外の果樹産業ニュース　2019 年度下期版	20.　3
144	世界の主要果実の生産概況　2019 年版	20.　3
145	海外の果樹産業ニュース　2020 年度上期版	20.　9
146	世界の主要果実の生産概況　2020 年版	21.　3

毎日くだもの200グラム！
200